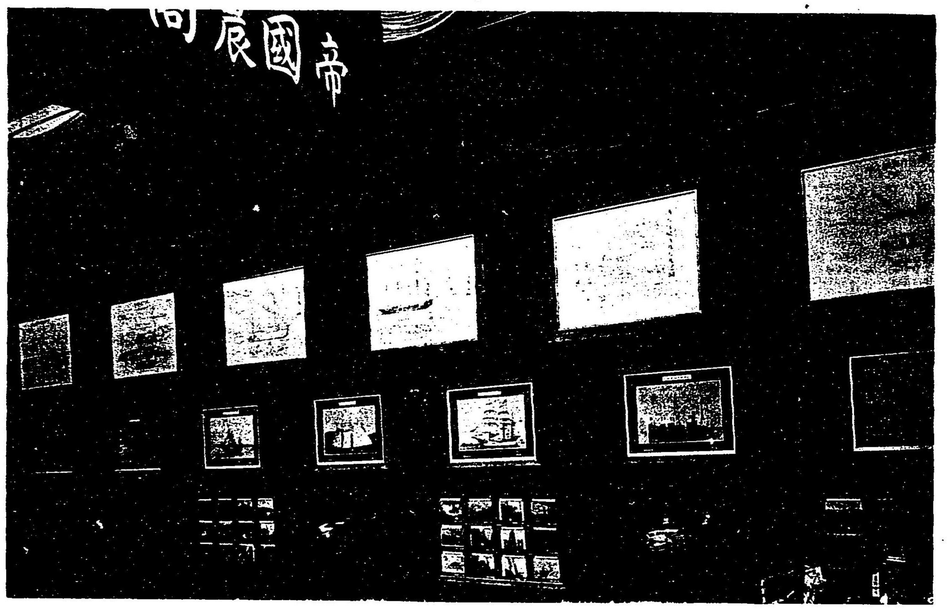
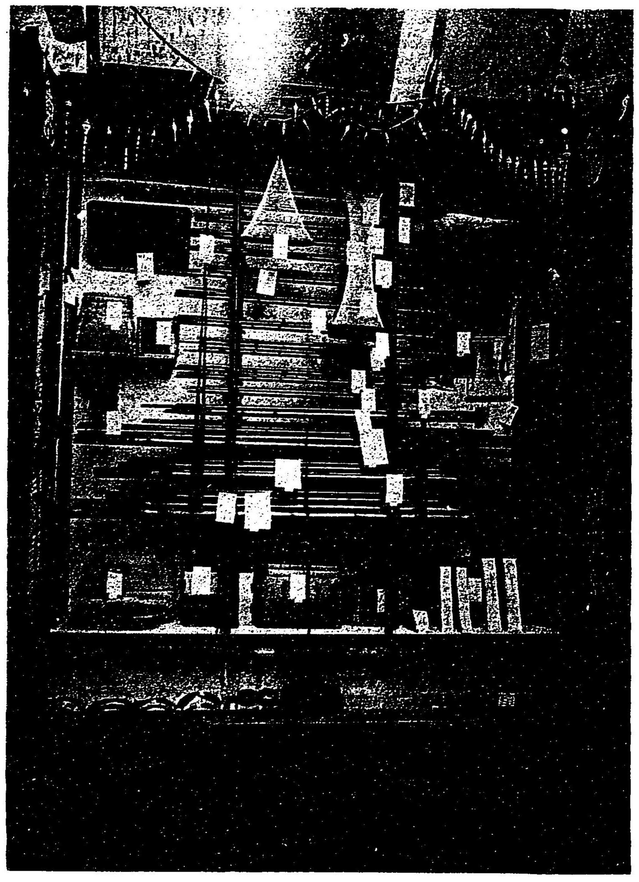
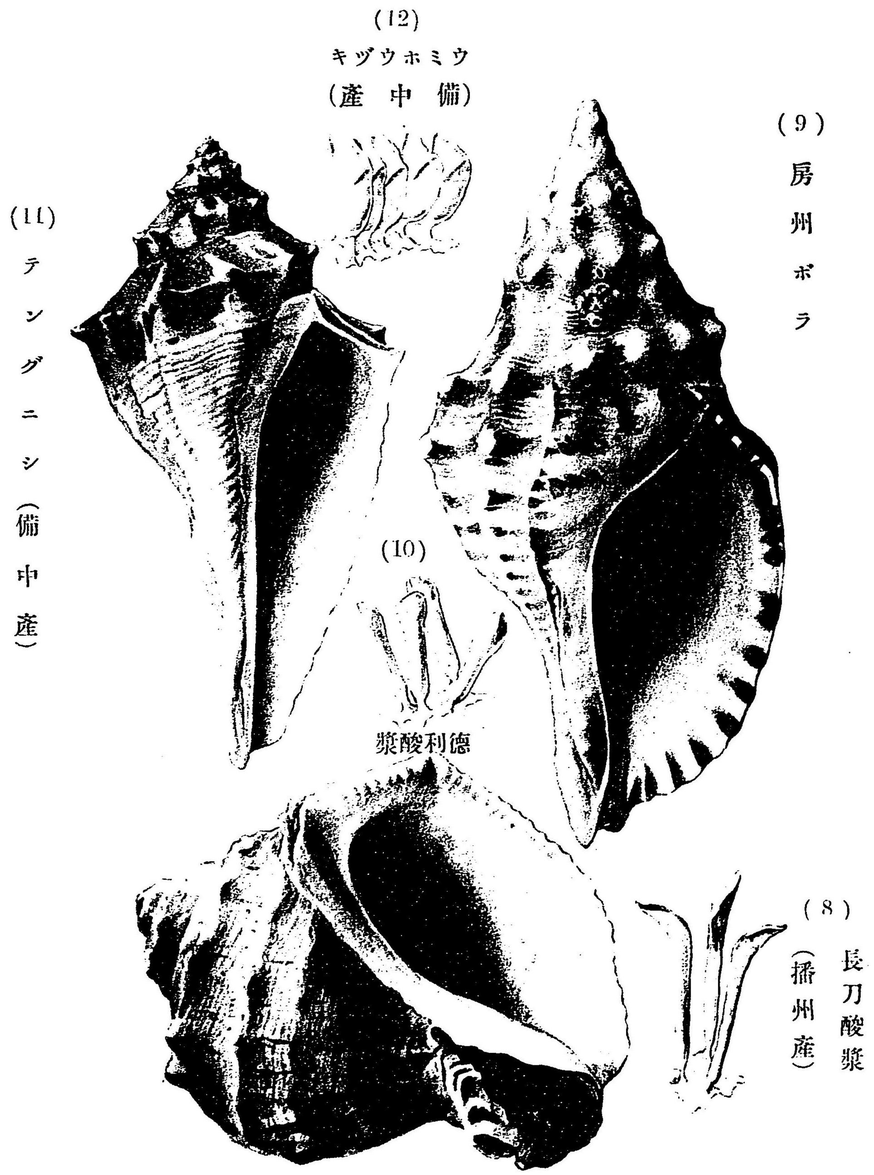


眞寫業漁洋遠ルケ於ニ米歐及圖々船業漁洋遠陳出省務商農



泰地屋東作出品釣道具一式

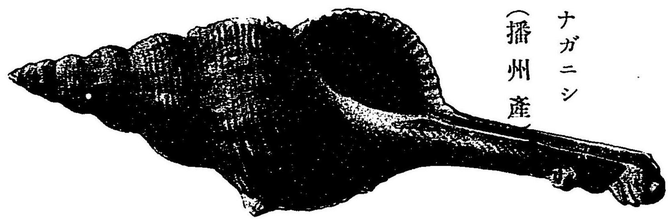
（東京製版所印行）

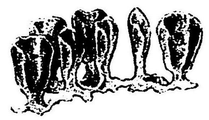


(7) アカニシ(播州産)

(東京製版所印行)

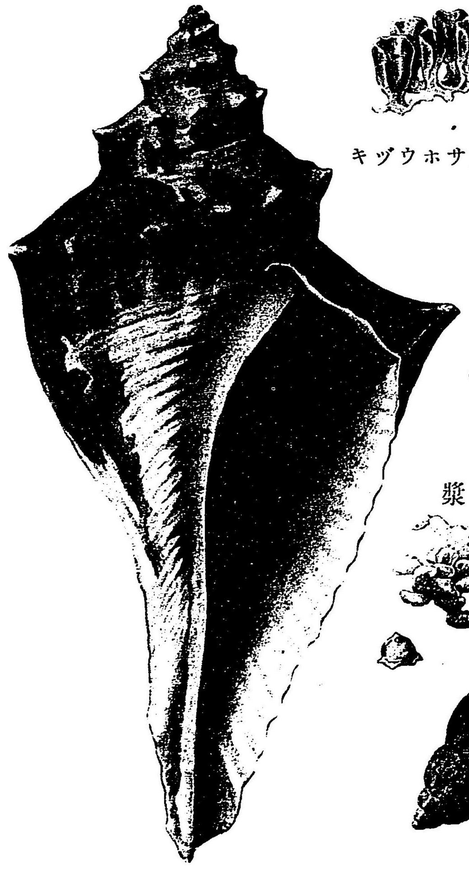
(15) ナガニシ（播州産）

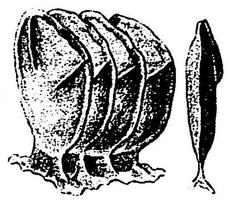




キヅウホサカサ (16)

(13) テングニシ（能登産）



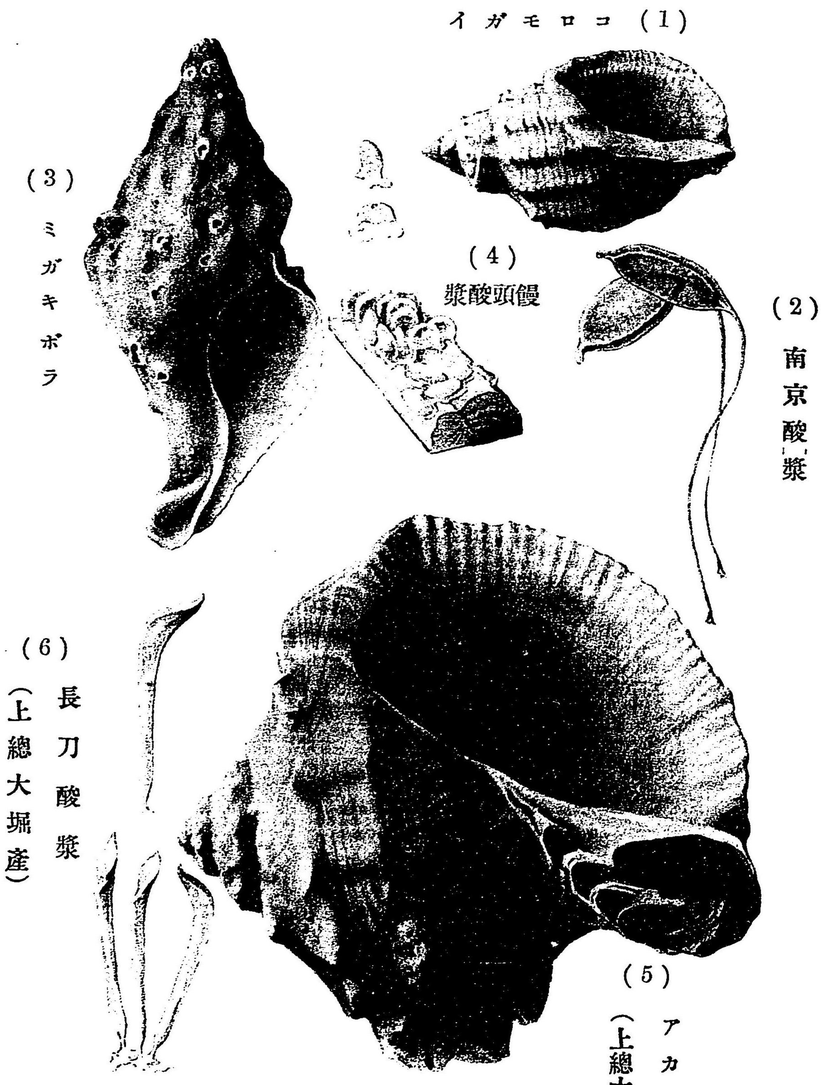


(14) ウミホウヅキ（能登産）

漿酸泡 (18)

(17) バイ

（東京製版所印行）



（東京製版所印行）

東京勸業博覽會審査報告卷五

松原審査部

審査部長　松原新之助

節類

節類ノ出品ハ鰹節ヲ主トシ鮪節其他ノ雜節等ヲ合セテ三百十三點出品人員一百四十名ニ達シ一府七縣及臺灣ノ各地ヨリ出タセリ而シテ之ヲ概評スレハ特ニ進歩セル所ヲ認メス

東京市内ノ出品ハ皆商店ノ出品ニシテ著名産地ノ製品ヲ類聚セルモノ或ハ儀式用裝飾品等ヲ主トセシカ就中東京鰹節問屋組合ハ全國各産地ノ製品百四十點ヲ蒐集出陳シテ能ク同業者ノ營業狀態ヲ示セリ同組合ハ明治二十年ノ創立ニシテ其以前同業者ハ處々ニ分離シテ小ナル組合ヲナシ互ニ軋轢ヲ生シテ弊害續出シ市内ノ同業ハ或ハ衰頽ヲ來スノ憂アリシカハ有志者相謀リテ團結一致シ茲ニ始メテ該組合ヲ組織シ漸次發達シテ今日ニ至レルカ近時同組合ニ對シテ各地ヨリスル入荷高ハ一ケ年五十四萬三千二百二十貫此價額百九十三萬五千九百二十五圓ナリ而シテ又同組合ヨリノ出荷高ハ東京府下向トシア二十一萬七千二百八十八貫此價額七十七萬四千三百七十圓ニシテ又各地方向三十二萬五千九百三十二貫此價額百十六萬千五百五十五圓ニ達セリト云フ以テ其盛況ヲ推知スルニ足ル

東京府管内伊豆諸島ノ出品ハ二十八點、人員二十六名ニシテ其産地ハ大島、新島、三宅島、神津島、小笠原島、南鳥島等ナリ而シテ多クハ靜岡製ノ風ヲ傳ヘテ其外觀修飾ニリ品質ニ至ルマテ稍〻佳良ノ製品ヲ出タシ在來ノ島物固有ノ品格ヲ備フルモノハ僅ニ一二點ニ過キサリシハ聊カ喜フヘシ然レトモ未タ優等靜岡縣ト比肩スルノ程度ニ達セス改良ヲ加フヘキモノアリ當業者ハ宜シク研究センコトヲ要ス獨リ南鳥島ヨリ出タセシモノハ荒節ニシテ製造甚タ粗ナリシモ品質ハ頗ル佳良ナレハ適當ノ加工ヲナサハ上品ヲ得ルニ至ルヘシ

福島縣ノ出品ハ九十一點、七十一人ニシテ石城郡江名村ノ産最モ多數ヲ占メ他ハ僅ニ數點ニ過キス而シテ一般ニ其品質修飾ニ於テハ甚タ良好ナリトナシ難ケレトモ唯其品位ノ著キ等差ナキハ製造者カ共同シテ意ヲ用キタル所ヲ見ルヘク蓋シ製造ノ一進歩ト云フヲ得ヘシ宜シク其注意ヲ以テ益〻改良ヲ圖ルヘキナリ

宮城縣ハ出品點數十八點、人員十四名アリ就中鮪節八點アリ從來同縣ハ鮪節ノ産地トシテ良品ヲ出タセトモ今回ノ出品ニ就キテ之ヲ觀ルニ脂肪多クシテ良品ヲ認ムルヲ得サリシハ蓋シ製造期節ノ然ラシムル所ナルヘシト雖モ亦尚改良ノ餘地アルヲ知ル鰹節ノ出品ニ在リテハ亦大抵脂肪ヲ含ムコト多ク大ニ外觀ヲ損セルモノアリシハ製造時期ニ因ルヘキモ未タ製造ノ技ニ熟達セサル所アルモノノ如シ宜シク脂肪ヲ除キ乾固ヲ充分ニスルコトニ注意センコトヲ要ス

静岡縣ハ近時鰹節ノ名産地トシテ製造者モ多ク産額モ亦多キニ拘ラス此回ノ出品ハ僅ニ十六點ニシテ人員十一名ニ過キス而シテ其製品ハ概ネ佳良ニシテ大ナル等差ナキハ能ク名産地タル所以ニ適合セリト雖モ其僅少ノ出品ハ同縣製品ヨリ大觀シテ優品ト認ムヘキモノニ非ス從ヒテ又他ノ産品ト比シテ特殊ノ優所ヲ發見スルヲ得サリシハ甚タ遺憾トスル所ナリ

千葉縣ノ出品ハ七點ニシテ人員五名ニ過キス而モ製造濱村ヨリ一點若クハ二點ヲ出タセルノミナルハ甚タ遺憾トスル所ナリ而シテ其製品ヲ見ルニ概ネ進歩セルモノアレトモ惜ムラクハ實質堅緻ナラス之レ其原料ニ因ルモノナルヘシト雖モ尚研究ヲ重ネテ改良センコトヲ要ス

其他沖繩縣ヨリ五點ヲ出タセルハ皆薩摩節ノ風ヲ存スレトモ製造未タ完全ナラス臺灣ヨリ一點ヲ出品セルカ鰹鰻等ヲ以テ造レルモノニシテ而モ同地在來ノ製法ニヨレル乾脯ナルヲ以テ内地産ノ節類トハ同日ニ論スヘキニ非サレトモ其乾燥ハ充分ニシテ味亦佳ナリ一種特別ノ製品トシテ見ルノ外ナシ之ヲ要スルニ今回ハ節類ノ製造期節ノ宜シカラサリシカ爲メ出品モ甚タ多カラス且廣ク全國各地ヨリ集ラサリシカ上ニ特ニ見ルヘキ良品モ亦少カリシハ遺憾トスル所ナリ

輸出水産物

輸出水産物ノ出品ハ百三十二點ニシテ人員ハ百十六人ニ達シ出品區域ハ二府一道十二縣ニ渉リ出品ノ最モ多數ナルハ青森縣ニシテ品種ハ乾蚫海參二番鰯大部ヲ占メ次ハ臺灣總督府ニシテ鱶鰭類殊ニ多ク沖繩縣ハ鰯最モ多シ東京府下小笠原諸島ノ出品ハ鱶鰭及二番鰯主ナルモノニテ北海道ハ貝柱最モ多シ此他ノ諸縣ノ出品ハ二三點ニシテ十點ヲ出ツルモノナシ

由來青森縣ノ乾蚫海參ハ夙ニ貿易市場ニ聲價ヲ博セシ特産ニシテ此回ノ出品モ品質殊ニ善良ニシテ製造モ亦益〻進歩シ眞ニ特産ノ名ニ背カサル優品ヲ出タセリ今ヤ海外輸出水産物中乾蚫海參ノ如キハ市場ニ於ケル品格漸ク劣リ産額ハ寧ロ増大セス偶〻新漁場ヲ發見スルニ非サレハ整一セル良品ヲ出タス能ハサルノ大勢ナルニ獨リ青森縣ハ比較的良品ヲ産出タシツツアリ今回ノ出品ノ如キハ就中優品ヲ出タセルモノト云フヘシ東京府小笠原諸島ヨリ出品ノ鱶鰭ハ品質良好ニシテ製造モ改良セシ逸品ヲ出タセリ臺灣總督府ノ鱶鰭モ品質概シテ良好ナルモ製造ニ至リテハ今一歩ノ改良ヲ要ス蓋シ南洋ニ於ケル鱶漁業ハ將ニ大ニ發展セントス宜シク注意シテ製品ノ改善ニ勉メンコトヲ要ス青森縣ノ二番鰯ハ輸出向トシテ專ラ改良ヲ加ヘ一種ノ風格ヲ備ヘ此回ノ出品モ概シテ良好ナリ宮城、静岡二縣ノ二番鰯ハ内地向トシテ品位良好ナリ沖繩縣ノ鰯ハ形格大ニシテ此地方一種ノ品位ヲ有スレトモ概シテ洗滌乾燥ノ不充分ナルカ爲メ品位良好ナラス内地各名産地ノ製法ヲ酌酌シテ今一層ノ改良ヲ要スヘシ秋田縣出品ノ田作ハ製造ニ於テ稍〻改良セシ形跡ヲ觀レトモ品質ハ未タ良好ナラス

北海道ノ貝柱ハ特産地ノ出品トシテ品位概シテ良好ナリ益〻其種々ノ整一ニ勉メハ市場ニ賞讃ヲ博ス

剝蝦ハ愛媛、德島ノ二縣ヨリ各一點ノ出品アルモ普通品ニシテ擧ケテ稱スヘキ點ナシ

此他東京市内ノ商店ヨリ類集ノ出品アルモ産地及製造人ヲ分明ニ示サス從ヒテ觀覽者ニ滿足ヲ與フルコト能ハサリシハ遺憾ニ堪ヘス

要スルニ輸出水産物ノ出品ハ豫想外ニ少數ナリシモ概シテ醜陋ナル品種ヲ出ササルハ一般ニ進歩セ

シヲ徴スルニ足ル然レトモ敢テ當業者ニ望ム所ハ自家ノ製品中ヨリ特ニ優品ヲ撰ミテ公會ニ出陳シ而シテ優賞ヲ得テ満足スルカ如キ弊習ヲ一掃シ一意專心市場ニ獨特ノ聲價ヲ博スルアランコト是ナリ

鹽乾魚貝(第四十四類ノ内)

主任審査官　奥　健藏

地方別	出品人員	點數	名譽金牌	名譽銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	計	割合
東京	四〇	八〇	—	三	一	四	三	一六	二七	六七五
新潟	三	三	—	—	—	—	—	—	一	一〇〇〇
宮城	三	三	—	—	—	—	一	—	一	一〇〇〇
山口	一	五	—	一	—	—	—	—	一	一〇〇〇
鳥取	二	二	—	—	—	—	—	一	一	五〇〇
島根	二	二	—	—	—	—	—	一	一	五〇〇
北海	八	八	—	—	—	—	四	—	四	五〇〇
靜岡	一	一	—	—	—	—	—	—	一	一〇〇〇
秋田	一	一	—	—	—	—	—	—	—	—
計	六一	一〇五	—	四	一	四	四	二六	三九	六五五

外ニ協賛賞一人アリ

本類ニ屬スル出品人員六十一、點數一百〇五ニシテ内東京府ニ屬スルモノ人員四十、點數八十アリ府ノ物産トシテハ島地ニ於ケル乾鰒ニシテ其他ハ概ネ各地ニ生産シタル商品ナリ管外出品ニ至リテハ極メテ少數ノ出品ニ過キスシテ特記スヘキモノナシ左ニ其審査ノ梗概ヲ記セン

鹽魚ハ水産製造食品中ノ重要ナルモノニシテ鮭、鱒、鮪、鯖、鰤、鰯、秋刀魚等ハ從來鹽藏ノ主要品タリシカ近年交通機關ノ發達ト共ニ鮪、鯖、鰯、秋刀魚等ノ多クハ鮮食セラルルニ至リ鮭、鱒、鯖等モ漸次同一趨勢ヲ現ハサントスルカ如シ今回出品ノ鹽魚ハ鮭、鱒、鱈、鯨ヲ主トシ飛魚、タカベ等ニ至リテハ僅ニ一二點ニ過キス

北海道、樺太、沿海州、堪察加所産ノ鮭ハ大部分「ドックサルモン」ニシテ其種屬ハ米國加奈太等ヨリ輸入スル鹽鮭ト同一ナレトモ其品質ハ北海道産ヲ最良トシ樺太、沿海州、堪察加之ニ次キ米國輸入品又之ニ次ク現時内地ニ於テ需用スル所ノ鹽鮭、鹽鱒ハ通シテ約十二三萬石ニシテ内米國ヨリ輸入セラルルモノ約二萬石ナリ、鹽鮭、鹽鱒ハ關東地方ニ於テ殊ニ必要缺クヘカラサル副食物ナレトモ其製法ハ依然トシテ進歩セス其品質ノ如キ原料ノ取扱方ヲ叮嚀ニシ良鹽ヲ用フル等注意ノ如何ニ依リテ良好ナラシムルヲ得ルヲ以テ當業者ハ注意セサルヘカラス

釧山半三郎ハ西別、擇捉、根室、ニコライスク、夏秋タムラオ、オコツク及加奈太産ノ鹽鮭及擇捉堪察加ノ鹽鱒ヲ類聚出品シ其他棒鱈、北寄具、乾蛸等二十餘點ノ商品ヲ陳列セリ北海道商會モ亦西別、石狩擇捉ノ鹽鮭、擇捉及樺太ノ鹽鱒ヲ類聚出品シ觀覽者ニ注意ヲ興ヘタリ

鱈ノ出品ハ棒鱈、開鱈等數點ニ上リタレトモ皆從來ノ製法ナリ唯日本漁業株式會社ノ米國式開鱈ハ品質良好、貯藏ニ堪ヘ歐米ノ製造ニ倣ヘル出品ト稱スルヲ得ヘシ同社ハ「オコツク」海鱈漁業ヲ目的トシテ三十九年設立セラレタルモノニシテ鱈漁船數隻ヲ新造シ多年米國鱈漁船ニ乘組ミ鱈漁業ヲ研究シタル加藤洋ヲ漁獵長トシテ今回ノ出品ヲ製造セリ從來北海道ニ於ケル鱈ハ十、十一月頃ヨリ翌年三月迄ヲ漁期トシ海岸ヲ去ル遠カラサル所ニ於テ漁獲シ冬期ハ主ニ新鱈ニ製シ春期ハ棒鱈又ハ開鱈ニ製セリ之ニ反シテ「オコツク」海ニ於ケル漁期ハ七、八、九月ナルモ同社ノ漁船ハ本年五月中旬ニ於テ東京ヲ出帆シ十一月初旬ニ歸京セリ本品ハ新規ノ製造方法ニヨリテ生産シタルモノナレハ未タ世人ニ周知セラレス從ヒテ販路ハ意ノ如ク開ケサルモ漸次其勢力ヲ發展スルヲ得ルヤ蓋シ疑ヲ容レス

加工品トシテハ村田半兵衛ヨリ刻鰑ヲ出品セリ同人ハ五馬力ノ瓦斯「エンヂン」ヲ用ヰ三臺ノ鰑割截機ト二臺ノ刻ミ機トヲ運轉シ夏季ニ於テ六七萬圓ヲ製出セリ一臺一時間二十六貫ヲ刻ムヲ得テ至極輕便ナルモノナリ東京ニ於ケル刻鰑製造高ハ約二十萬圓ニシテ之ニ從事スル者六七人アリ就中村田半

兵衞ハ最モ大ナリ其原料ハ北海道及佐渡鰯ヲ使用シ品位甚タ佳ナリ

府下ノ産物トシテ稍〻見ルヘキモノハ新島、神津島及大島等ノ乾鰹ナリ而シテ其産額ハ決シテ少カラス品質ハ概シテ良好ナリ唯未タクサヤ製ヲ襲用スルモノアリ元來クサヤ製ハ封建時代ヨリ流行シタル製法ナレトモ今ヤ時世ノ變遷ト共ニ一部ノ需用者間ニ珍重セラルルニ過キサルカ如シ此製法ニ依ルモノハ時日ヲ經ルモ乾固セス比較的貯藏ニ堪ユルカ如クナレトモ其製法ノ原料タル鹽汁ハ魚類ノ腸汁雜物ノ醯ヲ濾過シタルモノニシテ魚類ヲ其液汁ニ浸漬シテ乾製セルモノナリ而シテ之ヲ店頭ニ陳列スレハ蒼蠅ノ來集ヲ促カシ之ヲ火ニ翳セハ忽チ惡臭四邊ヲ襲フカ如キ現況ナリ當事者ノ反省ヲ望ム

管外出品ノ稍〻見ルヘキモノハ山口縣東洋漁業株式會社ノ鯨ノ尾羽、立羽、白決、畝肉、赤肉等ノ鹽藏品ナリ其他ハ北海道、宮城、新潟、秋田、鳥取、島根、靜岡等ヨリ一二零碎ノ出品アリタルノミ

由來東京府下ハ海苔、佃煮、島地ニ於テハ鰹節、乾鰹等ノ外ハ著キ水産物ヲ有セサルヲ以テ固ヨリ多大ノ望ヲ其出品ニ囑スルハ不當ナレトモ水産物カ年々當府市場ニ於テ集散販賣セラルルコトノ實ニ莫大ナル實況ハ他ニ類例ナシ而シテ今回ノ如ク管外鹽乾魚ノ落莫ヲ極メタルハ特ニ遺憾トスル所ナリ

食料及糊料用藻類

今回出品ノ食料及糊料用藻類ハ概シテ多カラスト雖モ然モ其出品點數ハ水産物中ノ鑵詰類ニ次クノ多數ヲ占メタリ其斯ノ如キ所以ノモノハ食用藻類中第一位ヲ占ムル所ノあさくさのりカ我東京灣ノモノ全國中第一位ニ在レハナリ之ヲ除キテハ寒天、昆布、布糊ノ如キモノニシテ若布、角又ノ如キハ殆ト許スルニ足ルノ出品ナシ故ニ主トシテ海苔ニ就キテ審査成績ヲ報告セントス

海苔ハ我東京灣産ヲ以テ全國中第一トセラルルコト人ノ既ニ知ル所ニシテ我東京灣内ノミニテ約百二十萬圓ノ産額アリ全國ヲ通シテ殆ト三百萬圓ニ上ラントスル如クナルハ實ニ我東京灣産海苔ノ品質及製品ノ佳良ナル所以タラスンハアラス其創始ノ如キモ古ク貞享、元祿ノ頃ヨリシテ原質ノ精良製品ノ良好ヲ致スニ勉メタル結果今日ノ盛アルニ至リタルニテ其抄製法、乾燥法、保存法等殆ト完全シ些ノ遺憾ナシト云フヘシ然レトモ同シク東京灣ニ面スル所ト雖モ各町村ニ於テ大ニ優劣アル所以ノモノハ要スルニ其地從來ノ舊慣ヲ墨守シ敢テ他ノ長所ヲ採ラス自ラ自個ノ製品ヲ以テ復タ上ナキモノト思惟スルノ誤ニ職由スルモノノ如ク葛西、砂村ノ如キ府下ニ在リナカラ遙ニ大森、品川ノモノニ劣レルハ頗ル遺憾トスル所ナリ又深川地先ノモノノ如キ幾分此譏ナキ能ハス是レ今回此等地方ノ出品ニ賞與ノ比較的多カラサリシ所以ナリ彼ノ千葉縣青堀村ノ如キニ至リテハ殊ニ此弊ノ盛ナル所ナリト云ハサルヘカラス宜シク其然ルヘカラサル所以ヲ指示シ之カ改善ニ赴カシムヘキナリ製品ノ優劣若シ原料ノ如何ヨリ來レルナレハ誠ニ人爲ノ如何トモスル能ハサル所ニシテ原料ノ良否ハ肥料ノ關係水中鹽分ノ多寡等ニヨルモノナレハ之ヲ改良スルコトハ或ハ能ハスト雖モ製造上ノ技術ノ上ヨリ若クハ保存ノ點ヨリシテ大ニ優劣ノ存スルハ勉メテ改善セシメサルヘカラサルナリ

今回ノ出品中海苔製造ニ關シ別段新規ナル製法ノ案出セラレタルモノ非スト雖モ獨リ府下南葛飾郡瑞穗村二之江橋本省吾ノ出品ハ乾燥器ヲ用キテ海苔ヲ乾燥シタルモノニシテ一時ニ多量ノ海苔ヲ乾燥シ得ルノミナラス色澤モ亦大ニ日光ノモノニ勝リ保存ノ上ニモ有効ナリト云ヘル成績ヲ擧ケ得タルモノ是レ從來未タアラサル所ナリ果シテ斯ノ如ク諸多ノ點ニ於テ優レルヤ否ヤハ他日研究ノ結果ニ俟タサルヘカラスト雖モ雨天其他ヲ除キテ多量ノ原料ヲ毀損セサルノ効ヤ疑フ所アラサルナリ

製品ノ種類ヲ增加シ品質ヲ益〻佳良ナラシムル如キハ予ヲ以テ見ハ殆ト今日以上又進ムヘキ餘地ナシトスルモ之カ原料ヲ産出スル上ニ於テハ未タ研究スヘキ餘地頗ル多キヲ見ル殊ニ目睫ノ間ニセマレル問題トシテハ海苔唯一ノ産地タル東京灣築港問題是ナリ此事タルヤ海苔培養上殊ニ主要ナル適當ノ淺處ヲ使用スルモノナルカ故ニ隅田川口ヨリ羽田ニ至ル間ニ於テ殆ト現在ノ認可地ノ半以上ヲ失フ道理ナリトス而シテ海ハ灣内何レノ處ニテモ海苔ヲ産スヘシトスルモ之カ附着材料タル簀ハ水底ノ深クナルニ隨ヒテ長大ナラサルヲ得サルヲ以テ現今使用スルモノノ中八尺簀ナルモノハ最モ長キ

類ニシテ之レ以上ノ濱ニテハ到底之ヲ植ユル等ノ作業容易ナラス故ヲ以テ適當ノ深サノ場所ヲ他ニ求メサルヘカラスト雖モ俄ニ之ヲ作ルヘキニ非ス自然ニ川水ノ搬入スル泥土ニ待タサルヘカラサルナリ地積ハ斯ノ如クニシテ容易ニ囘復スル能ハストスレハ之ヲ他ニ求メサルヘカラスト雖モ東京灣以外ニ於テ海苔産額ノ多キ處ハ既ニ已ニ之カ開拓ニ從事シ愛知灣、伊勢灣ノ如キ廣島灣、松島灣、氣仙沼、大船渡等ノ如キ皆夫々養殖ニ從ヒ既ニ大阪灣ニ於テスラ尼ケ崎附近ニ之カ事業ヲ起シタルモノアル如ク然リ然レハ之ヲ韓國沿岸ノ如キ未開地ニ施シテ以テ其缺ヲ補フハ固ヨリ爲ササルヘカラサル所ナリト雖モ此他之カ補塡ノ途ナキニ非ス开ハ卽チ肥料ヲ施シテ品質ヲ良好ナラシメ以テ産額ヲ多カラシムルニ在リ其方法卽チ左ノ如シ

海苔ニ肥料ヲ施スト云フトキハ事頗ル奇ナルカ如シト雖モ從來ヨリ行フ所ナリ彼ノ河水ハ海苔ノ培養上重要ナルモノニシテ之ナクシテ海苔ノ産出ナキコトハ實業者ノ夙ニ知ル所ナリ河水其レ何物歟肥料ニ外ナラス河水ハ淡水ナリ然レトモ單ニ淡水ニ非ス主トシテ窒素ヲ含ムモノニシテ燐素及加里モ亦之ヲ適度ニ含メルナリ此三元素ハ卽チ肥料ノ三要素ニシテ植物成長上最モ貴重ナルコト人ノ知ル所海苔ハ又植物ニ外ナラサレハ海苔ニ此要素ノ必要ナルヤ明カナリ河水若シ單ニ淡水ナルノミニシテ可ナレハ蒸溜水ニテモ海苔ハ成育スヘキナレトモ之ヲ實地ニ試驗シタルニ毫モ成長ヲ見サリシハ固ヨリ其所ナリ此ニ於テ予ハ之ヲ我水産講習所ニ於テ種々ノ方面ヨリ研究シテ河水ニ含メル三要素カ海苔ニ重大ナル關係ヲ有スルコトヲ試驗上證明シ得タリ

而シテ河水ノ注入其宜シキヲ得ル所卽チ實業者ノ所謂澪筋附近ノ場所ニ在ル海苔ハ葉ノ幅廣ク色濃綠色ニシテ長サモ亦長シ要スルニ一株ノ海苔ノ體長大ニシテ品質亦佳ナリ之ニ反シテ肥料ノ乏シキ處ニ産スルモノハ葉ノ幅極メテ細ク長サハ長ケレトモ然モ其肥料多キ所ノモノニ及ハス唯多數密集スト雖モ色眞鍮ノ如クニシテ濃綠ナラス品質遙ニ劣等ニシテ製品淡黃色ヲ呈シ價格ノ上ニ於テ四分ノ一ニ及ハス故ヲ以テ假令數量ハ多シト雖モ金高ハ其割ニ多額ニ上ラス勞多クシテ功少キナリ且葉一枚ノ大サ小長ナルヲ以テ之ヲ抄立ルニ當リ大キナル葉一枚ノモノヲ刻ミテ抄製スルニ比スレハ株數ヲ多ク取ラサルヘカラサルヲ以テ結局大葉ノモノヲ作ルヲ勝レリトス斯クスレハ同一面積ノ所ヨリ得ラルル海苔ノ數大葉ノモノノ方細長キ葉ノモノヨリモ多カルヘキノ理ナリ

既ニ斯ノ如クナレハ次ノ問題ハ濱場ニ肥料ヲ施ス方法是ナリ开ハ云フマテモナク濱場ニ河水ヲ平等ニ廣ク注カシムルコトニ外ナラス現在行ヘル如ク隅田川又ハ中川若クハ江戸川等ノ如ク一條ノ河ヨリシテ水ヲ海ニ注カシムルトキハ河水ハ一所ニノミ流レ行キテ其水ノ接觸スル附近ノ海苔ニハ肥料トナルモ稍〻遠キ所ノモノニハ何ノ影響ナク徒ニ遠クノ沖合ニ此肥料多キ河水ヲ運ヒ去ルニ止マルノミ茲ニ於テ予ノ切ニ希望シテ止マサルモノハ河水ヲ一口ニ海ニ注カシメスシテ之ヲ數多ノ小流ニ分チ以テ海ニ注カシムルコト是ナリ然スレハ濱場ハ甲乙ナク一樣ニ河水ヲ受ケ得ヘケレハナリ其レニハ農者ノ常ニ行フ如ク夏時ニ在リテハ一滴モ多ク我田ニ水ヲ引クヲ以テ河ハ數多ノ口々ヨリ海ニ注ケトモ冬ハ田地ヲ乾カス必要ヨリ夏ノ間引キ入レタル口ヲ閉チ一ノ河口ヨリ海ニ注クヲ以テ予ノ希望スル所ハ冬期ニ於テモ恰モ夏期ノ如ク數多ノ流トシテ海ニ注カシメントスルコト是ナリ冬期ハ殊ニ海苔ノ繁殖ニ最モ好都合ノ時ニシテ殊ニ肥料ヲ要スルコト多大ナル時機ナレハナリ此ハ少シク水路ヲ整理セハ河ヲ分流スルコト容易ナルヘケレハナリ

既ニ川ヲ多クノ口々ニテ分流シ得タリトスレハ次ニハ川上適當ノ場所ヲ選ヒ堆肥其他肥料トナルヘキモノノ貯蓄所ヲ置キ徐々ニ此處ヨリ肥料ノ河ニ注ク如クスルトキハ唯自然ニ陸地ヲ流レタル水ノ中ニ含メル肥料ノ外此人工ノ施肥ニテ培養スルコト容易ナリトス最モ是カ實行上ニハ或ハ公共組合ノ協議等ニヨルヘキハ勿論ナリ要スルニ土地ニ制限アリ他ニ求ムルコト能ハサル以上其減シタル地積ヨリ生スル缺ヲ補ハントセハ一枚一枚ノ葉ヲ長大ナラシメサルヘカラス夫ニハ肥料ヲ施スヲ要スヲ施スニハ河水ヲ一ケ所ニ海ニ注カシメスシテ數流トナスト云フニ在リ現在江戸前ノ濱ニテ最上ノ場所ノ濱一柵(四十五株)ヨリハ一千二百枚ヲ得ルモ浦安邊ニテハ同數ノ濱ニシテ八百枚ニ過キスト

云フ以テ葉ノ大ナルモノヨリ得ル海苔ノ枚數ノ多キヲ見ルヘシ

我隅田川中川附近ノ如キハ川口ノ分流略、予ノ所論ノ如ク數多ニ分流シ居ルヲ以テ敢テ予カ此處ニ論スルカ如ク分流セシメストモ可ナリト雖モ東葛飾郡浦安方面其他千葉縣下及各地海苔場ノ如キハ此方法ニヨリテ品質ノミナラス數量モ亦多カラシムヘキハ予ノ信シテ疑ハサル所ナリ

海苔類出品點數及授賞表

府縣別	品名	出品點數	出品人員	名譽賞 金	名譽賞 銀	一等	二等	三等	褒狀	授賞總計	不賞者
東京	乾海苔	六五	二二		二	五	四	五	六	二二	
深川、砂村	同	二一	一九							一一	
葛西	同	一四〇	一三二			一	一七	五	六	一一	八
品川	同	二一	二一				二八	二	二八	七四	五八
大森	同	一六	九			一	二	三	八	一四	七
羽田	同	七	三								
千葉縣浦安	同	一〇	一〇								
同	青堀	一一	一一								
大島	岩海苔	二	二								
西多摩郡	川海苔	五	五								
福島縣	乾海苔	一	一								
臺灣	紫菜	六	六								
韓國	海苔	五	二								
東京	味附海苔	六〇	一七								

寒天ハ大阪府下ノ產多數ヲ占メ信州物之ニ次キ青森ノ出品二三點アリタルノミ大阪ノ品ノ良好ナルハ多ク評スルヲ要セス信州物モ漸ク進步シ大阪ニ次クノ良品ヲ出品ヲ出タスニ至レリ殊ニ青森三英社ノ出品ハ其進步ノ度頗ル著キモノアリ他ハ論スルニ足ラス製品ハ一般ニ在來ノ儘ニシテ別ニ新規ナル製法ニ依レルモノナラス包裝ノ仕方モ亦別ニ變リタルモノナシ

寒天

府縣別	品名	出品點數	出品人員	名譽賞 金	名譽賞 銀	一等	二等	三等	褒狀	授賞總計	不賞者
東京	寒天	二一	六				二	一		三	三
青森	同	四	二								
長野	同	二	一				一			一	
京都	同	四	三								
大阪	同	二一	一七			一	二	二		二	三
兵庫	同	三	三				八	五		一六	一

葉昆布、刻昆布、細工昆布、布糊、角又、裙帶菜、石花菜等等ハ出品點數多カラス又各地ヨリ出品シタルモノアラサルヲ以テ詳評スルノ價値ナシ右ニ之カ點數ヲ掲ク但シ刻昆布ハ西村審査官ニ於テ分析ヲ行ヒ以テ品質ノ良否ヲ鑑査セル所アリタルヲ以テ次ニ之ヲ載ス

府縣別	品名	出品點數	出品人員	名譽賞 金	名譽賞 銀	一等	二等	三等	褒狀	授賞總計	不賞者
東京	石花菜	二六	一四				六	五		一一	三
靜岡	同	一	一								
千葉	同	三	二					一		一	
宮城	同	一	一						一	一	
臺灣	同	七	七						一	一	
韓國	同	一	一								
東京	昆布	一〇	五				二	一	三	二	

北海道昆布	五	三	―	―	―	二	一	―	三	―
韓國同	一	一	―	―	―	―	―	―	―	一
東京細工昆布	二三	七	―	―	二	二	三	―	七	―
北海道同	三	一	―	―	―	―	―	―	―	一
東京若布	二	二	―	―	―	一	―	―	一	一
福島同	一	一	―	―	―	―	―	―	―	一
德島同	二	二	―	―	―	―	一	―	一	―
韓國同	一	一	―	―	―	―	―	―	―	一
東京布糊	二三	一四	―	―	二	三	五	―	一〇	四
山口同	二	一	―	―	―	―	―	一	一	―
韓國同	五	三	―	―	―	―	―	一	一	二
東京糊料原藻	二三	一一	―	―	―	―	四	一	五	六
千葉同	三	二	―	―	―	―	―	二	二	―
臺灣同	一	一	―	―	―	―	―	一	一	―
韓國同	二	一	―	―	―	―	―	―	―	一

刻昆布ノ出品中佳品ト認ムヘキモノハ僅々數種ニ過キス其原料加工等到底該品ノ本場トモ稱スヘキ大阪地方ノ産品ニ比スルニ足ラス殊ニ乾燥粗放ナル爲メ緊握スレハ夥シキ濕感アルカ如キ長途密閉而モ開封マテニ長期ヲ經過スル輸出等ニ適セサルハ言ナシ要スルニ尙製造上ニ於テ改良ヲ施スヘク又技能上ニ於テモ練磨黽勉ノ期スヘキ點尠カラサルナリ今出品中重ナルモノヲ採リテ普通成分ノ分析ヲ行ヒシ結果ヲ示サハ左ノ如シ

第一表　空乾物百分率

品目	分析者	乾物數量	揮發物總量	有機物總量	全窒素	全炭水化物	沸騰湯浸出物中ニ於ケル全炭水化物	沸騰湯浸出物中ニ於ケル直接還元炭水化物	沸騰湯浸出物總量	纎維	エーテル浸出物	アルコール浸出物	純灰分	硅酸	硫酸	苦土	沃度	鹽素	銅	砂
石倉順郎第一號	松下高	九一、四三〇〇	八、五七〇〇	六四、五五一〇	一、八二八〇	七、一一〇〇	六、一四〇〇	〇、九一〇〇	五九、〇〇〇〇	六、六五五〇	一、〇四〇〇	二五、五四〇〇	二三、三二一〇	〇、四八二〇	〇、六〇三二	三、八一八三	〇、一〇四〇	八、二五〇四	〇、〇四二一	二、〇二〇〇
石倉順郎第一號	野口莊次	九四、二五〇〇	五、七五〇〇	五三、三七四〇	二、二六二三	七、〇〇六四	二、五九五〇	一、三五一六	三五、六二三一	一〇、八三七四	〇、八一五〇	二〇、二一〇〇	三八、八三九七	二、三一二三	一、九九九〇	〇、一〇五九	〇、〇三五三	一、二四二六	―	一、四〇一三
石倉順郎第三號	相澤發	九二、七八五〇	七、二一五〇	六六、六三八三	一、六九七六	一一、二〇〇〇	四、四三〇〇	〇、三〇五〇	五四、四〇〇〇	四、三九〇〇	一、九一〇〇	二三、二四五〇	二五、三一六〇	〇、三六〇〇	一、五九七二	二、七六〇五	〇、一五八三	八、三八九五	〇、〇三六七	〇、一六六七
石倉順郎第五號	大島愼二	九一、三五〇〇	八、六五〇〇	六三、一二四〇	一、三六八〇	九、九五〇〇	九、八三〇〇	〇、七七六〇	五〇、四〇〇〇	九、四二五〇	五、六三五〇	二二、七五五〇	二七、二六四〇	〇、七〇八〇	一、六五五八	三、二〇一六	〇、一六七五	八、四七二五	―	〇、四四二〇
荒川甚五郎第二號	野口莊次	九四、五五〇〇	五、四五〇〇	五二、四二八〇	一、九一九〇	八、〇四三七	六、四三二五	一、九八三六	五九、三〇九〇	七、九六八七	〇、七八五〇	三四、一〇〇〇	三八、四七七七	二、〇八九三	一、四五三二	一、二七九一	〇、〇五八四	一、九一三八	―	一、八〇四三
荒川甚五郎第三號	角田鵠雄	八八、九四四〇	一一、〇五六〇	五一、九三四〇	三、五四〇〇	六、五九〇〇	三、六六〇〇	二、四八二〇	六、五二六〇	五、三八五〇	〇、八九四〇	二二、六〇五〇	二九、八五二〇	〇、一五六〇	二、三六〇〇	一、七七〇〇	〇、三七〇〇	一二、八〇〇〇	―	二、五九〇〇
荒川甚五郎第四號	中島安太郎	九一、一八四〇	八、八一六〇	五五、五八〇〇	〇、四二五〇	八、九七五〇	六、〇一〇〇	一、六〇五〇	四五、〇二六〇	六、六九三〇	一、二八五〇	三七、九九〇〇	二九、六四二〇	〇、〇七四〇	〇、七九六五	一、九八七九	〇、七三一四	一二、四〇〇〇	〇、〇二一〇	五、二〇二〇
石田勝五郎第二號	野口莊次	九三、九二〇〇	六、〇八〇〇	六二、一〇五〇	一、九五〇九	六、八四九四	四、五一六〇	一、四五六二	四七、九〇四八	一二、三〇七四	〇、八四五〇	三二、六九〇〇	二九、七八五七	二、一七三三	一、四七二一	〇、八七五〇	〇、〇四五二	一、六六四八	〇、〇二九四	一、三一七三
石田勝五郎第三號	濱部常三郎	九四、〇四〇〇	五、九六〇〇	六一、九九四〇	一、三九〇〇	七、二七五〇	三、九六〇〇	一、〇一八〇	六八、九五〇〇	七、二五〇〇	一、三七五〇	三六、三九〇〇	三一、五九〇〇	〇、二〇二〇	一、五三六〇	二、七六〇〇	〇、二四二六	一一、九〇〇〇	―	〇、二五四〇
笠輪友吉第三號	野田莊次	九四、八三〇〇	五、一七〇〇	六四、八八五〇	一、九六九五	六、九一七六	五、五七一三	一、三九八四	四八、八二八九	九、〇二七四	〇、七九五〇	二二、六八〇〇	三一、六八八七	二、六八九三	一、六七九八	一、二四四七	〇、〇四五二	一、五一五二	〇、〇〇三九	一、三三六三
岩本末吉	木村金太郎	七九、二六六七	二〇、七三三三	五〇、〇九八六	三、九三六〇	六、七三〇〇	三、七八〇〇	一、五九七九	六九、九八〇〇	五、四八〇〇	一、六四〇〇	三六、四五〇〇	二七、七〇八〇	〇、一五七〇	一、八一三九	五、七六二二	〇、〇三三五	一二、六七三〇	―	〇、六五七〇
植田元治郎	木村金太郎	八六、六八六七	一三、三一三三	五二、八九九七	四、九二〇〇	五、七九〇〇	三、五八〇〇	一、〇二六〇	六七、〇四〇〇	六、一三五〇	一、七二〇〇	三五、五六五〇	三一、九〇六〇	〇、一八二〇	二、七七〇六	二、四八二四	〇、一四二一	一三、三七七〇	―	一、三〇五〇
白須太郎吉第一號	木村金太郎	八九、六八三三	一〇、三一六七	五二、一三六三	四、四二八〇	五、〇〇〇〇	三、一三〇〇	一、二五七八	六九、五二〇〇	四、八五〇〇	二、一五〇〇	三三、三三〇〇	三四、九〇九〇	〇、二五二〇	二、一五六八	三、一八五五	〇、二一三一	一四、七八五一	―	一、一三六〇
東京乾物問屋根室刻昆布	木村金太郎	九一、五〇三三	八、四九六七	四八、八九八三	三、九三六〇	五、一九〇〇	三、八三〇〇	一、三〇八〇	六一、四〇〇〇	三、七一五〇	二、一三〇〇	二〇、五一〇〇	三八、二八〇〇	〇、一九一〇	〇、八五七六	二、六六七三	〇、一七七六	一四、〇八一一	〇、〇三七六	三、六二九〇

第二表　原氣乾物百分率

品目 ＼ 成分	石倉順郎第一號	石倉順郎第一號	石倉順郎第三號	石倉順郎第五號	荒川甚五郎第二號	荒川甚五郎第三號	荒川甚五郎第四號	石田勝五郎第二號	石田勝五郎第三號	笠輪友吉第三號	岩本末吉郎	植田元治郎	白須太郎吉第一號	東京乾物問屋根室刻昆布
乾物總量	松下高	野口莊次	相澤毅	大島慎二	野口莊次	角田鶴雄	中島安太郎	野口莊次	濱部常三	野口莊次	木村金太郎	木村金太郎	木村金太郎	木村金太郎
揮發物總量	七〇、四〇一二	六四、七五六三	七四、二二八〇	六六、六八五五	六二、八二七三	七四、七二三〇	七二、九四七二	六三、一八二〇	八三、六九五六	六九、一四一六	五五、四八六七	六二、四一四四	七四、一九九〇	二、二三九五一
有機物總量	二九、五九八九	三五、二四三七	二五、七七二〇	三三、三一四五	三七、一七二八	二五、二八七〇	二七、〇五二八	三六、八一八〇	一六、三〇四四	三〇、八五八四	四四、五一三三	三七、五八五六	三九、〇一五四	三九、六〇七八
全窒素	四九、七〇四三	三六、八二八一	五三、三一〇六	四六、〇八〇五	三四、六〇二五	四三、六四〇四	四四、四六四〇	四七、二三一四	五五、一七四七	四七、三六六一	三五、〇六八〇	三八、〇八七八	三五、四五二七	三二、二九七八
全炭水化物	一、四〇七六	一、五五四〇	一、三五八一	〇、九九八六	一、二七五二	二、九七五二	〇、三四〇〇	一、三二五六	一、二三七一	一、四三四五	二、七五五二	二、一四一〇	四、一六八五	三、四〇〇〇
沸騰湯浸出物中ニ於ケル全炭水化物	五、四七四七	五、二二四八	八、九六〇〇	七、二六三五	五、三四五〇	五、五三五六	七、一八〇〇	四、六五三二	六、四七四八	四、六四〇九	四、七一〇〇	四、一六八五	三、四〇〇〇	三、四二五四
沸騰湯浸出物中ニ於ケル直接還元炭	四、七二七八	一、七八二五	三、五四四〇	六、三二一〇	四、二七四四	三、〇七四四	四、八〇八〇	三、〇六八六	三、五二四四	四、〇五九八	二、六四六〇	二、五七七六	二、一二八四	二、五二七八
沸騰湯浸出物總量	四五、四三〇〇	二四、四六九五	四三、五二〇〇	三六、七九一〇	三九、四一〇八	五四、八一四三	六〇、二〇四〇	三二、五五一三	六一、三六五五	三五、五八一六	四八、九八六〇	四八、二六八八	四七、二七三四	四〇、五二四〇
纖維	五、一二四四	七、四四二一	三、五一二〇	六、八八〇三	五、二九五二	四、四六三四	五、三五四四	八、三六二九	六、四五二五	六、五七八三	三、八三六〇	四、四一七二	三、二九八〇	二、四五一九
エーテル浸出物	〇、八〇〇八	〇、五六九八	一、五二八〇	四、一三六	〇、五二一六	〇、七五一〇	一、〇二八〇	〇、五七四二	一、二二三八	〇、五七九三	一、一四八〇	一、二三八四	一、四六二〇	一、四〇五八
アルコール浸出物	一九、六六五八	一二、九五一三	一八、五九六〇	一六、六一二二	二二、六六九五	一八、九八二三	〇、五八二〇	一、二二四一	一、三六七〇	一、二二四一	〇、九〇六〇	〇、九六五七	〇、九六四二	〇、九六六〇
純灰分	一七、一七八七	二六、九九九四	二〇、二五二八	一九、九〇二七	二五、四五五三	二五、〇七五七	二三、三七一四	二〇、二五四三	二一、一五二八	一三、三二八一	一九、三九五六	二二、一三二四	一二、一〇九九	一二、一〇九九
硅酸	〇、三七一一	一、五八八二	一、二八八〇	〇、五一六八	一、三八八三	〇、一三一〇	〇、〇五九二	一、四五一三	〇、一七九八	一、九五九〇	〇、一〇九九	〇、一三一〇	〇、一七一四	〇、一三六一
硫酸	〇、四六四五	一、三七三一	一、二七七八	一、二〇八七	〇、九六五七	一、九八二四	〇、六三二四	〇、九九九三	一、三六七〇	一、二二四一	一、二六九七	一、九九四八	一、四六六六	〇、五六六〇
苦土	二、九四〇一	〇、七六九六	二、二〇八四	二、三三七二	〇、八五〇〇	一、四八六八	一、五九〇三	〇、五九四四	二、四五六四	〇、九〇六〇	四、〇三三五	一、七八七三	二、一六六一	一、七六六四
沃度	〇、〇八〇一	〇、〇二四二	〇、一二六六	〇、一二二八	〇、〇三八八	〇、三一〇八	〇、〇三〇七	〇、二一五九	〇、〇三二九	〇、〇三三五	〇、一〇一二	〇、一四四九	〇、一一七二	〇、一一七二
鹽素	六、三五二八	〇、八五三五	六、七一一六	六、一八四九	一、二七一七	一〇、七五二〇	九、九二〇〇	一、一四四八	一、一〇、五九一〇	一、一〇四一	八、八七一一	九、六三一四	一〇、〇五三九	九、二九三五
銅	〇、〇三二四	—	〇、〇三〇〇	—	—	—	〇、〇一六八	〇、〇一六八	〇、〇二〇〇	〇、〇二四八	—	—	—	〇、〇二四八
砂	一、五五五四	〇、九九三八	〇、一三三四	〇、三二二七	一、一九九〇	三、八三七一	四、一六一六	〇、八九五六	〇、二二六一	〇、九七三六	〇、四五九九	〇、四五九九	〇、七七二五	二、三九五一

刻昆布ノ食品トシテノ價値ハ主トシテ炭水化物トシテ示シタル成分ニシテ纖維ノ如キハ多キニ從フテ不良ナルモノトス砂ノ如キハ絶對ニ其存在ヲ排セサルヘカラス昆布ハ海床ノ岩礁上ニ生育シ原料ニ砂ノ附着スルモノアルヲ免レスト雖モ製造者中多々所謂白味(白味ノ多少ハ刻昆布鑑査ノ要點ニシテ其多キモノヲ佳品トス)ニ擬シ又ハ取引上重量ヲ增加セシメシ爲メ房州砂又ハ灰等ヲ混スルモノ少カラス殊ニ關東地方ノ製造家中ニ多ク見ル所ナリ要スルニ砂ノ多キハ少クトモ原料ニ對スル加工ノ粗放ヲ示スモノニシテ其量多キニ至リテハ故意ニ砂ヲ混セルモノト認メラルルモ恐クハ之ヲ解クノ辭ナカラン又灰分中硫酸及「マグネシウム」ノ多量ナルモノハ製品過理ヲ招クモノ多シ銅ハ法律ノ認承セル銅染色法ヲ採ルモノニ在リテハ勿論之カ存在ヲ認メサルヘカラス銅染色ノ効果ハ啻ニ製品ノ外觀ヲ美ナラシムルノミナラス著キ貯藏性ヲ得ルニ在リ要スルニ昆布ニ關シテハ化學的研究ノ少キ爲メ食品トシテノ品質鑑査ノ標準ヲ得難キハ甚タ遺憾トスル所ナルモ上記ノ所言ニヨリテ別表ヲ較査セハ自ラ其品質優劣ノ概念ヲ得ルニ難カラサルヘシ

沃度ハ只二點ノミニシテ論評ヲナスコトヲ得ス唯其品質ハ中等以上ト認ムヘキモノナリシト云フノ外ナシ該品ノ集散地タル東京ノ博覽會トシテ僅ニ一人ノ出品人ニ過キサリシハ甚タ遺憾トスル所ナリ

沃度

府縣別	品名	出品點數	出品人員	名譽賞 金	名譽賞 銀	一等	二等	三等	褒狀	授賞總數	不賞者
三重縣	粗製沃度	一	一	—	—	一	—	—	—	一	—

臺灣及韓國ノ藻數ニ關スル出品點數多カラス製品モ亦宜シカラス然レトモ將來充分ニ發達ノ見込アルハ韓國ニ在リテハあまのり、まふのり、わかめ、てんくさトス今回出品ノモノハ乾燥甚タ宜シカラス殆ト原始時代ノ如キ觀アルヲ免レス臺灣ノ如キハ未タ製造ノ何物タルヤヲ知ラサルモノノ如ク僅ニ晒白シ乾燥シタヽノミナリトス然レトモ原料ニ在リテハりうきう、つのまたノ種類多キ所ナルヲ以テ糊

料トシテ充分利用ノ見込アリてんくさ、あまのり、又産額少カラス今回ハ唯僅ニ此等地方ノ原品ノ一部ヲ見セタルニ止マルノミ

魚油類(第四十七類)

魚類海獸類ヲ合セテ僅ニ二十餘點ニ過キスト雖モ出品區域二府一市四縣ニ亘リ稍〻其品位ヲ較査對照スルヲ得タリ殊ニ今回ノ出品ハ魚油中殆ト産出無限ニシテ將來益〻生産增加ノ地アルト廣キ用途ヲ有スヘキ鱈肝油較肝油ノ出陳多キハ以テ大ニ意ヲ強ウスルニ足ル而シテ其品質ノ或二三點ヲ除クノ外ハ概シテ精巧ナルハ喜フヘキ現象ナリ唯採製後ノ加工處理ノ不完全ナルモノアリテ油色ノ佳良ナルモ含水不透明光澤不良ニシテ或ハ汚臭アリテ實用ニ適セサルモノアルハ惜ムヘキナリ近來魚油ノ用途ハ工業界ノ發達ニ伴ヒ化學家、工業家熾ンニ水産脂肪油ニ注目シ大ニ研究ヲ重ネ從來單一ナル利用方面ヲ有セルモノモ亦能ク此油ニ精製加工シ或ハ他物ト混交シテ種々ノ方面ニ應用セラルルニ至レリ從ヒテ本品ノ需用ハ内外共ニ逐年增加シ將來益〻有望ノ生産品タリ當業者意ヲ茲ニ止メ製造上細心能ク品質ノ改善ヲ計ルニ努メサルヘカラス

以上ハ出品ニ對スル總評ナリ今左ニ肉眼鑑識ニ於ケル備考ヲ列擧スヘシ

府縣名	油名	備考	人名
東京	千代田肝油	樣葵色ニシテ透明光澤アリ微ニ固有臭ヲ發ス	福田勝太郎
同	藥用肝油	黄色ニシテ透明能ク固有臭ヲ發ス	大西臨造
同	鱈肝油	色澤光彩共ニ佳ナルモ臭氣稍〻强シ	成田榮信
同	鮫油	淡黄色ニシテ透明臭氣少ク品質佳ナリ	同人
山口	鯨油(眞甲)	本油トシテハ比量少シク重キカ如シ色及臭共ニ佳良ナリ	東洋漁業會社
同	同(長須)	概ネ稍〻不透明ニシテ本油トシテハ帶色濃ク且細滓ヲ含有ス	遠藤米太郎
靜岡	鮫油	淡褐色ニシテ含水不透明ニシテ土肉ヲ含有シ汚臭ヲ發ス	野村林之助
宮城	鯨油	淡赤黄色ニシテ汚臭ナク蠟モ亦ナシ少シク水滓ヲ沈降ス	
同	鮫油	淡黄色ニシテ稍〻不透明微細ノ水分ヲ含ムカ如シ汚臭及蠟分ヲ含有ス	同人
同	鯨油	淡赤褐色ニシテ透明光澤アリ本油トシテハ普通ヲ優ク	同人
同	鮫油	淡黄色ニシテ極メテ透明光澤アリ汚臭及蠟分ナシ	松田庄助
同	同	淡黄色ニシテ稍〻不透明ナリ臭氣少シ	佐藤久吉
同	鮪油	淡褐色ニシテ透明汚臭ナク本油トシテハ極メテ良品ナリ	佐藤春吉
同	鮫油	淡黄色ニシテ稍〻不透明ナルモ汚臭ヲ有セス	同人
同	同	淡黄色ニシテ稍〻不透明ナルモ汚臭ナク蠟分ヲ含ム	丹野柳之助
同	同	赤黄色ニシテ塵滓ヲ混ス	丹野富之助
同	同	淡黄色ニシテ稍〻不透明ナレトモ汚臭ナシ	岩井甚藏
同	同	濃褐色ニシテ汚臭アリ混濁不透明土肉混交多シ	青山善太郎
同	同	褐色ニシテ汚臭ヲ發ス土肉ヲ含有ス	持丸唯一
大阪	鱈肝油	黄色ニシテ極メテ透明臭味共ニ佳良	廣業合資會社

主任審査官　妹尾秀實

工業原料(第六部第四十八類)

此類ニ屬スル出品ハ海獸、魚皮革、眞珠、貝殼、鯨筋、鯨鬚及海酸漿等トス(海酸漿ヲ此類ニ加入スルハ稍〻不當ニ失スルノ感アレトモ別ニ玩具等ノ項目ナキヲ以テ便宜茲ニ編入セリ)然レトモ概シテ品數甚タ寡少ナルハ大ニ遺憾トスル所ナリ尚此類ノモノハ輸出向及内地向ヲ問ハス範圍極メテ廣ク將來益〻有望ナルモノナルカ故ニ當業者ハ宜シク充分ニ注意シ販路及其利用等ニ就キ大ニ力ヲ盡スヲ要ス

海獸、魚皮革

海獸、魚皮革ノ事業稍〻其緒ニ就クルノ跡アルハ大ニ喜フヘシ今回出品セルモノノ内ニテハ海豚皮及鮭皮ヲ佳良ノ製品ト認ム

眞珠

御木本幸吉ノ養殖眞珠ハ夙ニ內外ニ名聲アリ人工ヲ加ヘテ眞珠ヲ養成シ歲次其產額ヲ增加シ海外ニ輸出セル數亦少カラス其効績極メテ顯著ナリトス然レトモ尙一層ノ改良ヲ加ヘ只徒ニ半形眞珠ヲ作ルノミニ甘ンセス進ミテ眞丹眞珠ヲ造出スルノ工夫ヲナシ以テ其成功ヲナスニ至ラハ蓋シ其實益多大ナルヘシ又茨城縣沼田三五郎ノ出品セシ淡水產眞珠ヲ見ルニ其生產ハ今日尙少額ナリト雖モ稍〻進歩ノ跡アルハ大ニ喜フヘシ

蓋シ一般世俗ノ奢侈ハ大ニ眞珠需用ヲ增加シ外國向トシテ頸飾、腕輪、ブローチ、指輪及頭部裝飾類ヲ重ナルモノトシ又內地向トシテハ指輪、ブローチ等ハ勿論昨今帶止、根掛、時計鎖等貴婦人社會ニ流行スルニ至リ此事業ノ前途ハ實ニ有望ナルモノト認ム

貝殼

貝殼ハ其應用極メテ廣ク歐米ニテハ貴重ナル裝飾品ヲ作製ス、今年農商務技師吉岡哲太郎氏カ携帶セラレタル伊國ミラン博覽會出品ノ伊太利貝類彫刻標品ヲ見ルニ皆本部琉球、小笠原等ヨリ其原料ヲ仰キ之ニ美妙ナル彫刻ヲ加ヘテ原料ノ價ニ數十倍スルノ製品トナスモノナリト云フ宜シク本邦ニ於テモ此方面ノ技術ヲ奬勵シ良品ヲ作成スルニ至ラハ蓋シ其實益多大ナルヘシ

鯨筋、鯨鬚

今回出陳セル東洋捕鯨會社ノ鯨鬚ハ良品ナルモノト認ム然レトモ未タ嘗テ之ヲ輸出シタルコトナシト云フ宜シク海外ノ需用及販路等ヲ研究シ速ニ輸出ノ途ヲ開クヘシ

海酸漿

海酸漿ハ介類ノ卵子ヲ包ム包被物ナルコトハ明カナリシモ未タ其親介ト海酸漿トノ連結ハ夫々學術上充分ニ分明セラレサリシ所ナリ今回相澤半兵衞ノ出品セルモノヲ見ルニ多數ノ海酸漿ト其親介トヲ實驗的ニ相連結シ證明シタルモノニシテ學術上極メテ有益ナル參考品ナリト認ム出品セル親介ニ一々學名ヲ附記シ他日研究者ノ資料ニ供セント欲ス卽チ

「アカニシ」Rapana Bezvar Linn. ヨリ「ナギナタホホヅキ」「ナガニシ」Fusus Perplexus A. Ad. ヨリ「サカサホホヅキ」房州「ボラ」Triton nodiferus Lom ヨリ德利酸漿「コロモガイ」Cancellaria spengleriana Desha ヨリ南京酸漿「テングニシ」Hemifusus tuba Gmel ヨリ海酸漿「バイ」Eburna japonica Rue ヨリ「アワホホヅキ」「ミガキボラ」Siphonalia Kellitti-Forbes ヨリ饅頭酸漿ヲ產出スルモノナリト云フ附圖ハ皆實大ヲ示ス

附圖圖解

一 千葉縣大堀產アカニシ
二 同上酸漿（ナギナタホホヅキ）
三 神奈川縣楠ケ浦產ミガキボラ
四 同上酸漿（饅頭ホホヅキ）
五 同所產コロモガイ
六 同上酸漿（南京ホホヅキ）
七 能登產テングニシ
八 同上酸漿（海ホホヅキ）
九 兵庫縣二見產ナガニシ
十 同上酸漿（サカサホホヅキ）
十一 神奈川町產バイ
十二 同上酸漿（アワホホヅキ）
十三 兵庫縣二見產アカニシ
十四 同上酸漿（ナギナタホホヅキ）
十五 備中國黑崎產テングニシ
十六 同上酸漿（ウミホホヅキ）
十七 神奈川町產ボウシウボラ
十八 同上酸漿（德利酸漿）

養殖魚介類（第六部第五十類）

主任審査官　妹尾秀實

養殖ニ關スルモノハ只秋田縣鹿角郡七瀧村和井內眞行ノ出品「ガバチエッポ」一品ヲ見ルノミ和井內ハ往昔嘗テ魚族ノ生棲セサリシ十和田湖ニ於テ明治三十三年ヨリ率先鱒ノ養殖ヲ創業シ日光中宮祠ヨリ鱒及北海道膽振國支笏湖ヨリ「カバチエッポ」ノ種卵ヲ移殖セシカ其成績頗ル顯著ニシテ「カバチエッポ」ノ繁殖夥シク遂ニ和井內鱒ノ名稱ヲ得ルニ至レリ而シテ明治三十八年ハ一萬二千尾、同三十九年ハ一萬三千四百尾ノ親魚ヲ漁獲スルニ至リ且年ヲ逐フテ採卵數從ヒテ增加シ三十九年ニハ三百二十四萬粒ヲ得却リテ他縣ヘ種卵ヲ分與スルヲ得タルノ効果ハ大ニ稱揚スルニ足ル然レトモ尙一層其規模ヲ進メ

以テ産額ヲ增加シ燻製鑵詰等ノ製品ヲ作リ又氷藏裝置ニヨリ都市ニ輸送シ以テ販路ヲ弘ク擴張シ他日ノ大成ヲ期センコトヲ望ム

一、漁具原料

總論

漁具原料トシテ出品ハ二百三十三點ニシテ就中最モ多キヲ網地トシ網糸、緒糸、釣鈎其他ノ原料之ニ次キ今其出品人員、出品點數及授賞數等ヲ府縣別ニ分テハ左ノ如シ

府縣別	出品人員	出品點數	授賞級 金牌	銀牌	一等	二等	三等	褒狀	受賞合計	出品人員ニ對スル授賞數割合	授賞點數	出品點數ニ對スル授賞點數割合
東京府	八	一九七	—	—	一	二	—	—	六	七割五分	一九〇	九割六分四厘
三重縣	二	一九	—	—	—	一	—	三	二十	割	一五	七割八分九厘
德島縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—		—	
福島縣	—	—	—	—	—	—	—	—	—		—	
福井縣	一	一	—	—	—	—	—	—	—		—	
島根縣	一	四	—	—	—	—	—	—	一十	割	一十	割
秋田縣	二	二	—	—	—	—	—	—	一十	割	四十	割
臺灣	二	二	—	—	—	—	—	—	一五	割	一五	割
計	一九	二三三	—	—	二	三	—	七	一三割三分		一五	割
								二二			二二二	

漁具原料ヲ分チテ左ノ五トス

(1)網地　(2)網糸　(3)網　(4)緒糸　(5)釣鈎

(1)網地

網地ノ出品ハ總數七十五點ニシテ之ヲ縣別スレハ左表ノ如シ

府縣名	出品點數	府縣名	出品點數
東京府	四五	三重縣	一五
福島縣	五	島根縣	四
德島縣	三	秋田縣	二
臺灣	一	合計	七五

出品ノ網地ハ主トシテ綿糸網地トシテ麻網地、亞麻網地、ラミー網地及蒙網地等之ニ次ク其編網法ハ三重製網會社及中村兄弟商會カ各自獨特ノ機械ニヨリ編網スルモノノ外ハ悉ク手工ニ依ルノミニシテ進歩變遷ノ跡ヲ認メス本邦ニ網地ヲ機械ニテ編製スルハ鹿兒島縣人山本信一ナル者編網機ヲ發明シ東京及大阪ニ於テ試驗ヲ行ヒシヲ始メトシ爾來該機械ノ發明續出シ十數種ノ多キニ至レルモ現今機械編網ヲ業トスル者僅ニ二三ニ止マリ全國網地需用ノ一分ヲモ充タスコトヲ得サルハ漁業界ノ一大缺點ト言ハサルヲ得ス今回出品ノ網地ヲ編製スル機械ハ其網地ノ結節主トシテ本目編機ニシテ二十節以下ノ網目或ハ五寸以上ノ大目ヲ編製スルハ甚タ困難ナリト雖モ蛙股及二重蛙股ヲ編製シ得ラレ且生産力手工ニ數倍スルヲ以テ之ヲ從來ノ手工ニ比スレハ大ニ優ル點アリト雖モ歐米ノ編網機ニ比スレハ尙幼稚ノ域ヲ脫セサルナリ夫レ漁網ハ漁業ノ種類漁場ノ狀況及習慣等ニヨリ其原料及製作法ニ多少ノ差アルヲ以テ輸出網地ニ於テハ特ニ注意セサルヘカラス從來本邦ノ網地ハ主トシテ手工ニヨリ內地用ノミニ編製セルモノナレハ輸出網地トシテ缺點少カラス然ルニ近來漁業ノ發展ニ伴ヒ漁網ノ輸出漸ク增加ノ傾アリ今回ノ出品中ニ就キテ輸出漁網ヲ調査セシニ日本製麻株式會社ハ英領加奈太及北米合衆國ニ向ヒテ明治三十七年以來淸韓諸國諸國ヘ二萬四千餘圓ノ輸出ヲ爲シ其他ノ商人モ同國ニ向ヒテ輸出スルモノ少カラスト雖モ統計上之ヲ示シタルモノナキヲ以テ其額ヲ詳カニスルコトヲ得ス然リト雖モ歐米諸國カ精巧ナル編網機ヲ用ヰ盛ニ網地ヲ編製スルニ比スレハ幼稚ナリト言ハサルヘカラス

今左ニ本邦編網機及外國編網機ヲ說明シ以テ當業者ノ參考ニ供セントス三重製網合資會社製編網機ニ就キテハ第五回內國勸業博覽會審査報告ニ詳細解說シアルヲ以テ茲ニ中村兄弟商會カ所製ノ編網

機ヲ解說スヘシ

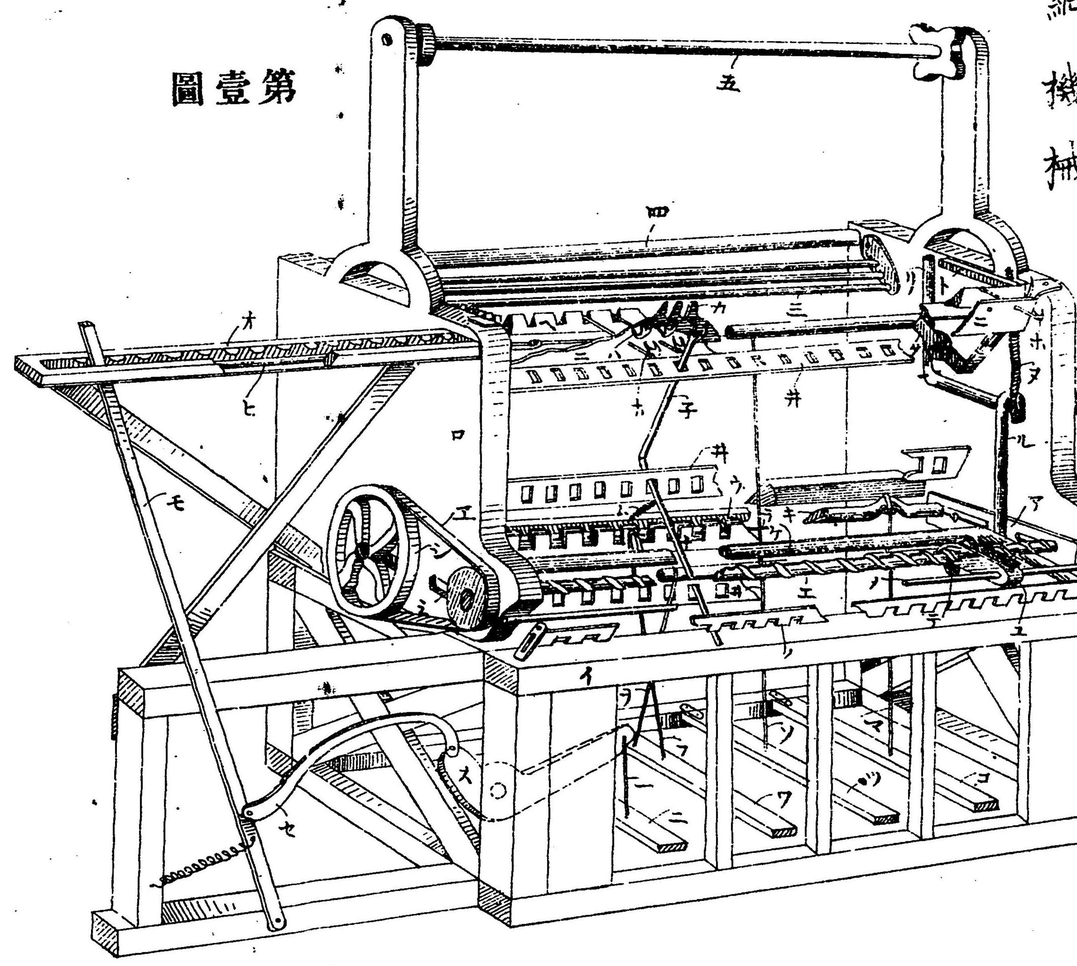
內國製編網機械

此編網機ハ蛙股及二重蛙股ト稱スル網ヲ編成シ又糸受爪ヲ交換スルトキハ普通ノ本目網ヲ編成シ得ルモノトス

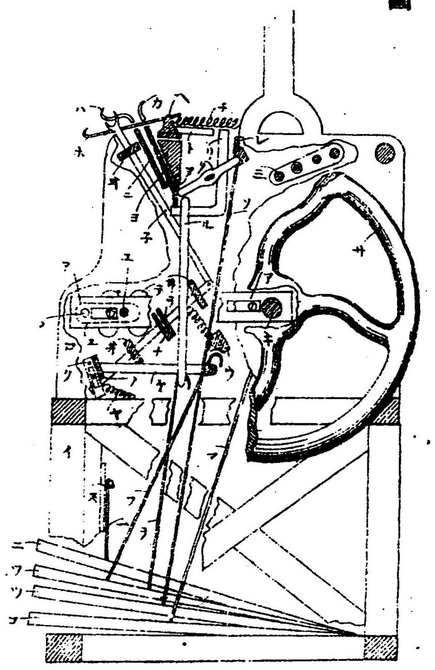
別紙圖中第一圖ハ本機ノ全體斜面圖,第二圖ハ同側面圖ニシテ一部分ヲ切斷シタルモノ第三圖乃至第七圖ハ共ニ同分解圖ニシテ第八圖乃至第十五圖ハ蛙股網,第十六圖乃至第二十五圖ハ二重蛙股網,第二十六圖乃至第三十三圖ハ本目網編製ノ順序ヲ示スモノトス

本機ハ一枠(イ)ヲ以テ構礎トナシ其上部ニ重枠(ロ)ヲ設ケ重枠ノ前額部ニ數多ノ糸受爪(ハ)ヲ列設セル額版(ニ)ヲ取着ケ糸受爪(ハ)ハ蛙股網ヲ編製スル場合ニ網糸ヲ捻ルトキ兩糸ヲ區別スル爲メ其頭部ヲ恰モ山字形ニナシテ二個ノ岐狀ヲ二段ニ設ケ(本目網ヲ編成スルニハ一個ノ岐狀ヲ具フル糸受爪(は)ヲ額版(に)ニ列設シタルモノト交換ス)額版(に)ニハ握糸針(ホ)ノ柄ヲ貫通スル數多ノ孔ヲ列穿シ握糸針(ホ)ハ其根部ヲ握糸針凝(ヘ)ニ固着シ握糸針凝(ヘ)ハ兩端ニ突杆(ト)ヲ具ヘ且螺狀彈機(チ)ノ一端ヲ附着シ其他端ハ適宜ノ所ニ取附ケ突杆(ト)ノ下部ニ於テ曲尺狀ノ押杆(リ)ヲ設ケ押杆(リ)ノ上端ハ突杆(ト)ノ先端ト接觸スヘカラシメ下端ニハ螺狀彈機(ヌ)ノ一端ヲ附着シ其他端ハ適宜ノ所ニ取附ケ下部ニ引下ニ(ル)ノ鈎ヲ掛カラシメ引下子(ル)ノ下部ハ鈎杆(ヲ)ヲ以テ踏水(ロ)ニ連繫セシメ額版(ニ)ノ裏面ニ近接シテ彎形ノ綛針(カ)ヲ列設シタル横版(ヨ)ヲ具ヘ横版(ヨ)ニハ握糸針(ホ)ヲ通スヘキ長孔ヲ列穿シ且兩端ニハ槓杆子(タ)ヲ設ケ其先端ニ螺狀彈機(レ)ノ一端ヲ附着シ其先端ハ適宜ノ所ニ取附ケ且紐(ソ)ヲ以テ踏木(ツ)ニ連繫セシメ又糸受爪(ハ)(ハ)ノ中間ニ頭部ヲ突出スヘク糸延針(ネ)ヲ設ケ糸延針(ネ)ハ關節ヨリ屈曲シテ恰モ〈ノ字形ヲナシ上端ハ長短尖頭ノ岐狀ヲナサシメ下部ノ孔ニ斜持版(ナ)ニ横貫セル細杵(ラ)ヲ貫通シテ綏着シ且螺狀彈機(ム)ノ一端ヲ附着シテ其他端ヲ横木(ウ)ニ取附ケ又上下ノ兩部ハ針狹版(キ)(キ)ノ長方孔ヲ貫通支持セシメ下端ノ針止版(ノ)ニ接着セシメ之ハ下方ニ凹狀ノ切缺ヲ設ケ且兩端ノ軸ヲ座金(ク)ニ架着シ其下部ニ

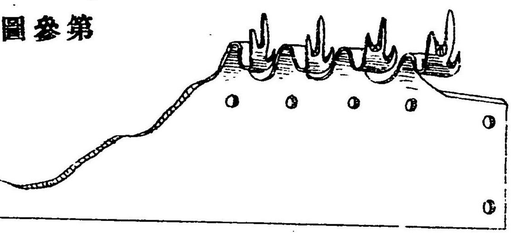
第壹圖



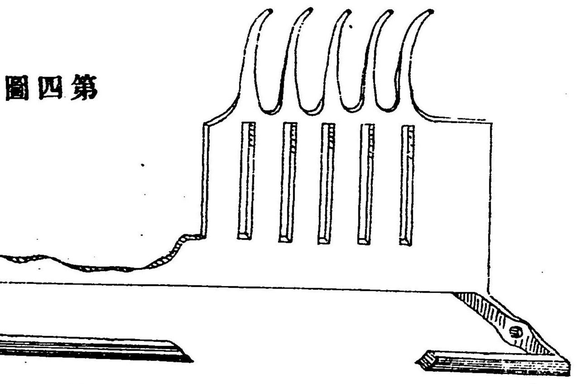
第貳圖



第參圖

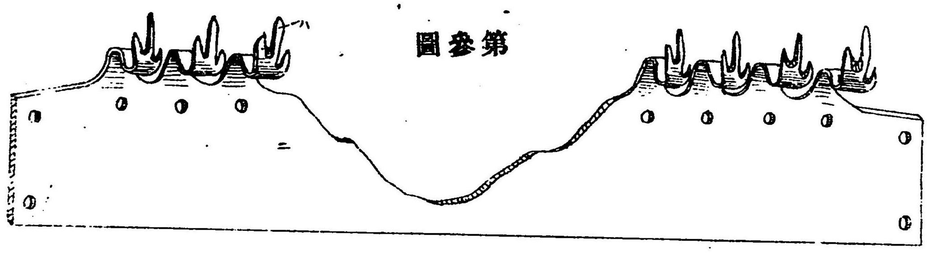


第四圖

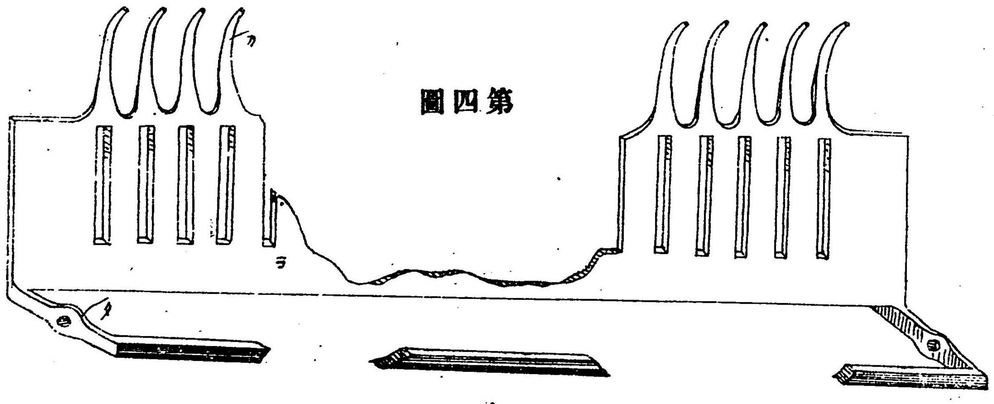


編網機械

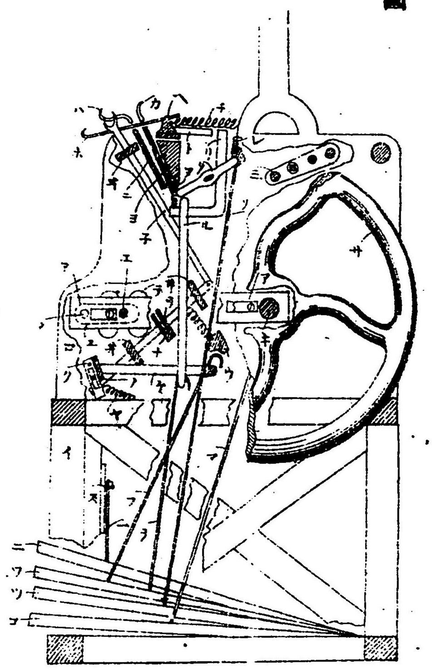
第參圖



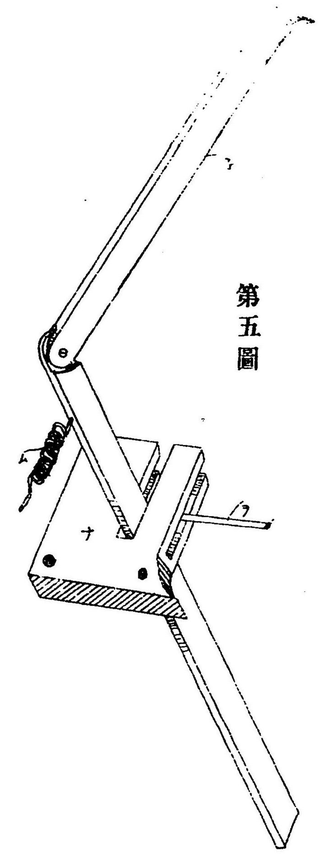
第四圖



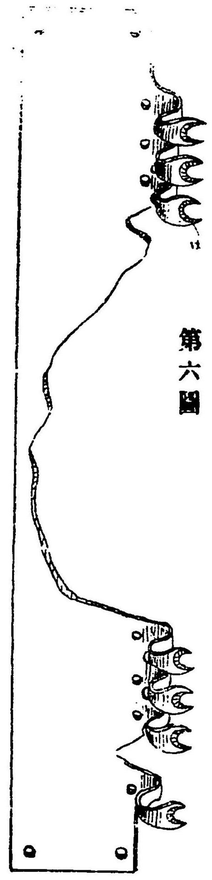
第貳圖



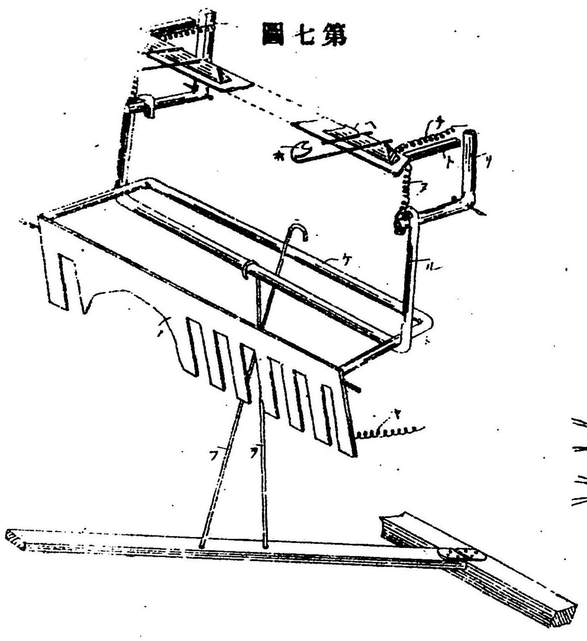
第五圖



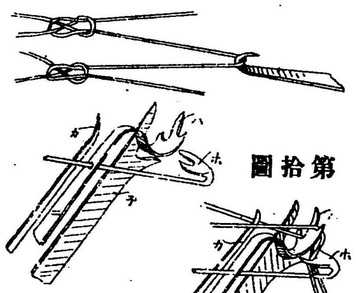
第六圖



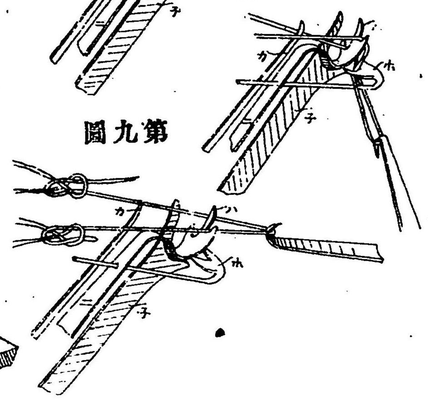
第七圖



第八圖

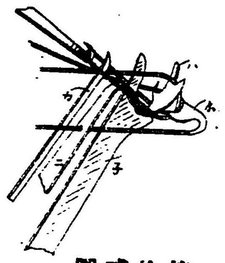


第拾圖

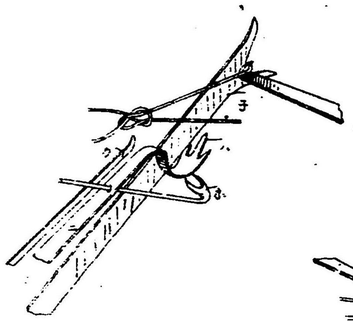


第九圖

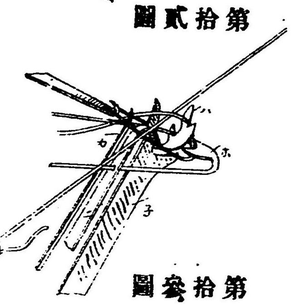
第拾壹圖



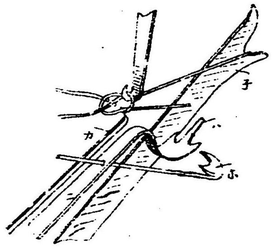
第五拾圖



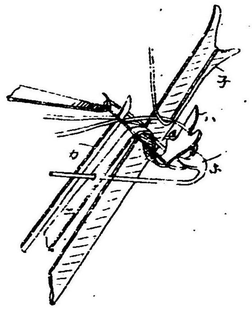
第貳拾圖



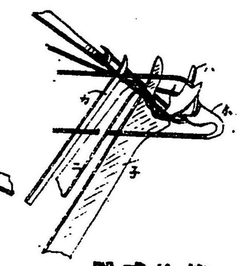
第四拾圖



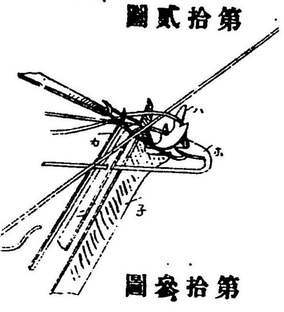
第拾參圖



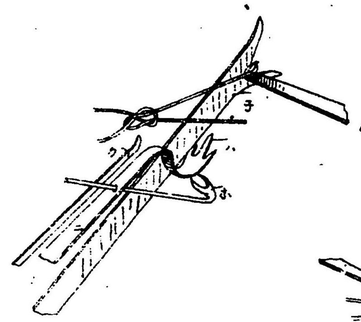
第拾壹圖



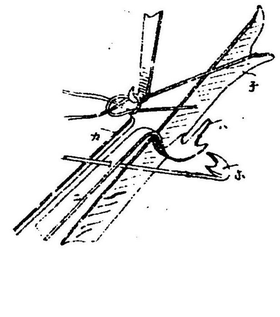
第拾貳圖



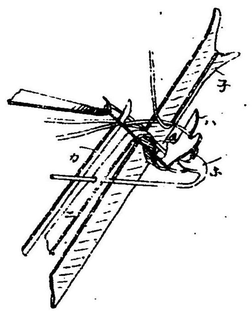
第拾五圖



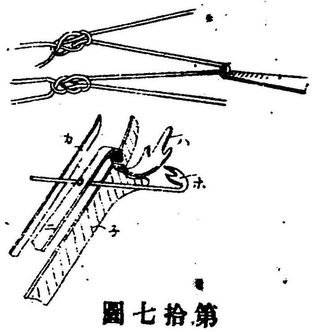
第拾四圖



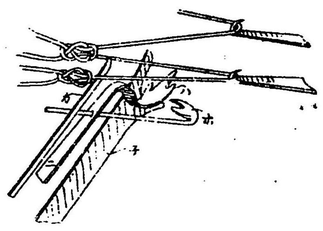
第拾參圖



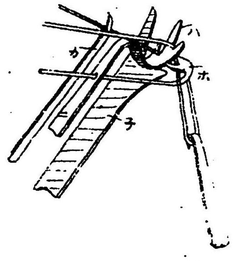
第拾六圖



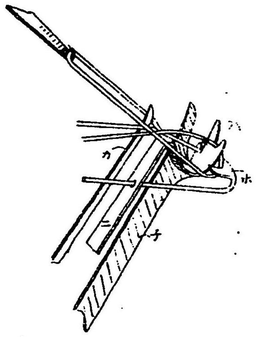
第拾七圖



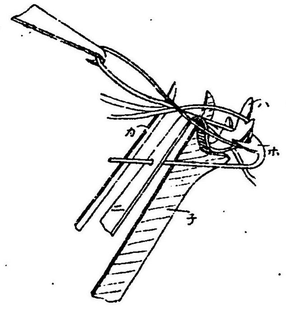
第拾八圖



第拾九圖

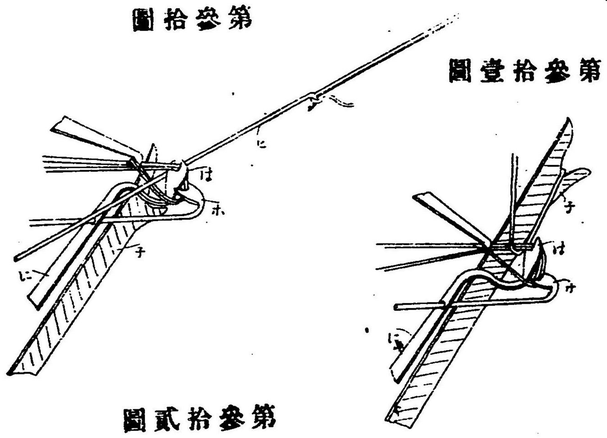


第拾貳圖

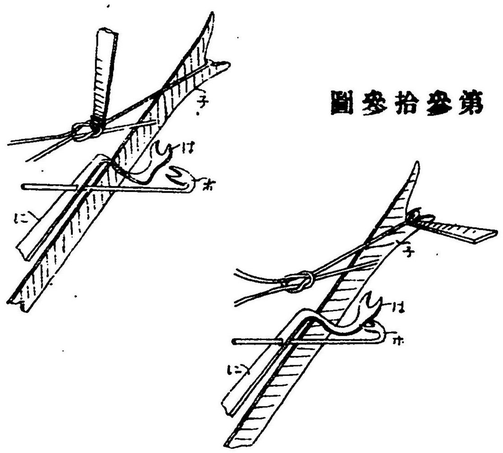


編網機械

第參拾壹圖

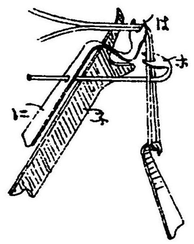


第參拾貳圖

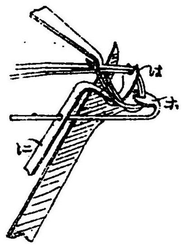


第參拾參圖

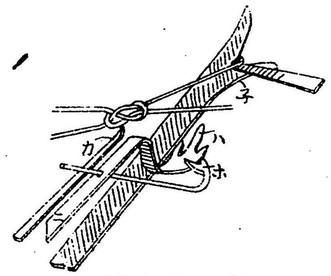
第八拾貳圖



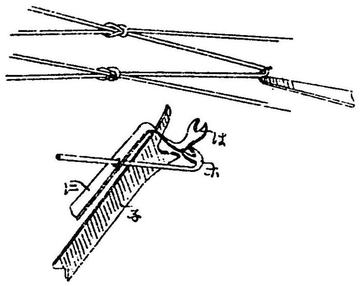
第九拾貳圖



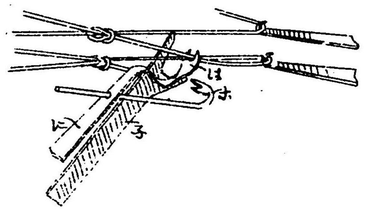
第五拾貳圖



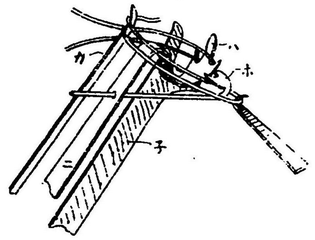
第六拾貳圖



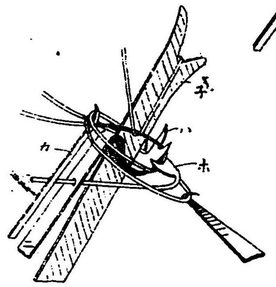
第七拾貳圖



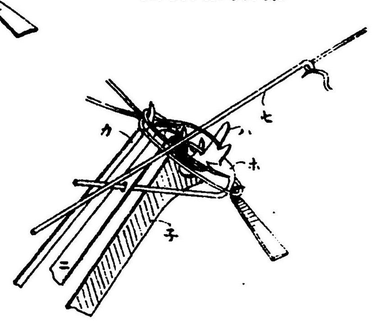
第壹拾貳圖



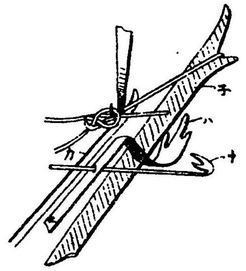
第參拾貳圖



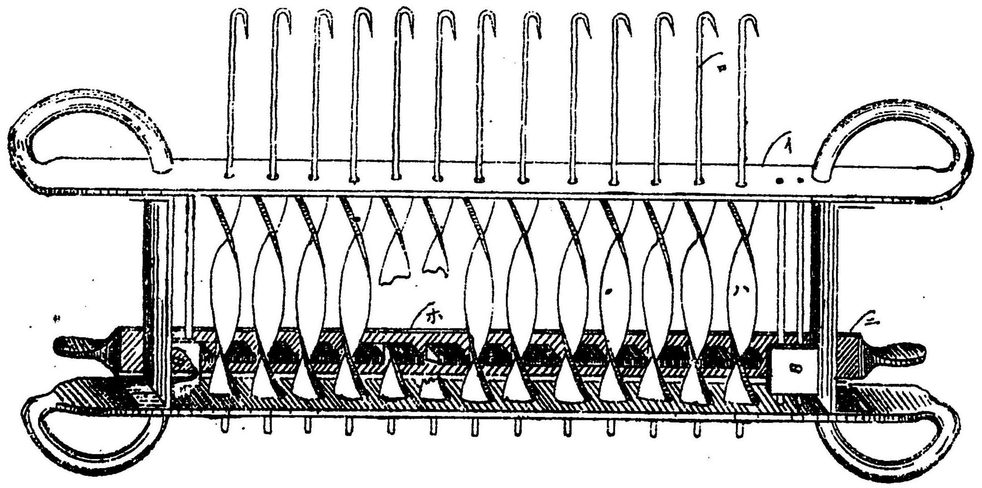
第貳拾貳圖



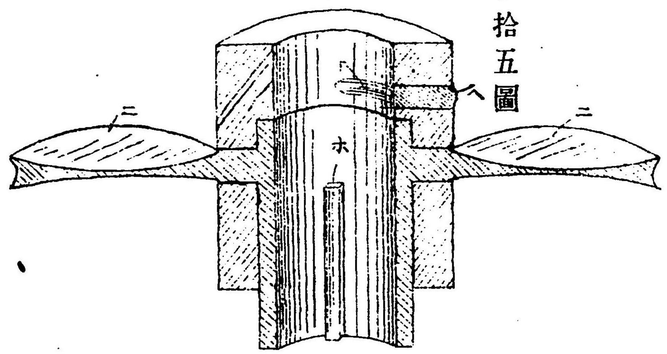
第四拾貳圖



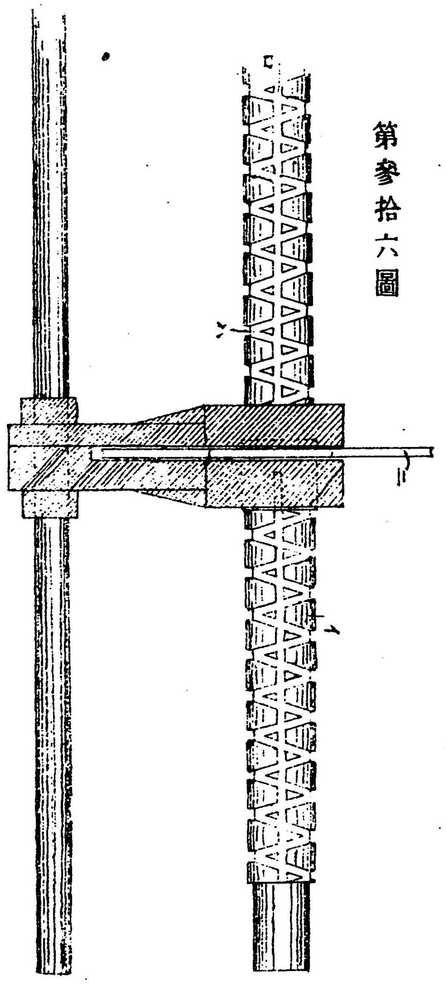
第參拾四圖



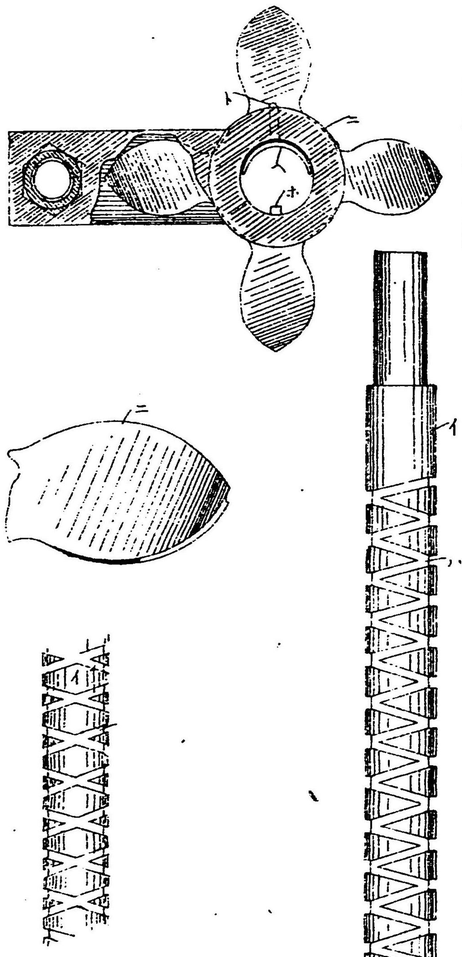
第參拾五圖



第參拾六圖



第參拾七圖



螺狀彈機(ヤ)ノ一端ヲ附着シ其他端ハ適宜ノ所ニ取附ケ座金(ク)ニハ長孔ヲ穿チテ斜ニ移動スヘク重枠(ロ)ノ側板ニ釘止シ而シテ針止版(ノ)ノ上部ノ上枠(ケ)ハ鈎杆(フ)ヲ以テ踏木(ワ)ニ連繫セシメ且糸延針(ネ)ハ螺旋軸(エ)ニ螺箝セル四凸輪(テ)ノ作用ヲ受ケテ屈伸スヘクナシ螺旋軸(エ)ハ其兩端ヲ座金(ア)ニ架着シ座金(ア)ニハ尚勢輪(サ)ノ心軸(キ)ヲ附着シ且長孔ヲ穿チテ横ニ移動スヘク重枠(ロ)ノ側板ニ釘止シ四凸輪(テ)ニ具フル挾子(ユ)ハ横杆(メ)ニ緩通シテ進退ニ便ナラシメ螺旋軸(エ)及心軸(キ)ニハ滑輪(ミ)(シ)ヲ固着シテ調帶(エ)ヲ纏絡シ心軸(キ)ハ紐(マ)ヲ以テ踏木(コ)ニ連繫セシメ又糸引針(ヒ)ハ重枠(ロ)ノ一側部ニ設ケタル長函(オ)内ノ溝中ニ在リテ一端ニ鈎ヲ具ヘ他端ヲ俯仰杆(モ)ニ緩着シ俯仰杆(モ)ハ連杆(セ)槓杆(ス)及紐(一)ヲ經テ踏木(ニ)ニ連繫セシム整網軸(三)轉軸(四)及網卷軸(五)ハ共ニ重枠(ロ)ノ後部及上部ニ架設スルモノトス其他ノ構成ハ普通ニ屬スルヲ以テ圖ニ示シテ説明ヲ省略ス本機ヲ使用シテ蛙股網ヲ編製セントスルニハ先ツ網卷軸(五)ヨリ轉軸(四)及整網軸(三)ヲ經テ糸受爪(ハ)上ニ元網ヲ通シ第八圖ノ如ク横列ノ各網目ニ回旋スヘキ糸掛針ノ鈎ヲ掛ケ第九圖ノ如ク糸延針(ネ)(ネ)ノ中間ヲ通シテ糸掛針ノ鈎ヲ回旋シテ反對ノ方向ニ廻ハシテ網糸ヲ捻チ交叉シテ之ヲ下垂シ踏木(ワ)ヲ踏下シテ握糸針(ホ)ヲ網糸ノ交叉セシ下部ヨリ其中心ヲ通シテ突出セシメ又踏木(ワ)ヲ放チ螺狀彈機(タ)ノ復舊ニヨリ第十圖ニ示ス如ク握糸針(ホ)ノ頭部ヲシテ網糸ヲ交叉ノ儘糸爪(ハ)ヨリ離脱セサル樣押握セシメ置キ第十一圖ノ如ク糸掛針ニ網糸ヲ掛ケタル儘上部ハ反轉シ踏木(ニ)ヲ踏下シテ糸引針(ヒ)ヲ進行セシメ其尖端ノ鈎ニ網糸ヲ掛ケ踏木(ニ)ヲ放チ第十二圖ノ如ク網糸ヲ引通サシメ此網糸ヲ適宜手繰リ置キ踏木(コ)ヲ踏下シ心軸(キ)ノ回轉ニ依リ螺旋軸(エ)ニ傳動セシメ螺旋軸(エ)ニ螺箝セル四凸輪(テ)ニテ糸延針(ネ)ノ下部ヲ彈壓シテ第十三圖ノ如ク糸延針(ネ)ヲシテ網糸ヲ掛ケテ上部ニ突出スルト同時ニ糸延針(ネ)ノ下端ハ針止版(ノ)ヲ押壓シテ逸出セシメ針止版(ノ)ノ下端ニテ停止シ置キテ踏木(ワ)ヲ踏ミ握糸針(ホ)ヲ緩メテ第十四圖ノ如ク網糸ヲ糸受爪(ハ)ヨリ離脱シ糸掛針ニテ網糸ノ結節ヲ整理シ又第十五圖ノ如ク糸掛針ヲ網糸ニ掛ケ踏木(ワ)ヲ強ク踏ミ糸延針(ネ)ヲ原位ニ復シ前ト同一順次ノ手續ヲ反覆スルモノトス而シテ二重蛙股網ヲ編製セントスル

トキハ第八圖乃至第十一圖ト同一手續ニ依リ第十六圖ヨリ第十九圖ニ至リ此時踏木(ツ)ヲ踏下シテ槓杆子(タ)ノ作用ニヨリ綛針(カ)ヲ上部ニ突出セシメ第二十圖ノ如ク糸掛針ノ勺ヲ反對ノ方向ニ廻ハシテ網糸ヲ捻シテ交叉セシメ踏木(ツ)ヲ放チ螺狀彈機(レ)ノ復舊作用ニ依リテ網糸ヲ交叉ノ儘離脱セサル樣紐針(カ)ニテ押止セシメ第二十一圖ノ如ク糸掛針ノ鈎ヲ反轉シ第二十二圖乃至第二十五圖ノ手續ハ第十二圖乃至第十五圖ト同一ニ之ヲナスモノトス又普通網目ヲ編製セントスルトキハ先ツ糸受爪(ハ)ヲ列設セル額版(ニ)ヲ第六圖ノ糸受爪(は)ヲ列設セル額版(に)ト交換シテ取附ケテ置キ第二十七圖ノ如ク糸掛針ノ鈎ニ元網ノ目ヲ掛ケテ第二十八圖ノ如ク糸受爪(は)ニテ受ケ下垂セシメ前ノ如ク握糸針(ホ)ヲ以テ網糸ヲ離脱セサル樣押渥シテ糸掛針ヲ第二十九圖ノ如ク其儘反轉シ第三十圖乃至第三十三圖ノ手續ハ第十二圖乃至第十五圖ト同一ニ之ヲ行フモノトス而シテ何程ノ網ニ拘ラス網目ヲ大ナラシメントスルトキハ座金(ア)ヲ後方ニ移動シテ四凸輪(テ)ヲシテ糸延針(ネ)ノ彈壓ヲ強カラシメ座金(ク)ヲ下部ニ移動シテ蛙止版(ノ)ノ糸延針(ネ)ヲ停止スル度合モ亦之ニ適應セシメ又網目ヲ小ナラシメントスルトキハ反對ニ座金(ア)ヲ前方ニ移動シ座金(ク)ヲ上方ニ移動スルモノトス

第三十四圖ハ本機編網目ノ糸掛針ニシテ(イ)ハ枠形(ロ)ハ針(ハ)ハ針柄(ニ)ハ摺動子(ホ)ハ突子ナリ而シテ摺動子(ニ)ノ作用ニヨリ針柄(ハ)ヲ回旋シ針(ロ)ヲ前後反對ノ方向ニナシ網糸ヲ捻廻シ蛙股及二重蛙股ノ網目ヲ編製スルモノトス

第三十五圖乃至第三十七圖ハ編網機ニ於ケル螺旋ト凸輪トノ組合セヲ圖解セシモノニシテ第三十五圖凸輪(ニ)ヲ螺旋軸(イ)ニ組合セタル圖ニシテ第三十六圖ハ同分解圖第三十七圖ハ凸輪ノ斷面圖ナリ而シテ(イ)ハ螺旋軸(ロ)ハ縱溝(ハ)ハ交叉狀ノ重螺條溝(ニ)ハ凸輪(ホ)ハ突條(ヘ)ハ半月形ノ嵌子(ト)ハ突子ナリ

外國製編網機

外國製編網機機械ニ各種アリト雖モ今茲ニ本年七月日本漁網株式會社創立事務所カ北獨逸「イツツエホエ」編網株式會社ノ製作セル編網機ヲ輸入シ試驗ヲ爲シタル成績ヲ掲クレハ左ノ如シ

編網機ノ種類及構造

「イツツエホエ」編網株式會社カ製作スル編網機ノ種類ヲ擧クレハ左ノ六種トス

編網機ノ種類	横ニ掛ケタル網目數	一臺十時間ノ編網高	同上網目數
A型機械自六十種至八十種	六四〇	九六六尺一〇	百萬目
B型機械自六十種至八十種	同	九七〇六〇	百五萬目
E型機械自八十種至百二十種	四五三	一九七五五〇	八十七萬五千目
G型機械自十種至百二十種	三六三	一〇八四四〇	六十五萬目
H型機械自十二種至百二十種	三〇三	一一五一三二〇	五十萬目
J型機械自十六種至百五十種	二二七	一六五一六五〇	三十七萬五千目

以上六種中日本漁網株式會社創立事務所カ購入試驗ヲナシタルハH型編網機トス

機械ノ主要部分ハ概ネ鑄鋼鐵製ニシテ全體ノ總長約二間半幅約一間半高約二間アリ其構造極メテ簡單ナルカ如クナルモ各部最モ巧妙ナル考案ヲ以テ製作セラレタリ而シテ機械ノ構造中最モ樞要ナル部分ハ「カンマー」「カム」「シツフエン」「エキセンター」及交換齒車等ニシテ是等ノ諸機關ヲ以テ大部分ヲ成セリ斯ノ如ク本機械ハ餘リ複雜ナルモノニ非サルヲ以テ其組立或ハ分解左マテ困難ヲ感セス一人ノ職工ニテ能ク之ヲ爲シ得ルト雖モ最モ熟練ナル技術ト考慮トヲ要スルハ編網方法ナリトス

附屬機械

附屬機械ニ二個アリ一ハ「シツフエン」ニ糸ヲ捲クモノニシテ他ノ一ハ目締伸張機械トス二者共ニ編網上及仕上方ニ必要ナルモノニシテ但糸捲機械ノ構造ニ就キテハ西洋ト習慣ヲ異ニスルヲ以テ我國使用ノ目的ニ向ヒテハ多少ノ變更ヲ要スル點ナキニ非ス卽チ「スプール」ヨリ捲キ取ルノ仕掛トナリ居ル

モノヲ直接枠若クハ枷ヨリ取ルノ方法ニ改造スルヲヨシトス

編網方法

本機械ハ上部糸及下部糸ノ二筋ノ糸ヲ以テ網ヲ編ミ出スモノニシテ上部「ガーダー」ニ刺シタル數多ノ「スプール」ノ糸ヲ上部糸ト云ヒ下部「シツフエン」ニ捲キタルモノヲ下部糸ト云フ而シテ上部糸ハ「スプーレン」ヨリ導糸柵(二個)制動シヤツト搖動シヤツト調糸柵(二個)ヲ通過シテ摩擦ローラヲ一周シ機械前面ノ中央ナル側面盤ニ出テ「シツフエン」ヨリ來リタル下部糸ト結ヒ附キテ側面盤ノ下ヲ潛リ茲ニ編網ノ働ヲ起シ捲寄ローラヲ過キテ初メテ網トナルノ順序ナリ而シテ其編網ノ働ハ齒車「エキセンター」ノ回轉及「カンマー」「カム」ノ運動ニ由リテ起ルモノニシテ編網上常ニ先ツ注意ヲ怠ルヘカラサルハ「エキセンター」及「カム」ノ數調ナリ而モ此二者ノ整調ハ最モ多クノ熟練ヲ要スルモノニシテ總ヘテノ調子ノ可不可ハ又此二者ニ由リテ定マルト謂フヘシ

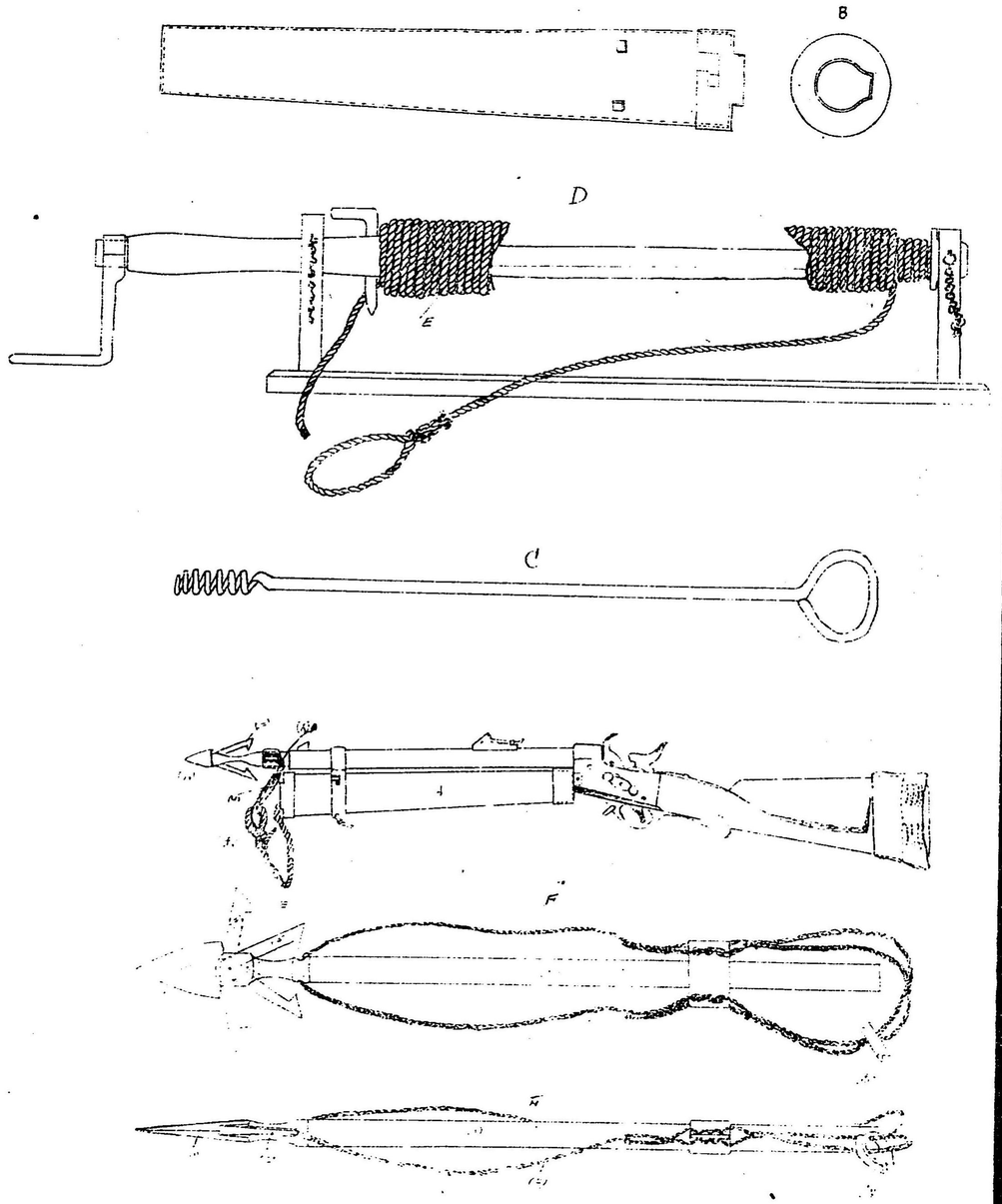
網地

本機械ニテ編製シタル網ハ總ヘテ蛙股ノ横目横編機ニシテ本目ハ之ヲ編クコトヲ得ス又網地ハ機械編機ナレハ結節整然トシテ所謂落シ目ナク又結節モ堅結ス而シテ彼國ニ於テハ掛目ヲ少クモ二百二三十トナス習慣ナレトモ便宜上任意ノ掛目トナシ得且其各幅毎ニ耳ヲ附スルコト隨意ナレハ此點ニ於テハ誠ニ便利ナリトス

生産力

各種ノ機械ノ生産高ニ就キテハ前表ニ記載セシカ如ク一臺ノ機械ニテ能ク二百人ノ人工ニ匹敵スト云フハ日本漁網株式會社創立事務所カH型機械ニヨリ實驗セシ結果ニ照合スレハ敢テ誇張ニ非サルヲ證スルコトヲ得唯技術ノ未タ熟達セサルト動力ノ關係竝ニ本邦製綿糸ノ製糸ニ缺點アル等ノ爲メ獨逸「イッエホニ」編網株式會社カ所揭ノ生産力ニ及ハサルニ在リ

本機械ノ特長ト缺點



本機械ノ特長ヲ擧クレハ多クノ人力ノ加工ヲ要セサルコト、生産力大ナルコト、製品ノ良好ナルコト、一臺ノ機械ニテ數種ノ副及網目ニ作リ得ルコト、機械ノ構造堅牢ニシテ容易ニ破損セサルコト、機械ノ回轉極メテ緩ニシテ毫モ危險ナキコト、且機械ノ運轉ノ音響微弱ニシテ工場靜粛ナルコト等ニシテ其缺點トスル所ハ本目ヲ編ム能ハサルコト、本邦從來ノ網地ノ如ク縦ニ編網スルヲ得サルコト、一臺ニテ同時ニ數種ノ網目ヲ編製シ能ハサルコト等ナリ尚日本漁網株式會社創立事務所カ試驗ノ結果特ニ困難ヲ感シタル事柄ヲ聞クニ我國ノ燃糸ハ品質不良ニシテ其繼目多クノ糸ノ撚方平均セサルヲ以テ往々網糸切斷シ編網上大ニ不便ヲ極メタリト云フニ在リ要スルニ是等ノ缺點ヲ改良シ本邦ノ習慣ニ適合スル編網機ヲ得ハ漁業界ニ便益ヲ與フルコト實ニ多大ナリト信ス

(2) 網糸

網糸ノ出品總數五十七點ニシテ之ヲ縣別スレハ左ノ如シ

府縣名	麻網糸出品點數	綿網糸出品點數	合計
東京府	六	三九	四五
福井縣	八	—	八
三重縣	—	三	三
臺灣	一	—	一
合計	一五	四二	五七

出品ノ網糸ハ綿糸ヲ主トシ僅少ノ麻糸アリ綿糸ハ其原料メーラー赤鈎印三羽烏大鳥印等ノ紡績糸ヲ用ヰ麻糸ノ原料ハ多ク野州麻ヲ用フ原料選擇宜シキヲ得其撚リ方モ又稍〻好良加フルニ經濟的ナル綿糸ヲ網糸トシテ用フルモノ益〻增加ノ傾向アルハ漁網上ノ進歩ト謂フヘシ

糸ノ撚リ方

網糸トシテ其上撚下撚平均セサレハ締網ノ際困難ヲ感スルノミナラス其不適當ナル網糸ヲ以テ編製シタル網地ハ之ヲ水中ニ入ルレハ糸ハ膨張シテ益〻撚ノ不平均ヲ來シ網地ハ忽チ縮蹙シテ便用ニ堪ヘ

サルニ至ル加フルニ撚ノ不平均ハ糸ノ張力ヲ減殺スルモノナルカ故ニ上下撚ノ平均ヲ保ツ事ハ製糸上最モ注意ヲ要スル點ナリトス然ルニ今回出品ノ糸ヲ審査スルニ最モ適當ナル上下撚ヲ見ルモノ少ク加フルニ局部ニヨリ其上撚及下撚ノ數ヲ異ニスルカ如キモノアルヲ以テ張力モ亦甚シキ差ヲ生セルモノアリ今出品中ノ稍〻適當ナリト認メタルモノノ撚ヲ示シ參考ニ資スヘシ

糸ノ種類	六時間ノ上撚數	六時間ノ下撚數	下撚ニ對スル上撚ノ數	上撚ノ一ニ對スル下撚ノ數
和製一號綿糸	一〇六、五	二三三、〇	〇、四五七	二、一九
大鳥印一號綿糸	一〇三、六	二八二、六	〇、三六七	二、七三
和製一號綿糸	一〇二、五	二六一、七	〇、三九二	二、五五
メーラ一號綿糸	一〇七、八	二八三、五	〇、三八〇	二、六三
赤釣印一號綿糸	一〇〇、七	二六六、五	〇、三七八	二、六五
和製一號綿糸	一〇二、二	二一三、二	〇、四七九	二、〇九
大鳥印一號綿糸	一一三、〇	二五八、〇	〇、四三八	二、二八
一號綿糸平均	一〇五、二	二五六、九	〇、四一三	二、四五
和製二號綿糸	七八、〇	二四五、〇	〇、三一八	三、一四
大鳥印二號綿糸	八一、七	二七九、〇	〇、二九二	三、四二
メーラ二號綿糸	七九、五	二九九、五	〇、二六六	三、七七
和製二號綿糸	八一、〇	二六二、〇	〇、三〇九	三、二三
二號綿糸平均	八〇、〇	二七一、七	〇、二九七	三、三九
和製四號綿糸	四六、〇	一七六、五	〇、二六一	三、八四
和製八號綿糸	三三、〇	一〇六、五	〇、三〇九	三、二三
同	三七、〇	一一七、〇	〇、三一六	三、一六
八號綿糸平均	三五、〇	一一一、八	〇、三一三	三、二〇
和製十五號綿糸	二六、〇	七一、五	〇、三六四	二、七五
同	二六、七	七八、〇	〇、三四二	二、九二
十五號綿糸平均	二六、四	七四、八	〇、三五三	二、八三五
和製二十號綿糸	二〇、三	五四、〇	〇、三七六	二、六六〇
同	二六、〇	六六、〇	〇、三九四	二、五四〇
二十號綿糸平均	二三、二	六〇、〇	〇、三八五	二、六〇〇
和製四十號綿糸	一八、〇	四〇、〇	〇、四五〇	二、二〇〇

以上ノ各上下撚數ハ數本乃至數十本ノ平均數ナリ同種ノモノアルハ出品人ヲ異ニセルナリ

以上ノ表中ニ示セルモノハ撚度稍〻適當ト認メタルモノノミナルモ不適當ト認メタルモノハ其數少カラス而シテ其不適當ナルモノハ悉ク外觀ヲ良クセンカ爲メ上撚ヲ強クセリ其一二ノ例ヲ擧クレハ二號糸ノ上撚八九ニ對シ下撚二八四、及四號糸ノ上撚五五、ニ對シ下撚一七二、ニシテ其比ノ差僅少ナリト雖モ上撚強キニ失スルヲ以テ乾燥セルモノト雖モ卷縮スルノミナラス水中ニ入ルレハ一層卷縮スルコト甚シキ缺點アリ且製糸上無益ノ手數ヲ加フルモノナレハ製糸家ハ大ニ研究ヲ要スル點ナリトス

然リ而シテ前表掲ケタル各種中最モ撚度適當ト認メタルモノハ一號綿糸ニ於ケル下撚一ニ對スル上撚〇、四五七ト二號綿糸ニ於ケル下撚一ニ對シ上撚〇、三一八ト四號綿糸ニ於ケル下撚一ニ對シ上撚〇、二六一ト八號綿糸ニ於ケル下撚一ニ對シ上撚〇、三六四ト二十號綿糸ニ於ケル下撚一ニ對シ〇、三七六等ナリ

糸ノ力

前表ニ示ス撚ノ度ヲ以テ製シタル今回出品ノ綿糸張力及伸張力ヲ調査セシニ左ノ如キ數ヲ示セリ

綿糸張力表

品名	切斷力 ポンド	伸張 二吋 インチ	重量 百尺 二番 匁
メーラ一號綿糸	六、二五	二、四一	一、〇
メーラ二號綿糸	六、七五	二、〇五	一、六
大鳥印一號綿糸	大		一、〇
大鳥印二號綿糸	大		一、六

メーラ三號綿糸	一〇、〇八	二、五八	二、四
大鳥印四號綿糸	一四、三八	三、〇三	三、四
和製一號綿糸	—	—	一、〇
同　二號綿糸	六、二五	一、九五	一、六
同　三號綿糸	九、八三	二、二〇	二、六
同　四號綿糸	一二、四五	二、六〇	三、四
同　五號綿糸	一六、四〇	二、六三	四、四
同　六號綿糸	一八、六五	二、六〇	五、二
同　七號綿糸	二一、〇〇	二、二三	六、〇
同　八號綿糸	二三、九三	三、三五	六、八
同　九號綿糸	二七、〇五	三、六三	七、四
同　十號綿糸	二九、四〇	四、一三	八、四
和製堅撚二十號綿糸	五一、一六	四、三九	一八、〇
二十午百五十本合五十號綿糸	一三三、三〇	五、五〇	四八、〇
同　二分綿糸	四二四、六〇	一四、〇〇	八八、七
同　右	四一六、三〇	一五、〇〇	—
枠網用　一號亞麻糸	五七、一六	二、四一	一六、四
同　三號亞麻糸	四一、〇〇	一、六二	一四、〇
大鳥印三號綿糸	一一、四〇	二、三四	二、四
和製十一號綿糸	三三、一〇	四、九三	九、六
同　十二號綿糸	三四、五五	四、二四	一〇、八
同　十三號綿糸	三八、二八	五、〇〇	一一、六
同　十四號綿糸	四一、〇三	四、九九	一二、二
同　十五號綿糸	四四、三八	五、三五	一三、六
同　二十號綿糸	五三、三三	四、五八	一七、六
同二十五號綿糸	六二、八三	四、八三	二二、〇
同　三十號綿糸	八一、〇〇	五、〇四	二七、二
同三十五號綿糸	八九、五〇	五、六〇	三二、〇
同　四十號綿糸	九九、五〇	五、八五	三五、六
同　五十號綿糸	一一五、八〇	六、〇六	四六、〇
和製堅撚三十五號綿糸	六三、三三	四、八五	二二、四
二十午三百本合綿糸百號	二二、四〇	六、〇〇	七七、三
大鳥印(四本)甘撚七號綿糸	三五、一五	三、八三	八、二
同　右八號綿糸	四四、一八	四、三五	一〇、二
三番半三合前綫網用糸	四〇、八三	一、三三	一二、〇
小舌網用五號糸	三三、六六	一、六八	八、〇

表中ノ切斷力及伸張等ハ各糸ノ乾燥シタルモノヲ約十回試驗ヲナシ之ヲ平均シタルモノトス

又同種ノモノアルハ出品人ノ異ナレルニヨル

網糸ハ網具ノ種類及其局部ノ作用ニヨリ原料ヲ異ニスト雖モ各種網糸ヲ通シ成ルヘク細クシテ張力強ク且腐敗ニ堪ヘ價廉ナルモノヲ最良トス麻糸ハ腐敗及摩擦並ニ價格ニ於テ綿糸ニ劣ルモ張力ノ點ニ至リテハ遙ニ綿糸及其他ノ糸ニ優リ網糸トシテ好良ナルノミナラス或種ノ網糸ハ必ス之ヲ使用セサルヘカラス然ルニ其原料タル麻ノ價高ク加フルニ從來多ク手工ノミニヨリテ製作スルヲ以テ手數ヲ要シ糸價不廉ナルカ上ニ性質強靱ナル原料製法不完全ナルヲ以テ細大平均セス爲メニ張力均一ナラサルハ網糸トシテ麻糸ノ缺點ナリ今回日本製麻株式會社カ出品セル麻糸ハ機械撚糸ナルヲ以テ撚度平均シ甚タ不平均ナク張力又均一ニシテ價モ比較的安ク手工麻糸ニ勝ル點少カラス若シ夫レ麻糸ヲシテ多ク機械撚ナラシメ其張力ヲ手工撚糸ト同一タラシムルヲ得ハ漁業者ノ便益尠少ナラサルヘリシ之レ麻糸製法ニ付大ニ研究ヲ要スル點ナリトス

(3) 網

漁業上ニ必要ナル網類ハ網具構成ニ使用スル綠網、曳網及釣漁用幹繩或ハ漁船々具用等ニシテ使用ノ目的ニヨリ各其品質ト製法ヲ異ニスルカ故ニ其ノ種類甚タ多シト雖モ今回出品ノ網ハ僅ニ「マニラ」、南京麻、野州麻及綿糸、網糸等數點ノ普通製品ニシテ其製作及品質等稍、佳ナリト雖モ進歩發達ノ跡ヲ認ムルヲ得サルハ遺憾トスル所ナリ

(4) 繙糸

繙糸ノ出品ハ天蠶糸四十八點、麻糸及澁染糸二十二點ニシテ共ニ東京府內ノ出品トス天蠶糸ハ陳列ノ方法好良ナリシヲ以テ人目ヲ集中セシメシモ悉ク清國產ノモノニシテ唯太細長短ヲ區別シテ良好ノモノヲ選擇シ或ハ之ヲ磨キ出品セルニ過キス而シテ其磨法ノ如キモ普通ノ方法ニシテ進歩ヲ認メスト雖モ磨天蠶糸中染色シタルモノハ年々英米佛獨諸國ヘ三百萬本以上ノ輸出ヲナスト云フ若シ磨方法ニ改良ヲ加ヘ一層精巧ナルモノヲ製シ得ルニ至ラハ益、輸出ヲ增加スルニ至ルヘシ澁染糸及麻糸、絹糸ノ繙糸ハ鯖、鰹、鰤釣等ニ使用スルモノニシテ其撚方外觀精巧ナルカ如キモ撚度不平均ニシテ原料ノ選擇宜シカラサルカ爲メ張力ノ弱キハ甚タ遺憾ナリトス

今左ニ張力ヲ示セハ

	切斷力	伸張二呎ニ付
鰤釣糸	四九、五四ポンド	二、八三吋
鰹釣糸	三五、九八	二、六四

	切斷力	伸張二呎ニ付
鯖釣糸	四四、一四ポンド	二、七三吋

(5) 釣鈎

今回出品ノ釣鈎ハ僅ニ臺灣ヨリ一種アルノミ且其製法拙劣内地製釣鈎ト比シ殆ト價値ナキカ如シト雖モ其産額多ク又價ノ廉ナルハ稍〻同地方ノ製品中見ルヘキ點ナリトス

二、漁獵具及漁船竝ニ其附屬品

漁獵具及其附屬品竝ニ漁船等ノ出品總數ハ百四十四點ニシテ最モ多キヲ釣竿トシ米國式捕鯨具之ニ次キ網模型及釣具ハ臺灣ヨリノ出品數種ニ過キス今出品ニ對シ授賞等級及出品數等ヲ擧クレハ左ノ如シ

府縣名	出品人員	出品點數	授賞 金牌	授賞 銀牌	授賞 一等	授賞 二等	授賞 三等	授賞 褒狀	授賞合計	出品人員ニ對スル授賞數割合	授賞點數	出品點數ニ對スル授賞數割合
東京府	七	一三〇	—	—	—	一	二	一	五	七割一分四厘	九六	七割三分八厘
臺灣	八	一〇	—	—	—	—	一	四	五	六割二分五厘	六	六割
兵庫縣	一	四	—	—	—	—	—	一	一	十割	四	十割
合計	一六	一四四	—	—	—	一	三	六	一一	六割六分七厘	一〇六	七割二分八厘

遠洋漁業

漁獵具及漁船竝ニ其附屬品ヲ別チテ五トス

(1) 捕鯨具

捕鯨具ハ東京市宮田榮助カ出品セル米國式捕鯨具及解剖具約二十點ニ過キスト雖モ該品ハ捕鯨業ノ發展ニ伴ヒ需用增加シ從ヒテ製造ノ技術大ニ進歩シ外國製品ト大差ナク斯業ニ從事スル者ハ多ク之ヲ使用スルニ至リシモ尚一層材料ノ配合選擇鍛錬等ニ勉メ製作ニ意ヲ加フレハ外國製品ヲ凌駕スルニ至ルヘシ然リト雖モ近來需用ノ最モ多キ諾威式捕鯨具ノ製作ニ從事スル者ナク全ク外國輸入品ヲ使用スルハ痛嘆ニ堪ヘサルナリ

今同人カ出品セル米國式捕鯨具ノ構造ニ付解説書及試驗ノ結果ヲ摘記スレハ左ノ如シ

捕鯨中砲

構造及品質

中砲ハ後裝式ニシテ砲身、砲尾機器、受反動發條函、砲架ノ四部ヨリ成リ水平ニ回轉シ俯仰角ノ度ハ四十五度ニ回轉シ得ルモノトス

砲身

硬鋼桿ヲ穿孔シ砲尾ハ別ニ軟鋼ニテ製作シ堅ク螺定ス砲身ノ中央ニ螺旋ヲ削成シ受反動ノ發條ヲ押ユル圓盤ヲ取附クルモノトス

砲尾機器

之ハ軟鋼ニテ製シ頭部ハ大小異ナル三段ノ螺旋ヲ有シ各段ニ二山ノ螺旋ヲ有スル故ニ砲尾ヲ閉塞スル時ハ大山ノ螺旋ハ砲尾ニ吻合シテ發射ノ反動ヲ受ク且各段ノ螺旋ノ山ハ各二個ナルヲ以テ開閉共各〻二回轉ニテ甚タ簡便ナリ

下部ハ發射器ヲ備ヘ擊針ノ末端ハ鐶狀ヲナシテ外ニ現レ紐ヲ連結シテ擊針ノ發條ヲ引縮スルモノトス

發射器ハ最モ簡單堅固ニシテ擊針、同發條及條押螺子、引金及同發條、發條螺子ノ六個ヨリ成レリ

砲架

軟鋼ニテ製作シ下部ニ二個ノ孔アル圓盤ヲ挿入ス二個ノ小ナル孔ハ船體ニ緊縛スヘキ麻繩ヲ通スヘキモノトス

受反動發條函

軟鋼製ニシテ圓筒形ヲナシ兩側ノ中央ニ砲耳ヲ有シテ砲架ニ架スルモノトス發條ハ四分ノ角條ヲ蛇形ニ卷キタルモノトス

輸入品トノ比較

目今輸入セラルル米國及諸威式ノ中砲ハ悉ク砲口裝塡式ナルヲ以テ破裂彈等ヲ裝塡シ後發射ノ必要ナキ時ハ其脫出ハ甚タ不安全ナリトス宮田榮助製中砲ハ是ニ鑑ミ後裝トシ且裝塡ヲ簡易ナラシメンカ爲メ其構造簡單ナリ且發射管ハ彼レハ摩擦管ヲ使用セルモ是レハ供給ニ不足ノ憂少キ雷管ヲ使用セリ

中砲用破裂彈

構造及品質

破裂彈ハ反動發火式ニシテ爆藥トノ連絡ハ導火線ヲ使用シ尖頭部雷管及導火線保持部圓筒部及閉塞部ノ四部ヨリ成ル

尖頭部

軟鋼製ニシテ鋭利ナル方錐狀ヲナシ內部ハ滑カニ中空トシ雷管ヲ打ツヘキ分銅ノ運動ヲ自由ナラシム

雷管及導火線保持部

軟鋼製ニシテ前後ノ螺子ニヨリ尖頭部及圓筒部ヲ連絡ス

圓筒部

藥室ニシテ軟鋼鈑ヲ卷キテ作リ鈑ノ兩端ハ各三分以上重ネ合セテ眞鍮鑞附トスルヲ以テ爆發ノ際接目ノミ裂クル事ナシ

閉塞部

護謨製矢羽根ヲ附シ彈道ヲ正確ナラシム

發火作用

破裂彈ハ發射セラレシ際其尖頭部ニ釣リシ分銅ハ橫木ヲ切斷シテ雷管ニ衝リテ發火セシム之ニヨリ導火線ヘ火ヲ傳ヘ圓筒部內ノ爆藥ヲ爆發セシムルモノトス導火線ノ長サニヨリ發射ヨリ爆發マテノ時間ハ適宜ニ制限セラルルモ最モ短キハ十秒トス

中砲用銛

構造及品質

銛ハ諸威式ヲ摸倣シ頭部ハ爆發式ニシテ爆發部、頭部、柄ノ三ヨリ成ル

爆發部

鑄鐵製ニシテ方錐狀ヲナシ內部ハ中空トス

頭部

四個ノ開閉スル腮ヲ有シ中心ノ圓筒孔內ニ發火器ヲ備ヘ柄トノ連絡ハ連鎖ノ如ク鐶狀ヲナスヲ以テ屈曲自由トス

柄

屈折ニ耐ヘシメンカ爲メ「スイツル」鐵ニテ簪形ニシテ鋼トノ連絡ハ細キ銅線ヲ數十回輪狀ニ束ネタル鐶ヲ以テス

發火裝置

諸威式ハ發火ニ摩擦管ヲ使用スレト本邦ニ於テハ適當ノモノヲ得難キヲ以テ供給ニ不足ノ憂ナキ雷管ト導火線トヲ使用セリ卽チ頭部ノ圓筒孔內ヘ導火線及雷管ヲ保持セル黃銅製桿ヲ挿入ス孔ノ底部ニハ鋼棒ノ尖頭ヲ突出セシメ雷管カ衝リテ發火スルモノトス突出セル尖頭部ト雷管トノ間ハ細キ黃銅ノ發條ヲ以テ離間セシム

發火作用

銛ノ發射セラルルヤ前記雷管保持桿ハ圓筒内ニ活動シ發條ヲ壓縮シテ孔底ノ尖頭ニ衝リテ發火シ導火線ヘ點火シ方錐狀内爆藥ヲ爆發ス發射ヨリ爆發マテノ時間ハ八秒トス

小銃

構造及品質

小銃ハ後裝元折式ニシテ銃身機關部銃床ノ三ヨリ成ル銃身ノ開閉ハ堅牢ナル鏁鉸式ニシテ銃身ト機關部トノ密着ハ機關部ノ裏面ヨリ砲身ノ突出部ヲ螺定ス發射後ノ空藥莢ハ銃身ヲ開クト共ニ脱出スルモノトス

小銃破裂矢

中砲破裂矢ト其構造同一ニシテ全部黄銅製トス

投射銃

投射銃ハ全ク米國式ヲ摸造シ左記ノ缺點ヲ增補セリ

米國製投射銃ハ全ク銃身ヲ脱キ破裂矢ヲ裝塡シ再ヒ銃身ヲ原位ニ復スルニ當リ藥莢ノ雷管ヲ擊針ノ尖端ニ壓サレ誤リテ發火ノ恐アルニ鑑ミ出品者ノ製品ハ安全器ヲ裝置シテ誤發ノ憂ヲ妨ケリ

投射銃銛

構造及形狀

米國式ニ摸倣セリ卽チ頭部ハ軟鋼ニテ製シ又ノ部ハ良質ノ鋼ヲ使用シ柄ハ屈折ニ耐ヘシメンカ爲メ最モ良質ノスイツル鐵ヲ使用シ頭部トノ取附部ニハ硬鋼ヲ使用シ以テ伸延ヨリ來ル切斷ヲ防ケリ網ヲ連結スル鐶部ハ同一ノ材料ヨリ孔ヲ穿チ擴ケタルモノニシテ他ノ材料ヲ溶着セシモノニ非ス銛ト柄トノ最モ大角度ハ四十五度トシ牽引ニヨリ角度ヲ超過セシメサル爲メ最モ入念ノ技ヲ施セリ

長銛半長銛スペード劍

是等ノ構造及材料ハ投射銛ト等シク「スペード」及劍ハ其切及部ハ特ニ良質ノ鋼ヲ鍊ヘテ製作シ及部ノ仕上ニ注意セリ

明治四十年五月十六日午後二時ヨリ東京府下大森帝國小銃射的協會ニ於テ右出品ニ係ル捕鯨銃及銛破裂矢等ノ試發審査ヲ行ヒ左ノ成績ヲ得タリ當日天氣快晴氣候温暖ニシテ南方ノ和風アリ射的場ノ位置ハ同協會射擊場ノ一部ニシテ射手ハ西微北ニ面シ標的ハ射手ヲ去ル十八間ノ小丘側面トス而シテ試驗ノ結果ハ概シテ良好ニシテ實用ニ適セリ

一、捕鯨用小銃試發

本銃ノ構造ハ銃身砲金製銃臺ハ眞鍮製ニシテ詳細ハ前葉出品解說書中ニ在リ

當日試發ニ使用セシ火藥ハ凡テ獵銃用火藥トス又導火線及雷管等ハ英國製ヲ用フ

導火線ハ雷管ニヨリ點火後破裂矢ノ筒内ニ在ルヘキ他端ニ達スルマテノ時間約十七秒ナリ

藥筒内火藥量七分但シ破裂矢中ニハ炸藥ヲ裝塡セス右ノモノヲ以テ矢羽根附破裂矢ヲ試發セシニ矢ハ標的ノ土中ニ突入シ其後端土中ニ入ルコト約一寸之ヲ取リ筒内導火線ヲ見ルニ能ク達火シ居レリ

一、同上元折銃

銃身ハ前銃ト同樣ニシテ銃臺ハ木製ニシテ元折式ナリ

藥筒内火藥量七分

矢羽根附破裂矢中ノ炸藥八匁五分

右ノ破裂矢ヲ發射セシニ標的ノ土中ニ突入シタル後約十秒ニシテ破裂シタリ

本銃ノ反動ハ前小銃ニ比シ稍强キヲ覺ユ

捕鯨用中砲試發

第一回　藥筒内火藥量　一匁五分

矢羽根附破裂矢ヲ試發セシニ雷管不發

第二回　藥筒內火藥量　二匁

矢羽根附破裂矢ヲ發射セシニ矢土中ニ突入シ先端稍、左方ニ偏シ後端ハ土中ニ入ルコト約八寸砲身ノ反動約三ミリメートル

第三回　藥筒內火藥量　四匁

諸威式ノ銛ヲ發射ス銛ハ重量一貫四百匁約一インチ半ノ綱ヲ附シタリ

發射セシニ銛ハ標的前約一間ノ地上ヲ磨シテ的前ニ止マル砲身ノ反動ハ約十ミリメートルナリ

海豚銃及銛

元來銃獵ハ陸上ニ多ク應用セラレ海上ニ於テハ僅ニ臘鮒獸、臘虎、鯨等ノ捕獲ニ使用スルノミナリシカ近來諸威ニテハ海豚ヲ捕獲スルニ小銃ヲ用ヰ多大ノ利ヲ得ツツアリ本邦ニ於テモ亦既ニ紀州某漁業者ハ此銃獵方法ニヨリ海豚獵業ヲ行ヒ好成績ヲ擧ケタリト云フ此銃獵タルヤ從來行ハルル所謂突棒ト稱スル銛突漁法ニ比シ著ク進歩シタルモノニシテ尙幾多ノ經驗ト改良ヲ加フレハ各種ノ浮游魚類ニ應用スルコトヲ得ン故ニ左ニ水產講習所カ諸威ヨリ購入シタル海豚獵銃及附屬器ヲ示シ參考ニ供スヘシ

小銃ハレミントン式元込銃ニテ其口經約三十番之ニ小銛ヲ挿入シ銃身ノ下部ニハ一ノ鐵製圓筒ヲ取着ケ其ノ中ニ銛綱ヲ收メ其端ヲ銛ニ結附ス而シテ之ヲ發射スレハ銛ノ射出ト共ニ筒中ノ綱自然ニ延長スル趣向ナリ

海豚銃及銛圖解說

(A)　金屬製銛綱入圓筒側面器ニシテ長一尺二寸元ニテ徑一寸二分先端徑二寸Dニテ卷キタル銛綱

凡ソ十五尋ヲ入レ之ヲ銃身ノ下部ニ裝置ス

(B)　銛綱入圓筒ノ蓋ニシテ銛綱ヲ圓筒內ニ收ムル際此蓋ヲ取リ外ツシテ入ルルモノトス

(C)　銃身ノ洗失ナリ

(D)　ハ銛綱捲器側面圖ニシテ銛綱ヲ銛綱入圓筒內ニ收ムル際此器ニヨリ捲キ筒內ニ入ルルモノトス凡テ木製全長一尺八寸

(E)　銛綱

(F)　海豚獵用銛　鐵製　(イ)ハ徑八分ノ五吋長一尺二寸(ロ)ハ「スチールワヤー」撚綱徑凡ソ一分(ハ)ハ尖頭ニシテ鋭利ナル及ヲ有ス(ニ)ハ爪ニシテ自由ニ開閉ス(ホ)ハ銛綱ヲ結附スル鐵製環ナリ

(G)　銃ニ銛ヲ裝シタル圖ナリ

銃ノ臺尻ニハ二個ノ「スプリング」アリ其上ニ皮ヲ掩ヒ以テ反動ヲ少カラシム

(2)　網具

網具ノ出品ハ東京府下八點及臺灣ヨリ六點アルノミ而シテ皆從來使用セルモノノ模型ニシテ其構造及使用法共特ニ見ルヘキモノナシ參考品トシテ小笠原島鹿ヨリ甎網模型及朝鮮海漁業者香推源太郎ノ朝鮮眞鱈大敷網略圖出品ハ多少參考トシテ見ルヘキ點アリ前者ハ小笠原島鹿カ雜魚捕獲ノ目的ヲ以テ日本海方面ヨリ移シ始メテ同島父島二見港ニ敷設シ好成績ヲ得後者ハ韓國洛東江ニ於ケル義親王宮御料漁場ニ敷設シタル漁具ニシテ其漁獲高ノ豐富ナルハ該海ニ志アル者ノ注意ヲ拂フヘキモノナリトス

(3)　釣具及附屬品

釣具及其附屬品出品ハ之ヲ分チテ一本釣、延繩及釣竿及其附屬品等トス而シテ其數約百十餘點アリ

就中釣竿ノ出品最モ多ク一本釣及延繩釣等ハ僅ニ臺灣及小笠原島ヨリ數點ノ出品アリシニ過キス

釣竿

釣竿ハ普通竿ムク竿インロウ竿仕込竿振出システッキ、纏竿引透竿等アリテ鱈鰯、鮒、沙魚、鮎、黑鯛、鯉及鮭、鱒等ノ遊漁ニ用フ概シテ材料ノ選擇製法モ亦精巧ナリト雖モ間々塗漆ノ粗ナルアリ

或ハ繼方不良ナルアリ竹製釣竿ハ本邦ノ特產ニシテ海外ニ輸出スルコト少カラス然レトモ從來ノ輸出品ハ一般ニ製作粗惡ニシテ永久ノ使用ニ堪ヘス爲メニ外人ノ信用ヲ失スルノ恐アルノミナラス彼國ノ事情ニ通セス只徒ニ裝飾ヲ美ニシ價格ヲ不廉ナラシムルモノアリ是等ハ宜シク其弊ヲ改メ以テ前途益〻輸出ノ增加ヲ講セサルヘカラス

釣具ノ附屬品トシテハ糸卷、竿掛、針掛丘持、桶、ビク、浮子等ニシテ製造亦巧ナリ

延　繩

延繩ノ出品ハ臺灣ノ鯛延繩四點及府下ノ細魚釣繩及小繩ノ模型二點トス前者ハ底延繩ニシテ實物ヲ出品セリ原料及製法粗造ナレトモ臺灣ニ於ケル鯛延繩漁業ハ將來有望ナルモノナレハ少シク改良ヲ施シ完全ニ漁法ヲ行ヘハ大ニ斯業ノ發展ヲ見ルニ至ルヘシ

一本釣具

一本釣具トシテノ出品ハ小笠原島廳ノ參考品タル鰹鰺釣ノミナリ而シテ其構造使用法共普通ニシテ見ルニ足ルモノナシ

(4)　雜漁具

雜漁具ノ出品ハ鮹壺、龜捕具及介卷、蛤桁、鰻鍬、簀卷等ノ模型ニシテ鮹壺ハ能ク鮹ノ性質ヲ應用シ其色合形態共ニ良好ナリ介卷、蛤桁、鰻鍬、簀卷等ハ普通品ニシテ特ニ見ルヘキ點ナキモ模型トシテ精良ノ製品ナリ小笠原島廳ノ參考品トシテ出品セル龜捕具ハ同島ニ於ケル重要漁具ノ一タリ其構造簡單ニシテ柄ハ檳榔樹ヲ以テ製シ其先端ニ細キ鐵棒ヲ取附ケ其端ニ網ヲ附セル突鋲ヲ着附シ以テ龜ヲ突キ捕フルモノトス

(5)　漁船及附屬具

今回出品ノ漁船ハ僅ニ臺灣ノ標本一點アルノミニシテ他ニ出品ナキハ甚タ遺憾ナリトス而シテ其漁船ノ模型ハ恰モ玩具的構造ニシテ詳カニスルニ足ラス漁船附屬品トシテ坂入式艙ノ出品アリ其構造能ク推進ノ理ヲ應用シ意匠見ルヘキモノアリト雖モ其操縱甚タ不便ニシテ從來ノ艙ニ比シ反リテ勞多ク波濤荒キ海上ノ使用ニ適當セス尙一層ノ考案ヲ要ス

三、遠洋漁業

本邦ノ遠洋漁業ハ歐米人カ本邦近海ニ出獵スル臘鼎獵ノ有利ナルヲ見テ羨望ニ堪ヘス明治二十一二年ノ頃帝國水產會社カ帆船千島丸ヲ艤シ千島ノ臘鼎獵ノ島ノ臘虎及金華山沖ノ臘鼎獵ニ始マリ爾來漸ク該獵船ノ數ヲ增シタリ明治三十年遠洋漁業奬勵法發布セラレ益〻船數ヲ加ヘ太平洋、日本海、白令海、オコツク海等ヲ獵場トシ現今ハ三十餘隻ノ多キニ及ヒ各種遠洋漁船中最モ多數ヲ占ム

遠洋漁船中最モ多數ヲ占ム

東洋漁獵株式會社カ朝鮮海ヲ獵場トシ諸威式捕鯨業ヲ開始セシモ萎微トシテ振ハサリシカ日露戰役ハ我カ漁業界ニ一大革新ヲ與ヘ殊ニ捕鯨業ニ於テ著ク谷地ニ諸威式捕鯨會社設立シ捕鯨船ノ數十餘艘ニ及ヒ其獵場モ亦朝鮮日本海ノ各沿海及紀州、高知、千葉、茨城縣等ノ沖合ニ擴張セラレ加フルニ米國式捕鯨業ニ從事スル者アリテ盛ニ各種ノ鯨族ヲ捕獲スルニ至レリ然ルニ魚類ノ遠洋漁業ハ海獸獵ノ盛況ニ比シ甚タ振ハサル狀況ナリシカ明治三十七年以後帆船補助機關附帆船又ハ汽船ヲ用ヒ鮪、鱈、鮭、鱈、鰹或ハ各種底魚ノ遠洋漁業ヲ開始スル者續出シ現今ニ至リテハ益〻其數ヲ增シ數十隻ノ多キニ至レリ

今農商務省カ參考品トシテ出品セル奬勵金下附ノ遠洋漁業船統計表及寫眞ヲ左ニ揭ケテ參考ニ資ス

遠洋漁業船表（三十九年度農商務省出品）

漁業種類	船種	船數	噸數	乘組員數	漁獲全額
捕鯨業	汽船	七	八〇四	一〇一	五二二、七〇〇
	帆船	一	二四五	四〇	七、二〇〇
臘虎、臘鼎獸獵業	帆船	三一	二、二三〇	八〇二	四六〇、七〇〇

網漁業	汽船	二	二四一	三〇	三、九〇〇	—
	帆船	一	一三二	二五	四一、〇七五	
釣漁業	帆船	一五	八三二	二九六		
漁獲物處理運搬業	汽船	一	一四三	一五	一六、二五九	
合計		五八	四、六二七	一、三〇九	一、〇五一、八三四	
三八年度		四六	三、〇四三	一、〇三〇	一、一二四、七六七	
三七年度		四四	三、二〇九	一、〇一八	六、三五、八六一	

以上ノ統計ニヨリ其漁獲高ヲ乗組員一人ニ平均スレハ三十七年ニ於テハ六百二十四圓餘、三十八年ニ於テハ一千〇九十二圓三十九年ニ於テハ八百三圓餘ナリ漁獲ノ豐凶ハ沿岸漁業、遠洋漁業ヲ通シテ免ルル能ハサル所ナレハ已ムヲ得サル事ナリト雖モ之ヲ最近ノ統計ニヨリ算出シタル沿岸漁業ニ於ケル漁夫一人ノ收得僅ニ六十一圓餘ニ比スレハ其遜庭實ニ著シ漁業ニ從事スル者深ク鑑ミサルヘカラス

四、漁獲物處理具及漁具製作用器具

漁獲物處理具及漁具製作用器具トシテハ僅ニ釣鈎製作用鑪生魚運搬用鍵並ニ鰹節削鉋ノ數點ニ過キス釣鈎製作用鑪及生魚運搬用鍵ハ普通品ニシテ見ルヘキ點ナキモ鰹節削鉋ハ普通鉋ノ兩側面ニ溝ヲ設ケ之ニ篏ムヘキ枠ヲ作リ其枠ニハ押蓋アリ鰹節ヲ此枠中ニ入レ削ル趣向ニシテ如何ナル小形ノ鰹節ヲモ削リ得ルノ新考案ヲ施セルモノニシテ實用ニ供シ便利ナルヲ認ム

調味品及鑵詰

第六部第六十類ノ内、第六十一類ノ内、第七部第六十二類、第六十三類ノ内、第六十四類

審査官　伊谷以知二郎

第七部第六十類中醢、雲丹、海鼠腸、臘虎等ノ調味品ニ屬スルモノハ其出品數多カラス殊ニ其品質ハ普通ノモノニシテ特ニ品評ヲ加フヘキモノナシ

同部六十一類中ノ福神漬、佃煮、田麩ノ類ハ出品點數總計九十七點ニシテ福神漬ハ戰時多額ノ需用アリ且其販路廣大ナルニ拘ラス今回ノ出品ニ於テハ特ニ進歩ノ跡ヲ認メス此類ニ屬スル保萬齡漬、美佳都漬、美哉香漬、浪花漬等各種ノ出品アリ内保萬齡漬ハ別ニ一種ノ風味ヲ有シ福神漬ト相對シテ廣ク需用ヲ惹クニ足ル

佃煮類ハ東京ノ名産ナルヲ以テ其出品モ又從ヒテ少カラス然レトモ其原料タル小鮒、鰕ノ類ハ東京灣ノ産出漸次減少ノ結果千葉、茨城ノ各縣ニ原料ヲ需メ近來ニテハ佃煮トシテ輸入スルモノ多ク眞正ノ品海ノ原料ヲ以テ製セルモノ少キニ至レリ而シテ其煮方ニ至リテハ稍〻變遷アリ從來ハ濃黑ニ煮揚ケタルモノヲ賞美セシカ近來ハ褐色ニ煮揚ケタルモノ却リテ世人ノ嗜好ニ適スルモノノ如シ

同部第六十二類ニ屬スル鑵詰ノ出品ハ總計四百二十一點ニシテ其種類ハ鳥獸肉、魚介肉果實、蔬菜等ニシテ審査ノ結果名譽銀牌一點、一等賞十五點、二等賞二十六點、三等賞二十九點、褒狀二十三點ヲ授與シタリ

今回ノ博覽會ニ於テ特色トスヘキハ其陳列ハ鑵詰聯合會ノ擔任ナリシヲ以テ鑵詰全部ハ一區劃内ニ蒐集セラレ其陳列方法ハ頗ル意匠ニ富ミ美觀ヲ增シ觀覽ニ便ニ觀者ヲシテ比較品隲ヲ容易ナラシメ購買心ヲ惹起スルコト尠カラス明カニ陳列上ノ進歩ヲ認ム

東京博覽會ニ於ケル鑵詰ノ出品ハ之ヲ概括シテ論スルトキハ多ク從來ノ製法意匠ニシテ別ニ新趣向ヲ出タセルモノナク普通ノ製品ニ過キサレトモ日露ノ戰役ニ於テ斯業ニ與ヘラレタル發達ノ動機ハ明白ニ之ヲ看取シ得ヘク全國各地ノ出品ハ其製造上ノ技術均一ノ程度ニ達シ著ク劣レルモノヲ見ス此全國各地ヲ通シ技術上ノ進歩ハ全ク戰役ノ賜ニシテ將來斯業ノ大發展ヲ爲スヘキ根底ヲ爲セルモノトス

今回ノ出品ニ於テ特ニ注目スヘキハ裝飾紙及鐵葉版印刷ノ著ク進歩セルコトトス抑〻鑵ノ裝飾ヲ工夫シ外觀ヲ善美ナラシムルハ商業上必要手段ニシテ内容食味ノ美ト相俟チテ缺クヘカラサル手段ナル

ニ拘ラス從來之ニ重ヲ置カサルノ觀アリテ內容ノ善良ナルニ拘ラス外觀頗ル揚ラス爲メニ購買心ヲ惹ク能ハサルモノ尠カラス外國品ニ比較スルトキハ其意匠色ノ配合印刷共ニ頗ル劣リタリシカ今回ノ出品中ニハ殆ト之ヲ凌駕スル意匠ナキニ非ス只鐵葉板ノ印刷ニ至リテハ耐熱ノ配色未タ少ク之ヲ外國品ニ比スルニ遜色アルヲ免レス今一段ノ進歩ヲ望マサルヲ得ス蓋シ色印刷ニ於テ近來其技術進歩セリト雖モ鑵詰ニ使用スルモノハ高度ノ溫熱ニ堪ユルノ要アルヲ以テ普通ノ印刷ト其趣ヲ異ニセリ然レトモ之カ用途增加スルニ從ヒ此技術モ漸次進歩スヘキハ疑ナキ所トス

一般鑵詰ノ製造業ハ輓近著キ發達ヲ爲シ內地需用ノ增加ト共ニ其輸出額ヲ增大シ濠洲外十二ケ國ニ向ヒテ輸出セル金額ハ去ル三十七年ニハ六十三萬三千百六十三圓ナリシモノ三十八年ニハ百十四萬四千七百九圓ニ上リ三十九年ニハ百十一萬六千二百二十九圓ニ及フ假令此輸出品ハ在外邦人ノ需用ヲ充タスニ過キサルモノニセヨ兎ニ角斯ノ如キ長足ノ進歩ヲ爲セルハ其消費力ノ强力ニシテ將來尙增進ノ餘地アルコトヲ示スモノト謂ハサルヘカラス然ルニ此發展ニ伴ヒ單ニ價格ノ低廉ヲ競フノ結果トシテ鑵器ニ一定ノ大サアルニ拘ラス製造者ニハ自個ノ任意ニ之ヲ縮少スルノ惡弊ヲ生シ近來益〻甚シキ傾向アリ試ミニ今回ノ出品ニ就キ之ヲ調査セルニ一封度鑵全數三百十四個ノ中正確ノ大サ容量アルモノ僅々二十一ニ過キスシテ其大サ容量ヲ異ニスルモノ實ニ三十六種ニ及フ其表左ノ如シ

鑵ノ大サ	內附	外附	一方內附他方外附	合計
徑二寸三分 高三寸四分	—	一	—	一
徑二寸三分 高三寸六分	一	—	一	二
徑二寸三分 高三寸七分	一	二	—	三
徑二寸三分五厘 高三寸六分	一	一	—	二
徑二寸三分五厘 高三寸六分五厘	一	—	—	一
徑二寸三分五厘 高三寸七分	三	一	—	四
徑二寸四分 高三寸四分五厘	一	—	一	二
徑二寸四分 高三寸五分	四	一	—	五
徑二寸四分 高三寸六分	二四	七	四	三五
徑二寸四分 高三寸六分五厘	四	二	—	六
徑二寸四分 高三寸七分	二五	一〇	—	三五
徑二寸四分 高三寸八分	七	—	—	七
徑二寸四分五厘 高三寸四分	二	一	二	五
徑二寸四分五厘 高三寸五分	—	—	一	一
徑二寸四分五厘 高三寸六分	一八	八	二	二八
徑二寸四分五厘 高三寸六分五厘	二	一	一	四
徑二寸四分五厘 高三寸七分	一一	三	—	一四
徑二寸四分五厘 高三寸七分五厘	五	一	—	六
徑二寸四分五厘 高三寸八分	六	三	—	九
徑二寸五分 高三寸二分	三	—	—	三
徑二寸五分 高三寸三分五厘	—	—	一	一
徑二寸五分 高三寸四分	三	一	一	五
徑二寸五分 高三寸五分	三	一	二	六
徑二寸五分 高三寸六分	二五	九	六	四〇
徑二寸五分 高三寸六分五厘	六	—	二	八
徑二寸五分 高三寸七分	三三	一一	—	四四
徑二寸五分 高三寸七分五厘	三	—	一	四
◎徑二寸五分 高三寸八分	一五	六	—	二一
徑二寸五分 高三寸八分五厘	一	二	—	三
徑二寸五分 高四寸	一	—	—	一
徑二寸五分五厘 高三寸五分五厘	—	一	—	一
徑二寸五分五厘 高三寸六分五厘	—	一	—	一
徑二寸五分五厘 高三寸七分	—	一	—	一
徑二寸六分 高三寸五分	一	—	—	一
徑二寸六分 高三寸六分	一	—	—	一
徑二寸六分 高三寸六分五厘	一	—	—	一
計	二一二	七五	二五	三一二

備考 ◎印ハ正式一封度鑵ノ容積ナリ

鑵詰ノ製產ハ前記ノ如ク逐年增大スルニ拘ラス從來商業市場ニ於ケル位置ハ頗ル劣弱ニシテ他ノ商品ノ如ク荷爲替若クハ擔保ノ資格ヲ有セサリシヲ以テ斯業ニ從事スル者特ニ信用ヲ有スルニ非サレハ金融ノ便ヲ得ルニ由ナク爲メニ事業ノ發展ヲ阻害シタルコト尠カラス今ヤ漸ク市場ニ商品タルノ位置ヲ得ントスルニ方リ斯ノ如ク其大サ容量ヲ不定ナラシムルハ徒ニ其取引ヲ煩雜ナラシメ當ニ得ントスル商品ノ位置ヲ失墜シ市場ノ信用ヲ攪亂スルモノト謂ハサルヘカラス當業者智見ノ狹隘ニシテ自信ノ念慮ナキニ驚カサルヲ得ス曾テ鑵詰聯合會ニ於テ之カ匡正ヲ案出セシモ終ニ要領ヲ得スシテ了レリト聞ク斯業ノ爲メニ歎スヘシ

米國ノ如キ一封度鑵ノ大ハ必ス一定不變ニハ非ス內容ノ品種ニ依リ一號鑵二號鑵等ノ稱呼アリ然レ

トモ各號ノ大サハ取引上決定セラレ自個任意ニ之ヲ變更スルコト能ハス是レ經濟上重要ノ關係ヲ有シ商品タルノ確定セル故ニシテ本邦ノ如ク亂雜不定ナルハ畢竟鑵詰業ノ幼稚ニシテ市場ニ關係交渉少キコトヲ表示スルモノニ非スヤ此境遇ヲ脫セサル間ハ斯業ノ發達ハ得テ期スヘカラサルナリ

今回出品ノ製鑵ノ方式ハ殆ト皆手工ニ依ル「ハンダ」附ニシテ僅ニ一二ノ護謨式製鑵及卷取鑵ヲ見ルノミ歐米諸國ニ於テハ近時製鑵ノ方式著ク發達シ各種新式ノ製鑵方式行ハレ(Sanitary Can System)サンタリー鑵式等ハ最モ勢力ヲ有スルモノトス此等ノ製鑵式ハ各、利害アリ各種ノ鑵形ニ悉ク應用セラルルモノニ非ス又手工ニ依ル「ハンダ」式モ亦特長アリ殊ニ勞銀ノ廉ナル本邦ニ於テ決シテ等閑ニ附スヘキモノニ非サレトモ世界ノ市場ニ外國ノ生産品ト競爭スヘキ特殊ノ製品ニ在リテハ製産費ヲ低減シ多大ノ製造力ヲ有シ且鑵形ヲ新式ナラシメ以テ競爭ニ打勝タサルヘカラサルカ故ニ日新ノ製鑵式ヲ採用セサルヘカラス又鑵形ニ至リテモ今回ノ出品ハ悉ク一封度立鑵ニシテ他ハ僅ニ一封度平鑵若クハ二三種ノ角鑵アルノミ千遍一律ニシテ趣味ニ缺乏スルノ感ナクンハアラス歐米ノ製ノ如キ內容ノ品種ト製法ニヨリ種々意匠ニ富メル鑵形ヲ用ヰ製品ノ價値ヲ高尙ナラシムルコトニ努ムレトモ本邦製品ハ未タ此域ニ達セス是レ畢竟我鑵詰ノ主ナル需用者ハ中流以下ニ屬シ生活ノ程度高カラス鑵形等ノ高尙ナルヨリハ寧ロ廉價ヲ要望スル結果ニ依ルコト明カナレトモ今後鑵詰ノ需用ヲ擴張シ海外ニ輸出ヲ圖ラントセハ鑵形ニ意匠ヲ用フルコトモ亦必要ノコトナリトス

食用品製造ノ要旨ハ天然固有スル旨味ヲ保全シ若クハ之ヲ增加シ貯藏力ヲ有シ營養性分ヲ失却セシメサルヲ要ス然ルニ本邦ノ鑵詰品ハ貯藏力ヲ過重視スルノ結果加熱ヲ過度ナラシメ爲メニ魚肉、獸肉ヲ問ハス肉質硬固シテ甚シク旨味ト養分ヲ失ヒ人ヲシテ鑵詰ハ不味ナルモノト固信セシムルニ至レリ今日ノ鑵詰製造法ニ於テ貯藏ノ目的ヲ達スル殺菌方法ハ絕對的ニ加熱ヲ必要トスレトモ其製法ノ如何ヲ問ハス需用地仕向先ノ情況ヲ論セス徒ニ加熱ヲ過度ナラシムルハ大ニ講究スヘキコトトス

抑、此傾向ノ由來スル所ヲ案スルニ二ノ原因ヲ有ス一ハ軍需的關係ニシテ他ハ仕向先ノ關係ナリ我邦鑵詰業ノ發達ハ日清日露兩戰役ニ負フ所多ク二十七八年、三十七八年ノ二段階ヲ爲シテ事業ノ隆盛ヲ致セリ是ヲ以テ其製造ノ方式ハ軍需的性質ヲ帶ヒ意匠旨味、營養成分等ノ講究ハ殆ト度外視セラレ單ニ確實ニ耐久力ヲ有スレハ以テ鑵詰ノ本能ニ缺クルナシトノ傾向ヲ生スルニ至レリ他ノ原因ハ既往二十年來邦人ノ海外ニ出稼スルモノ日ニ月ニ盛ニシテ今ヤ其數十萬ヲ以テ數フ此在外邦人ノ需用ヲ充タス爲メ鑵詰ノ需用年每ニ增大シ此目的ニ向ヒテ輸出スル土地ハ南部熱帶地方カ若クハ熱帶ニ近キ地方カ又ハ其經路ヲ熱帶ニ近ク執ルカ其何レニモセヨ北部ニ少クシテ南部ニ關係多キヲ以テ勢ヒ殺菌加熱ヲ强クシ耐久力ヲ增大スル必要ヲ生スルニ至レリ

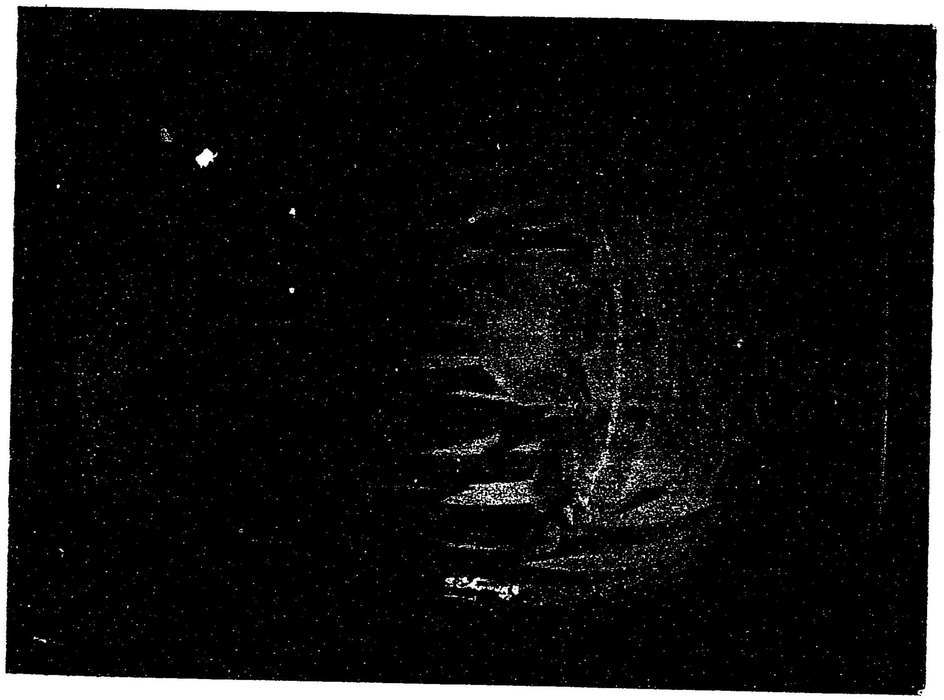
抑、鑵詰ナルモノハ勿論貯藏食品中ニ於テモ貯藏力最モ强大ナルヘキ性質ノ製造法タルカ故ニ若シ鑵詰ニシテ耐久力ヲ缺ク時ハ其本能ヲ失フヘキヲ以テ之ニ重キヲ置クヘキハ勿論ノコトナレトモ食用品タル鑵詰カ旨味ト營養分トヲ犧牲トシテモ數年間ニ亘ル長年月ノ貯藏ヲ絕對ニ必要トスルヤ否ヤ日常ノ食膳ニ供用サルヘキ食物ニシテ數年間ニ亘ル貯藏ヲ必シモ要スルモノナルヤ否ヤ假ニ多クノ場合ニハ此必要ハナカルヘシ少クモ原料ノ性質ニ依リ又製造方法ニ依リ仕向ケ先ニ依リ絕對的耐久力ニ重キヲ置カスシテ却リテ絕對的保味ト營養分ノ保全トニ重キヲ置クノ製造方モ之ヲ無視スル能ハサルヘシ故ニ一面耐久力ニ富メル製法ト一面ニ香味ヲ翫賞スルニ堪ユヘキ製法トノ二面ニ製造方針ヲ置クヲ必要トス然ラサレハ此鑵詰ノ需用今後ニ擴張スルコト能ハサルヘシ

本邦鑵詰製造ノ箇所ハ各府縣ニ於テ少クモ一二ケ所多キハ數ケ所ニ及ヒ總數二百以上ニ達ス近來稍、大規模ノ製造所起リ相當ノ資本ヲ集メ多額ノ製造ヲ爲シ外國輸出ヲ計畫スル者アレトモ多數ハ小規模ノ製造業ニシテ其原料ハ天然ノ生産ニ依賴シ事業擴張ノ餘地ナキモノ多シ鑵詰原料ニハ海陸産共ニ地方特産ノモノアリテ天然ニ依賴スルノ外他ニ之ヲ增殖スルノ道ナキモノアレトモ將來ノ製造業ヲ擴張セントセハ事業ノ根底タル原料ノ出産ヲ圖リ之ト關聯シテ製造ヲ爲スコトヲ必要トス今回ノ出品ニ徵スルモ臺灣、鳳山、岡村庄太郎ノ鳳梨鑵詰ノ如キ該地方特産鳳梨ノ栽培ト共ニ事業ヲ擴張シ長

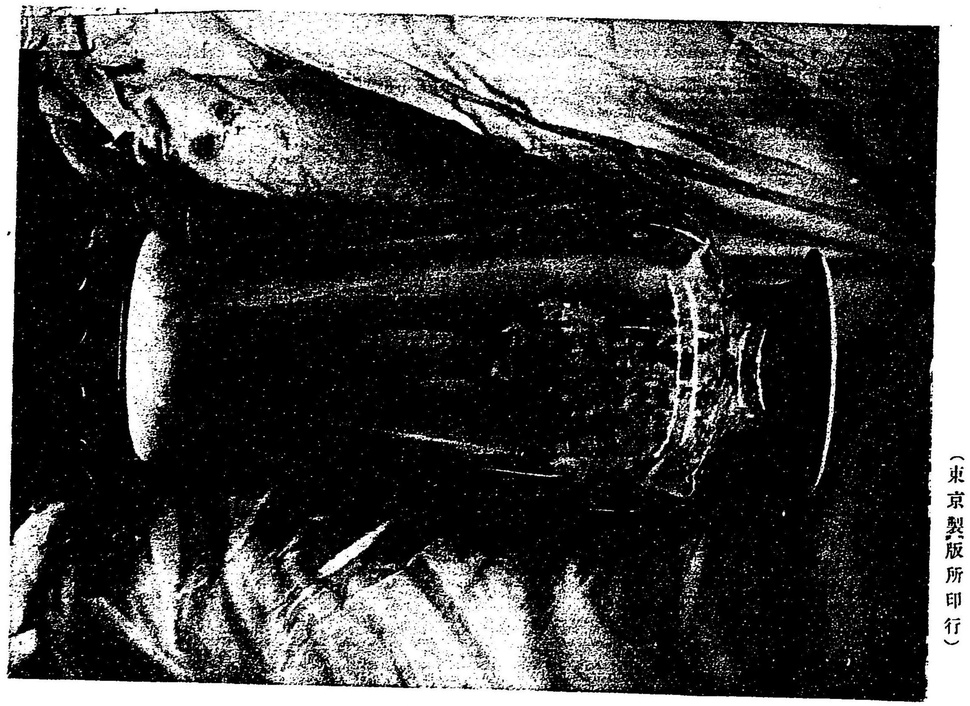
野縣日本洋桃株式會社ノ洋桃植栽ト共ニ事業揚レルカ如キ其實例ナリ之ヲ外國ノ例ニ徵スルモ北米合衆國カリフォルニア洲ノ果實鑵詰ノ如キ「バルチモアー」ノ牡蠣鑵詰ノ如キ佛國ノ綠豆鑵詰ノ如キ其栽培養殖ト相俟チテ世界的商品トシテ多大ノ生産ヲ爲セルモノ皆原料ヲ天然ニノミ依賴セスシテ人工的ニ增殖ヲ圖レルニ由ラスンハアラス今ヤ戰勝ノ結果起業スヘキ地區擴大シ其地ハ天然ノ特産ヲ有スルモノアリ或ハ人工增殖ヲ圖ルヘキモノアリ從來ノ如ク小地域ニ密集シ單ニ寡少ノ天然物ヲ競爭スルカ如キ弊ヲ矯ムルニ非サレハ斯業ノ大發達ヲ期スルコト能ハサルナリ

同部第六十三類中ノ味附海苔モ亦東京ノ名産ナリ今回ハ其出品點數多カラスト雖モ星野由三郎出品ハ調味色澤佳良ニシテ青海苔等ノ混入ナク最モ佳良ナリ凡テ容器ハ鑵入及鑵詰ナレトモ斯ル調味品ハ今少シ優雅ナル容器ヲ工夫スル必要アルヘシ

同部第六十四類蒲鉾半片ニシテ細工蒲鉾中ニハ其意匠技術見ルヘキモノアレトモ蒲鉾ニ至リテハ時期惡シキヲ以テ適良ノ原料ニ乏シキ結果巧妙ノ技術ヲ有スルモノモ良品ヲ出ス能ハサリシハ遺憾トスル所ナルヘシ



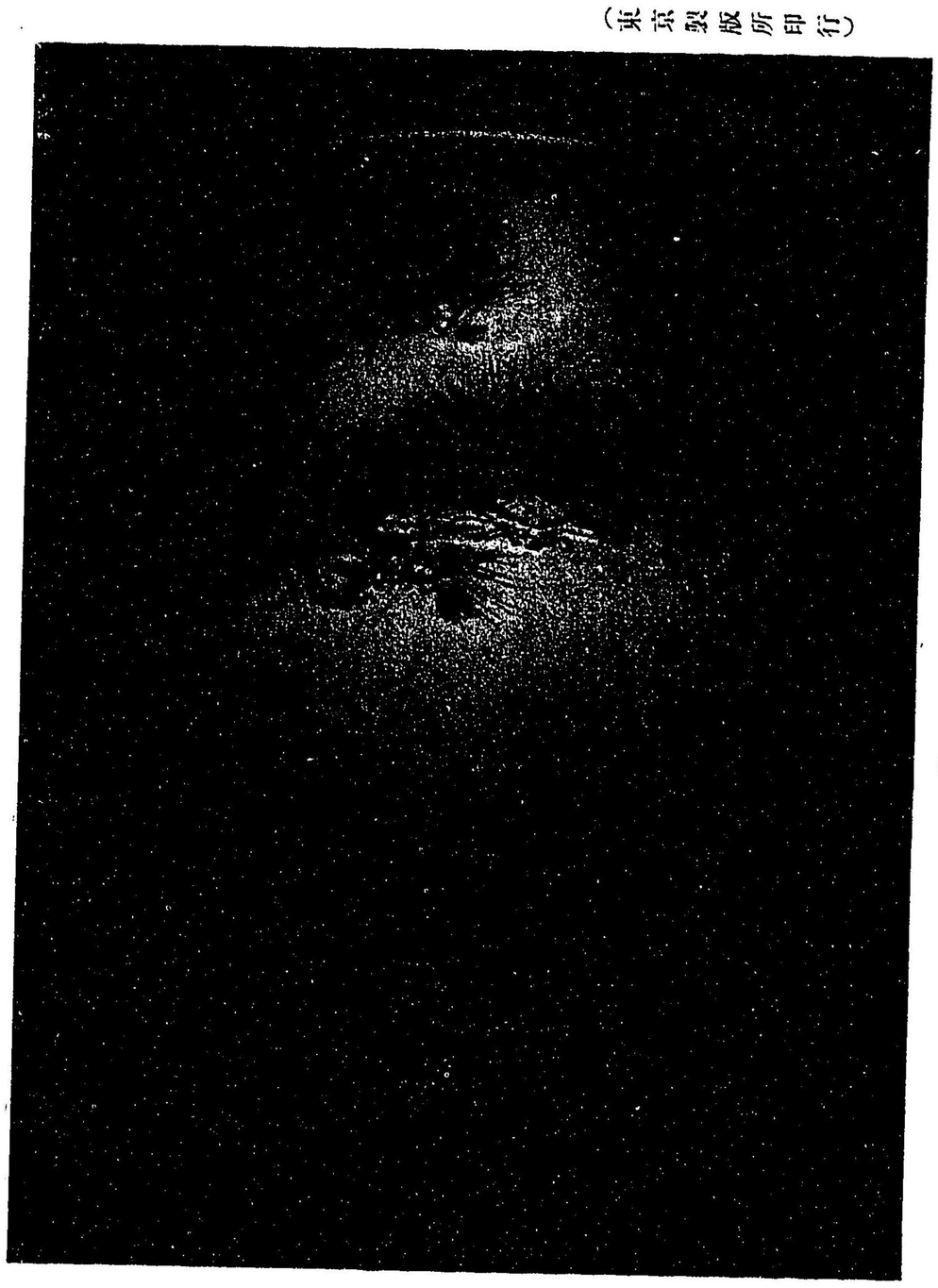
横濱市宮川春山田品



横濱市宮川春山田品

（東京製版所印行）

（東京製版所印行）



東京市服部唯三郎出品

東京市加藤友太郎出品

東京勸業博覽會審査報告卷六

高山審査部

審査部長　高山甚太郎

當部ニ屬スル出品ハ部類目錄第八部化學製品及第九部中ノ窯業品ニシテ第七十三類ヨリ第八十七類ニ至ル十五類ナリトス其出品人員ハ九百九十一、出品點數ハ七千四百十、受賞人員ハ四百四十六ニシテ約四割五分餘ナリトス今各類出品人員、出品點數及受賞人員ヲ表示スレハ左ノ如シ

類	品名	出品人員	出品點數	受賞人員 金	銀	一等	二等	三等	褒狀	計
七三	工業及醫療用藥品	五五	四六一		四	二	七	三	一〇	二六
七四	油、脂、膠、樟腦、薄荷、護謨及其他諸品	一一五	四六一		三	三	二	二	二六	四六
七五	顏料、染料、塗料、糊料	九〇	四〇六		一	一	三	一五	二一	四一
七六	爆發性諸品	一一	六五		三	一	二		三	九
七七	香水、香油、臙脂、白粉、齒磨、石鹼等	一六四	七七五		一	五	八	三一	五一	九六
七八	薰香	九	二七							
七九	紙	一七三	四〇〇							
八〇	化學雜製品	七	五四			一	五	二二	四四	六六
八一	化學製品ニ關スル方法、器具等									
八二	陶磁器	四	七							
八三	煉化、瓦、敷磚、土管等	二三三	二、七一〇							
八四	玻璃	三八	三五九			二	一	一四	二四	三八
八五	七寶	五七	一、三四七			一	一	一三	九	三一
八六	琺瑯	七	一六五							
		六	一三九							

八七	セメント、石灰、漆喰等	二二	三四	一	一	一
計		九九一	七四一〇	四	一六	二二
		九九				五一

右出品ノ審査ニ從事セシ審査官ノ分擔等ヲ掲記スレハ左ノ如シ

類	部長	工業試驗所技師	工學博士	高山甚太郎
品名	審査官			
七三	工業用藥品	主任、報告員、工科大學教授工學博士		江守襄吉郎
		列座	工業試驗所技師	小寺房治郎
		同		山村鋭吉
同	醫療用藥品	主任、報告員、醫科大學教授藥學博士(兼務)		下山順一郎
		列座	東京衛生試驗所技師	慶松勝左衛門
		同	工業試驗所技師	小寺房治郎
七四	油、脂	主任、報告員、工業試驗所技師		辻本滿丸
		列座	農商務技師	樋口眷一
		同		同
同	蠟	主任、報告員、農商務技師		莊司市太郎
		列座		樋口眷一
		同	工業試驗所技師	辻本滿丸
同	樟腦、薄荷	主任、報告員、農商務技師		樋口眷一
		列座		莊司市太郎
		同	工業試驗所技師	辻本滿丸
同	護謨及之ヲ主要原料トスル諸品	主任、報告員、農商務技師		莊司市太郎
		列座		樋口眷一
		同	工業試驗所技師(兼務)	三山喜三郎
七五	顔料	主任、報告員、特許局審査官(兼務)		一川一
同	染料、糊料	列座	農商務技師	莊司市太郎
		同	工業試驗所技師	辻本滿丸
同	塗料	主任、報告員、工業試驗所技師		高松德治郎
		列座	農商務技師	莊司市太郎
		同	工業試驗所技師	本間寅之助
七六	爆發性諸品	主任、報告員、工業試驗所技師(兼務)		三山喜三郎
		列座	特許局審査官	一川一
		同	農商務技師	莊司市太郎
		主任、報告員、下瀨火藥製造所長工學博士		下瀨雅允
		列座	農商務技師	樋口眷一
		同		莊司市太郎
同	燐寸	主任、報告員、工業試驗所技師		辻本滿丸
		列座	農商務技師	樋口眷一
		同		莊司市太郎
七七	香水、香油、臙脂、白粉、齒磨	主任、報告員、東京衛生試驗所技師		慶松勝左衛門
		列座	農商務技師	莊司市太郎
		同	工業試驗所技師	辻本滿丸
同	石鹼	主任、報告員、工業試驗所技師		辻本滿丸
		列座	農商務技師	樋口眷一
		同		莊司市太郎
七八	薫香	主任、報告員、		丹羽圭介
		列座	農商務技師(兼務)	樋口眷一
		同	同	莊司市太郎
七九	紙	主任、報告員、印刷局技師		佐伯勝太郎

八〇　化學雜製品

八一　化學製品ノ製造ニ關スル方法、器具、裝置、材料、標本等

列座　特許局審査官　一川一

同　農商務技師　莊司市太郎

主任、報告員、工業試驗所技師　三山喜三郎

列座　農商務技師　樋口眷一

同　工業試驗所技師　辻本滿丸

主任、報告員、農商務技師　樋口眷一

列座　工業試驗所技師　三山喜三郎

同　農商務技師　莊司市太郎

八二　陶磁器

主任、報告員、京都陶磁器試驗場長　藤江永孝

列座　特許局審査官(兼務)　平山英三

同　東京高等工業學校教授　平野耕輔

八三　煉瓦、瓦、敷磚、土管等

主任、報告員、工科大學教授工學博士　江守襄吉郎

列座　東京高等工業學校教授　平野耕輔

同　京都陶磁器試驗場長　藤江永孝

八四　玻璃

主任、報告員、工科大學教授工學博士　江守襄吉郎

列座　東京高等工業學校教授　平野耕輔

同　京都陶磁器試驗場長　藤江永孝

八五　七寶

八六　琺瑯

主任、報告員、東京高等工業學校教授　平野耕輔

列座　特許局審査官　平山英三

同　京都陶磁器試驗場長　藤江永孝

八五　セメント、石灰、漆喰、石膏、及其製品

主任、報告員、農商務技師　樋口眷一

列座　工科大學教授工學博士　江守襄吉郎

同　東京高等工業學校教授　平野耕輔

工科大學教授工學博士　江守襄吉郎

外國品調査擔當

外ニ審査囑託二十名、審査補助十四名、審査書記五名アリ其分擔及氏名ヲ掲クレハ左ノ如シ

審査囑託

第七十三類　醫藥

醫學博士(兼務)　遠山椿吉

第七十五類　塗料

山崎尚三郎　竹本皐一

後藤忠藏　山吉盛義

鈴木嘉助　松本佐平

市橋與太郎

第七十七類　石鹼

住田多造

村田龜次郎

保々誠次郎

第七十七類　化粧品

平尾贊平

長瀨富郎

佐々木玄兵衛

田中吉兵衛

第七十八類　薫香

負野小右衛門

第八十二類　陶磁器

川本秀雄

農商務技師　樋口眷一

同　莊司市太郎

第八十四類　玻璃

齋藤熊三郎

富山榮吉

後藤清吉

審査補助

第七十三類　工業用藥品

工業試驗所雇　佐藤貞造

醫療用藥品

東京衛生試驗所技手　瀨川林次郎

同　佐藤捨三郎

東京帝國大學醫科大學助手　朝比奈泰彦

第七十四類　油、脂

工業試驗所技手　星忠芳

同　樟腦

大藏省主稅局技手　杉本辰夫

第七十五類　染料、糊料

工業試驗所技手　八田清信

同　塗料

工業試驗所技手　藤井興次

第七十九類　紙

印刷局技手　小林三朔
工業試驗所技手　森嘉吉
印刷局雇　數森淺造

第八十二類　陶磁器

工業試驗所技手　西山貞

第八十三類　煉瓦、敷磚、瓦等

工業試驗所技手　丸田正家

第八十七類　セメント、石灰、漆喰、石膏等

農商務省囑託　長屋修吉

書記

工業試驗所書記　熊谷銓吉
農商務省雇　大鹽芳太郎
工業試驗所雇　藤野鄰次郎
同　田邊貞雄
增田策造

今當部出品ヲ概觀スルニ第八部化學製品中其主要ナルモノハ酸及「アルカリ」、護謨製品、「ペイント」、燐寸、石鹼、洋紙ナリトス卽チ硫酸及「アルカリ」ノ製造ハ所謂化學大工業ニ屬シ特ニ硫酸ハ諸化學工業ニ必要缺クヘカラサルモノナレトモ其產額僅少ニシテ漸ク內地ノ需用ヲ充タスニ過キス曹達類ノ如キハ尙巨額ノ輸入ヲ仰ケリ要スルニ「アルカリ」工業ノ今尙幼稚ナルヲ免レサルハ最モ遺憾トスル所ナリ今回ノ博覽會ニハ一二會社ノ出品アリテ其質頗ル佳良ナルヲ認メタルモ尙頗ル寂寥ノ感アリ護謨製品ハ大阪ニ於ケル內國勸業博覽會ノ出品ニ比スルニ較、進步ノ形跡アリ蓋シ戰時中軍事品ノ需用ハ當業者ニ刺激ヲ與ヘ能ク外國製品ニ代用シ得ヘキ製品ヲ出スニ至レルナラン然レトモ尙未タ研究ノ効果ヲ奏セサルモノアリテ外國品ニ待タサルヲ得サルモノ尠シトセサルヲ以テ一層當業者ノ奮勵ヲ要ス「ペイント」ハ其產額ヲ增加シ品質ニ於テモ外國品ニ比シテ殆ト遜色ナキモノアリ然レトモ需用ノ最モ廣キ船底塗料ノ如キハ之ヲ出品スル者ナク又假漆ノ如キハ未タ外國品ノ輸入ヲ防止スルニ至ラサルヲ遺憾トス燐寸ハ全ク模範ヲ外國ニ取レル新工業ニシテ當業者ハ拮据忍耐千練百磨ノ後當初ノ目途ヲ達シテ其功ヲ奏シ汎ク世用ニ應スルニ至リシノミナラス明治十一年ニハ價額約二萬圓ノ輸出ヲ見ルニ過キサリシニ十年ノ後ニハ一躍シテ殆ト其五十倍ニ達シ更ニ十年後(三十一年)ニハ三百倍ト爲リ昨三十九年ニハ約一千百萬圓ノ巨額ニ及ヒ數年前ヨリシテ已ニ輸出品中重要ナル位置ヲ占ムルニ至レリ從ヒテ其輸出地モ頗ル廣ク獨リ東洋諸國ヲ主トスルノミナラス南洋諸島ハ勿論「サガレン」島、南北亞米利加、歐洲マテモ之ヲ擴張シ其需用ハ殆ト無限ナルカノ盛況ヲ呈シ瑞西、獨逸等ノ製品ト互ニ競爭場裡ニ驅逐シテ遜色ナキノ狀況ナリトス今回ノ博覽會ニ神戸市ニ於ケル主要工場ノ出品アリテ名譽銀牌ノ榮ヲ得ヘキ者三名アリ石鹼ノ製造ニ於テハ進步ノ形跡ヲ認メ得ヘク殊ニ海外輸出額ハ漸次增加ノ傾向ナシトセサレトモ一面內地ニ於テ歐洲製品ハ其質概シテ精良ナリトノ觀念ヲ脫セサルヲ以テ尙化粧石鹼巨額ノ輸入アリ又一面ニハ近年製造家中價格競爭ノ爲メ濫ニ僞和物ヲ混シテ益、內國製品ノ輸入品ニ比シテ劣等ナルコトヲ現實ニシ延イテ海外ニ於ケル輸出品ノ信用ヲ墮スニ至レルハ最モ遺憾トスル所ナリ輓近石鹼ノ製造ニ於テ使用スル材料中最モ緊要ナル香料ハ協定稅率ヲ適用スルニ至リ當業者ノ利益尠シトセサルヲ以テ此際奮勵一番益、精良品ヲ製出シ內ニハ輸入品ヲ防遏シ外ニハ世界ノ競爭場裡ニ於テ大ニ輸贏ヲ爭フノ覺悟ナカルヘカラス紙ノ製造ハ近年長足ノ進步ヲ爲シ外國ニ輸出スル額ハ逐年增加セリ殊ニ今回名譽金牌ヲ擬賞セル富士製紙株式會社ノ如キハ工場ノ規模宏大ニシテ設備完成セルコト啻ニ東洋ニ冠タルノミナラス歐米亦稀ニ見ル所ナリトス然レトモ上等印刷紙ハ尙製造不充分ニシテ巨額ノ輸入アリ將來大ニ發展ノ餘地ヲ有ス其詳細ハ各審查官ノ報告ニアリ第九部窯業品中其最モ重要ナルハ陶磁器、煉化石及「ポルトランド、セメント」ナリトス抑、陶磁器ハ我國固有工業ノ一ニシテ其技ノ精巧ナル夙ニ海外ニ名聲ヲ博シ之カ輸出額逐年增進セルハ頗ル喜フヘキ現象ナリトス當博覽會ニハ輸出ヲ主トスル大製造家ノ出品ナキハ遺憾トスル所ナルモ橫濱市ノ宮川香山、東京市ノ加藤友太郎ノ出品ノ如キハ意匠ノ優雅ト技術ノ精緻トヲ以テ現場異彩ヲ加ヘタリ玻璃及琺瑯工業ニ於テハ敢テ特記スヘキ進步ノ徵スヘキモノナク隨ヒテ一モ名譽賞ヲ擬スヘキ出品ナキハ遺憾トスル所ナリ耐火煉化石ノ出品ハ僅少ナルモ名譽金牌ヲ擬賞セル品川白煉瓦株式會社ノ如キハ近年益、其規模ヲ擴張シ大阪及磐城ニ分工場ヲ設立シテ啻ニ其產額ヲ增加セルノミナラス殊ニ磐城工

場ノ製造方法ノ如キハ實ニ一新機軸ヲ出タセリ「セメント」業ニ於テハ現今需用ノ激進ニ伴フテ製造額ノ大ニ增加スルノミナラス製造ノ方法ニ於テモ多少進歩ノ形跡ヲ認ムヘク特ニ所謂回轉爐ノ應用ノ如キハ一大進歩ヲ呈セルモノトシテ特記スヘキナリ其詳細ハ各審査官ノ報告ニアリ今各類出品審査報告ヲ擧クレハ左ノ如シ

第八部　第七十三類　工業用藥品

報告員　主任　審査官工學博士　江守襄吉郎
列座　審査官　小寺房治郎
列座　審査官　山村鋭吉

此類ニ屬スル出品ハ東京、大阪二府ニ係リ出品人員十三、其點數二百八ニシテ授賞者數等左ノ如シ

府	出品人員	出品點數	授賞者 銀	一等	二等	三等	褒狀	計
東京	一〇	二〇三	一	一	一	一	二	六
大阪	三	五					一	二
計	一三	二〇八	一	一	一	一	三	八

此類中主要ナルモノハ酸類竝ニ「アルカリ」工業製品、化學試藥品及乾餾工業製品等ナリトス

硫酸

現時我邦ニ於ケル硫酸製造工場ハ其全數十有餘ニシテ今回本品ヲ出陳シタルハ僅ニ東京府下關東酸曹株式會社及大阪アルカリ株式會社ノ二アリシノミ而シテ全國各工場トモ近年事業ノ擴張ヲ行ヒタルト又新設サレタルモノアリシ結果全國總製產額ハ之ヲ四五年前ニ比スレハ著ク增大シ來レリト雖モ之レ一ハ近時勃興セル過燐酸肥料ノ製造ニ供セラルルモノニシテ從ヒテ各自工場内ニテ消費セラルルモノ多シ

硫酸製造ノ原料トシテ用ヰラルルモノハ主トシテ含銅硫化礦石ニシテ近時製出額ノ激增シタルト共ニ之カ需用モ從ヒテ增加シ各工場共ニ其蒐集ヲ爭フノ結果當ニ價格ヲ昂進セシメタルニ拘ラス一方ニ於テ品位ノ降下トナリ製造經營上一層ノ注意ヲ要スルモノトナレリ去レハ品質好良ニシテ供給確實且豐富ナル原料ヲ得ンコト今後大ニ務ムヘキナリ

硫酸製造ノ方式ハ何レモ鉛室式ニ依ルモ近來新設セラルルモノハ專ラ切線式法ヲ採用セリ蓋シ「ゲーサツク」塔ノ擴大或ハ硫酸生成反應ヲ促進セシムル目的ノ「ルンゲ」式反應塔ノ如キ鉛室容積ヲ縮少スルノ考案卽チ同一ノ鉛室容積ニ對シ酸ノ產出增額ヲ謀ラントスル工夫ハ多年來種々企テラレ就中前記ノ方法ノ如キハ汎ク世ニ應用サルルコトトナリシ如ク此切線式方法モ亦同一ノ目的ニ出ツルモノナリ而シテ其方法ニ於テハ舊來鉛室ノ方形ナルヲ圓筒形トナシ鉛室内ニ瓦斯ヲシテ螺旋狀運行方向ヲ執ラシメ以テ瓦斯、蒸氣及霧狀體ヲシテ最モ能ク密接セシムルノ機會ヲ與ヘ酸ノ生成ヲ增サントスルニ在リ本裝置ノ如キハ製造裝置上一段ノ進捗ナルヘキハ勿論ナルヘキモ其結果ニ於テ全然舊來ノ方式ヲ排逐シ得ルヤ否ハ未タ明カナラス製造者ハ更ニ學理ニ照シ適宜ノ工夫ヲ加ヘ之カ改善完成ヲ圖ルヘキナリ其他ノ點ニ關シテハ特ニ記スヘキモノナシ

要スルニ我邦現時ノ硫酸製造方式ハ前記ノ如ク鉛室式ニ依ルモノニシテ更ニ高度（ハイペルセント）ノ硫酸製造ノ企ヲ見サルハ遺憾ナリトス將來ニ於ケル化學工業ノ發達ヲ想ヘハ今日ニ於テ斯種ノ企業未タ早シトセス今回關東酸曹株式會社ノ出品中發煙及無水硫酸ノ出品アリタルモ此等ハ現代工業的製品トシテ價値尠カルヘシ

アルカリ工業製品

此出品ハ關東酸曹株式會社ノ一ノミニシテ現時「アルカリ」製造ニ從事セル者日本舍密製造株式會社及本會社ノ二アルノミ其製造總額ハ未タ全國需用ノ半ヲ滿タスニ足ラスシテ大部分ハ尙海外ヨリノ輸

入品ニ依ル

アルカリ工業製品ハ一般製造工業ニ密接ノ關係ヲ有セルモノニシテ諸般ノ工業ハ追年進捗シツツアルニ拘ラス獨リ本工業發達ノ之ニ伴ハサルノ嘆アルニ就キテハ少シク其根源ヲ述ヘサルヘカラス抑、本邦ニ於ケル該工業ハ明治十八年大藏省印刷局内ニテ企テラレタルヲ嚆矢トシ爾來大阪府ニ山口縣ニ數多ノ新設アリシモ多クハ中絶ニ歸シ當時現存スルモノ前記ノ二會社ニ過キス如斯ハ一ハ外國製品トノ競爭ニ依ルモ一ハ本工業唯一ノ原料タル食鹽ノ價格ニ依ルモノニシテ獨リ「アルカリ」工業ノミナラス一般製造工業ノ經濟上製造費ヲ最低ナラシムヘキハ勿論ナルモ同時ニ適當ノ原料ヲ最モ廉價ニ得ル方法ヲ講スヘキハ最先ノ急務ナリトス而シテ「アルカリ」製造ノ發起點タルヘキ食鹽ハ前時ハ專ラ内國製鹽ヲ使用セシモ本來内地ノ製鹽方法ハ勞力費用ヲ要スルコト多ク之カ改良調査ハ屢行ハレツツアルニ拘ラス鹽價ハ追年騰貴シ來ル爲メ勢ヒ當業者ハ遙ニ低廉ナル臺灣鹽又ハ外國鹽ヲ使用スルコトトセリ然ルニ再昨年食鹽專賣法ノ實施サルルヤ其價格ハ一躍シテ二倍以上トナレリ之ヲ歐洲製造家ノ使用スル鹽價ニ比スレハ海外「アルカリ」製品ノ萬里ヲ超ヘテ輸入サレ來ルモ理由アルコトナリ内地當業者ノ苦痛ヲ感スルモ當然ノ事ナリ本來彼地ニ在リテハ岩鹽ノ如キ或ハ泉鹽ノ如キ食鹽ハ廉價ニ且豐富ニ供給サルヘキ自然ノ便アルト且製造上多年ノ經驗アルニ比シ尚保護奬勵ノ要アル我邦アルカリ工業カ現在ノ狀況ニ留マルハ其因明カナラストセス蓋シ法ノ改變ハ一朝ニシテ達シ得ルモ製造方法ノ改良ハ多年ノ經驗ヲ俟タサルヘカラス當業者ハ不斷ノ注意ヲ怠ルヘカラサルコト勿論ナリ

試藥品

此出品ハ其數極メテ多ク本類總出品ノ過半數ヲ占メリ其種類亦多シ然レトモ此等ノ製品ハ多クハ輸入品ヲ基トシ單ニ精製工程ヲ施シタルニ止マルカ又ハ此等ヲ配合シテ造レルモノニシテ創製品トシテ見ルヘキモノ尠シ

元來試藥品ノ性質トシテ其種類ハ極メテ繁多ニシテ其製造額モ酸類竝ニ「アルカリ」工業製品ノ如ク一時ニ噸ヲ以テ數フル如ク多大ナラサルカ故ニ試藥品製造工業ノ裝置規模ハ他ノ大工業ニ比スレハ恰モ其試驗室ノ大サニ過キサルヲ常トス從ヒテ其製造裝置モ亦大規模ノモノト多少其趣ヲ異ニスルノ要アルヘキハ明カナルモ現在ノ如ク小實驗的裝置ヲ直ニ應用スルカ如キハ製造工業トシテ實施スルニハ當ヲ得タルモノト言ヒ難シ當業者宜シク製造裝置ニ關スル智識ヲ求メ之カ改善ヲ謀ルコト將來ノ發展上必要ノ事ナリトス

乾餾工業製品

此出品ハ木材乾餾製品及石炭瓦斯製造副生品ノ二種アリ前者ハ古來ヨリ行ハルル木炭製造裝置ノ一部ヲ改メ薫燒ニ際シ發生スル瓦斯蒸氣ヲ蒐集利用スルノ目的ニ出テタルモノニシテ之ニ依リテ諸般製造工業ニ必要ナル木精「アセトン」醋酸等ノ製品ヲ得ントスルニ在リ此種ノ事業ハ年々各地ノ炭燒竈ニ應用サレ粗製醋酸石灰ノ產額モ次第ニ增加シ來レリ尤モ此等ノ物體ハ主產品トシテ製出サルルニ非サルモ尚裝置ノ改善ニ意ヲ加ヘ製品品位ヲ好良ナラシムルヲ要ス

本來製造工業ニ於テハ其使用スル原料ヲ能フ限リ充分ニ利用シ得ルニ從ヒ其價値ハ高メラルヘク利益モ從ヒテ多カルヘキナリ卽チ製出サルヘキ物體ハ主製品ナルト副生品ナルトヲ問ハス共ニ利用シ得ヘキモノナラサルヘカラス其間些少ノ廢棄物ヲモ生スルコトナカラシムルヲ要ス廢棄物ハ全然損失ヲ起シ利益ヲ殺クヘキモノナレハナリ木材ヲ乾餾スルニ當リ此等ノ副生品ヲ利用スヘキハ當然ノ事ナリ石炭瓦斯副生品ノ如キ亦然リ石炭ヲ乾餾スレハ瓦斯ヲ得ルト同時ニ瓦斯液「タール」骸炭ヲ傍生スヘシ「アムモニア」ハ收メテ肥料ニ供スヘク骸炭ハ燃料トシテ直ニ需用アリ「タール」ニ至リテハ更ニ蒸餾分別サレ諸般工業殊ニ色素製造ノ重要原料トナル但副產物ノ度量僅少ニシテ到底一ノ工業トシテ成立シ能ハサルトキニ於テハ之ヲ廢棄物ト同一ノ取扱ヲ爲ササルヘカラサルコトアリ今回此種ノ製品トシテ東京瓦斯株式會社ヨリ石炭酸、硫酸「アムモニア」「ベンツオール」各種「ナフタリン」「クレオソート」油

其他ノ出品アリ品質孰レモ好良ニシテ其製造ハ漸ク明治三十四年以來ノコトナリトス元來我邦ニテハ石炭瓦斯工業ハ殆ト皆無ト云フヘシ然ルニ首都タル東京市ニ在リテハ已ニ數十年來存立シアリシニ拘ラス其副生品タル「タール」蒸餾工業ハ僅ニ數年前ニ開始サレタルモノナリ是レ畢竟上述ノ理由ニ依ルヘキモ近時各地ニ石炭瓦斯製造業ノ設立セラルルアリ加之近時骸炭製造ノ副生品トシテモ更ニ多量ノ「タール」ヲ得ルコトトナルヘキヲ以テ今ニ於テ一層之カ利用ノ方法ヲ講スルハ將來工業ノ發達ニ貢スルコト蓋シ尠カラサルヘシ

報告員　主任　審査官藥學博士　下山順一郎
列座　審査官　慶松勝左衛門
列座　審査官　小寺房次郎

醫療藥品

本類ニ屬スル出品ノ種類點數及府縣ノ細別ヲ表記スレハ左ノ如シ

甲　藥局製劑及其類似品

丁　幾劑　十六種　越幾斯劑　六種　錠劑　三十六種
丸劑　二十種　舍利別劑　二種　軟膏類　二種
藥用石鹼類　一種　藥用石鹼類似品　十五種　精類　四種
水類　四種　酒類　一種　綿類　五種
ガーゼ類　六種　コロヂウム　一種　粉末類　二種
カルルス泉鹽　一種　阿片及其製劑　七種
此他ニ參考品トシテ外國製ノ左ノ三品アリ
ブロモコル　一種　レゾルピン　一種　タンノコール　一種
乙　化學藥品
ヨード　八種　ヨードカリウム　四種　ヨードナトリウム　二種
ヨードフォルム　四種　ヨード灰　一種　昇汞　一種
甘汞　一種　白降汞　一種　赤降汞　一種
醋酸カリウム　一種　クロールカリウム　一種　クロール亞鉛　一種
安息香酸ナトリウム　一種　石炭酒精　一種
水化石灰　一種　煆性石灰　一種　硫酸ナトリウム　一種
外ニ參考品トシテ外國製品左ノ一アリ
クロロフォルム　二種
丙　雜種藥品
ペプシン　一種　サフラン　一種　除蟲菊　三種
滿俺鐵ペプトン　一種　綿帶材料　十四種　アルポース　二種
懷爐灰　二種　一安眠灰　二種　蚊除香　三種
發熱粉　一種　湯ノ花　一種　鐵冷鑛泉　一種
チベット無色鑛泉　一種
更ニ之ヲ府縣ニ區別シ其出品點數、出品人員、受賞者數等ヲ表記スレハ左ノ如シ

府縣名	出品點數	出品人員	受賞者 名譽銀牌	一等	二等	三等	褒狀	計
東京	二〇五	三一	一		五	二	三	
三重	三	一						
長野	一	一					一	
大阪	一七	三		一				
大分	一	一						
和歌山	四	一						
北海道	一	一						
臺灣總督府	二一	三						

抑、藥品ト稱スルモノハ其範圍甚タ汎ク動植礦ノ三大界ヨリ出ツル天産物及之ニ人工ヲ加ヘテ調製シタル物質ヨリ成ルト雖モ茲ニ便宜ニ由リ之ヲ分類シテ藥局製劑及其類似品、化學藥品及雜種藥品ノ三種トセリ今左ニ此分類ニ從ヒ本博覽會出品ニ關シテ一言セン

藥局製劑及其類似品

元來本部類ニ屬スル製品ハ其製造法概シテ簡易ニシテ丁幾、越幾斯ノ如キハ其製造ニ多少ノ經驗ト熟練トヲ要スルモノナレトモ其品質ハ主トシテ原料ノ精粗ニ由リテ差等ヲ生スルモノニシテ原料ヲ外國ニ仰クモノニ在リテハ其選擇ニ充分ノ意ヲ用フルニ非サレハ從ヒテ其製劑ノ純良ヲ期シ難シ丁幾、越幾斯ハ目下殆ト皆本邦ニ於テ之ヲ製造シ內國ノ需用ヲ充タシ輸入品ハ全ク其跡ヲ絕ツニ至レリ然ルニ丸劑錠劑ノ製造ハ精巧ナル器械ト多大ノ經驗ト熟練トヲ要シ殊ニ近來歐米諸國ニ於テハ其携帶ニ便ナルト秤量ノ勞ヲ省クノ便アルトニヨリ錠劑ノ進步發達ハ甚タ著キモノアルニ拘ラス本邦ノ製品ハ未タ幼稚ニシテ殊ニ糖衣ノ錠劑等ニ至リテハ色澤形狀等ノ裝成遙ニ舶來品ニ及ハサルハ遺憾ナリト謂フヘシ

化學藥品

本類製品ニ於テ其製造ノ發達トシテ大ニ稱賛スヘキモノハ「ヨード」及其製品ナリ之カ主因ハ本邦ハ四圍海ニ面シ原料タル海藻ノ饒多ナルト工夫賃金ノ廉ナルトニ在リ然ルニ茲ニ患フヘキモノハ年々海藻濫採ノ結果終ニハ原料ノ缺乏ヲ來スト一方ニハ南米、智利硝石製造ノ副產物タル「ヨード」事業ハ目下世上ノ需用ニ應シテ其製造額ヲ調節シ時價ヲ保チツツアルモ本邦ニ於テ一朝多額ノ「ヨード」ヲ製出スルニ至ランカ南米ニ於テ「ヨード」ノ增製ヲ企ツルハ必然ニシテ勢茲ニ至ルトキハ本邦「ヨード」事業ニ至大ノ影響ヲ及ホスハ理ノ正ニ覩易キモノナリ故ニ當路者ハ此點ニ關シ大ニ警戒ヲ加フルノ必要アルヘシ「ヨード」事業ニ關シテ一頭地ヲ拔ケルハ大阪ノ廣業合資會社ニシテ東京ニ於ケル鈴木、加瀨、棚橋等ノ熟練ナル「ヨード」業者モ今ヤ協同シテ化學工業會社ヲ設立スルニ至リタレハ本業ニ於ケル進步ハ日ヲ期シテ待ツヘキモノアラン

次ニ本邦ニ於ケル化學製品トシテ茲ニ特擧スヘキモノハ水銀ノ製品トス大阪田邊五兵衞ノ出品ノ如キハ大ニ見ルニ足ルモノナリ

又本邦製藥事業ノ發達トシテ記スヘキモノハ酒精ノ釀造是ナリ抑、酒精釀造ノ事業ハ他ノ製造事業ニ關聯セス單獨ニ企圖シ得ヘキモノナルノミナラス其原料タル甘薯及馬鈴薯ニ乏シカラス目下必須ノ事業ニシテ近來各地ニ製造所ノ設立ヲ見ルニ至レリ已ニ大阪ニ在ル大日本製藥株式會社ニ於テハ酒精釀造ニ着手シ日尙淺キニ拘ラス其成績ノ觀ルヘキモノアリ元來酒精業ノ勃興スルヤ之ニ伴フテ各種ノ化學工業ノ進步ヲ來スノミナラス酒精蒸餾殘渣ヲ飼料トシテ牧畜事業ノ續興スルヤ必然ニシテ其結果肥料ヲ產生シ牛乳ノ產額ヲ增加シ同時ニ練乳ノ業ヲ簡易ナラシメ「コンデンスミルク」ノ輸入ヲ防遏スルニ至ルヘシ

其他ノ化學藥品製造事業殊ニ有機化合品ニ至リテハ他ノ工業ト互ニ連帶シテ進步スルモノニシテ目下歐米ニ於テ盛ニ世ニ紹介セラルル有機性新藥ノ如キモ瓦斯事業ノ副生物タル「タール」及色素ノ事業ト互ニ關聯スルモノニシテ本邦目下ノ如キ瓦斯工業狀態ノ下ニ在リテ其興ラサルヤ宜ナリト謂フヘシ

雜種藥品

此種ノ出品ニ於テ特ニ記スヘキハ僅々數種ニ過キス東京荒岡三五郎出品ノ「ペプシン」ハ啻ニ品質精良ナルノミナラス其製造額モ頗ル多ク近來外國品ノ減少スルニ至リタルハ亦本邦製藥事業ノ一進步トシテ數フヘキナリ其他「サフラン」及除蟲菊ノ培養ハ逐次進步ヲ示シ漸々外國品ヲ驅逐シテ今ヤ殆ト全ク外品ヲ市場ニ見サルニ至リシノミナラス其品質モ亦頗ル佳良ナリ

報告員　主任　審査官　辻本滿丸
列座　審査官　樋口眷一
列座　審査官　莊司市太郎

此種ニ屬スル出品ハ二府六縣及臺灣ニシテ出品人員七十九名、出品總數百〇四點ナリ其細別左ノ如シ

府縣	出品人員	出品點數	受賞者數 名譽銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	計	出品人員ニ對スル授賞者割合
東京	二八	四一	—	—	—	三	一二	一五	五三、五七
大阪	一	二	—	一	—	—	—	一	一〇〇、〇〇
新潟	一	二	—	—	—	—	—	—	
栃木	一	四	—	—	—	一	—	一	一〇〇、〇〇
靜岡	二	二	—	—	—	一	一	二	一〇〇、〇〇
宮城	一	三	—	—	—	—	—	—	一〇〇、〇〇
島根	一	一	—	—	—	—	一	一	一〇〇、〇〇
熊本	一	一	—	—	—	—	—	—	一〇〇、〇〇
臺灣	四三	四八	—	—	—	—	—	—	二、三三
合計	七九	一〇四	—	一	—	六	一六	二三	二九、一一

更ニ之カ種類別ヲ揭クレハ左ノ如シ

油脂出品點數

府縣	項目	菜種油 白絞油	荏油	亞麻仁油	胡麻油	落花生油	椿油	豚脂	其他	合計
東京		二	一	一	一	—	—	二四	—	四一
大阪		二	—	—	—	—	—	—	—	二
新潟		—	—	—	—	—	—	—	—	—
栃木		—	—	—	—	—	—	—	—	—
靜岡		—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮城		—	—	—	—	—	—	—	—	—
島根		—	—	—	—	—	—	—	—	—
熊本		—	—	—	—	—	—	—	—	—
臺灣		二	—	—	—	一九	二六	—	—	二八
合計		九	三	三	二	二七	二〇	二八	一	一〇四

即チ出品種別ヲ擧クレハ植物油ニハ菜種油、白絞油、荏油、亞麻仁油、胡麻油、落花生油、椿油アリ動物油ニハ豚脂アリ其他「テレビン」油一種ト油脂ノ加工品ナル錆止油、靴油、自轉車用油等アリ而シテ出品ハ臺灣ヲ除キ東京府其大部分ヲ占メ就中椿油ノ甚タ多數ナリシハ從來其例ヲ見サル所ナリトス

本邦ニ於テ行ハルル油脂製造法ヲ見ルニ大ナル工場ニ在リテハ概ネ汽力或ハ電力ニ依リ滓式機械ヲ使用スルニ至リタルモ尙舊來ノ搾油裝置ヲ用ユルモノ甚タ多シ此等ハ可及的精良ナル器具ヲ使用シ品質一定ナル良油ノ製出ニ勉メサルヘカラス又近來抽出製油法ヲ行フモノ稍〻增加セルニ拘ラス本回出品中ニハ一モ其製品ヲ認メサリシ

菜種油ハ本邦產植物油中產額ノ最多ナルモノニシテ明治三十八年ノ統計ニ徵スルニ其數量十九萬四千三百〇一石、價額七百六十五萬九千七百九十一圓ニ達セリ之ヲ精製シタルモノハ白絞油ニシテ器械用、食料用、點燈用トシテ其用途廣キモノナリ出品ハ東京、大阪ノ二府及新潟、栃木、宮城ノ三縣ニシテ其點數ハ少カリシモ品質ハ良好ナルヲ認メタリ臺灣出品ニ係ルモノハ酸價五ニ達シ且不快ナル變敗臭ヲ有シ良質ナリト云フコトヲ得ス

白絞油ハ東京、大阪ノ二府及宮城縣ヨリ出品セルモノ僅ニ三點アリ內一品ハ外觀ノ佳良ナリシモ酸價三、八六ヲ有シ器械用トシテ使用ニ堪ユヘキヲ認メタリ蓋シ現今白絞油製造ノ最良方法トセラルルモ

ノハ所謂灰直シ法ニシテ蜆灰及棉實灰ノ混合物ヲ用キテ油中ノ夾雜物ト遊離酸トヲ除去スルニ在リ然ルニ當業者ノ此方法ヲ行フヤ遊離酸ノ量ト灰ノ用量トニ就キ深ク注意セサルヲ以テ或ハ過剩ノ灰ヲ使用シテ無益ニ油ノ損失ヲ來シ或ハ用量不足ニシテ遊離酸ヲ除去シ得サルコト稀ナリトセス油中ノ遊離散ノ量卽チ其酸價ヲ檢定スル如キハ高價ナル器具ヲ要スルニ非ス少シク實驗ヲ經ハ必シモ困難ナラサルヲ以テ宜シク之カ檢定ヲ行ヒ其多少ニ應シテ灰ノ用量ヲ加減シ又自家製油ノ品位ヲ知ル爲メ酸價ヲ檢シ前記ノ如キ不良品ノ製出ニ陷ラサル樣注意スルヲ得策トス

荏油ハ東京府、栃木、宮城ノ二縣ヨリ出品アリ孰レモ良質ナルヲ認メタリ此油ハ本邦固有ナル油類ノ一ニシテ明治三十八年ニ於テ六千三百六十二石、價額三十六萬四千七百二十六圓ヲ產シ栃木縣ハ其主產地ナリ乾性甚タ强キ油ニシテ其性狀良ク亞麻仁油ニ類似セルモノナリ

亞麻仁油ハ東京府及栃木縣ヨリ出品アリ原料ハ主トシテ北海道產ナリトス品質ハ共ニ純良ナリシモ精製法不完全ニシテ其乾性ヲ充分發揮セサル嫌アルハ惜ムヘシ一般ニ本邦產亞麻仁油ハ外國油ヨリ劣ルモノノ如ク思考セラルルハ油中ニ諸種ノ夾雜物ヲ含ミ爲メニ乾性ヲ阻礙スルコト重ナル原因ニシテ外國品ハ油ヲ長時日間靜置シ或ハ適宜ノ精製法ヲ行ヒ此等夾雜物ヲ除去セルモノトス故ニ本邦產油ニモ或ル精製法例ヘハ簡單ナル白土精製法ノ如キヲ行ヘハ外國品ニ劣ルコトナキ品質ノモノヲ得ルコト疑ナシト信ス本油ノ產額ハ未タ甚タ少ク一昨年ノ數量千〇九十六石、價額五萬六千五百三十六圓ニ過キサルモ今ヤ塗料用トシテノ亞麻仁油輸入額ハ昨三十九年ニ於テ二百九十八萬七千百八十七斤、價額四十九萬千百二十二圓ノ多キニ達シ將來益〻增加スヘキハ言ヲ俟タス此際產額ノ增進ト製油ノ改良ヲ講シ輸入品ヲ防遏スルハ急務ト言ハサルヘカラス

胡麻油ハ東京府、栃木、宮城二縣ノ外臺灣ヨリ多數ノ出品アリ此一府二縣產ノモノハ良好ニシテ食用ニ適セリ臺灣產ハ着色及夾雜物多ク酸價大ニシテ往々十ヲ超過スルモノアリ此ノ如キハ食用トシテ使用ニ適セサルモノトス從來ノ習慣ニ依レハ胡麻種子ハ多少過度ニ炒リ特有ノ薰氣ヲ油ニ附與スルヲ當トセリ是レ敢テ咎ムヘキニ非スト雖モ過炒シタル種子ヨリ搾取セル油ハ着色增加スルノミナラス遊離酸ノ量從ヒテ增加シ食用トシテ其味ヲ損スルヲ以テ之ヲ考慮セサルヘカラス概シテ食用油ハ其酸價二以上ナルハ採ラサル所ナリ

臺灣出品ニ係ル胡麻油ノ一種ニ烏麻油ト稱シ黑色粘稠ニシテ甚シク薰氣ヲ有スルモノアリ是レ特ニ過炒シタル胡麻種子ヨリ得タルモノニシテ食用竝ニ藥用ニ供スト云フ

落花生油ハ靜岡縣ヨリ一名臺灣ヨリ出品多數アリ靜岡縣ノモノハ良質ナリシモ臺灣產ノモノハ色澤香味不良ニシテ且遊離酸ノ多量(酸價八乃至二二)ヲ含ミ良品ト稱スル能ハサリシハ甚タ遺憾トスル所ナリ落花生ハ臺灣ノ如キ暖地ヲ好產地トシ現今ノ產油額少シトセサルニ斯ク良質ノ油ニ乏シキハ當業者ノ製油方法ヲ解セス貯藏中原料ヲ腐敗セシメ或ハ搾取後夾雜物ヲ除去セサル等ニ依リ油ノ分解ヲ惹起セシメ遂ニ此ノ如キ結果ヲ見ルニ至レルナラン將來其方法ヲ改良シ良質ノ油ヲ產出センコト最モ矚望スル所ナリ

椿油ハ本邦特產油ニシテ不乾性油ニ屬シ其性狀阿列布油ニ酷似ス卽チ髮油、器械油或ハ食用油トシテ適當ナルモノナリ今回ハ本邦主產地トシテ知ラルル伊豆諸島ノ內大島、新島、三宅島、八丈島ヨリ多數ノ出品アリ其他新潟、靜岡、熊本ノ三縣ヨリモ出品アリ之ヲ通覽スルニ概シテ良質ナルモ間々遊離酸ノ含量甚タ多クシテ酸價一七ニ達セルモノアリ或ハ混濁シテ不快ナル臭氣ヲ放ツモノアリ椿油ハ甚タ變敗シ易キモノナルヲ以テ搾取後速ニ油中ノ水分及夾雜物ヲ除去スルヲ要ス又變敗セル種子ヲ混用スルトキハ油質ヲ損スルコト甚シキヲ以テ深ク之カ選別ニ注意セサルヘカラス

豚脂ハ東京府及臺灣ヨリ各一ノ出品アリ遊離酸殆ト無ク品質良好ナルヲ認メタリ

「テレビン」油ハ島根縣ヨリ出品アリ塗料用トシテ使用シ得ヘキヲ認ム將來產額ノ增加ニ勉ムヘキナリ

油脂加工製品ハ一層研究ヲ行ヒ良品ノ製出ニ努力センコトヲ望ム

本回ノ油脂出品ハ本邦產普通油類ナル桐油、棉實油、大豆油等ヲ缺キ又全國ニ亘リタル出品ヲ見サリシ

ハ遺憾トスル所ナレトモ良品少カラサリシハ喜フヘキナリ然レトモ白絞油製造其他一般製油方法ニ就キ考究スヘキ點少カラス又臺灣出品ハ其製油方法ニ於テ殊ニ改良ノ必要ヲ認ム元來油脂ノ製造ハ多少ノ化學的智識ヲ要スルモノナルニ拘ラス當業者中ニハ其性狀ノ一端タモ辨セサル者多キカ如シ是レ本業進歩ノ比較的遲々タル一原因ナラストセス故ニ宜シク之カ養成ニ留意シ製造器具等ノ器械的改良ト相待チ改善進歩ノ實績ヲシテ愈〻顯著ナラシメンコトヲ希望スルモノナリ

油脂參考品トシテ臺灣總督府恒春熱帶植物殖育場ヨリ蓖麻子油「キユルカス」油及「ヤラボ」油ノ出陳アリ「キユルカス」油ハ其性狀蓖麻子油ニ類似ス「ヤラボ」油ハ其性狀不明ナレトモ是レ或ハ蓖麻子油ニ類スルモノナランカ

蠟及蠟燭

報告員　主任　審査官　莊司市太郎
列座　審査官　樋口眷一
列座　審査官　辻本滿丸

本類出品ハ東京府外一府五縣及臺灣ニシテ其人員及點數等ハ左ノ如シ

蠟及蠟燭出品人員、點數及授賞者表

府縣名	出品人員	出品點數	授賞 金銀	一等	二等	三等	褒狀	計
東京	三	一七	—	—	—	—	—	—
福島	一	一	—	—	—	—	—	—
鳥取	一	一	—	—	—	—	—	—
大阪	一	一〇	—	—	—	—	—	—
德島	一	七	—	—	—	—	—	—
愛媛	一	一	—	—	—	—	—	—
福岡	八	八	—	—	—	—	—	—
臺灣	六	八	—	—	—	—	—	—
計	二二	五三	—	—	二	四	六	—
			—	—	一	三	七	一一

本蠟ハ本邦ノ特產品ニシテ其製造業ハ古來重要視セラレ我固有工業ノ一ナリトス往時各藩競フテ櫨樹ノ栽培、木蠟ノ蠟造ヲ奬勵シタル結果近ク明治二十年前後ニ至ルマテ毎歲其生產額少クモ五百萬貫ヲ下ラサリシ爾來本業ハ諸工業ノ發展ニ伴フ能ハスシテ生產費ノ昂騰ハ遂ニ進運ヲ阻害シ明治三十五年ニ至ルマテハ櫨樹ノ伐採相次キテ起リ爲メニ產額著ク減少シ價格ノ倍加セル今日ニ於テスラ尙年產額三百五十萬貫ヲ超エサルニ至レリ櫨樹減少ノ結果市場ノ在荷漸ク拂底ヲ告ケ明治三十六年ニ至リ價格次第ニ昂騰シ加フルニ海外ノ需用增加ニ因リ同年下半期ニ及ヒテ前後未聞ノ高價ヲ現ハセリ嘗テ每百斤十一二圓ノモノ一躍シテ三十五六圓ヲ唱フルニ至レリ元來本邦ニ於テハ木蠟ハ鬚附及蠟燭ノ唯一ノ原料ナリシニ鬚附需用ノ減少ト把拉賓蠟輸入以來內地ニ於ケル木蠟ノ需用著ク減少シ從ヒテ其價格常ニ沈降シ諸物價ノ標準以下ニ在リテ萎靡振ハサリシモノ在荷ノ減少海外需用ノ增加ハ反動的大騰貴ヲナシ當業者始メテ愁眉ヲ開クニ得タリ惟フニ木蠟ノ將來ハ內地ノ消費品トスルヨリハ寧ロ貿易品トシテ之カ發達ヲ謀ルヲ以テ利益トナスヘシ何トナレハ木蠟ハ世界ニ於テ唯日本ノ特產品トシテ海外市場ニ歡迎セラルルノミナラス廣大ナル用途(艶附資料、蠟燭資料、塗料資料「バルミチン」酸原料等)ヲ有スルヲ以テナリ然レトモ海外市場ニ在リテハ「パラフヰン」其他ノ競爭品アルヲ以テ價格ノ如何ニヨリ將來頗ル有望ナル貿易品ナリ

內地生產額表(生蠟)

年次	製造戶數	數量	價額	單價
明治二十九年	二、六二九戶	三、四八一、〇七五貫	二、七二四、三〇九圓	〇、七六錢
同三十年	二、六一九	三、一一四、五五三	二、六〇四、二九九	〇、八四
同三十一年	二、七八二	三、〇九〇、三一五	二、五四二、九七九	〇、八二

年次	數量(貫)	價額(圓)	單價(圓)
明治三十二年	一、八七五	二、八九四、八九四	〇、八二
同三十三年	二、〇〇八	二、四四八、一七五	〇、六九
同三十四年	二、二〇一	一、六八一、八六一	〇、七一
同三十五年	二、一四四	二、二五二、四八九	〇、九七
同三十六年	二、〇九四	四、三〇一、二四七	一、三八
同三十七年	一、九二六	三、一六六、六一七	一、一八
同三十八年	二、〇三〇	四、六三五、二一一	一、四二

内地生産額表(晒木蠟)

年次	數量(貫)	價額(圓)	單價(圓)
明治二十九年	三、五四七、三三六	二、八九四、八九四	〇、八二
同三十年	三、五四六、五三七	二、四四八、一七五	〇、六九
同三十一年	二、三三五、一九九	一、六八一、八六一	〇、七一
同三十二年	二、三二五、五四八	二、二五二、四八九	〇、九七
同三十三年	三、一一五、一〇三	四、三〇一、二四七	一、三八
同三十四年	二、六九一、〇七〇	三、一六六、六一七	一、一八
同三十五年	三、二五五、九四二	四、六三五、二一一	一、四二
同三十六年	一、八七五	七六八、八三七	一、〇二
同三十七年	一、〇三二、四六九	六四六、〇九三	〇、九三
同三十八年	二、三八五、六〇八	一、〇〇〇、四一三	一、〇〇
		一、三九六、九〇三	一、三九
		二、七二二、七九九	二、一七
		一、八一〇、五二三	一、七五
		二、七二八、七六三	一、一四

木蠟輸出累年表(晒蠟)

年次	數量(貫)	價額(圓)	單價(圓)
明治二十九年	二、一四八、三四四	三七一、七〇一	六四二、二一九
同三十年	四、二〇五、八四三	七三〇、五七六	五六一、四三五
同三十一年	三、七八九、七九一	六〇九、七六〇	六一〇、三七〇
明治三十二年	四、五六九、六一三	二、七〇二、〇八七	五、〇一
同三十三年	三、七〇二、〇八七	一、八一〇、五二三	〇、四八
同三十四年	四、〇四九、三一七	二、七二八、七六三	〇、六七
明治三十五年	四、二一六、〇一七	七八九、八七四	一、八七
同三十六年	三、五二一、四六六	一、〇六四、四七六	〇、三〇
同三十七年	三、五一七、五六五	一、一〇二、九九六	〇、三一
明治三十八年	三、二五八、一八八	八〇四、二九九	〇、二五
同三十九年	三、九一三、六二六	一、〇九二、四四七	〇、三四

蜜蠟ハ由來本邦ニ於ケル生産僅少ニシテ生産僅少ニシテ生産地亦一局部ニ偏シ未タ重要物産ノ伍伴ニ列スル能ハサルハ遺憾ナリ蜜蠟ノ用途ハ工業上大ナル需用ヲ有スルモノナレハ今後斯業ノ發展ヲ企圖セサルヘカラス

蠟燭

本邦固有ノ蠟燭ハ木蠟ヲ原料トセル卷掛(或ハ手掛)蠟燭ナルモノニテ蠟燭トシテ其品位ヲ論スル時ハ劣等ナルモ往時實用上ノ利便ヨリ斯ノ如ク製作セラレタルナリ然ルニ世ノ進運ハ漸ク卷掛蠟燭ノ需用時代ニ遠サカリ外觀美ニシテ耐久力アリ光澤鮮明ニシテ煩累ナキ眞ノ蠟燭ヲ需用スルニ至リ西洋蠟燭ノ輸入ニ次キテ「パラフヰン」蠟ノ輸入トナリ現今市販蠟燭ノ大部ハ西洋形蠟燭トナレリ然レトモ其品位何レモ優等ナラス間々甚シキ粗惡ノモノアリテ輸入品ニ比儔スル能ハサルハ最モ遺憾ナリ是レ本邦ニ於テハ原料ニ乏シク西洋形蠟燭ノ原料ハ悉ク海外品ヲ仰クヲ以テ其競爭ニ堪ヘサレハナリ

木蠟

今回ノ出品ハ點數僅少ニシテ福岡縣下ノモノ多シ何レモ舊式ニヨル小工場ノ製品ナリ出陳ノ蠟及晒蠟ハ共ニ中等以上ノ良位タルモ其價格如何ニ在ルコトハ上述ノ如キヲ以テ生産費ノ輕減ハ斯業ノ最急務ナリ近來新式機械力ニヨリ又ハ輕油浸出法ヲ採用スル當業者アリト雖モ未タ完全ナル成績ヲ擧クルニ至ラス晒蠟製造ノ如キ二三ノ特許法アリト雖モ未タ實行スルニ至ラス當業者今後ノ覺悟ハ製造法ノ改善ヲ勉メ以テ世界唯一ノ我國産ヲ開達セサルヘカラス

蠟燭ノ出品ハ和蠟燭、西洋蠟燭、臺灣蠟燭ノ三種ニシテ東京、大阪、德島、臺灣ノ製品ナリ

西洋蠟燭ハ第五回内國勸業博覽會當時ニ比シ其製造高ハ增加セルモ其品位ニ至リテハ一モ進歩ヲ認

ムルモノナシ中ニハ寧ロ退歩セルモノアリ

和蠟燭中德島縣出品ノモノハ蠟燭中ニ瓦斯ヲ混淆含有セシメ其形體ヲ大ニシ以テ流蠟ヲ防キ燃燒ノ際燭芯ヲ屈曲セシメテ適宜ニ其殘灰ヲ飛散セシメ以テ剪芯ノ繁ヲ除キシハ和蠟燭製造上ノ一進歩ト見ルヘシ但シ此蠟燭ノ缺點トスル所ハ外觀及光澤ノ惡シキニ在ルヲ以テ之カ改良ヲ要ス

臺灣蠟燭ハ主トシテ牛脂製ニシテ其製作品位何レノ點ヨリ見ルモ蠟燭トシテノ價値甚タ少シ

蠟燭ノ將來ハ西洋形蠟燭其需用多カルヘシ現今ト雖モ西洋形蠟燭ノ需用多ク和蠟燭ハ木蠟騰貴ハ其ノ主因ナリト雖モ之カ需用者甚タ少シ十數年以前ニ在リテハ輸入蠟燭數十萬圓ヲ算セシニ現今著ク減少シ西洋蠟燭ノ要所ハ燭芯ニ在リ蠟燭ノ品位ヲ檢スルニ當リテハ先ツ燭芯ノ製作如何ヲ見ルヘシ今回出陳セル蠟燭ノ燭芯ハ何レモ拙ニシテ火焔ノ形狀竝ニ大サ、燭芯屈曲ノ度合、融蠟吸上ケノ割合等一モ正鵠ヲ得タルモノナシ當業者須ク奮起之カ改善ヲ要ス

樟腦、龍腦及薄荷

報告員　主任　審査官　樋口眷一
列座　審査官　莊司市太郎
列座　審査官　辻本滿丸

樟腦、龍腦及薄荷ノ出品ハ官廳出品ヲ除キテハ唯僅ニ大阪府ニ一名此出品點數四點薄荷ハ出品ナシ)授賞者一等一名ニ止マリ全般ニ對シテ批判スルコト能ハサルヲ遺憾トス然レトモ今其出品ヲ檢スルニ樟腦ノ品質ハ舊來ノ製品ニ比シテ頗ル面目ヲ改メ其形態ノ上ヨリ見ルモ確ニ世人ノ嗜好利便ニ適シタルモノト言フヘク龍腦亦品質改良ノ點アルヲ認ム其試驗成績ヲ掲クレハ左ノ如シ

品種	性狀	水分	着色	硫酸反應	融解點	初融解	全融解	作用
精製藤澤樟腦	透明	〇、九八四	痕跡	痕跡	沃度液十分一 一二度	一七八度	一八〇度	分極光線ニ對スル右轉
富士印精製樟腦	半透明	〇、九八九	痕跡	痕跡	沃度液十分一 一三	一七六	一八〇	右轉 前者ヨリ稍強シ
伍盛號臺龍腦	無色透明	一、〇一四	痕跡	痕跡	〇、三	二〇	一九一	一九四 右轉 前者ノ約二分一弱
伍盛號龍腦油	黃色透明特香アリ反應中性	〇、九四八	二百度ヨリ二百十度マテ	二百十一度ヨリ二百十五度マテ	二百十六度ヨリ二百二十度マテ	二百二十一度ヨリ二百二十五度マテ	殘渣	右轉 龍腦約四倍
劃温蒸餾	百度ヨリ二百度マテ	二、五	二百度ヨリ二百十度マテ	三、〇	一、七〇			

備考　温度測定ハ總ヘテ攝氏寒暖計ニ依リ又水分固形物ハ總ヘテ鹽化石灰ヲ用キテ乾燥シ且先ツ濾過シタル石油依的兒ノ五倍量ニ溶解シ當時ノ氣温ヲ五分時間中ノ最高温度ヨリ減シテ其一、八四ノ純强硫酸ノ五倍量ニ溶解シ分別定量セルモノニシテ硫酸反應ハ比重差ヲ上昇温トシ沃度液千分一ハ沃度規定液ヲ容積千倍ノ水ニ稀釋シタル色ヲ云ヒ此比較モ亦五分時間ヲ度トシテ比較檢定セルモノナリ

按スルニ供試二種ノ樟腦ハ共ニ昇華法ニ依リテ精製シタルモノニシテ品質佳良ナリト言フヲ憚カラス更ニ詳言スレハ光澤及透明度ニ於テ藤澤精製樟腦ヲ以テ勝レリトナスヘキモ保存性ニ於テハ强力壓搾ノ結果トシテ富士印樟腦ヲ推ササルヲ得ス龍腦ニ至リテハ眞正ノ片腦ニ比スレハ品質遜庭アルヲ免レサルモ人工的製品トシテ見ルヘキモノアルヲ認ム龍腦油中ニハ尙百分中五分ノ龍腦ヲ含有シ且前記二種ノ樟腦中ニモ多少使用器其類ヨリ來リ來レル固形夾雜物ヲ含有スルヲ認ムルヲ以テ是等ハ製法上更ニ一段ノ考慮ヲ促カササルヲ得ス

飜リテ樟腦需給ノ狀況ヲ考フルニ現今我邦ハ全世界中樟腦ノ主要産地ヲ以テ目セラレ其産スル所尠シトセス今最近三ケ年ノ生産額ヲ見ルニ左ノ如シ

	内地 樟腦	内地 樟腦油	臺灣 樟腦	臺灣 樟腦油
三十七年度	六三三、七九二斤	七一四、三六七斤	三、三八九、七二三斤	二、七二〇、二七二斤
三十八年度	六〇〇、四三一	六五二、五六三	二、八〇九、一九〇	二、五四四、三六一

而シテ其販路ハ米國ヲ主トシ英佛獨諸國亦之カ供給ヲ仰カサルナク其輸出數量ハ一ヶ年約五百五十萬斤ノ多キニ達セリ斯ノ如ク樟腦ノ產額ハ格段ノ變化ヲ呈セサルニ拘ラス之カ需用ノ增加ハ實ニ著ク現今ノ需用額ハ凡ソ八百萬斤以上ニ達シ從ヒテ價格ノ昂騰甚シク精製樟腦ノ價格ハ外國ニ於テハ百斤ニ付キ二百餘圓ヲ呼ヒ從前價格ノ約二倍餘ニ上レリ是レ「セルロイド」工業ノ輓近著キ發達ヲナシタルト火藥其他ノ用途亦頗ル增加セル結果ニシテ爲メニ米國ノ如キハ此狀態ヲ重要視シ極力樟腦ノ產出ヲ講シ既ニ「テキサス」「フロリダ」諸州及南部地方ニ原樹ノ栽植ヲ奬勵スルアリ加フルニ一面ニハ人造樟腦ノ研究亦盛ニ起リ遂ニ現今ノ樟腦價格ニ對シテハ合成樟腦ノ製造モ利益ヲ以テ經營シ得ルニ至レリ此變遷ハ本邦當事者ノ輕々觀過スヘカラサル所ニシテ我當局者ハ夙ニ鋭意原樹ノ增殖ヲ講シ採取法精々法ニモ種々施設計畫ヲ怠ラサルモ刻下奮ヒテ產出額ノ增加ヲ圖リ且其製法ノ短ヲ去リ缺ヲ補ヒ益〻品質ノ改善ト共ニ力メテ價格ヲ低廉ナラシメサレハ後日噬臍ノ悔アランコトヲ恐ル民間ノ當業者ハ近時其販路擴張シ販賣數量ノ乏シキヲ憂フルノ盛況ヲ見テ之ヲ眩惑スルコトナク進ミテ學術ノ進步ニ伴ヒ其指示スル所ニ從ヒテ原料ノ增殖ヲ圖リ益〻品質ノ精良ヲ圖ルト共ニ製法ヲ研究シ精品ハ愈〻品質ヲ精ニシ普通製品ハ主トシテ價格ヲ低廉ナラシムルコトニ力メ他ノ競爭品ニ對シテ常ニ優勝ノ地步ヲ占ムルコトヲ企畫セサルヘカラス

官廳出品

樟腦薄荷類ノ官廳出品ニハ臺灣總督府專賣局及臺灣總督府農業試驗場ノ出品アリ其種類ヲ擧クレハ左ノ如シ

臺灣總督府專賣局出品

甲種樟腦油　樟腦赤油　樟腦白油
サフロール　デシンフュクトール　インゼクトール　樟腦包裝容器

臺灣總督府農事試驗場出品

薄荷

上記出品中甲種樟腦ハ其壓搾セル煉瓦形塊ヲ以テ幅最高二尺六寸總高八尺ノ六角形凱旋塔ヲ組ミ立テ其中間及上下部ニハ月桂樹及總督府徽章ヲ凹刻シ中央ニハ陸海軍ノ徽章ヲ刻セル額面ヲ挿入シ頂部ニハ摸造砲彈ヲ設置スル等何レモ悉ク精製樟腦ヲ用ヰ其意匠製造共ニ臺灣館中優ニ一異彩ヲ呈シ衆人ノ注意ヲ惹ケリ殊ニ此等ノ出品ニハ各〻大體ノ說明ヲ附セルカ如キ用意周到ト言ハサルヲ得ス更ニ其陳列セル容器ヲ解裝シ內外包裝ノ狀態ヲ表示セハ其効益一層大ナリシナルヘシ

是等出品ノ試驗成績ヲ擧クレハ左ノ如シ

一、樟腦

品種	性狀	反應	水分夾雜物
樟腦	白色粉末	中性	〇、三

二、樟腦油及其製劑

品種	性狀	反應	攝氏十五度ニ於ケル比重	水分夾雜物	蒸餾					融解點		凝固點		硫酸反應
					六十度乃至九十度	九十一度乃至百度	百一度乃至百十度	百十一度乃至百二十度	百二十一度乃至百三十度	百三十一度乃至百四十度	殘渣損失	初融解	全融解	初凝固	全凝固	上昇溫度
樟腦油	周有臭黃色液	微酸	〇、九五六	〇、二	二〇	一六	一八	二二	一〇	八	四	一七五度	一七六度	一七四度	一七二度	一四度
赤油	特異臭赤褐色液	同前	一、〇二	〇、一	二百二十度乃至二百二十一度	二百二十一度乃至二百三十一度	二百三十一度乃至二百四十一度	二百四十一度乃至二百五十一度	—	七	四					
白油	特異臭無色液	同前	〇、九〇二	〇、二	百三十度乃至百六十度	百六十一度乃至百七十度	百七十一度乃至百七十五度	百七十六度乃至百八十度	百八十一度乃至百八十五度	七	三					
サフロール	特異臭淡黃色液	殆中性	一、一〇四	〇、一	二百十度乃至二百二十度	二百二十一度乃至二百三十度	二百三十一度乃至二百三十五度	二〇	—	—	八					

沃度 N/100

チシンフユクトール	黒褐色亞爾加濃厚液里性	一、〇五九	多量	六十度乃至九十度	九十一度乃至百一度	百六十一度乃至百六十度	一	一四七	二
インゼクトール	同 前同 前	一、〇二六	多量	六十度乃至九十度	九十一度乃至百一度	百一度乃至百十一度乃至百十五度	一	一三一	三

三、薄荷

品種性狀反應蒸發殘渣

品種	性狀	反應	蒸發殘渣	融解點 初融解	融解點 全融解	凝固點 初凝固	凝固點 全凝固	硫酸反應	
薄荷	微褐色斜狀結晶	中性	赤色固形 〇、一八八	四二度	四五度	二七度	二二度	醋酸、硫酸、硝酸ノ混液ニ對スル反應	微黄色變化ナシ

以上ノ成績ニ依レハ出品ノ品質ハ一般ニ佳良ニシテ特ニ批難スヘキモノナシ只薄荷腦ハ蒸發殘渣ヲ認ムルノミナラス融解點ノ稍〻低キハ薄荷油ヲ混有スルニ在ルヲ以テ精製品トシテハ推賞シ難シ願フニ專賣法施行以來樟腦ノ品質頓ニ改マリ其副製品亦進歩ノ跡アルハ齊シク世ノ認ムル所ナレトモ樟腦薄荷ノ如キ主要品ハ勿論白油、赤油「サフロール」「デシンフュクトール」「インゼクトール」ノ如キハ何レモ香料、溶劑殺菌劑、防腐劑等トシテ其効驗著ク且多クハ他製品ノ代用ヲナスヘキモノナルヲ以テ其需用如何ハ一ニ懸リテ價格ノ高低如何ニ存ス是レ更ニ一層原料ノ增殖ヲ圖リ製品ノ短ヲ去リ常ニ品質ノ精良整一ヲ期スルト共ニ價格ノ低下ヲ企畫スルノ急要ナルヲ促カササルヲ得サル所以ナリトス

護謨製品

報告員　主任　審査官　莊司市太郎

列座　審査官　樋口眷一

列座　審査官　三山喜三郎

本出品ハ唯東京府ノミニシテ其人員十二名、點數三百ナリトス授賞者ハ銀牌二、一等賞二、二等賞一、三等賞三、褒狀三合計十一ナリトス抑〻我護謨工業ハ明治十九年合名會社三田土護謨製造所ノ設立ヲ始メトシ本邦ニ於ケル比較的新事業ノ一ナルニモ拘ラス各種事業ノ勃興ハ護謨製品ノ多大ノ需用ヲ喚起セル結果著キ進歩ヲ爲セリ殊ニ日清、日露ノ兩戰後ハ斯業ノ發達ニ至大ノ好果ヲ與ヘタリ三田土合名會社ニ亞キテ明治護謨製造所設立セラレ明治三十年以降日本護謨製造株式會社、東洋護謨株式會社其他ノ諸工場設立セラレ茲ニ始メテ我護謨工業ハ根底アル工業トナリ其面目ヲ一新スルニ至レリ十數年以前ニ在リテハ本邦ニ需用スル原料ハ勿論其製品ニ至ルマテ其大部ハ海外品ノ供給ヲ仰キシカ近來ハ一二特種製品(特種ノ護謨管及護謨布)ヲ除キ悉ク之ヲ內地ニ於テ製出シ得ルニ至リ其製作並ニ品位ハ外國品ニ比シテ劣ルト雖モ其進歩ノ度著キモノアリ目下內地ニ於ケル製品ノ總需用高ハ約四百萬圓ニシテ最近ノ統計ニ徵スレハ護謨及護謨製品輸入ノ趨勢ハ左ノ如シ

護謨及護謨製品輸入表

年別	生護謨 數量	生護謨 金額	板護謨 數量	板護謨 金額	護謨管及竿 數量	護謨管及竿 金額	護謨製品 數量	護謨製品 金額	護謨布及紐 數量	護謨布及紐 金額
明治三十四年	一二六、一九三斤	一三六、〇六四円	一〇、五八三斤	一〇、四七四円	—	四四、四〇一円	—	一六二、八七九円	—	一三、九一七円
同 三十五年	一七〇、八四三	一九五、六八八	四四、二七三	八二、八九二	—	五〇、二四〇	—	二三三、九四一	—	一三四、七四六
同 三十六年	一八九、九八八	二一七、一三一	二七、四七六	六六、八七四	三〇、三九三	六〇、六二七	—	二七〇、九一三	—	一二二、六六三
同 三十七年	三六三、九四一	五四八、六五五	四四、六四一	一三三、六九五	二八、九五一	九三、三一〇	—	一六三、七七六	—	六〇、七九三
同 三十八年	五四七、三七七	八四五、九五〇	五一、四八七	一三、五七二	五三、一七八	一八四、六五四	—	二七五、九七九	—	八三、三八
同 三十九年	四五四、二九六	五八五、一八九	五九、一八一	一一〇、一八二	四二、七六五	一三三、四九九	—	三七四、〇八七	—	二二六、二七一

即チ近來需用ノ增加ト共ニ護謨製品ノ輸入漸次增加セルモ原料タル生護謨、板護謨ノ輸入ハ之ヲ五年以前ニ比シ約四倍ノ增加ヲ爲セルヲ見ハ本邦ニ於ケル斯業ノ進歩ハ之ヲ推知スルニ難カラサルヘシ從來原料護謨(生護謨、板護謨)ハ東印度、南洋諸島及南米產ヲ主トシ專ラ外國品ヲ使用セリ是レ斯業ニ取リ最モ遺憾トスル所ナリシニ輓近臺灣總督府ニ於テ護謨桂ノ發見アリ之ヨリ採收セル原料ハ其品質佳良ニシテ優等ノ製品ヲ製作シ得ルコトハ既ニ實驗ノ證明セル所ナレハ將來護謨桂ノ栽培奬勵ト相待チテ斯業界ニ其原料ヲ供給スルニ至ラハ斯業ノ發展ニ資スルコト莫大ナルヘシ

出品ノ種類ハ目下本邦ニ於ケル總ヘテノ製作品ヲ網羅シ其點數三百點出品者ハ東京府下所在ノ工場ノミニシテ各、其特技トセル製品ヲ出陳シ出品ニ對シテハ特ニ意ヲ用キタルモノノ如シ

出品ノ重ナル種類ハ防水布、各種ホース類、調帶ゴム毯、護謨管、護謨板、護謨「タイヤー」、護謨車、護謨製玩具、護謨雜工品、「エボナイト」製品等ニシテ殊ニ三田土、明治兩社ノ出品ハ第五回內國勸業博覽會出陳ノモノニ比シ大ニ其進歩ヲ認ム其他ノ當業者ノ出品亦年ヲ逐フテ改善進歩セルハ充分斯業ノ發展ヲ證シ得ルナリ然レトモ間々同業者互ニ價格ノ低廉ヲ競ヒ混合資料多キニ過キ護謨製品ノ本旨ヲ沒却スルニ至ルト技術ノ未タ完全セサル點トハ今後當業者ノ研鑽改良ヲ要スル所ニテ卽チ「エボナイト」製品ハ少シク脆弱護謨管ハ彈性ニ乏シク「ホース」類ノ製作ハ完全ナラス護謨雜工品中ニ品質尙均等ナラサルモノアルハ其重ナル缺點ナルヘシ

第八部　第七十五類　顏料

報告員　主任　審査官　一川一
列座　審査官　莊司市太郎
列座　審査官　辻本滿丸

本會ニ出品セル顏料ハ亞鉛華、鉛丹、黃鉛、朱、辨柄、「レーキ」類ノ六種ニシテ其出品者ハ東京府四名、其點數九十八、岡山縣二名、其點數九、合計人員六、點數百〇七ナリトス

朱ハ鳳凰印、龍印、大黑印ノ三種アリ孰レモ各自特有ノ色相ヲ帶ヒ色澤ノ美ナル分子細密ナル塗料トシテノ擴布性竝ニ被覆性ニ富ミタル等支那朱ニ比シ頗ル優秀ナリト雖モ尙磨碎ノ不完全ナルヲ惜ム此缺點ヲ芟除セハ將來輸出品モ增加スルヲ得ヘク前途有望ナリト信ス

辨柄ハ唯岡山縣ノ出品ニ係ル二種ニ過キス其質互ニ優劣ナク色澤美ニシテ分子モ亦細ニ且擴布性等ニ富ミ優良品タル資格ヲ具有スト雖モ其價格不廉ナルヲ以テ若シ其生產費ヲ節約スルヲ得ハ販路ノ擴張セラルヘキハ疑ヲ容レス

黃鉛ハ色相稍〻佳ナルモ擴布性又色澤等ニ乏シキノミナラス洗滌不完全ナル爲メ醋酸分ヲ留メ石版肉等トシテ使用ニ堪ヘス劣等ニ位スヘキモノト認ム「レーキ」ハ溶解性ノ色素ヲ抱有シ不完全ナル域ヲ脫セサルハ遺憾トスル所ナリ

染料

報告員　主任　審査官　高松德治郎
列座　審査官　莊司市太郎
列座　審査官　本間寅之助

出品染料ノ種類ハ玉藍、藻藍、藍靛及泥藍ニシテ其點數六十七、其人員五十一ナリ臺灣最モ多ク東京、沖繩德島ノ府縣之ニ亞ク今之カ概評ヲ爲サンニ

東京府　本府ノ出品ハ長井製藍、玉藍及都染ノ三種ニシテ出品點數十八、其人員三ナリトス

長井製藍ハ第五回內國勸業博覽會出品ニ比シ品質ニ於テ改良ノ實績ヲ認ムト雖モ其價格不廉ニシテ加フルニ產額僅少ナルヲ以テ到底人造藍若クハ印度藍靛ノ輸入ヲ防遏スルヲ得サルハ遺憾トスル所ナリ

玉藍ハ品質稍〻佳良ナルモノアリト雖モ價格不廉ニシテ未タ人造藍及印度藍靛ヲ市場ヨリ驅逐スルコト能ハス但本邦產玉藍及藻藍中ニハ靑藍以外ニ褐藍及一種ノ膠質物等ノ不純物ヲ含有スルヲ以テ醱酵法ニヨリ藍建ヲ施行スル際此等ノ不純物ハ其醱酵作用ヲ助クルノミナラス靑藍ヲ纖維ニ染附スル一種ノ媒染劑トナルヲ以テ之ヲ用キテ染色シタルモノニ比シ其堅牢ナルノ特効アルニ因リ年々洋藍四百萬圓內外ノ輸入アルニ拘ラス尙其需用ヲ絕タサルナリ而シテ其價格ノ不廉ナル原因ハ主トシテ其原料タル蓼ヲ培養スルニ必要ナル肥料ノ高價ニシテ品質佳良ナル製品ヲ得ルニハ隨ヒテ多量ノ肥料ヲ使用セサルヘカラサルニ在リ現今世上一般需

用ノ狀態ヨリ考レハ比較的藍分ノ多ク且高價ナル玉藍及藻藍ヲ製スルヨリハ寧ロ比較的藍分少キモ廉價ナルモノヲ製シ之ニ多量ノ藍分ヲ含有シ且比較的廉價ナル人造藍ヲ適宜ニ混合シ醱酵法ニヨリ之ヲ應用セシムルトキハ需用多ク其効果高價ナル玉藍、藻藍ニ讓ラサルヘシ果シテ然ルトキハ玉藍及藻藍ノ需用モ永ク維持シ得ヘキナリ

都染ト稱スル染料ハ單ニ直接染料ニ硫酸曹達及食鹽等ノ助劑ヲ混合シテ製造セシモノニシテ其原料ハ外國ヨリ輸入セシモノナリ

德島縣 本縣ノ出品ハ藻藍ニシテ其點數四、其人員四ニシテ本邦玉藍、藻藍ノ主產地ナルニ拘ラス出品極メテ僅少ナルハ大ニ遺憾トスル所ナリ一二品質稍、佳良ナルモノアリト雖モ價格不廉ニシテ到底洋藍ト市場ニ於テ競爭スルヲ得ス

沖繩縣 本縣ノ出品ハ山藍ヨリ製シタル泥藍及藍靛ニシテ其點數十、其人員亦十ニシテ第五回內國勸業博覽會出品ニ比シ品質ニ於テ進歩ノ形跡ヲ認メスト雖モ其價格ハ印度藍靛ニ比シ遙ニ低廉ナルヲ以テ其需用廣大ナルヘキモ其產額僅少ナルハ大ニ遺憾トスル所ナリ今後品質ノ改良ヲ圖リ工費ヲ省約シ一大製造ヲ試ムルニ至ルトキハ輸入品ヲ防遏シ得ヘク其有望ノ事業ナルヤ疑ヲ容レス

臺灣總督府 本府ノ出品ハ山藍ヨリ製シタル藍靛、泥藍ニシテ其點數三十五、其人員三十四ナリトス藍靛中ニハ一二優等品アリト雖モ價格稍、廉ナラス產額モ僅少ナリ長尾八十八郎出品ノ藍靛ハ醱酵法ニ由リ山藍ヨリ泥藍ヲ造リ之ヲ精製スルニ第一硫酸鐵ヲ加ヘテ還元セシメ白藍トナシ後其白藍ヲ酸化セシメテ藍靛ヲ造リシヲ以テ其品質佳良ナリト雖モ多大ノ工費ヲ要スルヲ以テ價格廉ナラス宜シク沸煮法ニヨリ山藍ノ生葉ヨリ直ニ之ヲ製スルノ道ヲ講スルハ目下ノ急務ナリ其他大部分ヲ占ムル泥藍ハ價格低廉ナルモ青藍ノ量尠少ナリ且中ニハ製造法ノ不完全ナルヨリ醱酵ヲ起シ既ニ腐敗ニ傾キシモノ少カラス自今宜シク其製造法ヲ研究シ品質ノ改良ヲ圖ルト同時ニ價格ヲ低廉ナラシムルノ方法ヲ研究スヘキナリ

各種製藍ニ就キ分析セシ結果ヲ左ニ揭ク

府縣名	製品名	青藍 百分中	水分 百分中	灰分 百分中
東京府	長井製藍	二九・二五	三〇・二一	一八・三〇
同	玉藍	五・八〇	二七・二一	一八・三五
同		四・四〇	五〇・〇〇	一八・四七
同		一・五一	三〇・七三	二〇・七一
同		六・七五	二〇・六九	二〇・二一
同		四・九五	三九・七四	一七・七〇
同		二・三七	三六・五八	二二・六八
同		一・四七	三七・一四	一五・二六
同		三・九八	四五・六三	三一・二二
同		三・九四	七五・六四	九・四〇
同		三・七六	四九・五〇	二七・五三
同		三・六一	七六・一二	一〇・六〇
同		三・〇三	七〇・三五	一八・七六
同		三・〇一	六七・八九	一六・八一
同		二・六三	六六・四五	一七・九七
同		二・五九	七四・五五	一三・二五
同		二・三九	三七・七七	三八・一五
同		二・二六	六八・三一	一七・四一
同		二九・七二	八・六七	四九・〇八
同	臺灣總督府	二・七六	五五・四三	三五・四九
同	同	二・三四	五四・〇九	三六・七〇
同	同	二・三二	四二・二五	四九・四〇
同	同	藍靛		
同	同	泥藍		

臺灣總督府	泥藍	二・〇九	五四・八三	三五・九〇	
同	同	一・九〇	四九・六六	三九・二七	
同	同	一・八七	七三・一四	二二・一四	

本品點數等左ノ如シ

染料出品竝ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	三等賞	褒狀	計
東京府	一八	三	一	一	二
德島縣	四	四	一	一	二
沖繩縣	一〇	一〇	一	四	五
臺灣總督府	三五	三四	三	七	一〇
合計	六七	五一	六	一三	一九

外國出品染料

報告員　審査官　高松德治郎

外國產染料ハ出品點數三百三十四、其人員三ニシテ皆東京市內ニ在ル特約販賣店柴田染料店、稻畑染料店及鱗與染料店ノ出品ニ係レリ其製造所ハ八ケ所ニシテ獨逸國ニ在リテハ馬獅子亞仁林及曹達製造會社「バイエル」染料製造會社「カセラ」染料製造會社、伯林染料製造會社、法朗西國ニ在リテハ「サントニー」染料製造會社「デユボスク」染料製造會社、瑞西國ニ在リテハ「ガイギー」染料製造會社及「ジュラン、ユグネン」染料製造會社ナリトス今左ニ各製造會社ノ主要ナル出品ニ就キテ報告セン

馬獅子亞仁林及曹達製造會社　當會社出品ノ主要ナルモノヲ列擧スレハ「インヂゴピュアー」「スレン」屬色素「アリザリン」屬色素ナリ現今我國ニ輸入スル染料ハ約六百七十萬圓ノ多キニ達シ就中「インヂゴピュアー」ハ其輸入額ノ六割ヲ占メタリ當會社ノ製品ハ品質殆ト純粹ニシテ百分中約九十八分ノ青藍ヲ含有セリ抑「インヂゴピュアー」ノ初メテ我國ニ輸入セシハ明治三十一年ニシテ當時一斤ノ價格四圓八十錢ナリシヲ以テ印度藍靛ニ比シ稍高價ナルヨリ實際ニ之ヲ使用スル者ナク僅ニ見本品タリシニ過キサリシ然ルニ當時英領印度ヨリ輸入スル印度藍靛ノ額ハ百四十萬斤此價格二百十萬圓ノ巨額ニ達セリ馬獅子會社ニ於テハ之ニ鑑ミ爾來「インヂゴピュアー」品質ノ改良ヲ圖リ工費ヲ省略セシ結果漸次價格ヲ低廉ナラシメ遂ニ現今一斤ノ價格二圓二十錢ニ至ラシメ昨三十九年中ニ輸入セシ額ハ百七十六萬斤此價額三百八十七萬圓ノ多キニ及ヒ尙益〻需用ノ廣大トナル傾向アリ之ニ反シ印度藍靛ノ輸入額ハ僅ニ十萬斤此價格十八萬圓內外ニ減少シ「インヂゴピュアー」ハ印度藍靛ヲ市場ヨリ驅逐スルノ勢ヲ呈セリ又當會社製造ノ「スレン」屬色素ハ明治三十五年初メテ「インダンスレン」ト稱シ輸入セシモ當時二三染工場ノ特約品トシテ使用セリ該色素ハ美麗ナル青色々素ニシテ嘗テ潮染ト稱シ一時世上ニ流行セシ浴衣ハ之ヲ以テ染色ヲ施シタルモノニシテ其堅牢ニシテ需用稍〻大ナリシモ如何セン其色合ノ野卑ナルヨリ其後一時需用減少ヲ來セシモ昨年更ニ同種屬ノ「フラバンスレン」「メランスレン」「バイオレンスレン」等ヲ製造シ本邦ニ輸入セシヨリ此等ノ色素ト配合シテ染色ヲ行フニ至リ再ヒ其需用稍〻多キヲ加ヘタリ而シテ「スレン」屬色素ヲ以テ染色シタルモノハ堅牢ニシテ能ク需用ニ適スルモ只憾ムラクハ價格比較的不廉ニシテ「インヂゴピュアー」ノ如ク需用廣大ナラス但シ品質ノ改良ヲ圖リ價格ヲ低廉ナラシムルトキハ將來有望ノ染料タルヤ疑ヲ容レス又其製品「アリザリン」色素ハ一般ニ染色堅牢ナルヲ以テ本邦ニ於ケル需用ハ廣大ナリ

「バイエル」染料製造會社　當會社出品ノ主要染料ハ硫化色素直接色素ニシテ就中需用ノ廣大ナルモノハ硫化色素「カチグンブルー」Bニシテ主トシテ木綿ヲ紺染ニスルニ用ユ堅牢ニシテ價格廉ナルヲ以テ藍ノ代用品若クハ藍ノ下染用トシテ多量ノ需用アリ

「カセラ」染料製造會社　當會社出品ノ主要染料ハ硫化色素及直接色素ニシテ就中需用ノ廣大ナルモノハ硫化色素「イムメヂアル、ダイレクトブルー」Bニシテ是レ亦木綿ヲ紺染ニスルニ用ユ堅牢ニシテ價格廉ナリ現今「カチグンブルー」Bト同シク藍ノ代用品若クハ藍ノ下染用トシテ多量ノ需用アリ

「デュボスク」染料製造會社　當會社出品ノ媒染色素「ブロンズ」ト稱スル灰色ノ泥狀物ハ絹纖維ヲ黑色ニ染ムル下染用トシテ多量ニ使用セラル

其他ノ會社ノ色素ハ鹽基性色素、酸性色素、直接色素、ニシテ新奇ノ出品ナク孰レモ在來ノモノニシテ其消費額僅少ナルモノナリ

塗料

報告員　主任　審査官　三山喜三郎
列座　審査官　一川一
列座　審査官　莊司市太郎

塗料ノ出品ハ製漆ヲ主ナルモノトシ此外少數ノ「ワニス」、「ペイント」、船底塗料、木材防腐劑及靴墨等アリ而シテ其産地ハ東京、京都、大阪ノ三府ナルモ其大多數ハ東京府ニ係リ優良品ノ多キ又同府ヲ以テ最トナス、卽チ其出品點數人員及授賞數ヲ表示スレハ左ノ如シ

塗料授賞表

府縣名	出品點數	出品人員	授賞人員 名譽銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	計	出品人員ニ對スル授賞ノ歩合
東京	一七七	二五	一	一	二	六	四	一四	五六・〇
京都	三	一	—	—	—	一	—	一	一〇〇・〇
大阪	一	一	—	—	—	—	—	—	〇
計	一八一	二七	一	一	二	七	四	一五	五五・六

一、製漆

此種ノ出品ハ主ニ東京府ノ産出ニシテ出品人員十八人ニ過キサルモ製漆ノ種類ヲ網羅シテ十五種百二十四點ノ多キニ達シ塗料出品ノ約七割ヲ占ムルヲ見ル出品中梨子地漆、朱合漆、春慶漆、臘色漆、塗立漆及上花漆ノ六種ハ最モ重要ナルモノニシテ一二ノ出品人ヲ除ク外ハ右六種ヲ通シテ出品セルカ故ニ比較上甚タ便宜ナルヲ覺ヘタリ左ニ此等ノ各種ニ就キテ審査ノ成績ヲ略述セム

梨子地漆ハ品質概シテ佳良ナルモ黃味及透キ方ノ優良ナルモノ少ク偶〻此點ニ於テ良好ナルモノアレハ漆質薄弱ニシテ光澤ノ缺乏セル憾アリ特ニ優品トシテ稱揚スヘキモノ稀ナリ京都府岡本專助ノ出品ハ黃味ト透キ方トニ於テハ良好ナルモ光澤著ク缺乏シ且其粘糊ニ過キタルハ惜ムヘシ

原來梨子地漆ノ原料ニハ最上ノ生漆ヲ撰用スルヲ要シ且着色劑トシテ高價ノ雌黃ヲ混合スルコト多量ナルヲ以テ梨子地漆ハ製漆中ノ最上位ヲ占ムルヲ常トス然レトモ雌黃中ニハ多量ノ護謨質ヲ含有セルヲ以テ製漆ノ堅牢度ハ之カ爲ニ著ク毀損セラレ殆ト中位ノ生漆ニモ及ハサラントスルノ恐アリ

試ニ一二ノ出品ニ就キテ其分析成績ヲ示セハ

甲	水分二、七〇	ウルシオール酸漆六四、三四	雌黃酸一九、九六	護謨質一一、〇二	不溶物二、〇〇
乙	水分一、六八	ウルシオール酸漆五八、二七	雌黃酸二一、四〇	護謨質一三、三六	不溶物五、二九

ノ如キ成分ヲ有シ護謨質ノ多量ナルコト留漆ノ上ニ出テ原料タル上邊漆ノ面影ハ殆ト之ヲ認ムルコト能ハス故ニ梨子地漆ノ製造法ニハ頗ル改良ノ餘地アルコト明白ナリ

朱合漆ハ原料ノ選定宜シキヲ得テ乾燥適度ニ透キ方良好ナルモノ多シト雖モ往々粘糊ニ過キ實用ニ便ナラサルモノアリ

春慶漆ハ品質ノ中位ニ在ルモノ多キヲ占メ特ニ優品ト稱スヘキモノ稀ナリ蓋シ出品者ノ重キヲ置カサルノ結果ナラムカ

以上ノ三種ハ所謂透キ漆ニ屬スルモノニシテ其品質ハ殆ト全ク原料生漆ノ良否ニ關シ精良ナル原料ヲ用フルニ非サレハ如何ナル技術モ之ヲ施スニ由ナキモノトス然ルニ近年良原料ノ缺乏ニ伴ヒ混合物ニ賴リテ透明度ヲ增進シ品質ノ低下ヲ顧ミスシテ一時ヲ糊塗セントスル者アルニ至レルハ思ハサルノ甚シキモノト謂フヘシ

蠟色漆塗立漆及上花漆ハ出品多數ニシテ品質ノ卓出セルモノ少カラス此等ノ製漆ハ製造家ノ技倆ヲ

「デュボスク」染料製造會社　當會社出品ノ媒染色素「ブロンズ」ト稱スル灰色ノ泥狀物ハ絹纖維ヲ黑色ニ染ムル下染用トシテ多量ニ使用セラル

其他ノ會社ノ色素ハ鹽基性色素、酸性色素、直接色素、ニシテ新奇ノ出品ナク孰レモ在來ノモノニシテ其消費額僅少ナルモノナリ

塗料

報告員　主任　審査官　三山喜三郎
列座　審査官　一川一
列座　審査官　莊司市太郎

塗料ノ出品ハ製漆ヲ主ナルモノトシ此外少數ノ「ワニス」「ペイント」船底塗料、木材防腐劑及靴墨等アリ而シテ其產地ハ東京、京都、大阪ノ三府ナルモ其大多數ハ東京府ニ係リ優良品ノ多キ又同府ヲ以テ最トナス卽チ其出品點數人員及授賞數ヲ表示スレハ左ノ如シ

塗料授賞表

府縣名	出品點數	出品人員	授賞人員 名譽銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	計	出品人員ニ對スル授賞ノ步合
東京	一七七	二五	一	一	二	六	四	一四	五六·〇
京都	三	一	—	—	—	一	—	一	一〇〇·〇
大阪	一	一	—	—	—	—	—	—	〇
計	一八一	二七	一	一	二	七	四	一五	五五·六

一、製漆

此種ノ出品ハ主ニ東京府ノ產出ニシテ出品人員十八人ニ過キサルモ製漆ノ種類ヲ網羅シテ十五種百二十四點ノ多キニ達シ塗料出品ノ約七割ヲ占ムルヲ見ル出品中梨子地漆、朱合漆、春慶漆、臘色漆、塗立漆及上花漆ノ六種ハ最モ重要ナルモノニシテ一二ノ出品人ヲ除ク外ハ右六種ヲ通シテ出品セルカ故ニ比較上甚タ便宜ナルヲ覺ヘタリ左ニ此等ノ各種ニ就キテ審査ノ成績ヲ略述セム

梨子地漆ハ品質概シテ佳良ナルモ黃味及透キ方ノ優良ナルモノ少ク偶〻此點ニ於テ良好ナルモノアレハ漆質薄弱ニシテ光澤ノ缺乏セル憾アリ特ニ優品トシテ稱揚スヘキモノ稀ナリ京都府岡本專助ノ出品ハ黃味ト透キ方トニ於テハ良好ナルモ光澤著ク缺乏シ且其粘糊ニ過キタルハ惜ムヘシ

原來梨子地漆ノ原料ニハ最上ノ生漆ヲ撰用スルヲ要シ且着色劑トシテ高價ノ雌黃ヲ混合スルコト多量ナルヲ以テ梨子地漆ハ製漆中ノ最上位ヲ占ムルヲ常トス然レトモ雌黃中ニハ多量ノ護謨質ヲ含有セルヲ以テ製漆ノ堅牢度ハ之カ爲ニ著ク毀損セラレ殆ト中位ノ生漆ニモ及ハサラントスルノ恐アリ

試ニ一二ノ出品ニ就キテ其分析成績ヲ示セハ

甲　水分二、七〇　ウルシオル漆酸六四、三四　雌雌黃酸一九、九六　護謨質一一、〇二　不溶物二、〇〇

乙　水分一、六八　ウルシオル漆酸五八、二七　雌雌黃酸二一、四〇　護謨質一三、三六　不溶物五、二九

ノ如キ成分ヲ有シ護謨質ノ多量ナルコト留漆ノ上ニ出テ原料タル上邊漆ノ面影ハ殆ト之ヲ認ムルコト能ハス故ニ梨子地漆ノ製造法ニハ頗ル改良ノ餘地アルコト明白ナリ

朱合漆ハ原料ノ選定宜シキヲ得テ乾燥適度ニ透キ方良好ナルモノ多シト雖モ往々粘糊ニ過キ實用ニ便ナラサルモノアリ

春慶漆ハ品質ノ中位ニ在ルモノ多キヲ占メ特ニ優品ト稱スヘキモノ稀ナリ蓋シ出品者ノ重キヲ置カサルノ結果ナラムカ

以上ノ三種ハ所謂透キ漆ニ屬スルモノニシテ其品質ハ殆ト全ク原料生漆ノ良否ニ關シ精良ナル原料ヲ用フルニ非サレハ如何ナル技術モ之ヲ施スニ由ナキモノトス然ルニ近年良原料ノ缺乏ニ伴ヒ混合物ニ賴リテ透明度ヲ增進シ品質ノ低下ヲ顧ミスシテ一時ヲ糊塗セントスル者アルニ至レルハ思ハサルノ甚シキモノト謂フヘシ

蠟色漆塗立漆及上花漆ハ出品多數ニシテ品質ノ卓出セルモノ少カラス此等ノ製漆ハ製造家ノ技倆ヲ

要スルコト甚タ多キヲ以テ著ク品質ニ差等アリ就中上花漆ハ價ノ廉ナルニモ拘ラス色澤膚質ノ遺憾ナキヲ必要トシ多年ノ經驗ヲ以テスルモ猶且其製造ニ多大ノ困難ヲ感スルモノトス此種ノ出品中ニ於テ比較的多數ノ精良品ヲ得タルハ本業ノ爲メニ喜フヘシ

出品中「アナケ」ト稱スル忌ムヘキ缺點ヲ有スルモノハ少數ニシテ其多數ハ膚質ノ良好ナルヲ認メタリト雖モ色澤粘度、乾燥度ニ於テハ多少ノ缺點ヲ有スルモノ少カラス

黑漆ノ着色劑ハ從來ノ鐵粉、鐵漿、砥汁等ヲ廢シ水酸化鐵ヲ應用スルコト漸ク行ハレ其色ノ濃黑ニシテ佳良ナルモノ頗ル多シ

艶消漆、上中漆、中花漆、箔下漆、木地蠟漆、白檀漆、透繪漆、透花漆及中塗漆ハ出品極メテ少數ニシテ特ニ評スルノ價値ナシ

製漆ノ方法ハ第五回內國勸業博覽會當時ニ比シテ多少進歩ヲ加ヘタルモノナキニ非サルモ大勢依然トシテ單純幼稚ノ境ヲ脫セス進ミテ學理ノ應用ヲ試ミントスル者ノ如キハ寥々トシテ晨星ノ如シ殊ニ製造ノ姑息的ナルト操業ノ不確實ナルトハ他ノ工業ニ其比ヲ見サル所ニシテ啻ニ製造費ノ不廉ナルノミナラス動モスレハ加減ヲ誤リテ恢復スヘカラサル損失ヲ來スノ恐アリ故ニ本業ノ進歩ヲ圖ラントスルニハ機械力ヲ應用シテ工費ヲ省キ混練蒸發ノ度合ヲ制限シテ據ルヘキノ標準ヲ明カニシ製造上ニ些ノ不安心タモナカラシムルコト最モ必要ナルヘシ

次ニ當業者ノ注意ヲ乞ハサルヘカラサルハ現今ニ於ケル漆汁ノ缺乏及僞交物增加ノ傾向ナリ近年內地產ノ漆汁ハ著ク產額ノ減退ヲ來シ現時ニ於テハ僅ニ內地需用額ノ四分ノ一ヲ供給スルニ過キサルカ故ニ殘餘四分ノ三ハ清國輸入ノ劣等品ヲ以テ補充セサルヘカラサルノ悲境ニ在リ卽チ年々ノ消費額十五六萬貫ニ對シ內地產ハ僅ニ四萬貫ヲ得ルニ過キスシテ餘ハ悉ク之ヲ清國ニ仰クノ狀態ニ在リ(三十八年度輸入高十一萬貫此價格二十八萬二千圓、三十九年度輸入高十二萬貫此價格三十二萬圓)斯ノ如キ原料ノ不足ハ價格ノ騰貴ヲ來シ延イテ僞交物混合ノ惡弊ヲ馴致セルコト勿論ニシテ甚シキハ僞交物ノ製造ヲ以テ營業トスル者アルニ至レリ故ニ僞交物ヲ摘發シテ矯弊ノ策ヲ講スルト同時ニ漆樹ノ栽培ニ務ムルハ今日ノ急務ナルヘシ

二、「ワニス」

此種ニ屬スルモノハ東京府日本ペイント製造株式會社外一名ヨリ六點ノ出品アリ出品ハ孰レモ價格低廉ニシテ品質又見ルヘキモノナキニ非スト雖モ未タ以テ輸入品ニ匹敵スヘキ精良品ト爲スコトヲ得ス之ヲ要スルニ本業ハ尙試驗ノ時代ニ屬シ比較的多額ノ輸入(三十八年度十七萬二千圓、三十九年度十九萬九千圓)ヲ仰キツツアルヲ以テ將來益〻研鑽ヲ加フルノ必要アルヲ認ム

三、「ペイント」及「ボイル」油

「ペイント」ハ全部日本ペイント製造株式會社ノ出品ニ係リ白色、黑色、黃色、綠色、紺色、銹色等九點アリ價格頗ル廉ニシテ品質概ネ良好ナリトス就中白亞鉛「ペイント」ハ同會社ノ特製品タル亞鉛華ヨリ製出セルモノニシテ品質最モ精良ナリ同會社ノ「ペイント」ハ近年產額ノ激增ヲ來シ(三十八年度八十五萬七千圓三十九年度百二十六萬二千圓)著ク輸入ヲ防止スルヲ得タルハ嘉スヘシ(三十八年度輸入額三十九萬圓三十九年度輸入額四十一萬五千圓)又同會社出品ノ「ボイル」油ハ晒白宜シキヲ得テ粘度モ亦適當ナルモ乾燥遲緩ナルノ缺點アリ

四、船底塗料

東京府高田商會出品ノ清水船底塗料ハ品質良好ニシテ防介ノ効力見ルヘキモノアリ此種ノ塗料ハ年々巨額ノ輸入(三十八年度輸入額三十六萬圓、三十九年度輸入額二十八萬一千圓)アルヲ以テ着々製法ノ改良ヲ圖リ輸入ノ防遏ヲ期スルコト最モ必要ナリトス

五、木材防腐劑

東京府吉田商會ノ吉田木材防腐劑ハ用法簡易ニシテ能ク防腐ノ目的ニ合シ價格低廉ニシテ實用ニ適ス又東京瓦斯株式會社ノ無水「タール」ハ品質精良ニシテ各般ノ用途ニ充ツルニ足リ產額益〻增進ノ勢ア

ルハ喜フヘシ

六、靴墨

此種ニ屬スルモノハ東京府松崎英太郎外一名ノ出品アリ松崎英太郎ノ蜂印靴墨ハ品質頗ル精良ニシテ能ク實用ニ適スルモ「クリーム」類ハ改良ノ餘地尚少カラサルヲ認ム

以上ノ外漆代用ト稱スル塗料數點アルモ其實粗雜ナル「ワニス」ニ外ナラスシテ實質外觀共ニ漆汁ト近似セサルヲ以テ特ニ之ヲ批評セス

外國出品塗料

報告員　主任　審査官　三山喜三郎

此類ニ屬スルモノハ出品至リテ僅少ニシテ「イ、エッチ、ハンタァ」合名會社東京支店外二人ノ出品アルノミ「ハンタァ」合名會社ノ出品ハ英國「ホルザッペル」會社製造ノ銀色「ペイント」「テゴリン、ペイント」「ブット、トップ」(水線塗料)及「インタァナショナル、コムポヂション」等ノ塗料ニ加フルニ亞麻仁油「ボイル」油及「ピントフ」(ペイント剝藥)ヲ以テシ東京市穴原商會ノ出品ハ「リサイト」「ルゥフペイント」及「アルミニウム、ペイント」ヲ主トシ神戸市「トーマス、ケルジョウ」ハ「パテント、アトラス」ト名クル鐵劑防銹劑三種ヲ出品セリ

此等ノ出品ハ品質概シテ良好ニシテ能ク實用ニ適シ殊ニ「ハンタァ」合名會社出品ノ「インタァナショナル、コンポヂション」ハ極メテ精良ナル船底塗料ニシテ吾邦ニ輸入セラルルコト頗ル多ク(三十八年度輸入額三十六萬圓ノ内其七割ヲ占ム)此種塗料ノ模範トスルニ足ルモノナリ

又穴原商會ノ「リサイト」ハ水溶液トシテ使用スヘキ塗料ニシテ油類ヲ含有セサルカ爲メニ引火ノ憂少キヲ特長トシ用法簡易ニシテ價モ亦廉ナルヲ以テ耐水ノ必要ナキ場合ニ在リテハ便利ノ塗料タルヲ失ハサルヘシ

糊料

報告員　主任　審査官　高松德治郎

列座　審査官　莊司市太郎

列座　審査官　本間寅之助

出品糊料ノ種類ハ澱粉及接合劑ニシテ其點數六、其人員五ニシテ東京及愛知ノ一府一縣ノミ今左ニ之カ概評ヲ爲サンニ

東京府出品ノ封緘接合用護謨液ハ「アラビヤ」護謨及「ゼラチン」ノ混合溶液ニシテ之ニ鹽化錫ヲ調合シ腐敗ヲ防クヲ以テ永遠ニ使用シ得ルノ便アルモ價格不廉ナリ又文明糊ト稱シ普通澱粉糊ニ鹽化錫ノ如キ防腐劑及一種ノ香料ヲ調合シタルモノアリ此二者ハ共ニ需用ノ途狹少ナリ其他乾盤石糊ト稱シ小麥糊ヲ乾燥シ粉末ニシタルモノアリ其粘着力極メテ强ク一般ノ皮革若クハ諸木細工ノ接合劑ニ適當ノモノナルヘキナリ

其他ノ出品ハ單ニ白米、小麥ヲ粉末ニシタル澱粉ニ過キスシテ評スヘキモノナシ

糊料出品竝ニ授賞統計表

府縣名	出品點數	出品人員	褒狀
東京府	五	四	四
愛知縣	一	一	一
合計	六	五	四

第八部　第七十六類　煙火

報告員　主任　審査官工學博士　下瀨雅允

列座　審査官　樋口眷一

列座　審査官　莊司市太郎

本品ヲ出品セル者東京府下ニ於テ二名アルノミ其點數亦僅ニ三十一、製作何レモ良好ニシテ別ニ粗造ナルヲ見ス但之ヲ打上クルノ際間々早發若クハ遲發シテ充分ナル効果ヲ奏セサリシモノアリシヲ遺憾トス然レトモ之ヲ全體ヨリ評スレハ其技術ハ追年進歩シツツアルハ明白ニシテ殊ニ晝間煙火ノ彩煙ノ如キハ蓋シ著明ナルモノト謂ハサルヲ得ス夜間ノ仕掛煙火亦別ニ批難スヘキ缺點アルヲ見ス然レトモ其導火線ノ働キ稍〻緩慢ニ失スルノ憾アリ今若シ其働キヲシテ一層迅速ナラシメ以テ一齊點火ヲ行フヲ得ンカ更ニ一段ノ美ヲ加ヘ得テ壯觀言フヘカラサルモノアラン

煙火ハ其目的遊戯的ノモノアリ又營業的ノモノアリ遊戯的ノモノハ其産額詳カナラサルモ營業的ノモノハ近來祝事祭典等ノ行ハルルモノ多キト海外ヨリノ注文漸次增加セルトニ依リ頗ル好況ヲ呈セルモノノ如シ現ニ今回ノ出品者ナル鍵屋彌兵衞ノ最近三ケ年平均ノ年額ヲ見ルニ其高六萬八千圓ニ達シ内四萬二千圓ハ海外輸出額ナリト云フ亦以テ斯業現況ノ一端ヲ窺フニ足ラン

之ヲ要スルニ煙火モ亦我邦特技ノ一ニシテ古來ヨリ尠カラサル進歩ヲ遂ケタルモ尙一層改良ヲ施スヘキ餘地ナキニ非ス一例ヲ擧クレハ打上ケニ於ケル導火ヲ改良シテ傳火ノ緩急其宜シキヲ得セシムルコト及仕掛煙火ニ於ケル導火線ノ緩慢ヲ改メテ急速ナラシムルコト若クハ成ルヘク硝煙ヲ減シテ觀覽ニ便ナラシムルコト或ハ成ルヘク機械力ヲ應用シテ製造品質ノ均一ヲ謀リ兼ネテ其價ヲ低廉ナラシムルカ如キハ目下當業者ノ注意ヲ要スル所ナルヘシ其他煙火ノ蓄藏中若クハ其輸送中自然發火シテ多大ノ損害ヲ釀スコトアルハ往々耳ニスル所ニシテ是レ畢竟成分ノ配合其當ヲ得サルカ然ラサレハ他ノ不注意ニ因リ起ル災害ニ外ナラス故ニ當業者タル者將來倍〻學理ヲ應用シ以テ不慮ノ災害ヲ未然ニ防クコトヲ勉ムルハ是レ其職責ニシテ又公衆ニ對スル義務ナリト謂ハサルヘカラス

燐寸

報告員　主任　審査官　莊司市太郎

列座　審査官　樋口眷一

此種ノ出品人員及點數等ハ左ノ如シ

燐寸出品人員竝ニ點數表

府縣名	出品人員	出品點數	授賞 金銀	授賞 一等	授賞 二等	授賞 三等	授賞 褒狀	授賞 計
東京	三	五	—	—	—	—	一	二
宮城	一	二	—	—	一	—	一	一
兵庫	四	二五	—	一	—	—	—	四
長崎	一	一	—	—	—	一	—	一
計	九	三三	—	一	一	一	三	八

列座　審査官　辻本滿丸

我燐寸工業ハ明治九年始メテ新燧社燐寸工場設立セラレシ以來相續キテ各地ニ燐寸製造ヲ營ム者起リ幾多研鑽ノ辛勞ヲ經テ遂ニ目下ノ盛況ヲ見ルニ至レリ現今本邦ニ於ケル主産地ハ兵庫、大阪、愛知、東京等ニシテ兵庫、大阪最モ盛ニシテ全國ノ約九割ヲ生産ス最近本邦ノ燐寸總生産年額約千三百萬圓ニシテ内千百萬圓ヲ輸出スルニ至レルハ是レ當業者ノ奮勵ニ因ルハ言フヲ俟タサルモ由來本邦ニ於ケル軸木ノ豐富ト工賃ノ低廉トハ亦其主因ナリトス斯ノ盛運ハ遂ニ外敵ヲ驅逐シテ東洋ハ殆ト我專有市場トナリ燐寸生産國トシテ我ハ世界ニ於ケル主産地タルニ至レリ我天惠ノ軸木原料ト相俟チテ生産費ノ低廉ハ更ニ大々的發展ヲナスヘカリシニ未タ事豫期ノ如クナラサルハ我燐寸工業狀態ハ分業多キニ過キテ家内工業的ニ非サレハ工場小規模ニ過キ何レモ工業經營ノ宜シキヲ得サリシカ故ナリ近來此等少規模ノ工場ハ或ハ擴張或ハ合同シテ其組織ヲ改善シテ工場設備其緒ニ就カントス又近クハ大規模ノ日英合同燐寸工場ノ計畫アリト云フ斯ノ如キハ將來燐寸業ノ發展ニ資スルコト大ナルヘク既ニ此等諸計畫ニシテ事實トナランカ我燐寸工業ノ前途ハ其盛況今日ニ倍蓰スルヤ明カナリ

今回出陳ノ燐寸ハ安全燐寸、二重安全燐寸、黃燐燐寸、煙火燐寸ニシテ其製品概シテ進歩ノ度ヲ認ム殊ニ

兵庫縣出品ノ燐寸ハ何レモ輸出品ニシテ第五回內國勸業博覽會當時ニ比シ其製造高ヲ增加シ製品又大ニ改善セラレタルヲ見ル兵庫縣、東京府出品ノ二重安全燐寸ハ未タ完全ト云フヲ得サルモ技能大ニ進歩セリ東京府出品ノ煙火「マッチ」ハ今回始メテノ出品ニシテ其製作佳良品位亦外國品ニ比シテ遜色ナシ黃燐燐寸ハ爾來海外ノ需用大ニ增加シ包裝等稍、進歩セルモ品位ニ於テ著キ進歩ナシ今回出品中內地需用ノ安全燐寸中軸木ノ甚シキ不揃等アルハ商品ノ信用上大ニ注意スヘキ事ナリ

第八部　第七十七類　香水、香油、紅、白粉、齒磨類(石鹼ヲ除ク)

報告員　主任　審査官　慶松勝左衞門

列座　審査官　莊司市太郎

列座　審査官　辻本滿丸

此種ニ屬スル出品點數ハ東京府三百四十六點、府外百十點合計四百五十六點ニシテ府縣別、出品人員、出品點數及受賞者ノ數ハ左ノ如シ

府縣別	出品人員	出品點數	一等賞牌	二等賞牌	三等賞牌	褒狀	計
東京	八五	三五六	三	二	二〇	三一	五六
大阪	四	五七			一	二	四
京都	四	一四				二	三
愛知	三	六				一	一
新潟	二	五				一	一
島根	二	三					
茨城	一	一〇					
臺灣	二	五					
計	一〇三	四五六	三	二	三七	六五	

更ニ品別點數ト其授賞數トヲ揭クレハ左ノ如シ

品目	點數	一等賞牌	二等賞牌	三等賞牌	褒狀	計
齒磨	七五	三		八	四	一五
白粉	一二五			六	一〇	一七
香油	一〇八			五	九	一五
香水	六二			二	四	七
洗粉	三九				三	三
化粧水	四二				三	三
紅	五			一	二	三
計	四五六	三	三	二二	三七	六五

右表ノ如ク出品中白粉香油最モ多ク齒磨香水其次位ヲ占メ化粧水洗粉更ニ之ニ亞キ紅ハ僅ニ數點ニ止マレリ先ツ白粉ヲ通覽スルニ煉製ハ最モ多ク水製ハ其半ニ居リ粉製ハ更ニ少數ナリ是レ使用ニ輕便ナルヨリシテ自ラ需用ノ大小アルニ因ルナランカ外ニ紙面ニ顏料ヲ塗附セル紙白粉ナルモノアリ携帶用トシテ便宜ナルモノアリ

白粉類ノ品質ヲ檢スルニ炭酸鉛ヲ主劑トセルモノト酸化亞鉛ヲ主劑トセルモノト其數ニ於テ相半ハセリ斯ノ如ク亞鉛製品ノ近時大ニ增加セルハ從來白粉ヨリ來ル鉛毒ノ害ヲ避ケントスルノ思想ニ基クモノニシテ洵ニ喜フヘキ現象ナリト雖モ酸化亞鉛ノ皮膚ニ附着スル度ハ炭酸鉛ニ比シテ弱ク又彼ノ次硝酸蒼鉛ノ如キハ其價格不廉ニシテ一般ノ需用ヲ充タス能ハス從ヒテ炭酸鉛製品ノ未タ勢力ヲ維持スルコト遙ニ他ヲ超ユルヲ見ル蓋シ硫酸鉛ハ其不溶解性ト其結合ノ安定ナル性トニ於テ炭酸鉛ニ比シ無害ナルノミナラス皮膚ニ附着スル度ニ於テモ優劣ナキモノナルヲ以テ斯業者ニ於テ之カ研究ヲ重ネ爲政者モ亦炭酸鉛ニ代フルニ硫酸鉛ヲ許容スルノ途ニ出テンコトヲ望ム

香油ヲ通覽スルニ數ニ於テ水油ハ十分ノ五ヲ占メ髮附梳油ハ十分ノ三ニ居リ「パラフヰン」ヲ基礎トセル

モノハ十分ノ二ニ止マレリ而シテ水油中椿油ノミヲ原料トセルモノ三分ノ一ニシテ爾餘ノ三分二ハ白絞油、胡麻油等ヲ使用シ或ハ之ニ椿油ヲ混和セルモノナリ蓋シ椿油ハ黏度（ビスコシラート）最モ弱ク毛髪ニ附着シテ之ヲ粘凝セシムルコトナキヲ以テ從來ヨリ汎ク稱揚セラルルモノナリ然レトモ其精製ニシテ不完全ナランニハ腐敗シテ惡臭ニ放ツコト他ノ植物油ト異ナラス出品中二三ハ粘土法或ハ洒光法ニヨリ完全ニ脱色シタルノミナラス蛋白質、粘液質及游離脂肪酸ヲ除去シタルモノアリト雖モ一般ニ此點ニ留心スル者尠キハ遺憾ナリトス但椿油ハ其產額ニ制限アルヲ以テ價格亦不廉ナルヲ免レス將來さゞんくわ油ノ如キ性質類似ノモノヲ代用スルニ工夫ヲ要スヘク白絞油、胡麻油ノ如キモノニ在リテモ其精製ニ於テハ椿油ト異ナラス是レ亦一層ノ研究ヲ行フヘシ

鬢附、梳油ハ水油ヲ基礎トシ之ニ木蠟等ヲ混溶セルモノニ過キサルヲ以テ特ニ言フヘキナシ

「パラフヰン」油ヲ基礎トセルモノハ一般ニ外觀頗ル美ニシテ時好ニ適セルモノ多シ然レトモ毛髪ヲシテ能ク漆黑嬌柔ナラシムルノ度ニ於テハ植物油ニ劣ルモノノ如シ且此等ハ往々ニシテ游離礦酸ヲ含有スルカ故ニ之ヲ使用スル者ハ品質ノ選擇精製ニ注意セサルヘカラス蓋シ香油ノ原料ハ植物油ニ取リ香氣ハ時好ノ流行ニ投スルコト策ノ得タルモノナランカ

齒磨ハ出品中粉製三分ノ二ヲ占メ煉製三分ノ一ニ居リ別ニ水齒磨ナルモノ數點アリ粉齒磨ハ概ネ炭酸「カルシウム」トヲ主劑トセルモノニシテ品質精良ノモノ尠カラス販路遠ク海外ニ及ヘルハ喜フヘキ現象ナリ然レトモ其原料ハ皆之ヲ輸入品ニ仰クハ遺憾ノ點ナリトス蓋シ原料ノ製造ハ自ラ分業ノアルアリテ直接齒磨業者ノ經營ヲ要セサルモノナルカ如キモ今日ノ如ク多額ノ需用ヲ來シ販路ノ擴張ヲ見ルニ至リテハ當業者宜シク內地產ノ原料ヲ使用スルコトニ務メ自ラ其製出ヲ經營スルカ或ハ他人ヲ奬勵シテ之ニ從事セシムルノ擧ニ出テサルヘカラス內地品ノ產出多キヲ致シ品質純良ナルヲ得ンニハ終ニ原料ノ輸入ヲ杜絶シ斯業ノ根底ヲ鞏固ナラシムルヲ得ルヤ必セリ出品中支那輸出ノ目的ヲ以テ硅砂ヲ混用セルモノアリ斯ノ如キハ或ハ一時ノ利ヲ博シ得ヘキモ到底永久ノ聲價ヲ維持スルモノニ非ス又過酸化「カルシウム」ヲ混シテ殺菌ノ作用ヲ呈ストナスカ如キ寧ロ害アリテ益ナキモノト謂ハサルヘカラス共ニ一考ヲ要ス

煉齒磨ニ在リテハ一見其稠度宜シキヲ得タルモノ少シトセス然レトモ坊間販賣ノ品ニ就キテ檢スルニ或ハ時日ノ經過ト共ニ乾涸シ或ハ季候ノ變移ト共ニ潮解スル等保存ノ點ニ於テ缺クル所アルヲ認ム是レ素ヨリ原料調合ノ如何ニ因ルナランモ亦容器ノ工夫ニ乏シキモノアルニ非サルカ更ニ研究ヲ要スヘキ點ナラン中ニハ結晶齒磨ト稱シ全ク乾涸セシメタルモノアリ斯ノ如キハ使用ニ便ナラス煉齒磨ノ店曝シトナリタルモノト敢テ異ナルナキカ如キハ商品トシテ不利ナルモノナリ

水齒磨ト稱スルモノハ彼ノ輸入品「オドール」ノ類ニシテ水ニ滴加シテ含嗽スルニ用ユ此等ハ將來或ハ有望ノモノナランモ出品中只水面ニ油滴トナリテ浮遊シ含嗽ニ可ナラサルモノアリ彼ノ「オドール」ノ如キハ石鹼ヲ混和スルカ故ニ能ク水中ニ乳濁融溶ス宜シク參考トナスヘシ

香水ハ概シテ製法幼稚ナリト稱セサルヲ得ス其體裁外觀ノ美ニ於テハ洋品ニ摸倣シテ頗ル發達セルモ內容ハ二三ヲ除キテ不完全ナルモノ多シ試ニ其香氣ノ揮散度ヲ檢スルニ數時間ヲ出テスシテ既ニ全ク之ヲ感セサルモノ少シトセス或ハ又揮散スルト同時ニ汚染ノ跡ヲ止メ越幾斯樣不快ノ氣ヲ遺スモノアリ此等ハ「アルコホル」或ハ「バルサム」類ノ量ヲ適度ニ使用セサリシニ因ルナラン又彼ノ「ムスク」「ロース」或ハ「バイオレット」等ト稱スルモノハ其香料ノ主劑ヲ指セルモノナランモ之ニ兼ヌルニ種々ノ香料ヲ以テシ渾然トシテ融和セル香氣ヲ發セシムルコト香水ノ本能ニシテ然ラスンハ未タ以テ香水ト稱スルニ足ラサルナリ

中ニハ本邦產草花ヲ原料トシテ特色アルモノヲ製出セルアリ此等ハ其注意ト工夫トニ於テ採ルヘキ點尠シトセス然レトモ其原料ノ製法不完全ナルカ爲メニ香水トシテ賞スヘキ所ナク却リテ衣帛ヲ汚染スルノ缺點アリ更ニ研究ヲ積ミ完全ナル揮發油分ヲ抽出シ以テ精品ヲ得ルニ務ムヘキナリ香水ニ附帶シテ日本產揮發油類ヲ出品セル者一二アリ規模未タ小ナルカ如キモ將來有望ノモノナルヘシ

洗粉ヲ通覽スルニ其良否ハ麩質(クレーベル)ノ分量ニ關係スルモノノ如シ麩質多キモノハ水ニ和シ揑揑ネル際能ク自ラ凝着シ彈性ヲ有スル塊トナリ器械的ニ皮膚ノ汚物脂分ヲ洗除スルノ効アリ從來小豆粉ヲ以テ洗粉ノ上乗トナセルハ其理自ラ爰ニ存ス然ルニ外觀ノ美ヲ裝ハンカ爲メ純白ノ澱粉ヲ使用シ或ハ其揑性ノ缺ケタルヲ補ハンカ爲メニ更ニ之ニ護謨質ヲ混セルモノアリ此等ハ皆學理ニ通曉セサルノ弊ニシテ共ニ用フルニ足ラス中ニハ一二クレベル質ニ富ミ且外觀ノ美ト香氣トヲ兼備セルモノアルモ一般ヲ通シテ更ニ一段ノ改良ヲ要スヘキナリ

化粧水ハ多クハ硼酸「サリチール」酸「リスリン」或ハ水飴ヲ混シ之ヲ稀薄シタルモノニシテ別ニ論スヘキナク紅ハ依然トシテ舊風ヲ墨守スト雖モ精品ヲ出タセリ是レ亦評スヘキナシ

外ニ佛國出品二百〇六點(出品者三名)アリ其品質佳良ナルノミナラス斬新ニシテ邦人ノ嗜好ニ適セル芳香原料ニ乏シカラス又化粧料中種々ノ意匠ヲ凝ラセルモノアリ本邦斯業者ノ參考ニ資スヘキモノ多シ只逐一之ヲ試驗セルニ非サルヲ以テ詳細ノ報告ヲナス能ハス概シテ之ヲ内國製ニ比スレハ其優劣ノ差著キハ言ヲ俟タサルナリ

石鹸

報告員　主任　審査官　辻本滿丸
列座　審査官　樋口眷一
列座　審査官　莊司市太郎

此種ニ屬スル出品ハ化粧、絹練、洗濯、軟性及藥用ノ五種ニシテ出品人員六十一名、出品總數三百二十五點ナリ之ヲ表記スレハ左ノ如シ

府縣	出品人員	出品點數	受賞者數 名譽銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	計	出品人員ニ對スル受賞者比例
東京	五四	二八一	一	二	四	八	一一	二六	四八、一五
大阪	四	三二							
神奈川	三	一六							
三重	一	二							
兵庫	一	四							
合計	六一	三二五	一	二	一	一	一	五	五〇、〇〇

更ニ之ヲ種類別ニスレハ左ノ如シ

府縣	化粧石鹸	絹練石鹸	洗濯石鹸	軟石鹸	藥用石鹸	合計
東京	二三三	一二	一六	八	一二	二八一
大阪	三〇	一	一			三二
神奈川	五	一	一			六
三重		一				二
兵庫	三					四
合計	二七二	一六	一七	八	一二	三二五

右ノ如ク東京府ノ出品大部分ヲ占メ他府縣ノモノ甚タ少シ出品ハ其品質概ネ良好ニシテ殊ニ化粧石鹸ニ在リテハ形狀包裝等ニ意匠ヲ凝ラセルモノアリ價格又之ニ相應シ當業者技術ノ進歩ヲ徵スヘキ點少カラサリシハ誠ニ喜フヘキナリ今左ニ聊カ之ヲ細説センニ

化粧石鹸ハ出品中ノ主要ナルモノニシテ良品少カラス然レトモ又遊離脂肪、遊離「アルカリ」ヲ含有シ或ハ澱粉ヲ混合セルモノアリ近來化粧石鹸ニハ所謂鹽析法行ハルルニ至リ大ニ品位ヲ改良スルニ至リタルカ如キモ鹽析後再ヒ「アルカリ」液ト煮沸セサルモノ多キヲ以テ鹸化ノ不充分ト食鹽ノ混淆トヲ免ル能ハサルノ虞アリ又彼ノ冷製法ノ如キハ極メテ注意シテ脂肪及苛性曹達ノ用量ヲ過不及ナカラシムルニ非スンハ到底正當ナル石鹸ヲ得ルコト難シ然ルニ當事者ノ爲ス所ヲ見ルニ牛脂八十分、椰子油二十分ノ混和物ニ對シ苛性曹達二十分以上ヲ用ヰル者アリ此ノ如キハ苛性曹達ノ過剰甚シキヲ以テ

各油ノ鹼化價ヨリ計算セル正確ノ量ヲ使用スルヲ要ス澱粉混和ハ近來ノ通弊ニシテ假令之カ爲メニ直接使用者ニ害毒ヲ及ホスコトナシト雖モ之ヲ混和セルモノハ石鹼卽チ脂肪酸鹽類ニ適ハサルヲ以テ斷然之ヲ排斥セサルヘカラス本回ノ出品ニ依ルニ一般其混和量ハ過大ナラサリシモ五「ペルセント」內外ノモノ甚タ多ク其最モ多量ナルモノニ至リテハ二十「ペルセント」ニ達セルヲ見タリ練製ナラサル石鹼ハ澱粉ヲ混スルコトナキヲ以テ品質良好ナルモ水分多クシテ保存中形狀ヲ損シ外觀美ナラサル缺點アリ其改良ヲ講センコトヲ望ム又香料ノ配合ハ最モ難事ニシテ單ニ高價ナルモノヲ混合シタルモ必シモ優等ノ香氣ヲ得ルモノニ非サルヲ以テ無益ニ香料ヲ消費セサルコトヲ研究スルヲ必要トス化粧石鹼ノ一種ニ透明石鹼アリ孰レモ多量ノ砂糖ヲ加ヘタルモノニシテ「アルコール」ノミヲ用ヰ製造セル正當ノ物品ニ非サルモノノ如シ本品ハ透明ナルヲ以テ夾雜物ヲ容易ニ認メ得ヘク不正ノ混淆物ヲ加フル能ハスト雖モ過多ノ砂糖ヲ混スルコトハ澱粉混和ト同一ニシテ成ルヘク之ヲ避ケサルヘカラス

絹練石鹼ハ遊離「アルカリ」ノ多量ヲ含ムモノ殆ト之レ無カリシモ完全ニ「アルコール」ニ溶解セスシテ混濁ヲ生スルモノ少カラス是レ遊離脂肪又ハ金屬石鹼「カルシウム」「クグネシウム」等ノ石鹼ニ起因スルモノナルヘク其量多キトキハ有害ナルヲ以テ製造法ニ注意スルヲ要ス金屬石鹼ハ主トシテ用水ノ不良又ハ苛性曹達ノ不純ナルニ在リ又出品中甚タ多量ノ水分ヲ含ムモノアリ賣買ノ際ニハ宜シク其量ヲ制限スヘシ

洗濯石鹼ハ甚シキ粗惡品ヲ認メサリシモ水分及不溶物多キモノアリ從來苛性曹達又ハ炭酸曹達ヲ過剩ニ加フル習慣アリ之ヲ廢セサルヘカラス樹脂用量ノ如キモ過多ナルヘカラス

軟性石鹼ハ亞麻仁油、菜種油等ヲ原料トシ苛性加里ニテ鹼化セルモノナリ孰レモ「アルカリ」過多ニシテ良質ナリト云フヲ得ス此石鹼製造法ハ冷製法ノ如ク「アルカリ」ノ用量ヲ正確ニ計算シテ操作スルヲ可ナリトス

藥用石鹼ハ其出品ノ一部ヲ審査セルモノナルカ本品製造ニ就キ特ニ注意スヘキ點ハ使用藥品ノ石鹼ト化學的反應ヲ起シテ無効ニ歸スルコトナキヤ否ヤヲ確ムルニ在リ然ラスンハ遂ニ無用ノ混和物タルニ止マルヘシ

本邦石鹼工業ハ近年著ク發展ノ域ニ進ミ明治三十八年ノ統計ニ依ルニ諸種ヲ合シテ二百五十一萬六千二百九十七圓ノ產額アリ而シテ昨三十九年ニ於ケル化粧石鹼ノ輸出額七十四萬四千五百二十四圓ニ達シ之ヲ三十八年ノ輸出額ニ比スルニ約十五萬圓ノ增加ヲ示シ將來ノ增進又期シテ待ツヘク慶スヘキ現象ナリト雖モ他方ニ化粧石鹼ノ輸入額昨年ニ於テ三十六萬四千五百五十一圓アリ是レ主トシテ本邦產石鹼ノ粗惡品視セラレ舶來品ヲ使用スル人士多キニ因ラスンハアラス由來石鹼ノ製造タル其操作ニ幾多ノ熟練ヲ要スト雖モ要スルニ油脂ト苛性「アルカリ」トヲ化合セシメタルモノニ過キスシテ之ヲ化學的見地ヨリ考フレハ極メテ簡單ナル化合物ト云ハサルヘカラス故ニ原料ヲ精選シ注意シテ製造セル石鹼ニ在リテハ其內地製ナルト輸入品ナルトヲ問ハス品質ニ甚シキ軒輊ヲ生スヘキ理由ヲ見ス卽チ內地產ノ石鹼ヲ以テ全然劣等ナリトスルハ一種ノ誤解ト云ハサルヘカラス然レトモ當業者ニ於テ近來流行スル澱粉、粘土等ヲ混シタル粗惡品ヲ製造スルヲ事トスルニ於テハ實ニ其責ナシト言フヘカラス要スルニ目前ノ小利ニ汲々タルコト無ク殊ニ其輸出品ノ如キハ最モ其濫造ヲ愼ミ本邦石鹼ノ眞價ヲ發揮スルニ務ムルコトヲ要ス

近年牛脂及椰子油ノ如キ須要原料ハ其價格甚シク騰貴スルニ至レリ內地產油脂中之カ代用ニ供スヘキモノナキヤヲ考究スルハ必要ナル問題ナルヘシ又鹽析法ノ行ハルルニ從ヒ「グリセリン」ノ回復ヲ研究スル必要ヲ生シ當業者中之ニ注目セル者少カラサルカ如シ其他改良考究スヘキ點少カラサルヲ以テ當業者タル者單ニ舊套ヲ墨守スルニ止マラス一層ノ研究ト奮勵トヲ切望スルモノナリ

本類出品ハ唯東京市、臺灣總督府ノ二ケ所ニ止マリ人員九名、出品點數九十二點而シテ賞ニ擬セラレタル者四名ナリ

其出品ノ僅少ナル所以ハ當回博覽會開催地ニ於ケル薫香ノ嗜好需用ノ尠キト關西地方製産地ノ出品ナキカ爲メナルヘシ今其出品ヲ概評セハ單ニ普通品ニシテ敢テ優秀ナル調製ノモノヲ見サルハ洵ニ遺憾トス然レトモ東京市守田治兵衛出品薫香燈ハ稍、新規ノ出品ニシテ焚燒ニ更フルニ蒸發的ノ作用ヲ爲ス爲メ簡易ナル白金海綿ノ燒熱ヲ應用シテ香竄物ヲ揮發セシメ從來ノ丁子風爐裝置ノ煩ニ優リ出品中ノ一異彩タリ尙器具竝ニ香料調劑ニ注意シ完成ヲ爲スニ至ラハ更ニ優品タルヲ失ハサルヘシ

第八部　第七十九類　紙

報告員　主任　審査官　丹羽圭介
列座　審査官　樋口眷一
列座　審査官　莊司市太郎

報告員　主任　審査官　佐伯勝太郎
列座　審査官　一川一
列座　審査官　莊司市太郎

紙類ハ本邦ニ於ケル重要生産品ノ一ニシテ其産額無慮三千萬圓ニ近ク産地ハ洽ク各府縣ニ跨レリ然ルニ今回ノ出品ハ比較的極メテ僅少ニシテ其點數地方共進會ノモノニタモ及ハサルハ頗ル遺憾トセサルヲ得ス殊ニ和紙ニ在リテハ高知縣、福井縣、靜岡縣其他著名産地ニシテ全ク出品セサルモノ多ク溜漉紙ハ僅ニ二名ニ止マリ其他洋式製紙工場トシテモ亦富士、王子ノ兩製紙株式會社其他少數者ノ出品アルニ過キス爲メニ一般本邦紙業進歩ノ概況ヲ通覽シテ論評スルコト能ハス唯此等少數ニ就キテ單簡ナル批評ヲ加ヘ以テ審査ノ報告トスルハ洵ニ已ムヲ得サルナリ

出品點數出品人員及受賞者表

	出品數		受賞者數						出品者ニ對スル受賞者ノ比例(%)
	點數	人員	名譽金牌	名譽銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	合計	
東京府	一四〇	四五	一	一				四	一〇	二二、二
京都府	一一	二					一		一	五〇、〇
大阪府	二	一								一〇〇、〇
靜岡縣	三一	三				一		一	三	一〇〇、〇
岐阜縣	四五	一一				一			一	六三、五
長野縣	三	一					二		三	一〇〇、〇
福島縣	二	一						一	一	一〇〇、〇
島根縣	三五	一八					二	一	九	五〇、〇
岡山縣	三	一								一〇〇、〇
和歌山縣	二〇	一九					一		一	一〇〇、〇
德島縣	一	一						四	四	二一、一
愛媛縣	一九	二			一		一		二	一〇〇、〇
福岡縣	五八	三八				一	一		一	四四、七
臺灣	三〇	三〇				三	一三		一七	三〇、〇
合計	四〇〇	一七三	一	一	三	五	一二	四四	六六	三八、一

右表ニ示ス如ク出品人員百七十三名ニシテ總點數四百ニ過キス而シテ其名稱種類ハ頗ル錯雜煩多ナルヲ以テ便宜上左表ノ如ク類別シテ分説セントス卽チ流漉紙類トハ舊式手漉法ニヨリ製造スルモノニシテ所謂和紙ト稱スルモノ是ナリ更ニ之ヲ半紙、書院紙、東洋紙ノ如キ普通紙類、薄葉紙、典具帖、花紙ノ如キ薄紙類、奉書、西ノ内紙、仙貨紙、傘紙、襖紙ノ如キ厚紙類、蠶卵原紙、表紙ノ如キ極原紙類及塵紙、袋紙、竹紙

ノ如キ粗紙類トス溜漉紙類トハ印刷局ノ創案セシ一種ノ洋式手漉術ニヨリ抄造スル厚紙ニシテ證券用紙鳥ノ子紙等トス洋紙類トハ洋式抄紙機械ヲ用キ製出スル機械漉紙ニシテ印刷用紙、教科書用紙、新聞用紙、燐寸用紙、包紙、摸造連史等トス略式機械漉紙類トハ不完全ナル抄紙機ニヨリ抄出セル手漉代用品ニシテ機械製漉返紙、同塵紙等ナリ

紙類點數表

	流漉紙類 普通紙類	流漉紙類 薄紙類	流漉紙類 厚紙類	流漉紙類 極厚紙類	流漉紙類 粗紙類	溜漉紙類	洋紙類	略式機械漉紙類	合計
東京府	三二	五	—	—	三一	二四	四四	四	一四〇
京都府	—	—	四	—	—	—	—	七	一一
大阪府	二	—	—	—	—	—	—	—	二
靜岡縣	五	—	—	—	—	二四	二	—	三一
岐阜縣	一七	二一	五	二	—	—	—	—	四五
長野縣	一	—	—	二	—	—	—	—	三
福島縣	—	—	—	二	—	—	—	—	二
島根縣	二九	六	—	—	—	—	—	—	三五
岡山縣	—	—	三	—	—	—	—	—	三
和歌山縣	一八	—	一	—	一	—	—	—	二〇
德島縣	一	—	—	—	—	—	—	—	一
愛媛縣	一二	五	二	—	—	—	—	—	一九
福岡縣	三〇	一〇	一三	五	—	—	—	—	五八
臺灣	—	—	—	—	三〇	—	—	—	三〇
合計	一四七	四七	二八	一一	六二	四八	四六	一一	四〇〇

流漉紙類

普通紙類

此種中半紙、書院紙(一名美濃紙)半切ハ和紙中古來ヨリ最モ需用ノ多キモノニシテ今回ノ出品亦多數ヲ占ム之ヲ楮皮製卽チ所謂生漉、三椏皮製卽チ所謂改良紙及混成紙卽チ三椏皮又ハ楮皮ヲ主原料トシ之ニ廉價ナル木纖維、藁纖維ノ如キ紙料ヲ混合調製セルモノノ三種ニ區別ス楮皮製ハ書院紙ニ最モ多ク半紙ニ在リテハ和歌山縣其他製紙術未熟ノ産地ヨリ出品セルヲ見ルモ概シテ其産額追年減少スルノ傾アルヲ免レス是レ蓋シ耐久强靭ノ特性アリト雖モ原料極メテ不廉ナルカ爲メニ時勢ノ趨勢ハ今ヤ吾人日常ノ消費物タル普通紙ニ此高價ナル紙料ノ供用スルコトヲ許ササルニ因ルナラン近來高知縣、靜岡縣、愛媛縣ノ如キ主産地ヲ初メトシ他ノ製紙地方ニ於テモ漸次之ヲ使用セサルニ至レリ三椏皮製ハ紙面平滑色相純白ニ實質緻密ニシテ優美ナルノミナラス其價モ亦生漉紙ニ比スレハ稍、廉ナルヲ以テ何レノ産地ニ於テモ之ヲ製造セサル者稀ナリ其出品亦最モ多シ混成紙ハ近年楮ハ固ヨリ三椏モ其價格俄ニ暴騰ヲ來セシヨリ此種ノ紙ハ頗ル廣ク製出セラルルコトトナレリ然レトモ混合原料ノ選擇及其用法ヲ誤レルカ爲メニ多クハ市場ニ擯斥セラレ製造者モ亦恥チテ之ヲ祕セントスルカ如キ感アリ從ヒテ博覽會、共進會等ニ於テハ常ニ此出品ヲ見ルコト頗ル少シ但其價ノ廉ナルヲ以テ世上ノ需用ハ追年益、多キヲ加フルヲ見ル以上三種ノ紙類ヲ概括シテ出品ノ優劣ヲ評スレハ愛媛縣出陳ノ三椏皮製半紙、書院紙、半切ハ岐阜縣出陳ノ生漉書院紙ト共ニ最モ優逸精良ニシテ技倆ニ遺憾ナク品質ニ缺點ヲ見ス然レトモ其製法迂遠ニシテ未タ文明的工業ト稱スル能ハサルヲ以テ將來大ニ改良發展ヲ要スヘキナリ島根縣ノ半紙、書院紙ハ製式土佐ヲ宗トシ品質佳良ナルモノ多シ同縣下ハ近年稍、製品改良ノ跡ヲ認ム長野縣出陳ノ信濃紙ハ生漉書院紙ニシテ其質稍、見ルヘシ和歌山縣ノ生漉半紙ハ劣質ニシテ評スルニ足ラス同縣下ノ如キハ從來寧ロ傘紙類ニ於テ名アルニ拘ラス徒ニ外觀ノ美ナル半紙ヲ出タセルハ採ラサル所ナリ靜岡縣ノ修善寺書翰紙、福岡縣ノ半紙、書院紙等擧ケテ稱スルノ價値ナク殊ニ其藁入紙ノ如キハ原料ノ用法ヲ誤ルモノト謂フヘシ

障子紙ハ書院紙ノ一種ニシテ岐阜縣產最モ良好ナリ本來ハ楮皮製タルヘキニモ拘ラス往々價ヲ低下センカ爲メニ他ノ原料ヲ使用シ或ハ外觀ヲ純白ナラシメントシテ晒粉ヲ過量ニ用ヰ紙料ヲ漂白シ其洗滌不完全ナル等ヨリ紙質脆弱ナルカ又ハ久シキヲ經テ着色變質スルカ如キ粗品ヲ出スコト少カラス忌ムヘキコトナリトス

東京府出陳ノ雅邦紙、擬唐紙、礬水引紙等亦皆普通ノ書院紙ト同質ニシテ唯幅員ノ異ナルアルノミ孰レモ福井、岐阜、高知等諸縣下ノ製造ニ係リ其品質優等ナラサルニ非サルモ擧ケテ揭クヘキ進歩特色ノ存スルヲ認メス軍道紙ノ如キハ最モ粗質劣等ニシテ評スルニ足ラス

東洋紙ハ福岡縣ノ特產トモ稱スヘキ重要ナル清國輸出紙ノ一ニシテ頗ル進歩改良セルヲ認ム

其他保田紙、百田紙、中折紙、溝口紙等特ニ論スルノ價値ナシ

薄紙類

薄葉紙(一名コッピー紙)及典具帖ハ岐阜縣ノ出品ヲ以テ最モ佳良ナルモノトス愛媛縣ノ出品亦頗ル優逸ニシテ品質ハ毫モ岐阜縣ニ劣ラサルノミナラス其漉入紙ニ至リテハ其技最モ妙ヲ極ム然レトモ此等製品ニ關スル市場ノ信用未タ土佐、美濃ノモノノ如ク確實ナル能ハサルヲ以テ販路狹少ニシテ取引多カラス福岡縣、島根縣ノ出品ハ品質中位ニ屬スト雖モ此等ノ地ニ於テハ未タ曾テ此種製紙ノアルヲ聞カス恐クハ出品者徒ニ自己ノ技倆ヲ示サンカ爲メニ今回特ニ試製出陳セシモノナランカ

漉返花紙、櫻紙、京花紙等ハ紙質孰レモ用途ニ好適セリト雖モ其手漉ニシテ價ノ不廉ナルヲ以テ近年各所ニ勃興產出スル略式機械製漉返紙ノ爲メニ販路ヲ侵食セラルルノ傾勢ヲ示セリ將來有望ノモノニ非サルヘシ

厚紙類

奉書ハ愛媛縣ノ出品頗ル精巧ニシテ略、越前產ノモノニ似タリト雖モ產額多カラスシテ囑望スルニ足ラス福岡縣、東京府等ノ出品ハ品質極メテ粗惡ナリ襖紙ハ岡山縣ノ大平紙、福岡縣ノ千歲紙、松葉紙等品質稍、見ルヘシト雖モ孰レモ近年毫モ進歩ノ認ムヘキモノナク價亦廉ナラサルヲ以テ彼ノ富士製紙株式會社出陳機械漉襖紙ノ如キモノノ爲メニ漸次壓倒セラルルノ恐ナキ能ハス

仙貨紙、西ノ內紙、森下紙、宇田紙、提灯紙、桐油紙ハ出品數少ク比較評定シ難シト雖モ概シテ皆舊ニ依リテ品質改善セス且價モ廉ナリト云フ能ハサルヲ以テ特ニ稱揚スルニ足ラサルモノノ如シ

極厚紙類

蠶卵原紙類ハ長野縣出品最モ佳良ニシテ福島縣、岐阜縣ノモノ之ニ次ク孰レモ好ク其用ニ適スルモノト認ム

表紙ハ品質不可ナルニ非サルモ元來貼合セニ煩多ナル手工ヲ要シ加之原紙高價ナル爲メニ其價亦頗ル貴ク且今後ハ其需用漸次縮小スヘキモノナルヲ以テ敢テ重キヲ措クニ足ラサルヘキナリ

粗紙類

袋紙、塵紙等ノ品種ハ孰レモ唯其用途ニ適スル限度ニ於テ價ノ極メテ低廉ナランコトヲ欲シ敢テ品質ノ優美ナルヲ望マサルモノナルヲ以テ勞銀日ニ昂騰スル今日ニ於テハ最早舊法ヲ固守シ煩冗ナル手工ニ因リテ之ヲ製造スヘキニ非ス然ルニ今尙此等手漉紙ノ出品ヲ見ルハ當業者ノ時勢ニ迂ナル寧ロ憫然ナリト謂フヘシ

臺灣產ノ粗製竹紙ハ進歩ノ途未タ全ク啓發セサルヲ以テ其品質ニ就キテハ毫モ評スヘキ價値ナシト雖モ今回ノ出品ハ我新領土ニ於ケル特產品ヲ世ニ紹介セルモノニシテ紙業界ノ參考ニ資スル所多ク効果少シト謂フヘカラス

抑、上記流漉紙卽チ所謂一般和紙ノ製造ハ大抵皆古來ノ祖法ヲ踏襲墨守スルニ過キスシテ文明日新ノ今日尙學理機械ノ應用ニ勉ムル者稀ナリ畢竟是レ當業者智識ノ幼稚ナルト資力ノ微弱ナルトニ職由スルコト疑ナカルヘキモ或ハ當業者ノ改革進取ノ氣慨ニ乏シキコトナキヤヲ嘆セサルヲ得ス今ヤ機械利用ノ途開ケ粗紙ハ手漉ニヨリ抄造スルコトナク抄紙機ヲ以テ廉價ニ製出シテ販賣スル者日ニ益

加ハリ來ルノミナラス半紙、書院紙ノ如キ普通紙ハ既ニ土佐ニ於テ之ヲ機械抄造ニ移スコトニ成功セルニ非スヤ固ヨリ小規模ナル當業者各人ニ悉ク高價ナル機械ヲ設置スヘキコトヲ勸誘スルニ非サルノミナラス寧ロ生產組織ノ上ヨリ見レハ全國多數ノ小家內工業ヲ變シテ俄ニ之ヲ工場組織トセンコト決シテ策ノ得タルモノニ非サルヘキヲ信スト雖モ今ニ於テ少クトモ彼ノ打叩、煮熟、漂白、乾燥等一部ノ作業ヲ共同工場ニ移シ以テ「ビートル」其他ノ機械ヲ利用シ學術ヲ適用シテ製法ノ改革ニ努ムルナクンハ全國數萬戶ノ和式製紙家ハ近キ將來ニ於テ一敗復救フヘカラサルノ悲境ニ沈淪スヘキコト疑ヲ容レサルナリ徒ニ依然トシテ迂遠ナル陋法ヲ固持シ煩多ナル人工ニヨリテ不廉ナル少量ノ製品ヲ作出シ晏然トシテ其技ノ巧緻ヲ誇ルカ如キハ識者ノ執ラサル所ナリトス

溜漉紙類

此種出品ハ烏ノ子紙、證券證書用紙、名刺用紙等ニシテ孰レモ三椏皮製ナリ靜岡縣三立商會ノ出品ハ優等ニシテ就中其漉入ニ於テ苦心セルヲ見ル東京府井上源之丞出品ハ福井縣產ニシテ亦佳ナリ近時此種ノ紙類ハ其需用著ク增加セシカ爲メニ福井縣、靜岡縣、京都府、廣島縣等ニ於テ續々工場ノ新設及擴張ヲ企テ來レリ由來此製造作業ニハ原動機「ビートル」壓搾機、光澤機、蒸煮鑊、蒸氣乾燥室等ノ完成セル設備ナカルヘカラス而シテ此等設備アル工場ニ依リテ始メテ製紙原料ノ完全ナル處理卽チ學理ト機械トヲ應用セル紙料製造ヲ營ミ得ヘク從ヒテ此種紙需用ノ膨脹ハ間接ニ和式製紙法ノ改革ヲ助クルモノナルヲ以テ此等工場ノ增加ハ深ク斯業ノ爲メニ慶賀セサルヲ得サルナリ然レトモ當業者ノ多クハ溜漉紙ハ三椏皮製ニ限レルモノト誤解セルノ結果敢テ他原料ヲ適法ニ處理スルノ術ヲ究メス偶、藁、藺其他ノ代用纖維ヲ混用スルモノアルモ其目的タル皆其製造費ヲ低下センカ爲メニ竊ニ之ヲ加ヘ需望者ヲ欺瞞セント試ムルニ外ナラサルヲ以テ其用法寧ロ當ヲ得タルモノニ非ス若シ此等設備ノ完キ裝置ヲ利用シテ木纖維、木綿麻等ノ襤褸其他諸種ノ原料ヨリ任意ノ紙料ヲ適法ニ調製スヘキノ技術ヲ攷究シ三椏皮製紙以外ニ諸種ノ新紙類ヲ製出スルコトヲ努ムルニ於テハ內ハ和式製紙家ニ範ヲ示シテ將來進ムヘキ方針ヲ授ケ外ハ海外ヨリ輸入セル上等紙類ノ幾分ヲ防遏シテ自己ノ利源ヲ開發スルコトヲ得ヘシ是レ洵ニ國家ノ經濟ヲ益スルモノニシテ其功豈尠少ナランヤ

洋紙類

富士製紙株式會社出品中印刷用紙ハ品質優良ニシテ同社技術近年ノ進歩ヲ見ルヘク其連史、唐紙等亦精良ニシテ好輸出品タルニ乖カサルヘク又其包紙現字紙、襖紙等モ用途ニ適スルモノト認メ得ヘシ王子製紙株式會社出品ノ教科書用紙、連史、印刷用紙等ハ品質其用ニ好適シテ價格亦不廉ナラサルヲ以テ世ノ需用ヲ滿タスニ足ル日本洋紙合資會社ノ板紙數種ハ紙質ニ優劣高下ナキ能ハサルモ孰レモ稍見ルヘシ原田製紙株式會社ノ連史「ナフキン」原紙ハ共ニ頗ル精良ニシテ特ニ其技ノ進捗ヲ認ム輓近我邦洋式製紙業ノ發達ハ洵ニ偉大ナルモノアリ就中今回出品セシ工場中富士、王子兩社ノ如キハ其規模ノ大ニシテ產額ノ多キコト歐米ノ大工場ニ匹敵スルニ足レリ惟フニ斯業界今日ノ盛況ヲ見ルハ固ヨリ需用額激增ノ因リテ致ス所ナリト雖モ當業者ノ苦心經營亦與リテ大ニ力ナキ能ハス由來我邦ニ於テハ製紙原料歐米ニ於ケルカ如ク豐富ナラス燃料貴ク水利ノ便少ク加之實業界ニ資金乏シク技術亦幼稚ナル等ノ時ニ當リ滔々トシテ汎濫セル海外輸入品ニ抗拮シテ今ヤ能ク國內ニ於テ無慮一億五千萬所(其價額一千數百萬圓)ノ洋紙ヲ供給スルノ域ニ到達シ得タルモノ蓋シ此等會社ノ功亦沒スヘカラサルモノアルナリ

略式機械漉紙類

近年極メテ粗略不完全ニシテ恰モ百年以前卽チ發明初期ニ於ケル歐洲抄紙機ニ類セル機械ヲ廉價ニ製作設置シ之ヲ使用シテ粗質反古紙其他ノ粗原料ヨリ麁紙又ハ漉返薄紙ヲ抄造スルノ業頓ニ流行シ其種工場各所ニ勃興セリ畢竟高價ナル手漉粗紙ニ代用セラレ大ニ時好ニ投シ從ヒテ巨額ノ利潤ヲ收メ得ルノ致ス所ニシテ亦是レ時勢ノ推移ニ伴ヘル事業ノ一タルコトヲ妨ケサルナリ今回東京府及京都府ニ數個ノ出品ヲ見ルニ就キテ之ヲ檢スルニ孰レモ品質稍劣等ナルコトヲ免レス ト雖モ用途ニ適

當セサルニ非サルヲ以テ寧ロ之ヲ頒スルモ不可ナカルヘシ

參考品

臺灣總督府嘉義模範製紙場出陳

畫仙紙(厚薄各種)、唐紙(同)、書翰紙(同)、美濃紙半紙

臺灣所產ノ萱、竹及內地輸入ノ楮皮、三椏皮ヲ原料トシ其纖維ヲ適度ニ配合シテ抄造セシモノニシテ品質頗ル優良就中畫仙紙、唐紙ノ如キハ孰レモ清國所產ノモノト大差アルナク其價格ハ遙ニ低廉ナルヲ以テ將來極メテ好望ナル輸出新製品トシテ囑目スヘキ好模範ヲ我紙業界ニ示セルモノト謂フヘシ畢竟同工場ノ機器完備シ且科學ヲ應用セル新式製法ニ因レルノ致ス所ナランカ

臺灣總督府嘉義模範製紙場出陳

紙原料麻竹、同桂竹、同野生楮、糊原料班芝樹、同山芙蓉

孰レモ製紙家ニ取リテハ有益ナル好參考品トシテ注目スルニ足ル

韓國京城日本人商法會議所及木浦日本人商業會議所出陳

溫突用紙、紙(大三貼)同(加平貼)同(別完山)同(胡尺)同(完山)同(清風)同(盈德)、扛紙、窓戶紙、白紙

韓國在來ノ特產紙類ニシテ同國所產ノ山楮ヲ原料トシテ製出セル粗品トス其製法ハ頗ル迂遠繁冗ニシテ近來毫モ改良セルコトヲ聞カス其品質亦敢テ佳良ナリト謂フコトヲ得ス然レトモ今回ノ出陳能ク我紙業家ヲシテ同國用紙ノ性狀如何ヲ窺知セシメ得タルハ將來我商權擴張ノ方策上大ニ參考トスヘキノ價値アルモノト謂フヘシ

第八部　第八十類　化學雜製品

報告員　主任　審査官　樋口眷一

列座　審査官　三山喜三郎

列座　審査官　辻本滿丸

此類ニ屬スル出品ハ皆東京府ニ係リ其人員七名此點數五十四ニシテ之ヲ種別スレハ「コールター」蒸餾製品、「セルロイド」製品白熱瓦斯套及其他ノ雜品二種アルニ過キス授賞者ハ三等賞一、褒狀二合計三ナリトス「コールター」蒸餾製品ハ「ベンゾール」「ナフサ」輕油「クレオソート」油「ピッチ」「ナフサリン」等ニシテ技術ノ進歩ニ伴ヒ製品品質亦何レモ頗ル佳良ニシテ各其用途ニ適シ推賞スルヲ憚ラスト雖モ現今工業上應用ノ範圍漸ク擴大スルニ從ヒ其需用モ亦益盛ナルト共ニ學術上ノ使途亦漸次大ナルヘク製品ノ種別及品質ハ緊切ノ要素トナルヘキヲ以テ精製上更ニ一層ノ注意完成ヲ望マサルヲ得ス「セルロイド」工業ニ至リテハ其發達微々トシテ振ハス製品モ未タ稱揚スルニ足ルモノナシ試ニ其厚薄板管棒等ヲ外國製品ニ比較スルニ光澤其他表面及內質ノ狀態ニ於テ著キ逕庭ノ存スルアリ蓋シ是レ此事業ノ有望ニシテ爾來計畫經營セルモノ少カラスト雖モ事業ノ性質ニ原料タル「アルコール」樟腦等ノ低廉ニ得ラレサルナリ其經營上困難ノ點尠カラサルニ職由セスンハアラス然レトモ其製品タル廣ク世ノ嗜好ニ適シ殊ニ我邦人ノ手工ニ對シ優秀ナル技倆ノアルアリ且原板及竿等ノ輸入ヲ見レハ明治三十五年ニ於テ其數量十五萬三千三百十四斤此價額約二十七萬六千圓ニ過キサリシニ四年後ノ昨三十九年ニ至リテハ其數量五十萬六千三百四十二斤此價額約八十一萬八千圓ノ多キニ上リ前途其增加尙測リ知ルヘカラサルモノアルニ考ヘ又近來當局者ノ諸般製造業ニ對シ原料及製作上ニ種々奬勵施設ヲ行フヲ以テ見レハ當業者ハ此際須ク奮ヒテ其製法竝ニ工場ノ組織經營ノ方法ヲ考究シ製品ノ完成ヲ期セサルヘカラス其細工品ニ至リテハ精巧見ルヘキモノアルヲ認ムルモ實用品トシテノ價値ニ疑ナキ能ハス切ニ望ムラクハ製作意匠ノ徒ニ珍奇ニ走ラス力メテ實用上有益利便ノモノニ就キテ意ヲ練リ思ヲ凝ラシ特有ヲ妙技ノ發揮シテ廣ク世ノ需用ヲ博スルニ至

ランコトヲ白熱瓦斯套ハ其製造近來ノ施設ニ屬シ工場及其組織ノ上ニ於テ將又裝作技術ノ點ニ就キテ未タ首肯シ能ハサル點多キヲ遺憾トス其光力及保存上尚缺點アルヲ認ムルハ主トシテ製品中原糸ノ編目ノ精粗及用藥ノ成分濃度ニ關聯スルモノト言ハサルヲ得ス是等ハ特ニ一層ノ考究ヲ經テ改良ノ實ヲ擧クルヲ要ス其他ノ雜品ハ擧ケテ言フヘキモノナシ

外國出品

外國製品ノ出品左ノ如シ

品名	數量	製造所名	出品人名
ヂエナスユ、スムース、サーソエース、ルーフキング	自一號至三號	米國ゼ、バーバー、アスフハルト、ペービング、コムパニー	横濱セール、フレザー商會
ヂエナスコ、モデル、レデー、ルーフキング	一種	同前	同同
マルソイド、ルーフキング	自半號至三號	米國ゼ、バラフキン、ペイント、コムパニー	東京藤原商店
ピーユンド、ビー、アスフハルト、フエルト	自二號至三號	同前	同同
ピー、エンド、ビー建築用紙	自一號至四號	同前	同同
ピー、エンド、ビー、レデー、ルーフキング	一種	同前	同同
ラバロイド、ルーフキング	自半號至三號	米國フランク、エス、ドローンド、コムパニー	同穴原商會
アナハラフエルト	一種	同	同同
ヂヤイアント、ペーパー	自一號至三號	同	同同

何レモ同種類ノ製品ニシテ共ニ毛製麻布製紙製ノ組層(フエルト)ニ「アスフハルト」合劑ヲ施シ壓搾加工シタルモノニ係リ品質ハ何レモ良好ニシテ各格別ノ差等ヲ見ス其効驗ハ廣ク世ニ知ラルル所ナリ近來此種ノ所謂便利瓦及建築用紙ハ其用法簡便ニシテ價格モ廉ニ殊ニ寒國ニ在リテハ使用ニ適スルカ故ニ利用ノ途開ケ向後尚需用ノ增加期待シ得ヘキヲ以テ徒ニ完成品ナリトノ誇稱ニ衒ハス更ニ其火熱ニ對スル不利ノ點ヲモ一層考究シテ改良ヲ加ヘ廣ク世ノ稱賛ヲ博センコトヲ希望セサルヲ得ス

第八部　第八十一類　化學製品ノ製造ニ關スル方法器具、裝置

報告員　主任　審査官　樋口眷一
列座　審査官　三山喜三郎
列座　審査官　莊司市太郎

材料標本等

此類ニ屬スル出品ハ東京府四點其人員二、高知縣三點其人員二合計點數七、人員四ニシテ授賞者ハ東京府ニ褒狀一、高知縣ニ三等賞一、褒狀一合計三ナリトス其出品中主ナルモノハ蠟燭製造器械紙漉簀ニ過キス蠟燭製造器械ハ普通小工業用ノ鑄型ニシテ特ニ感賞スヘキ點ヲ認メス殊ニ蠟燭頭部口金ノ實質及排列ノ點ニ尚注意ヲ缺ケル點アルヲ見ルト雖モ元來此種ノ器械類ハ家族的小工業ニ緊切ナルモノニシテ取扱上竝ニ修覆上簡易ニ且其製品製作ノ上ニ利便ナルヲ貴フヲ以テ價額低廉ナルトキハ其需用測ルヘカラサルモノアラン當事者ノ一層勉勵考究ヲ望ム紙漉簀ハ土佐ノ出中優良ノモノアリ其製作良好ナルノミナラス「ヒコ」ノ繼目ヲ正シ繼糸ノ縫目ヲ整齊セルカ如キハ事小ナリト雖モ實際上便益尠カラスト言フヘシ此種ノ用具類ハ現今ノ抄紙上缺クヘカラサルモノニシテ其製作ノ如何ハ製品ノ實質ニ關係スル所大ナルヲ以テ當業者ハ宜シク技能ノ練熟ニ依リ能ク價格ノ低廉ト實用ノ効益トヲ主トシテ更ニ製作上ニ意ヲ用ユルヲ要ス

第九部　第八十二類　陶磁器

報告員　主任　審査官　藤江永孝

列座 審査官 平山英三
列座 審査官 平野耕輔

本類ニ屬スル出品數ハ二千七百十一點此人員二百三十三人ニシテ受賞者百四十六人之ヲ出品人員ニ比セハ其三割七分餘ニ當ル其府縣別ハ次表ノ如シ

縣別	出品人員	出品點數	受賞者數 名譽金牌	名譽銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	合計	非授賞者	出品人ニ對スル授賞百分比
東京	六七	七八〇	—	—	一	一	一	一六	二六	四一	三九
京都	四	五四	—	—	—	—	—	—	三	一	七五
大阪	四	三九	—	—	—	—	一	一	二	二	五〇
神奈川	一三	八三	—	一	—	—	—	三	五	八	三七七
兵庫	四	一九	—	—	—	—	一	—	一	三	二五
長崎	三	八八	—	—	—	—	二	—	二	一	六六
新潟	二	一九	—	—	—	—	—	二	二	—	一〇〇
茨城	一	三〇	—	—	—	—	一	—	一	—	一〇〇
栃木	三一	六六	—	—	—	—	一	四	五	二六	一六一
三重	二	二一	—	—	—	—	—	—	—	二	〇
愛知	一〇	三五	—	—	—	—	—	五	六	四	四〇
岐阜	一七	一五〇	—	—	一	—	一	一	四	一三	二三五
福島	一	五〇	—	—	—	—	—	一	一	—	一〇〇
福井	一	二〇	—	—	—	—	—	一	一	—	一〇〇
石川	四二	二九八	—	—	—	二	四	九	一五	二八	三四
富山	一	一九	—	—	—	—	—	—	—	一	〇
島根	四	五四	—	—	—	—	一	一	二	二	五〇
岡山	一	六	—	—	—	—	—	—	—	一	〇
山口	二	一〇八	—	—	—	—	—	—	—	一	〇〇
愛媛	一	一〇	—	—	—	—	—	—	—	一	〇〇
福岡	四	一七八	—	—	—	—	一	一	二	一	七五
佐賀	一一	五一九	—	—	一	—	—	三	三	一	三
鹿兒島	三	五	—	—	—	—	二	—	二	五	六六
臺灣	四	六〇	—	—	—	—	—	一	一	—	三
合計	二三三	二七一一	—	—	一	四	九	二四	五〇	八七	一四六

卽チ之ヲ第五回內國勸業博覽會ニ比スルニ出品人員ハ一割四分餘、同點數ハ約一割一分餘ニ過キス是レ一地方ノ主催ニ係ルモノナルヲ以テ已ムヲ得ストスルモ從來此種出品ニ於テハ京都市ノ陶磁器ハ常ニ場內ノ光彩ヲ添フルニ拘ラス今回ハ眞ニ其寥々タルヲ感セリ此他大阪、兵庫、長崎、新潟、茨城、三重、福島、福井、富山、島根、岡山、山口、愛媛、福岡、鹿兒島、臺灣總督ノ二府十四縣ニ於テモ其出品人ハ僅ニ一人乃至四人ノミニシテ之ヲ其土地全體ノ斯業上ヨリ觀察スルトキハ是レ亦遺憾ナキ能ハス

抑、我陶磁器業ハ明治三十六年第五回內國勸業博覽會開催以來其產額ハ勿論製造ノ規模技術等諸ノ方面ニ急速ノ大發展ヲ爲シ(尙下文ニ詳カナリ)之ヲ同會以前ノ狀況ニ比スルニ非常ノ相異アリ然ルニ今回ノ出品ヲ以テスルトキハ却リテ萎微セシニ非サルカヲ想像セシムルノ疑ヲ來スノミナラス殊ニ其輸出品ニ對シテハ殆ト著キ關係ヲ認ムルヲ得サルモノノ如シ故ニ單ニ今回ノ出品物ノミヲ批評シテ斯業全體ノ現勢ヲ判定センコトハ絕對ニ不可能ノ事ナリトス

然レトモ本回出品物ニ對シ明ニ一事實ヲ認知スルヲ得ヘシ卽チ技術共通ノ範圍爾來著ク擴大セシコト是レナリ抑、我陶磁器ハ古來伊萬里燒ト云ヒ清水燒ト云ヒ或ハ九谷燒或ハ淡路燒ノ如ク名稱ノ異ナルニ從ヒ各一種ノ特色ヲ有シ少シモ他ヲ摸スルノ傾向アラス故ニ一見直ニ其何燒何地產タルヲ判定スルコト難カラサリシニ元來技術及原料ハ一地方ノ特有物ニ非サルヲ以テ交通自由ナル現時ニ於テ

ハ若シ必要ニ際セハ容易ニ之ヲ共通スルヲ得ルノミナラス各地其特質ノミヲ固守スルハ世運ノ開進ニ伴ヒ販路ヲ擴張スル所以ニ非サルヨリ或ハ他品ヲ摸セントスルアリ或ハ更ニ別種ノ裝飾ヲ創意スル者アルニ至リ益〻其趨勢ヲ強メ一見果シテ其何燒何地産ナルカヲ確認シ得サルモノ甚タ多キヲ見ルニ及ヘリ是レ時勢ニ應スル當然ナル進歩ノ結果トス且往時ニ在リテハ兎角物品自身ノ歴史ヲノミ尊重スルノ風アリシモ現時ハ之ニ加フルニ更ニ物品ノ眞價ヲ問フニ至リシカ如キハ斯業ノ爲メ賀スヘキノ事實ナリトス

左ニ出品人員十名以上ヲ有スル府縣ノ出陳品ニ就キ其概評ヲ試ムヘシ

東京府　本府ノ出品ハ他縣産品及本府製品ノ兩種ニ區別スルヲ得ヘシ東京市ハ關東ニ於ケル陶磁器ノ集散地ナルヲ以テ全國ノ陶磁器殆ト供給セラレサルモノナク從ヒテ其商店ノ數モ甚タ多シ而シテ此種ニ屬スル出品ハ主トシテ内地向ニシテ普通市販品ト大差ナキヲ以テ其製産地ナル各縣ノ下ニ於テ之ヲ論評シ茲ニハ其本市ノ製作品ニ係ハルモノノミニ於テセントス

抑〻本市ノ製作品ハ或ル數種ヲ除キ各人各樣ノ製品ヲ出陳シ他府縣ニ於ケル如ク何等共通ノ特質ヲ其間ニ認メス加藤友太郎、竹本皐一ノ出品ハ例ニ依リ一種優雅ノ美術工藝品タルヲ失ハサルモ較〻變化ニ乏シキノ嫌ナキニ非サルカ如シ聞ク加藤友太郎ハ新式工場經營準備中ナリト宜シク來ル日本大博覽會ニ於テハ其精品ヲ出陳シ以テ大ニ其技能ヲ發揚スヘキナリ板谷波山ノ出品ハ其技能ノ充分ナル見ルヘキモノアルモ更ニ進ミテ顧客ノ嗜好ヲ探究スルニ努ムルヲ要ス此他壁板應用出陳物ノ如キハ其案較〻妙ナリト雖モ其技ノ未タ至ラサルヲ惜ム宜シク此種ノ外國品ヲ參考シ一層研究スル所アルヘシ

神奈川縣　横濱市宮川香山ノ出品ヲ以テ本類全出品中ノ巨擘トス其眞葛燒ニ關シテハ夙ニ世上ノ定論アリ陶磁器製造上精妙ノ技術ヲ發揮シ能ク他人ノ難シトスル大作ヲ完成スルノ手腕誠ニ賞スルニ餘リアリ其他ノ出品ハ所謂輸出向横濱繪附品ヲ主トス神戸繪附品ニ比シ數等ノ精巧品ヲ見ル聞ク横濱陶器協會ハ該繪附ノ發展ニ對シ多大ノ効勞アリト宜シク相助ケテ駸々トシテ進歩シツツアル神戸繪附ニ一歩ヲ輸スルニ至ランコト常ニ注意ヲ要ス

栃木縣　益子燒ヲ以テ其主ナルモノトス近時其進歩大ニ見ルヘキモノアリ在來東京市場ニ於ケル瀬戸産植鉢甕類ヲ壓倒シ能ク關東ニ於ケル日用石器品ノ最大供給地トナレリ然レトモ此種製品ハ動モスレハ粗製ニ流レ易ク且其附近ニ茨城縣笠間燒ノアルアリテ笠間燒ハ近時地方廳ニ於テ具體的奬勵ノ方法ヲ實行スルアルヲ以テ益子燒タルモノ常ニ細心勉勵スルヲ要ス由來益子燒ハ耐火力ヲ缺クヲ以テ其缺點トス若シ之ヲ改良スルヲ得ハ其業運一層ノ發展ヲ見ルハ疑ヲ容レサルナリ

愛知縣　本縣ハ本邦著明ノ主産地ニシテ諸種ノ特名ヲ冠スル陶磁器アリ然ルニ僅ニ十名ノ出品人ヲ見ルノミニシテ其有名ナル瀬戸町ヨリ直接ノ出品ヲ見サルハ頗ル異トスル所トス是レ恐クハ近時同地ハ主トシテ輸出品ヲ製造スルヲ以テ當博覽會ト利益ノ關係少シトノ想像ニ基ケルニハ非サルカ出品中富士見燒、夜寒燒、犬山燒アリ此種石器ハ近來比較的世人ノ嗜好ニ投スルコト多シ製造家タル者須ク此機ヲ利用シ一層ノ發展ヲ爲スヲ要ス

岐阜縣　本縣ハ本邦陶磁器ノ最大産地ニシテ近時急速ノ勢ヲ以テ進歩セシ所以ノモノハ主トシテ價格ノ低廉ナルモノヲ製出スルニ在リ而シテ是レ工人ノ熟練ナルニ因ルナリ甚シキニ至リテハ最新式ノ機械力ニ頼ルモ尚其工人ノ手工ニ及フ能ハサルモノアリ然レトモ其製品ノ脆弱ナルハ輿論ト云フモ可ナリ且已ニ幾分カ粗製濫造ノ弊ニ陷レル形跡アリ當業者タル者今ニシテ之ニ注意スルニ非サレハ或ハ他日嗟臍ノ悔アランカ西浦圓治ノ各種出品ハ例ニヨリ本縣陶磁器界ノ一異彩ナルモ只惜ムラクハ所謂「振リ畫」ニ變化少ク意匠亦少シク缺クル所アルカ如シ

石川縣　九谷燒ノ令名ハ雷ニ内國ノミナラス遠ク歐米ニ嘖々タリ然レトモ今其實價アルモノ果シテ幾許カアルヲ是レ其令名ニ甘ンセシノ結果ニ外ナラサルヘシ其出品ハ金色赤繪燦爛タルモ形狀凡庸ニシテ意匠亦見ルニ足ラス從ヒテ其進歩他ニ比シ遲々タリ之ヲ要スルニ製造費ハ比較的高價ヲ拂フニモ拘ラス却リテ世人ノ嗜好ヲ惹クコト少キカ如ク殊ニ輸出品ノ如キニ至リテハ近時尾濃産素地ヲ直

接開港地ヘ送リ其地ニ於テ九谷風繪附ヲ施シタルモノノ一見美ニシテ價格却リテ廉ナルモノニ若カサルカ如シ當業者タル者今ニシテ覺醒スルナクンハ其將來甚タ痛心スヘキナリ

佐賀縣　所謂伊萬里燒ハ雷ニ本邦磁器ノ始製地タル名譽ヲ有スルノミナラス二十餘年前マテ實ニ本邦ノ最大製造地ナリシニ今ハ尾濃地方ト殆ト相伍スル能ハサルニ至レリ是レ亦九谷燒ト同シク全ク之ニ甘心セシト地ノ僻遠ナルトノ致ス所ナルヘシ殊ニ其生命ナル金色ノ如キハ近時粗惡ニ陷リシトノ謗ヲ免ル能ハス同地ハ只神戸市場ヘ路程遠キヲ除キ其他製造上ニ必要ナル諸種ノ好條件ヲ具備セリ故ニ其方法ノ如何ニヨリテハ他ヲ凌駕スル決シテ難キニ非ス殊ニ最上等磁器ノ製造ニ對シ最モ適當ナルニモ拘ラス當業者中果シテ能ク之ヲ企畫スル者アリヤ否ヤ是レ亦宜シク三省スヘキナリ

以上各府縣ニ於ケル斯業ノ概況及出品ノ概評ヲ試ミシヲ以テ以下更ニ其大體ニ就キ卑見ヲ陳述セントス

小官曩ニ乏ヲ第五回內國勸業博覽會審査官ニ受ケ其當時ニ於ケル我陶磁器業ニ對スル卑見ハ審査報告書ニ詳述セリ其事項ノ多分ハ爾後ニモ適應シ得ヘキヲ以テ本報告書ニ於テハ該博覽會以後ニ現出セル事ヲ主トシ併セテ將來ノ希望ヲ陳述スルコトトセリ

抑、我陶磁器ノ產額ハ明治三十二三年マテハ遲々トシテ振ハサリキ古來本邦固有ノ美術工藝品トシテ博セシ其令名ハ果シテ永久ニ益、其光輝ヲ發揚シ得ヘキヤ否ヤハ當時識者ノ一般ニ危フム所ナリシニ幸ニシテ第五回內國勸業博覽會開設兩三年前ヨリ較、其趨勢ヲ異ニシ進歩ヲ現シツツ該博覽會ヲ迎ヘ將來頗ル有望ノ工業トシテ之ヲ恢復シ得ルノ幸運ニ際會セリ該博覽會終リヲ告ケ明治三十七八年戰役ニ臨ムヤ內地向品ハ一時較、不況ニ陷リシモ之ニ反シテ外國輸出品ハ連戰連勝ノ餘威ニヨリ空前ノ劇增ヲ來シ更ニ戰役ノ終結ト同時ニ一層內外人ノ需用ヲ來シ以テ本年ニ至レリ實ニ該博覽會ハ近時ニ於ケル斯業革命期トモ稱スヘシ卽チ其輸出額ヲ見ルニ次表ノ如ク第五回內國勸業博覽會當時ニ比セハ約二倍半ノ多キニ達シ輸出工產物中織物染物、燐寸ノ次ニ位スルニ至レリ

磁器及陶器輸出表

輸出國別	三十九年	三十八年	三十七年
濠太剌利	一二九、〇三七	一三九、七二八	一〇二、三三一
	六、二三五	五、一三四	四、九四一
澳地利匈牙利	一〇、二二三	六、〇九〇	五、七四三
白耳義	一九五、六七六	一八四、四七〇	一二一、三八二
〃	九六、一九五	一〇四、八五〇	九五、二三五
英領亞米利加	七五、一七七	七九、三八九	八五、二五七
同印度	九〇六、七五二	五〇七、二二四	一九四、六三四
海峽殖民地	四六四、五三〇	四二〇、七三四	二五八、六八八
清國	三八、五〇九	二四、四九五	二一、九一五
韓國	五〇、六一五	四三、〇一五	二六、九六七
丁抹	二八、七四五	一八、八九六	一九、五〇五
蘭領印度及西伯利亞	一一六、六八九	七四、三五九	六三、三五九
佛蘭西	一四、二〇七	一五、五四五	六、四四九
佛領印度支那	一六二、一九三	一四二、二四一	八八、九五八
獨逸	四四二、九二一	二五三、〇一六	二九〇、二三四
英吉利	二一、三三五	一七、〇七八	一四、二四八
布哇	六八、五九一	四一、八三八	三六、〇三三
和蘭港	二八六、四五六	二八七、三六八	四二四、四四七
香港	三一、五三六	一二、七五七	九、五九三
伊太利	四、九三六	一、三二三	七〇
墨哥西	九三五	二、三二八	五、七九九
諾威	六、四〇七	二、八三九	一二一
秘露			

比律賓諸島	六、六五九	七、三四〇	五、五七五
露西亞	三、六七八	三六	二、七八四
露領亞細亞	三四七、一二二	二三、三四三	
暹羅	三、三二五	二、二一三	二、二〇一
西班牙	三、〇九〇	四、七五七	四、三一二
瑞西	一、二〇一	二、二九一	八七九
土耳其	三、九五三	一三、四一九	九、九〇一
北米合衆國	四、三三二、五八四	二、八二六、四五九	一、九三一、五四一
其他諸國	八三、四一五	五九、七八九	三、九一九
通計	七、九四二、九二七	五、三二四、三四四	三、八七三、〇二一

尙明治四十年一月ヨリ同九月ニ至ル全輸出額ハ五百七十八萬五千三百二十二圓ニシテ之ヲ昨三十九年ヨリ同期間ニ比スレ・ハ十七萬四千三百六十七圓ノ減額ナリトス

飜リテ其製造ノ方法如何ヲ顧ルニ第五回內國勸業博覽會當時ニ至ルマテハ眞ニ祖先傳來ノ遺習ヲ墨守スルニ止マリシノミナラス會、設立セラレシ一二會社ノ歐式ヲ摸倣スルモノアリシモ何レモ失敗ニ歸セシヲ以テ全國ノ當業家ハ斯業ニ對シ何等最新科學ノ應用ヲ企圖セス頗ル沈衰ノ狀況ニ在リキ蓋シ其當時ヲ追想スルニ已ムヲ得サリシモノアリシナラン然ルニ頻々タル需用ノ促進ハ尙舊態ヲ墨守スルヲ許サス加フルニ其數年以前ヨリ各主要地ニ設立サレシ根本的開進法卽チ實業學校若クハ試驗場ノ如キモノ着々成功シテ實績ヲ擧クルアリ此等ハ施ヒテ當業者ヲ覺醒スルノ動機トナレリ卽チ第五回內國勸業博覽會以後ニ於テ產額ノ增加ト共ニ一部泰西最新式應用ヲ見ルニ至リシ要因トナリシハ斯業ノ爲メ眞ニ賀スヘキナリ而シテ其動機ヲ全國當業者ニ與ヘシ主要ナルモノハ實ニ日本陶器合名會社ノ設立ニ在リトス

日本陶器合名會社ハ森村組ノ經營ニ係リ同組ノ米國市場ニ於ケル經歷、信用、勢力販賣額及營業ノ方法ハ既ニ世ノ定評アリ茲ニ贅スルノ要ヲ見ス第五回內國勸業博覽會當時マテハ其商品ハ主トシテ舊來ノ方法ニ據リ製セルモノヲ販賣スルニ過キサリシニ一朝斯業ノ將來ニ深ク考フル所アリ斷然巨資ヲ投シテ自ラ斯業ノ犧牲トナリ名古屋市ニ一大工場ノ設立ヲ企圖スルニ至レリ夫レ陶磁器業ノ成否ハ主トシテ工人技術ノ熟否ニ待タサルヘカラス況ヤ本邦ニテハ只失敗ノ歷史ヲノミ殘セル歐洲ノ方法ヲ應用スルニ於テヲヤ之ヲ本邦古來傳承ノモノニ比スルニ全然新規ナルヲ以テ其成功ノ期ニ達スルマテハ幾多ノ辛酸ト損害トヲ覺悟スルヲ要ス是レ常人ノ能ク耐フル所ニ非サルナリ森村組ニ於テハ奮ヒテ之カ經營ニ着手シ着々成功ヲ告ケ數年後ノ今日尙之ヲ擴張シテ未タ其工事ヲ完結セサルノ大規模ナルモノ創設シテ他ノ曩時ノ失敗ハ全ク新設備其者ノ罪ニ非スシテ全然管理者其當ヲ得サルニ歸セシコトヲ實證セリ實ニ同組ノ如キハ本邦陶磁器ノ爲メ眞ニ偉大ノ功績ヲ奏シ本邦陶磁業史ニ特筆スヘキモノト謂フヘシ

既ニ同組ノ成功ヲ目擊セル全國ノ當業者ハ今ハ舊法ヲ墨守スルノ陋習ナルヲ覺リ志アル者ハ同組ニ倣ハンコトヲ希フニ至レリ

森村組ニ次キテ起リシモノハ京都市ノ松風陶器合資會社ナリトス同社ハ昨三十九年ニ工ヲ起シ今尙工事中ニアルモ已ニ當春ヨリ其業ニ着手セリ是レ亦一ニ泰西ノ方法ヲ踏襲セルモノニシテ其成果ヲ奏スルヤ瞭トシテ明カナリ

蓋シ本邦舊來ノ個人的製造ニ於テハ其方法ト工場ノ組織上到底多大ノ製造力ヲ發展セシムル能ハス故ニ之ヲ救濟スルニハ大規模ノ工場ヲ經營シ一ニ正確ノ方法ニ基キ製造スルヨリ他ニ其途ナカルヘシ聞ク本年ノ輸出陶磁器業ハ比較的幾分ノ不振ナルニモ拘ラス前記兩社ニ於ケル新規製出ノ精良品ハ米國市場ニ於テ好評嘖々トシテ現在製出力ニ超過セル多額ノ注文アリト當業者タル者亦鑒ムヘキナリ

金澤市ニ於テ硬質陶器製造竹林屋組ナル者昨年設立セラル其工場ノ組織ハ外見歐風ヲ摸シタルモノ

ナルモ機械各部ノ相互連絡ハ未タ一貫シタルモノニ非スト聞ク然レトモ僻地ニ於テ他ニ率先着手シタルハ頗ル多トスヘキナリ今方ニ增資擴張ノ計畫中ナルヲ以テ近キ將來ニ於テハ一大發展ヲ實現スルナランカ

此他現ニ東京市、京都市、名古屋市、愛媛縣、佐賀縣ニ於テモ目下將ニ準備中ノモノアリ

農商務省ニ於テモ夙ニ本邦陶窯改造ノ必要ヲ感セラレ本年度ニ於テ佐賀縣有田町、愛知縣瀨戸町ヘ築窯試驗費トシテ補助金ノ下附アリ其築窯ヲ見ル必ス數月ヲ出テサルヘシ

以上ノ諸事實ヲ綜合スルニ第五回內國勸業博覽會後ニ於ケル本邦當業者ハ精神上確ニ一大開發ヲ爲セシヤ疑ヲ容レス次ニ稍細目ニ涉リテ之ヲ記述セントス

其一　當業者ハ自己ノ製造ニ近世科學ノ原理ヲ應用スルノ必要ヲ知リシコト

前記ノ如ク當業者ハ親シク歐洲ノ製品ヲ見テ其自己ノ技術ノ舊法ニ拘泥スヘカラサルヲ感知シ遂ニ其根元タル科學智識ノ應用ヲ必要トスルニ至リ或ハ高等教育ヲ受ケタル技術者ヲ招聘スルアリ或ハ自己ノ子弟ヲ斯業專門校ニ入學セシメ又ハ徒弟學校出身者ヲ職工トシテ雇入ルル者アリ殊ニ各地當業者ハ一般ニ教育ノ素養アル職工ヲ使用スルノ永遠ニ利アルコトヲ感セシヲ以テ各地徒弟學校每年ノ卒業生ハ需用供給ノ平均ヲ失スルニ至レリ或ハ其原料トシテ從來夢想セサリシ輸出藥品ヲ使用シ力メテ新規製品ヲ得ルコトニ熱中シ又ハ內外出版ノ參考書類ヲ購入シテ可及的新智識ヲ求ムル等何レモ前途ノ光明ヲ認メ得ラルルニ至レリ

其二　機械ノ應用ヲ知リシコト

日本陶器合名會社、松風陶器合資會社及竹林屋組ノ如キ全ク歐式ニ則ルモノハ姑ク措クモ萬事手工ニ賴リシ個人製造家モ工人ノ勞銀ハ逐年騰貴スルモ製品ノ價格ハ之ニ伴ハス甚シキニ至リテハ却リテ低下スルモノアリ且近時ニ至リ所謂「ストライキ」ヲ誘起シ爲メニ雇主ヲ苦ムルコト少カラス又舊來ノ方法ニ據リ拵土ヲ製造スル時ハ良質ナル原料モ爲メニ製造ノ際汚損セラルルノミナラス多量ノ拵土ヲ正確ニ製造スル能ハスシテ物品ノ製造力ハ需用ニ伴ハス甚タ惜ムヘキコトナルヲ感スルコト最モ切ナルヲ以テ近時ニ至リ機械力應用ノ範圍自ラ擴マリ當今各主產地ニ於テ原料粗碎器、同細碎機、土搾機械等ノ應用ヲ見ルコト甚タ多ク且愛知縣瀨戸町、石川縣小松町、同寺井村、京都市、佐賀縣有田町等ニハ較〻大規模ノ專門原料製造販賣所ノ設立ヲ見ルニ至レリ此他種々ノ原動力ヲ應用シ局部ノ機械ヲ運轉スルモノ數ケ所アリ又此他諸種機械ノ各地ニ應用サルルアリ假令ハ「エイログラフ」電氣用磁器製造機械一種ノ洋式旋盤等ノ如キ是ナリ爲メニ指頭ヲ以テシテハ到底爲ス能ハサル一種ノ妙技ヲ發露スルヲ得ルニ至レリ惟フニ是等諸機械ノ應用ハ今尙試驗時代ニ屬シ其範圍尙狹シト雖モ早晚機械ノ利用ハ終結ノ勝ヲ制スルモノナルコトヲ自覺スルニ至ルヘク從ヒテ資力アル者ハ徐々之カ設備ヲ爲スコト明カナリ

其三　窯構造ノ變化

窯ハ陶磁器製造上至大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ一度之カ使用ノ慣習トナリタルモノハ假令幾分ノ缺點アリトスルモ容易ニ之ヲ棄ツル能ハサルト同時ニ他ノ良構造ノモノモ容易ニ自家ニ利用セサルモノトス本邦在來ノ登窯ナルモノハ往昔支那ヨリ傳來セシモノニシテ近時ニ至ルマテ殆ト何等改良ノ實績ヲ認メス今世紀ノ學理上ヨリ判斷スルトキハ頗ル不合理的ノモノトス當業者中志アル者ハ漸ク之ヲ悟リ幾分ノ改良ヲ施行セシモノアルモ尙依然トシテ登窯ノ故態ヲ固持セリ今ヤ日本陶器合名會社及松風陶器合資會社ニ於ケル洋式圓窯ノ好成績ナルハ已ニ世ノ認ムル所ニシテ加フルニ燃料タル薪材ハ逐年其價騰貴シ石炭ヲ以テ代用スルノ必要(第五回內國勸業博覽會報告ニ詳記セリ)益〻切迫セシヲ以テ最近之ヲ應用スルノ燒窯二三地方ニ實行サルヲ見ル殊ニ有田及瀨戸地方ニ於ケル農商務省奬勵ノ結果ハ必ス全國當業者ヲシテ一層改良方法ニ信賴スルノ度ヲ增スヘシ今ヤ燃料トシテ石炭應用ノ問題ノ如キハ各地ニ於ケル斯業ノ公設機關ニ於テ已ニ充分ノ實績ヲ示シ既ニ疑問時代ニ非スシテ寧ロ實行時代ナリトス從ヒテ永世踏襲セシ登窯ノ漸次消滅スルノ期アランカ

ナルモ機械各部ノ相互連絡ハ未タ一貫シタルモノニ非スト聞ク然レトモ僻地ニ於テ他ニ率先着手シタルハ頗ル多トスヘキナリ今方ニ增資擴張ノ計畫中ナルヲ以テ近キ將來ニ於テハ一大發展ヲ實現スルナランカ

此他現ニ東京市、京都市、名古屋市、愛媛縣、佐賀縣ニ於テモ目下將ニ準備中ノモノアリ

農商務省ニ於テモ夙ニ本邦陶窯改造ノ必要ヲ感セラレ本年度ニ於テ佐賀縣有田町、愛知縣瀨戸町ヘ築窯試驗費トシテ補助金ノ下附アリ其築窯ヲ見ル必ス數月ヲ出テサルヘシ

以上ノ諸事實ヲ綜合スルニ第五回內國勸業博覽會後ニ於ケル本邦當業者ハ精神上確ニ一大開發ヲ爲セシヤ疑ヲ容レス次ニ稍、細目ニ涉リテ之ヲ記述セントス

其一　當業者ハ自己ノ製造ニ近世科學ノ原理ヲ應用スルノ必要ヲ知リシコト

前記ノ如ク當業者ハ親シク歐洲ノ製品ヲ見テ其自己ノ技術ノ舊法ニ拘泥スヘカラサルヲ感知シ遂ニ其根元タル科學智識ノ應用ヲ必要トスルニ至リ或ハ高等敎育ヲ受ケタル技術者ヲ招聘スルアリ或ハ自己ノ子弟ヲ斯業專門校ニ入學セシメ又ハ徒弟學校出身者ヲ職工トシテ雇入ルル者アリ殊ニ各地當業者ハ一般ニ敎育ノ素養アル職工ヲ使用スルノ永遠ニ利アルコトヲ感セシヲ以テ各地徒弟學校每年ノ卒業生ハ需用供給ノ平均ヲ失スルニ至レリ或ハ其原料トシテ從來夢想セサリシ輸出藥品ヲ使用シ力メテ新規製品ヲ得ルコトニ熱中シ又ハ內外出版ノ參考書類ヲ購入シテ可及的新智識ヲ求ムル等何レモ前途ノ光明ヲ認メ得ラルルニ至レリ

其二　機械ノ應用ヲ知リシコト

日本陶器合名會社、松風陶器合資會社及竹林屋組ノ如キ全ク歐式ニ則ルモノハ姑ク措クモ萬事手工ニ賴リシ個人製造家モ工人ノ勞銀ハ逐年騰貴スルモ製品ノ價格ハ之ニ伴ハス甚シキニ至リテハ却リテ低下スルモノアリ且近時ニ至リ所謂「ストライキ」ヲ誘起シ爲メニ雇主ヲ苦ムルコト少カラス又舊來ノ方法ニ據リ拯土ヲ製造スル時ハ良質ナル原料モ爲メニ製造ノ際汚損セラルルノミナラス多量ノ拯土ヲ正確ニ製造スル能ハスシテ物品ノ製造力ハ需用ニ伴ハス甚タ惜ムヘキコトナルヲ感スルコト最モ切ナルヲ以テ近時ニ至リ機械力應用ノ範圍自ラ擴マリ當今各主產地ニ於テ原料粗碎器、同細碎機、土搾機械等ノ應用ヲ見ルコト甚タ多ク且愛知縣瀨戸町、石川縣小松町、同寺井村、京都市、佐賀縣有田町等ニハ較、大規模ノ專門原料製造販賣所ノ設立ヲ見ルニ至レリ此他種々ノ原動力ヲ應用シ局部ノ機械ヲ運轉スルモノ數ケ所アリ又此他諸種機械ノ各地ニ應用サルルアリ假令ハ「エイログラフ」電氣用磁器製造機械一種ノ洋式旋盤等ノ如キ是ナリ爲メニ指頭ヲ以テシテハ到底爲ス能ハサル一種ノ妙技ヲ發露スルヲ得ルニ至レリ惟フニ是等諸機械ノ應用ハ今尙試驗時代ニ屬シ其範圍尙狹シト雖モ早晚機械ノ利用ハ終結ノ勝ヲ制スルモノナルコトヲ自覺スルニ至ルヘク從ヒテ資力アル者ハ徐々之カ設備ヲ爲スコト明カナリ

其三　窯構造ノ變化

窯ハ陶磁器製造上至大ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ一度之カ使用ノ慣習トナリタルモノハ假令幾分ノ缺點アリトスルモ容易ニ之ヲ棄ツル能ハサルト同時ニ他ノ良構造ノモノモ容易ニ自家ニ利用セサルモノトス本邦在來ノ登窯ナルモノハ往昔支那ヨリ傳來セシモノニシテ近時ニ至ルマテ殆ト何等改良ノ實績ヲ認メス今世紀ノ學理上ヨリ判斷スルトキハ頗ル不合理的ノモノトス當業者中志アル者ハ漸ク之ヲ悟リ幾分ノ改良ヲ施行セシモノアルモ尙依然トシテ登窯ノ故態ヲ固持セリ今ヤ日本陶器合名會社及松風陶器合資會社ニ於ケル洋式圓窯ノ好成績ナルハ已ニ世ノ認ムル所ニシテ加フルニ燃料タル薪材ハ逐年其價騰貴シ石炭ヲ以テ代用スルノ必要(第五回內國勸業博覽會報告ニ詳記セリ)益、切迫セシヲ以テ最近之ヲ應用スルノ燒窯二三地方ニ實行サルヲ見ル殊ニ有田及瀨戸地方ニ於ケル農商務省奬勵ノ結果ハ必ス全國當業者ヲシテ一層改良方法ニ信賴スルノ度ヲ增スヘシ今ヤ燃料トシテ石炭應用ノ問題ノ如キハ各地ニ於ケル斯業ノ公設機關ニ於テ已ニ充分ノ實績ヲ示シ既ニ疑問時代ニ非スシテ寧ロ實行時代ナリトス從ヒテ永世踏襲セシ登窯ノ漸次消滅スルノ期アランカ

其四　新規意匠及裝飾法ノ應用

本邦陶磁器ノ意匠ハ圖樣及形狀ニ於テ古來一種ノ特風アリ彼我ノ交通未タ甚シク頻繁ナラス輸出額亦多カラサルノ日ニ於テハ之ヲ以テ足レリトスルモ現時及將來ヲシテ益、有望ナラシメンニハ從來ノ如ク千篇一律ノ特風假令ハ唐草風若クハ祥瑞風ノ如キハ又固執スヘキニ非ス須ク世ノ風潮ニ伴ヒ裝飾ノ方法ヲシテ千變萬化セシメサルヘカラス蓋シ第五回內國勸業博覽會ニ於テ一ニ此趣旨ニ適セル出品ヲ見シモ未タ以テ前途ノ如何ヲ豫想スル能ハサリキ然レトモ明治三十七八年戰役以後輸出業ノ急増加ニ伴ヒ世人ノ美術及美術工藝品ニ對シ頗ル趣味ヲ解スルニ至リシヲ以テ我陶磁器ノ意匠モ大ナル變化ヲ現シ苟モ圖樣、形狀、釉藥等ニ於テ何等新規ノ裝飾ヲ有セサルモノハ特種ノ場合ノ外世人ノ歡迎ヲ受クル能ハサルニ至レリ是レ實ニ賀スヘキ吉兆ニシテ希クハ此趨勢ヲ永遠ニ維持セシメンコトヲ最近一般ニ行ハルル裝置法ノ一ヲ擧クレハ彼「エイログラフ」ヲ用ヰ圖面若クハ器面ニ頗ル鮮麗ナル陰影ヲ出現セシムルモノノ如シ惟フニ物品形狀ノ如キハ其變化ニ限リアリ自今以後ハ其裝飾方法ヲ改良シテ外見美ニシテ却リテ其勞少キモノ擇フヲ以テ最良トスルカ如シ

其五　製造ニ對シ新規方法及原料等一二ノ應用

第五回內國勸業博覽會以來新ニ斯業ニ應用サレタル方法及原料等一二ニシテ止マラス是レ亦其急劇ナル發展ニ伴ヘル自然ノ結果ニシテ皆甚タ實地ニ有効ナリ其未タ以テ全國到ル所ニ應用サルルニ至ラサルモ之カ爲メニ從來手工ヲ以テ爲ス能ハサル巧妙ナル製品ヲ得ルニ至レリ其主要ナルモノ一二ヲ略記センニ「一」石版色繪轉寫法ノ應用ハ之ヲ同博覽會前主トシテ尾濃地方(今尚然リ)ニ行ハレシ單色銅版畫轉寫法ニ比スルニ其精巧ナルコト同日ノ論ニ非ス其技ハ未タ歐洲ニ於ケルカ如ク妙工ナル能ハサルモ之カ爲メニ著ク新販路ヲ開キ一層外人ヲシテ本邦陶磁器ヲ愛翫スルノ念ヲ增長セシメシコト頗ル大ナリ「二」石膏鑄込法ノ應用ハ當業家中多年苦心セシ者一二之レ有リシモ未タ大規模ヲ以テ自己商品ニ應用セシ者殆ト無カリシニ世ノ必要ニ迫ラレ有志家中更ニ之カ研究ニ熱中シタルノ結果今ハ主要各地ニ於テ或ル範圍內ニ之ヲ應用シ頗ル好成績ヲ示セルヲ見ル但シ本邦ニハ未タ良質石膏ノ產出スルモノ少ク現時ハ主トシテ輸入品ニ仰クノ已ムヲ得サルノ有樣ナルヲ以テ果シテ歐洲ノ如ク盛ニ此方法ヲ利用シ得ラルルヤ否ヤハ今尚疑問ニ屬ス「三」新規原料ノ新應用ハ從來尾濃地方ノ陶磁器業ニ在リテハ其原料ノ性質上之ニ長石及硅石ヲ調和スルヲ要シ此等ハ主トシテ供給ヲ三河產品ニ仰ケリ此他ノ方法ニ於テハ舊來ノ製品ニ對シテ强チ之ヲ調加スルノ必要ナカリシニ其品種ヲ改良スルト同時ニ其必要ヲ感スルニ至レリ然レトモ之ヲ三河地方ニ仰クハ勢ノ許ササル所トス幸ニ近時我內海ノ各所ニ於テ一層純良ナル此品種ヲ發見シ今ヤ關西地方ノ陶磁器用トシテ廣ク賞用セラレ爲メニ從前未タ曾テ見ル能ハサリシ純白磁器等ノ製出ヲ容易ナラシムルニ至レリ此他各地ニ於テ有効ナル新原料ノ應用ヲ見ルコト尠カラス

其六　第五回內國勸業博覽會以來新ニ市場ニ上リシ品種

是レ亦數多アリ孰レモ一新生面ヲ開キ本邦陶磁器ノ販路及名譽ヲ擴ムルニ與リテ大ニ力アリ其主要ナル二、三ヲ列擧センニ先ツ指ヲ硬質陶器ノ製造ニ屈セサルヘカラス原來本邦ニ於テハ古來ヨリ純粹硬質陶器ナルモノアルナク淡路燒ノ如キハ稍、之ニ類セルモ未タ以テ其堅牢度ニ於テ完全ナル日用品トスル能ハス且釉面罅裂ヲ有シ爲メニ液體ヲ滲透スルノ恐レアリ識者曾テ之ヲ製出スルノ必要ヲ感シ幾多ノ試驗ニ從事シタリシモ未タ之ヲ商品トスルノ度ニ達セサリキ然ルニ洋風飲食器ノ流行增加スルト同時ニ其輸入益、增加シ國家經濟上潜ニ識者ノ痛嘆スル所ナリシ兩三年來名古屋市及昨年金澤市ニ於テ之カ製出ヲ見ルニ至レリ其製品ハ今尚完全ナラス幾多改良ヲ要スヘキ點アルモ爲メニ世人ノ注目ヲ惹ク端緒トナリシハ頗ル賀スヘキ所ニシテ其完全ナルモノヲ得ルニ至ルハ蓋シ久シカラサルヘシ殊ニ最近農商務省工業試驗所ニ於ケル試驗製品ノ如キハ較、理想ニ合ヒタル完全ナル品ニシテ若シ此結果ヲ利用スル者アラン乎輸入ノ全部ヲ防遏シ本邦陶業史ニ一異彩ヲ放ツヤ明カナリ聞ク近日東京市、京都市、名古屋市ニ於テ此品種ヲ目的トスル新計畫アリト之ニ次ケルモノヲ「一」硬質純白色磁

器ノ製出トス由來本邦磁器ハ其素質ノ脆弱ナルコト内外人ノ一般ニ唱道スル所ニシテ加フルニ其色淡黝若クハ淡綠色ヲ帶ヒ到底之ヲ日用若クハ裝飾用トシテ米國市場ニ於テ其國產ト競爭セシムル能ハス幸ニ今日ニ至ルマテ其命脈ヲ持續スルヲ得シ所以ノモノハ一ニ購客ノ好奇心ニ外ナラス斯ノ如キハ其根據甚タ薄弱ニシテ望ヲ永遠ニ囑スル能ハス且價格逐年低減シ製造家ノ利益從ヒテ減却セラルルヲ以テ宜シク根本的改良ノ方法ヲ講スヘキノ必要ハ既ニ數年前ニ於テ明カナル所ナリシ日本陶器合名會社ハ其經營ヲ始ムルト同時ニ此點ニ着眼セシヲ以テ其製品ハ能ク之カ目的ヲ達スルヲ得テ米國市場ニ於ケル好評ハ嘖々トシ殆ト歐洲品ト優劣ナキニ至レリ爲メニ能ク高價ヲ維持シ從ヒテ其利ヲ收ムルコト頗ル大ニシテ將ニ墮落救フ能ハサラントスル本邦陶磁器ノ名聲ヲ恢復シタリ

松風陶器合資會社亦同品ノ製出ニ從事シ草創未タ完結セサルモ同品ノ將來ハ頗ル多望ナリトス是レ實ニ我陶業史上ニ一大光輝ヲ與フルモノニシテ苟モ製造方法宜シキヲ得ンカ歐洲品ト同一ノ物品ヲ製出シ得ルヲ確メタル當業者ノ功績頗ル多トスルニ足ル「二」京都市ノ輸出陶器トシテ三十餘年來進歩シ來リシ有名ナル粟田燒ハ諸種改良ノ方法ヲ講セシニモ拘ラス已ニ外人ノ眼ニ慣レタルト幾分カ粗製ノ弊アルカ爲メニ之ヲ永遠ニ發達セシムルコトノ頗ル困難ナルヲ見ル其主ナル當業者ハ夙ニ之ヲ看破シ苦心ノ結果兩三年前ヨリ半磁器ト稱スル一新種ヲ製出セリ素質頗ル美ニシテ之ニ施スニ適當ノ彩畫ヲ以テスルトキハ以テ歐洲品ト比肩シ得ヘク今ハ一新種トシテ外國市場ニ歡迎セラレ將來頗ル有望ノモノトナリ爲メニ少クモ今後數年間ハ新ニ製造額ヲ增加シ得ルコト斯業ノ爲メ賀スヘキコトナリトス

以上ハ重ナル新製品ニ屬スルモ其他輸出品トシテ從來殆ト念頭ニ置カサリシ各地方ニ產出スル石器類ノ如キモ現時盛ニ其輸出ヲ見ルニ至レリ之ヲ要スルニ如何ナル品質ヲ有スル陶磁器ニテモ苟モ彼ノ嗜好ヲ詳悉シ能ク之ニ投スル如ク加工スルトキハ必ス相當ノ販路ヲ得ラルルモノノ如シ此他稍〻些細ニ渉リテ論スルトキハ第五回內國勸業博覽會以來新ニ成功セシ品種甚タ多ク一々枚擧ニ遑アラス是ニ由リテ之ヲ觀ルニ本邦陶磁器ノ在來遲々タル發達ヲ見ルニ過キサリシハ眞價アル物品ヲ製セサリシト販賣方法ノ拙劣ナルトニ在ルコト明カナリ

以上列記セシ所ハ第五回內國勸業博覽會以後ニ於ケル本邦陶磁器業發達ノ概略トス之ヲ其以前ニ比スルニ比較的急速ノ進步ヲ爲セシヤ亦疑ヲ容レス惟フニ是レ一ハ時勢ノ然ラシムル所ナリト雖モ一ハ第五回內國勸業博覽會ノ一大動機ヲ與ヘシヤ明カナリ而シテ現時當業者ノ重ナル者ハ一般ニ比較的發展ノ必要ヲ感セシヲ以テ恐クハ來ル明治四十五年日本大博覽會ノ日マテニハ尙著ク健全ナル發展ヲ爲スナランカ

前陳ノ如ク本邦陶磁器輸出ハ將來頗ル有望ナリト雖モ當業者タル者常ニ小心翼々能ク勉メサルヘカラス苟モ小成ニ安ンスルアランカ忽チ歐洲製品ノ抑壓ヲ受ケ救フヘカラサルノ域ニ沈淪スルアラン左ニ其將來ニ注意スヘキ一二要件ヲ記スヘシ

一　製造規模ハ成ルヘク大ナルヲ要ス家族的工業ノ狀態ヲ維持スル間ハ啻ニ製造費ヲ減シ大注文ヲ受クルヲ得サルノミナラス品質ト注文期日トノ正確ヲ保ツ能ハス是レ商業信用ヲ得ル所以ノ途ニ非ス規模ヲ大ニセンニハ或ハ資本ヲ合同スルノ必要モアラン資本裕ナルトキハ一朝不況ニ際會スルモ能ク之ニ耐ヘ能ク物品ノ價格ヲ維持スルヲ得ヘシ

二　製造家タル者ハ成ルヘク外國市場ニ直輸出ヲ試ムルヲ要ス我陶磁器業ノ運命ハ懸リテ輸出ノ如何ニ在リ現時輸出陶器ノ內地價格ト外國市價トヲ比較スルニ其差眞ニ驚クヘク是レ數回仲次者ヲ經ルノ習慣ナルヲ以テナリ惟フニ森林組ノ現時ノ盛況ハ製造販賣ノ兩機關ヲ一手ニ掌握スルヲ以テ其主因トス況ヤ仲次者ニ依賴スルトキハ外國市場ニ於ケル嗜好及需用ノ眞況ヲ窺知スル能ハサルニ於テヲヤ實ニ現時當業者ノ多クハ徒ニ手ヲ拱シテ來客ヲ待ツ受動的ノ者ナルヲ以テ須ク之ヲ自動的ニ改メサルヘカラス

三　本邦輸出陶磁器トシテ或一種ニ就キ之ヲ論スルニ常ニ千篇一律ニシテ裝飾上各種ノ變化ヲ施シ

顧客ノ眼ヲ樂マスノ度極メテ少シ是レ直ニ彼等ノ厭嫌ヲ招ク所以ナルヲ以テ宜シク始終變化セル裝飾法ヲ應用スルコトニ力ムヘシ然レトモ此事言ヒ易クシテ實行シ難キモノナルヲ以テ當業者タル者ハ諸種ノ方法ニ據リ其素養ヲ作ルコトニ力ムルヲ要ス

四　規模ヲ大ニセンニハ勢ヒ多少歐式ヲ利用セサルヘカラス然レトモ現時本邦ノ狀態ニテハ其式ニ慣レタル技術者及工人ヲ得ンコト殆ト難シ故ニ當業者ハ斯業ノ爲メニ犧牲トナルノ覺悟ヲ懷キ先ツ此等ノ養成ヲ爲スノ必要アリ爲メニ初期數年間ノ損失ハ避クヘカラサル所ナリ或ハ相當ノ方法ヲ設ケ此等ヲ一時外國ヨリ雇聘スルモ可ナラン之ヲ要スルニ充分ナル忍耐力ヲ有スルコト肝要ニシテ且一日モ我カ先進ニシテ勁敵タル歐洲人進歩ノ速度ハ常ニ我ニ勝レルコトヲ忘ルヘカラス

五　本邦陶磁器ノ最大輸出國中北米合衆國ニ於テハ近年自國產ヲ以テ自國品ヲ供給スル方針ヲ執レル爲メ非常ノ速度ヲ以テ斯業ヲ開發シツツアルナリ又淸國ニ於テハ在來江西省ノミヲ主產地トセシモ今ヤ政府ハ各省ニ於テ斯業ノ敎育及奬勵機關ヲ設置シ其根原ノ培養ニ準備シツツアリ又別ニ大規模工場設立ノ企畫アリ此他英領印度ノ如キモ從來全部輸入品ヲ仰キシニ近時內地ニ於テ製造ノ計畫アリ此等ノ諸國ハ皆製造ニ關スル有望ナル好條件ヲ具備スルヲ以テ本邦當業者タル者常ニ彼ニ一歩ヲ讓ラサルノ覺悟ナカルヘカラス此他近年ニ至リ硝子及琺瑯製品ノ爲メ我カ陶磁器ノ範圍ヲ侵蝕サルルノ傾向アリ是レ此等製品ノ安價ナルニヨルモノニシテ殊ニ淸國市場ニ於テ最モ甚シトス是レ亦當業者ノ注意ヲ喚起セスンハアラス之ヲ要スルニ將來ノ陶磁器ハ一ニ技術及實力ノ競爭ノ結果ニヨリ自ラ其運命ヲ決定スルモノトス

此他注意ヲ要スル事項ハ第五回內國勸業博覽會報告書ニ詳記シアルヲ以テ之ヲ略ス

第九部　第八十三類　煉瓦、瓦、敷磚、土管等

報告員　主任　審査官　工學博士　江守襄吉郎

列座　審査官　平野耕輔

列座　審査官　藤江永孝

本類ニ屬スル出品ハ其點數三百五十九、出品人員ハ三十八名ナリ其府縣別及授賞者等ハ左ノ如シ

府縣	出品人員	出品點數	授賞數 金	銀	一等	二等	三等	褒狀	計
東京	三	二五七	二						二
愛知	一	七							
福島	一	一							
岩手	一	一							
栃木	二	四							
大阪	一	一〇							
岡山	一	七九							
計	三八	三五九	二	一	一	三	七	一四	

煉瓦石、敷磚竝ニ耐火材料ハ時世ノ推移、工業ノ進歩ト共ニ倍、建築材料トシテ應用サルルコト廣ク之カ製造工場モ年々擴張增加シ來レリ然レトモ此等材料ノ建築用トシテ應用サルヘキニ就キテハ各、其特質ヲ具備スヘキハ勿論ノコトニシテ例セハ普通煉瓦石ノ場合ニ於ケル如キ各種類ヲ通シ其色澤、寸法竝ニ品質ノ齊一好良ナルヘキ外其產額ニ於テモ多大ナルヲ要ス然ルニ此種ノ成功ハ其原料ノ處理竝ニ乾燥成形燒成ノ裝置方法其他概シテ製造設備ノ如何ニヨルモノニシテ從セテ其設備ノ大ニシテ且其宜シキヲ得テ始メテ其製品ノ建築材料トシテノ價値ヲ生スルナリ今回ノ出品中日本煉瓦製造株式會社、品川白煉瓦株式會社竝ニ備前陶器株式會社ノ製造ニ係ル煉瓦石、耐火材料擬花崗石或ハ敷磚ノ如キ殊ニ優レルモノアルヲ認ム

就中耐火材料ノ如キハ此以外ニ其原料竝ニ製品ノ理學的竝ニ化學的性質ニ注意ヲ要スルコト大ナリ

即チ其製品ヲシテ何レノ用途ニ就キテモ耐火材料トシテノ本來ノ性狀ヲ保持セシメンカ爲メニハ普通製作ノ方法以外ニ其品質ヲ吟味セサルヘカラス斯ノ如キハ蓋シ設備ノ完全ト技術者ノ技能ト相俟チ始メテ望ミ得ラルヘキコトナリ而シテ此種製品ノ用途ハ今後倍〻増大スヘク又需用者ノ趣味要望モ一層上進スヘキヲ以テ當業者宜シク設備ヲ整ヘ製品ノ完全ヲ謀リ世ノ進歩ニ應スルニ遺憾ナキ樣勉ムヘキナリ

今本類出品ノ審査ニ際シ施行シタル試驗成績ヲ左ニ附記ス

煉瓦試驗成績

試驗用採集品出品者姓名	煉瓦名稱	試驗番號	煉瓦ノ寸法（單位ハセンチメートル）長	手	横	手	厚	常温ニ於ケル重量（グラム）	吸水量（百分率）	耐壓力（一平方センチメートルニ付キログラム）罅裂ヲ生セシトキ	崩壞セシトキ
朝野義之助	撰燒過	一	二二・〇七	一〇・六五	一〇・六五	六・二五	二四五〇	一四・三	四三・〇	一五一・四	
同　人	極上	二	二二・七〇	一一・二三	一一・二三	六・二四	二四五〇	一五・三	四〇・六	七〇・六	
同　人	並下	三	二二・四四	一〇・六三	一〇・六三	六・二四	二四七五	一一・一	六八・八	一三九・三	
小泉彦次郎	並	四	二二・三七	一〇・七〇	一〇・七〇	五・八三	二三〇〇	一九・一	七二・〇	一〇三・三	
山本要藏	磨一等	五	二二・九八	一一・三七	一一・三七	六・三六	二七〇〇	二〇・〇	七八・四	八八・九	
千葉鐵之助	磨上等	六	二二・三四	一〇・五八	一〇・五八	六・一六	二四一六	九・一	六〇・五	一二四・三	
同　人	極上	七	二二・四六	一〇・七二	一〇・七二	六・一三	二四〇〇	一四・二	一五六・一	一七三・八	
戸田彌助	上燒	八	二二・四三	一〇・八〇	一〇・八〇	六・二一	二四〇〇	一五・六	五二・三	八八・一	
千葉勝治郎	磨一等	九	二二・二四	一一・一六	一一・一六	五・〇二	二三〇〇	一一・二	五五・〇	九八・二	
同　人	並二等	一〇	二二・二三	一一・二〇	一一・二〇	五・九八	二四〇〇	一八・七	三九・三	五八・二	
宮本八十八	上燒	一一	二二・六一	一〇・六二	一〇・六二	六・〇七	二四五〇	一四・二	五三・四	一〇四・〇	
同　人	並上燒	一二	二二・八三	一〇・八九	一〇・八九	六・一四	二四三三	一八・八	四二・九	七七・二	
岡本忠次郎	上燒	一三	二二・〇六	一〇・四五	一〇・四五	六・〇八	二四五〇	一〇・二	八一・五	一四八・七	
同　人	並上	一四	二二・五七	一〇・九五	一〇・九五	六・一四	二三八三	二〇・二	七〇・九	九七・八	
千葉德太郎	並上	一五	二二・四四	一一・一七	五・九四	二四〇〇	一七・二	三三・〇	七四・四		
齋藤要藏	並	一六	二二・三三	一一・一七	六・三三	二五五〇	一七・六	五七・八	八〇・〇		
同　人	三方磨	一七	二二・一一	一〇・七〇	六・三六	二五五〇	一五・六	一〇八・五	一五六・二		
隅山尙一	並二等	一七	二二・九六	一一・五六	六・二八	二六三三	一九・六	五二・二	六八・八		
金町煉瓦會社	別製矩手	一八	二二・九一	一一・二八	六・二一	二五六六	一七・五	一二・五	二二五・四		
同	特等	一九	二二・七三	一一・二五	六・〇八	二五一六	一七・八	一二六・三	二一七・〇		
齋藤松司	並二等	二〇	二二・九二	一一・四〇	六・一六	二五〇〇	二〇・三	一三四・一	一六〇・三		
同　人	燒過特等	二一	二一・四六	一〇・七一	五・八三	二五一六	七・三	一〇二・一	二〇四・二		
同　人	燒過三等	二二	二一・七二	一〇・八三	五・九三	二五〇〇	二一・〇	一〇三・〇	一八六・三		
同　人	並二等	二三	二二・五〇	一一・四〇	六・〇〇	二四六六	一七・〇	四一・三	一〇五・五		
日本煉瓦會社	撰燒過（ホフマン）	二四	二一・九三	一〇・四二	五・七八	二四一六	一一・一	一三七・八	三〇〇・〇		
同	並燒二等（ホフマン）	二五	二二・七八	一一・一六	五・九五	二四五〇	一九・三	四三・四	一四六・一		
同	ヒヘトリツ燒過二等（ヒヘトリツ）	二六	二二・三四	一〇・九七	五・八八	二五〇〇	一二・三	九一・一	二一三・三		
同	並形表積（ヒヘトリツ）	二七	二二・五七	一〇・八一	五・九九	二七八三	六・五	九四・六	三〇〇・〇		
新井和一郎	煉瓦	二八	二二・六二	一一・〇八	五・六八	二五六六	六・五	一〇九・二	二三二・〇		
堺煉瓦會社	東京燒過	二九	二二・〇〇	一〇・七六	五・八三	二九〇〇	〇・七	六二・四	三〇〇・〇		
同	上等	三〇	二二・一六	一〇・八四	五・八六	二九〇〇	二・五	一七二・五	三〇〇・〇		
同	並燒過	三一	二二・二三	一〇・九六	五・四八	二八〇〇	〇・九	一二二・五	三〇〇・〇		
同	並形上等	三二	二二・五〇	一一・〇二	五・五三	二八〇〇	二・七	一一四・五	二四八・〇		
同	並同磨	三三	二一・九六	一〇・六五	五・八二	二八五〇	〇・九	一二八・四	三〇〇・〇		
富永金吉	並	三四	二二・八四	一一・二〇	五・九九	二七五〇	一〇・九	五九・〇	一四〇・四		

備考　燒瓦名稱下ノ番號ハ出品者出品番號ナリ

耐壓力中崩壞ノ部ニ於テ三〇〇・〇以上トアルハ試驗器械ノ標示以上ニ耐ヘタルモノナリ

耐火煉瓦試驗成績

出品者氏名	試驗ニ採集セシモノノ品名	試驗ノ番號トキノ	セーケル三角錐耐火度	耐壓力（一平方「センチメートル」ニ於ケル「キロアラム」五）鑄裂ヲ生セシトキ	崩壞セシトキ
愛知煉石會社	並形	三五	三十一番	一一二・三	一四九・六
澤田喜三	並形	三六	二十九番	一一〇・七	一五六・七
アスベスト會社	並形	三七	三十一番	一〇六・〇	一七七・八
渡邊八十吉	並形	三八	三十三番	五七・九	一四九・四
杉山岩三郎	並形	三九	三十二番	八四・六	一〇一・三
齋藤勘次郎	一號	四〇	二十九番	一〇七・六	一三五・一
同	二號	四一	三十番	一四八・六	一五二・四
中江弘人	並形	四二	二十九番	六六・七	一二四・三
品川白煉瓦會社	特等	四三	三十三番	施行セス	
同	一等	四四	三十三番	施行セス	
同	甲號	四五	三十二番	六六・五	一三六・一
同	無號	四六	三十一番	一二四・三	一六三・一
同	ダイナス	四七	三十三番	施行セス	
同	二號シリス	四八	三十三番	施行セス	
備前陶器株式會社	シリス耐火	四九	三十三番	一一四・一	一七七・四
同	シヤモット	五〇	三十二番	八一・九	一二八・三
同	ローセキ製	五一	三十二番	一四二・〇	一八七・一
ハンター商會	英國製品シリカブリック	五二	三十四番	一七四・七	二四七・四

備考　耐壓試驗ノ欄ニ於テ施行セサリシモノハ器械ニ故障ヲ生セシ爲メ一時中止セシニ因ル

第九部　第八十四類　玻璃

報告員　主任　審査官　工學博士　江守襄吉郎
列座　審査官　平野耕輔
列座　審査官　藤江永孝

此類ノ出品ハ其數千三百四十七、出品人員五十七名ニシテ主トシテ東京府下ノ製產品ニ係リ就中大阪府ハ僅ニ出品人員六、出品點數八十五アルノミ而シテ其種類亦多シト雖モ其全般ニ就キテハ概シテ期待セル効果ヲ充分ニ認メ得サルコト吾人ノ大ニ遺憾トスル所ナリ普通玻璃卽チ麥酒瓶、酒瓶等ノ製品ノ如キハ畧〻完成セリト言ヒ得ヘキモ食器類並ニ裝飾用玻璃ノ如キハ其製作技術ニ於テハ漸々進步シ其產額モ比年增加シ來ルト雖モ本來使用スル玻璃其物ノ品質ニ關シテハ今囘ノ出品中一二ヲ除クノ外研究未タ充分ナラサルモノノ如シ日常用玻璃器類殊ニ火舍ノ如キ其品質ニ對スル非難苦情ハ今ニ至ルモ尙絕ヘス而シテ此等缺點ノ根原或ハ之ヲ改良スヘキ方法ニ關シテハ夙ニ唱道サレアルコトナレハ玆ニ贅記スルノ要ナキモ宜シク原料ノ選擇ヲ嚴ニシ熔融方法ヲ改メ製品ノ用途ニ應シ適當ナル品質ノ玻璃樣地ヲ造リ製作ノ方法ニ關シテモ一層ノ注意ヲ加ヘ學理ニ質シ品質技術ノ改善進捗ヲ圖ランコト重ネテ當業者ニ希望スルモノナリ

第九部　第八十五類　七寶器

報告員　主任　審査官　平野耕輔
列座　審査官　平山英三
列座　審査官　藤江永孝

本器ノ出品ハ東京、神奈川及愛知ノ一府二縣ニシテ其出品人員等左ノ如シ

府縣	出品人員	出品點數	銀牌	一等	二等	三等	褒狀	計
東京	三	一二七	一	一	—	—	—	二
神奈川	一	一一	—	—	—	—	—	一
愛知	三	二七	—	—	—	—	—	—
合計	七	一六五	一	一	一	一	—	三

東京ハ販賣店ヨリシ生産地ハ凡テ愛知トス東京ノ安藤重壽、服部唯三郎、愛知ノ安藤重兵衛出陳ノ全部ヲ通覽スルトキハ本邦七寶器最近製作技術ノ進歩及七寶應用ノ品種一般ヲ窺知スルニ足ルヘシ今回ノ出品中安藤重壽ノ特ニ意ヲ意匠圖案ニ用キ工業所有權保護協會ニ託シ懸賞募集シタル圖案ニ成ル卵形春秋盛上雛圖花瓶(國井昔光圖案、川出柴太郎製作)無線有線及盛上ノ技ヲ併用シタル菊之圖花瓶、安藤重兵衛ノ青紫混色流珐瑯蝶之圖香爐ノ如キ意匠斬新技術優秀ニシテ我國美術工藝品中ノ巨擘タル刺繍蒔繪等ト相俟チテ其精美ヲ宇内ニ示スニ足ルヘク尚安藤重壽ノ古器物圖大花瓶(高三尺)ノ如キ服部唯三郎ノ銀七寶ほうづき畫花瓶ノ透明及不透明珐瑯ヲ能ク應用シタルモノ瓶形夕顔畫花瓶ノ葉ニ濃淡ヲ現シ莖ニ筆力ヲ示シタルモノ絹綿畫花瓶ノ一種ノ盛上ヲ加ヘ且白色綿花ヲ薄抹シタルモノ百合畫手附花盛器ノ形狀ニ於テ異彩ヲ放テルモノノ如キ能ク七寶ノ妙技ヲ應用シタルモノニシテ何レモ高貴ノ裝飾品タルハ内外人ノ齊シク認識セシコトナルヘシ只其需用ハ價格ノ不廉ナル室内裝飾ノ關係ヨリ嗜好上主トシテ歐米人ニ在ルヲ以テ今後益〻意ヲ意匠ニ用キ一方ニハ本邦固有美術ノ粹ヲ繪畫ニ或ハ模樣ニ或ハ形狀ニ示スヲ力ムルト同時ニ又他方ニハ歐米室内裝飾ノ關係ヨリ常ニ斬新ナル世界的意匠ヲ案出シ之ヲ應用シ彼ノ嗜好ニ投シ一新流行ヲ來サシムルコト必要ナルヘク且裝飾用品種ノ增加ヲ圖ルヘキナリ製作技術ニ於テハ珐瑯ノ色彩、無線、有線、透明、半透明、不透明質盛上流珐瑯彫刻ノ應用等殆ト遺憾ナキカ如シト雖モ其妙技ヲ意匠ノ變化ト共ニ益〻發揚セシムルニハ珐瑯ノ色彩光澤等ニ於テ一層ノ研究ヲ要スヘキナリ

七寶製作ハ手工藝ニ屬シ比較的賃銀低廉ナル本邦ノ如キニハ最モ適切ニシテ其摸造ハ歐米人ノ企及スヘカラサル所ナルカ故ニ裝飾的美術品ノ精巧ナルモノヲ製出スルト同時ニ又他方ニハ實用的品種ニ之カ應用ヲ力メ婦人裝飾用具、文房具等成ルヘク多數ノ需用ニ應シ得ヘキ廉價品ヲ工業的ニ製出スルコト恰モ墺國「ボヘミヤ」州玻璃及小細工品ノ「ガブロンツウエーヤ」ニ於ケルカ如クシ範ヲ同品ノ製作ニ採リ販路ノ擴張ヲ圖ルヘキナリ

尚歐米建築用品ノ一部卽チ壁板、戸棚篏込板、敷板「ストーフ」板ノ如キ七寶ノ應用ヲ試ミ海外ニ輸出ヲ圖ラハ將來此種ノ方面ニ於テ有望ノ商品タランカ要スルニ七寶ハ本邦獨得ノ製品トシテ其品種及用途ニ鑑ミ價格ニ注意シ粗製濫造ヲ戒メ益〻世界ノ市場ニ聲價ヲ發揮セシムルコト肝要ナリトス

第九部　第八十六類　珐瑯鐵器

報告員　主任　審査官　平野耕輔
列座　審査官　平山英三
列座　審査官　藤江永孝

本器ハ鐵葉又ハ鑄鐵ニ珐瑯ヲ施シタル器具ノ總稱ニシテ其出品シタルハ東京及大阪ノ二府ナリトス卽チ左ノ如シ

府縣	出品人員	出品點數	二等	三等	褒狀	計
東京	三	八六	一	—	—	二
大阪	三	五三	—	二	—	二
合計	六	一三九	一	二	—	四

出品ハ主トシテ鐵葉製ニ屬シ鑄鐵ニ施シタル大釜、大鍋ノ類ハ他部ニ出品セリ本器ハ大阪府主産地ニシテ東京府ハ製造所僅ニ二三ニ過キス且其製造規模モ遙ニ小ニシテ製品ハ辨當箱小皿ノ類ニ限リ需

用ノ多キ鍋類ハ大阪ノ製品トス今回ノ出品ニ就キテ之ヲ見ルニ製品ノ種類ハ鍋類、湯沸、蒸炊器、洗面器、辨當箱、水盤、膿盆、繪附皿、杓子、湯杓子等較〻多樣ナルモ一モ良品ヲ見ス素地ノ成形、琺瑯ノ附着及色合等何レモ舶來品ニ比シ天壤ノ差アリ價格ノ僅ニ低廉ナルハ以テ之カ拙作ナルヲ償フニ足ラス素地ノ製作上大阪琺瑯燒株式會社ノ緣卷ノ如キ改良ノ顯著ナルモノト雖モ未タ完成セルニ非ス湯沸、蒸炊器ノ如キ管ニ壓搾成形ノミニ依ラス接合法ヲモ併用スルノ製作ヲ見ルニ至リタルモ之レ亦頗ル拙劣ナリ要スルニ成形ノ未タ容易ナラサルヲ認ム琺瑯ノ有鉛ニシテ衞生上有害ナリシハ三十三年飲食物容器取締法ノ發布セラレシ以來當業者ノ注意スル所ナリ已ニ第五回內國勸業博覽會ノ出品ニ就キテ大體ハ無害品タルヲ認メタリシ如ク今回モ各自出品ノ鍋及皿ニ就キ百分ノ四ノ醋酸水ヲ以テ三十分乃至一時間煮沸シ鉛ノ析出如何ヲ驗シタルニ只東京中村村司出品第二十二號皿ニ於テ著ク形跡ヲ認メシノミニテ他ハ凡テ痕跡ナシ故ニ琺瑯ハ無鉛ナルカ又有鉛ナルモ衞生上無害ナル程度ニ於テ存在シ毫モ飲食器トシテ差支ナキヲ認識ス然レトモ琺瑯ノ色合光澤不良ニシテ其層薄ク附着力弱ク火力ノ急變又ハ機械的ノ障害ニ依リ直ニ龜裂ヲ生シ又ハ剝落シ加フルニ耐久性ニ乏シク使用後直ニ琺瑯ノ光澤ヲ失ヒ或ハ表面浸蝕セラレ他物ニ汚染シ易ク永ク白色ヲ保ツ能ハス琺瑯器ノ眞價ヲ空フスルハ實ニ本邦品ノ缺點ニシテ未タ以テ內外ニ外品ト輸贏ヲ爭フニ至ラサル所以ナリ斯ノ如ク琺瑯器ノ從來ニ比シ著ク改良進歩ヲ見ス舊套ヲ脫セサルモノハ斯業ノ輸入的工業ナルニ拘ラス其製作ハ何レモ姑息ナル自己考案ニ成リ小資本小規模ニテ改良研究ヲ施スノ餘裕ヲ存セサルニ依ラスンハアラス抑、琺瑯器特ニ鐵葉琺瑯器ノ用途ハ頗ル廣ク庖厨用炊事器ヲ始メ飲食用器、洗面器、標札類、醫療用器及工業用器等一部ハ陶磁器ノ代用トシ堅牢且輕量ニシテ操作ニ便ニ能ク直火ニ耐ヘ煮沸迅速ナルカ爲メ歐米ノ如キ庖厨器具ハ概ネ琺瑯器ヲ使用ス本邦ニ於テモ已ニ普通日本形鍋類ハ汎ク使用スルニ至リ近來洋風調理法ノ中流家庭ニ漸次行ハルルト共ニ東京市ノ如キ庖厨用燃料トシテ瓦斯ノ使用增加スルニ從ヒ益〻琺瑯器ノ必要ヲ感シ又洗面器ノ如キ眞鍮製ノ不廉ニシテ且洗磨ニ手數ヲ要スルニ比シ琺瑯器ノ廉ニシテ清麗ナル一度之ヲ使用スル者ハ遙ニ其優勝タルヲ認識スルカ如キ內地ニ於ケル需用モ著ク增進シタルモ本邦ニ於テハ未タ價格ノ如何ニ拘ラス之ニ應スルノ良品ヲ製出スルニ至ラス外品ノ輸入ヲ追フテ增加セントスルノ傾向アルハ實ニ遺憾トスル所ナリ

殊リテ又東洋諸國支那、滿韓、印度竝ニ南洋諸島等ニ就キ之ヲ見ルニ其需用日ニ盛ニシテ殊ニ支那ノ如キハ其用途廣ク本邦ニ於ケルノ比ニ非ス獨墺ヨリ特ニ支那向製造器具ヲ輸入シ近ク上海港ニ於ケル輸入稅額ヨリ算スルニ一ケ年約百萬圓以上ニ及フヘシト云フ本邦製品ノ如キハ僅ニ鍋、湯沸類ノ滿韓地方(內地人向ナランカ)ニ輸出ヲ見ルニ至リタルモ未タ以テ外品ト競爭シ得ルノ品種品質ヲ有セサルハ前陳ノ如シ夫レ斯ノ如ク內外ニ需用增進シ將來有望ナル商品タルニ拘ラス徒ニ外品ノ專橫ニ委スルハ本邦工業界ノ爲メニ惜ム所ニシテ斯業ノ改良發展ヲ希望スル所以ナリ

然レトモ本器製造ノ改良發展ハ決シテ容易ノ業ニ非ス當業者ノ一大決心ヲ要スルモノアリ是レ卽チ第一製造ノ根本的改良第二製造經濟ノ研究ヲ必要トスレハナリ

本邦製品ノ缺點ニ對シ之カ改良ヲ要シ又ハ充分ノ注意ヲ拂ハサルヘカラサルノ要點ヲ製造上ノ二大主要部タル成形及琺瑯ニ分チテ述フレハ左ノ如シ

成形ニ關シテハ(一)鐵葉ノ選擇最モ肝要ニシテ壓搾成形ニ適スル所謂展延性ニ富ム壓搾用鐵板ヲ用キ且其品質琺瑯ヲ施スニ適スルモノタルヲ要ス是レ鐵質ハ啻ニ成形ノミナラス琺瑯ノ附着力ニ關スルコト大ナレハナリ(二)從來ノ自己考案ニナル水壓機又ハ「スクリュープレス」及施盤ノ如キモノニテハ如何ニ鐵質良好ナルモ完全ナル器具ヲ成形スルコト能ハス宜シク外邦ニ於テ多年ノ經驗ニ依リ使用セラルル壓搾機(普通「ドローウィングプレス」ヲ用フ)ヲ始メ施盤及緣卷機其他一切ノ附屬器械模型等ヲ購入シ全然成形機ノ改良ヲ要ス(三)琺瑯器ノ形狀及成形法ハ最モ研究ヲ要ス是レ琺瑯ノ附着ニ重大ナル關係ヲ有スレハナリ鐵葉ハ鑄鐵ニ比シ薄キ爲メ火熱ニ觸レ直ニ全部熱セラレ急ニ膨脹シ之ニ施シタル琺瑯ハ同時ニ同大ノ膨脹ヲ有セサレハ離裂スルノ已ムヲ得サルニ至ル而シテ鐵板ハ各製造所ノモノ常

ニ同一ノ膨脹率ヲ有セサルカ故ニ珐瑯器ノ形狀ハ成ルヘク膨脹收縮ヲ少カラシメ且彎曲シ易カラサル樣製作スルヲ必要トシ鐵板面ノ操作ハ珐瑯層ノ附着ニ關スルヲ以テ頗ル注意ヲ要ス又完全ナル機械ヲ使用スルモ其成形法宜シキヲ得サレハ良品ヲ製出スル能ハサルハ論ヲ俟タス鐵葉成形ヲ大別シテ二種トシ一ハ全部ヲ壓搾成形スルモノ一ハ各部ヲ接合成形スルモノトス前者ハ鐵板ノ厚薄略、一樣ニシテ珐瑯ヲ施スコト容易ナルモ後者ハ接合點他部ニ比シ厚キ爲メ珐瑯ノ附着ニ困難アリ故ニ其成形ニハ一層ノ注意ヲ要スルモノトス

珐瑯ニ關シテハ(一)珐瑯ハ下層及上層ノ二種ニシテ下層ハ鐵板ニ直ニ施シ上層珐瑯トノ中間ニ在リテ其附着ヲ堅牢ナラシムルニ在リ故ニ此兩種相俟チテ始メテ珐瑯ヲ完成スルモノトス而シテ其附着力ノ如何ハ前陳ノ如ク鐵質素地ノ形狀成形等ニ關スルモ亦珐瑯ノ化學的成分ニ關スルコト大ナルハ論ヲ俟タス卽チ鐵板ノ膨脹收縮ニ成ルヘク適合スヘキ珐瑯ナラサルヘカラス然ラサレハ珐瑯ノ離裂剝落ヲ來スコト當然ナリ東京府出品ノ辨當箱ノ如キ珐瑯ハ單ニ一層ヲ施シタルノミ是レ廉價ノ爲メニ起リタル製作法ナルモ到底斯ノ如クシテ珐瑯器ノ目的ヲ達スルコトハ不可能ナリ(二)珐瑯ノ色合及耐久性ハ又其原料ノ精製調合、熔融及粉碎ノ如何ニ拘ラス本邦品ハ未タ外品ノ如キ色合ヲ有セス且使用後直ニ汚染シ又ハ浸蝕セラレ頗ル耐久性ニ乏シ(三)珐瑯層ハ器品ニ依リ美觀ヲ呈スル爲メ上層ヲ二度以上施シ其厚キヲ要スルモノアルモ本邦品ハ之ヲ爲ス能ハスト聞ク是レ素地及珐瑯ニ於テ諸多ノ缺點アルカ爲メナリ(四)燒窯ハ從來一種ノ「マツフル」窯ヲ使用スルモ各部火度ノ均一ヲ缺キ器物ノ出入ニ際シ窯內ノ火度直ニ冷却シ且其操作頗ル不便ニシテ良品ヲ作ルニ適セス次ニ製造經濟ニ就キテ研究ヲ要スヘキハ外品ノ製作品質共ニ良好ニシテ價格ノ頗ル低廉ナルト製造上素地ノ鐵板ハ勿論珐瑯原料ノ一部モ亦外邦ヨリノ輸入ニ俟タサルヲ得サルノ現況ナレハナリ

東洋諸國及本邦ニ輸入スル珐瑯器ハ主トシテ獨墺ノ製ニ係リ其原價ノ低廉ナルカ爲メニ(徑三十四「センチメートル」ノ洗面鉢本邦貨二十五錢乃至六十錢運賃稅關ヲ支拂ヒ輸入スルモ尙且廉價ニ販賣シ得ル ハ當業者ノ熟知スル所ナリ墺國ノ如キ素地ノ鐵板ハ英國ニ供給ヲ受クルモ之ニ珐瑯ヲ施シテ製品トシ再ヒ同國ニ輸出スルヲ以テ見ルトキハ歐洲中ニ於テモ又廉價ニ製出シ得ルコトヲ證スルニ足ル是レ蓋シ珐瑯業ハ手工及熟練ヲ要スルコト割合ニ多キヲ以テ比較的賃銀低廉ナル墺國ニ於テハ生產費ヲ減シ加フルニ製造ノ規模甚タ大ニシテ製造經濟ノ原則ニ準スルカ故ナルヘシ墺國ノ例ニ徵スルニ素地鐵板ハ外邦ニ其供給ヲ仰クモ製作工賃ニ於テ尙一層低廉ナル本邦ノ如キハ珐瑯業ニ好適シ敢テ有望ナラサルニ非スト雖モ今日ノ製造方法及經營規模ニ於テハ外品ト競爭シ得ル良品ヲ廉價ニ製出スルコト斷シテ能ハサル所ナリ

今ヤ政府モ茲ニ見ル所アリテ大ニ其業ノ發展ヲ促シ本年度ニ於テ獨國製珐瑯鐵器成形機附屬品共二組ヲ購入シ之ヲ當業者ニ貸與シ第一成形ノ改良ヲ謀リ工業試驗所ニ於テハ珐瑯ノ性質配合等ヲ研究シ且燒窯ノ模範ヲ示サンコトヲ企圖シツツアリト聞ク宜シク當業者及企業者タル者斯業ノ前途ヲ鑑ミ新ニ適當ノ經營ヲ爲サンコトヲ切望スル所ナリ

第九部　第八十七類「セメント」石灰石膏、漆喰及其製品

報告員　主任　審査官　樋口眷一
列座　審査官　工學博士　江守襄吉郎
列座　審査官　平野耕輔

此類ニ屬スル出品ハ東京府管內ニテ出品人員十七、出品點數二十六、管外出品人員五、出品點數八、合計出品人員二十二、出品點數三十四ニシテ轉タ寂寥ノ感ナキ能ハス其授賞人員等ヲ表記スレハ左ノ如シ

府縣	出品點數	出品人員	受賞者數 名譽金牌	名譽銀牌	一等賞	二等賞	三等賞	褒狀	計	出品人百ニ對スル受賞者ノ割合
東京	二六	一七	一	—	—	一	—	二	五	二九

大阪	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇	
栃木	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇〇	
長野	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
新潟	二	二	一	一	一	一	一	一	一	五〇	
計	三四	二二	一	一	五	八	三六				

由來此種ノ出品ハ綺羅錦繡ノ艶麗以テ人ヲ牽クモノナク金銀珠玉ノ輝耀以テ目ヲ眩スルモノナシ加フルニ出品ノ性質外觀ヨリ直ニ品質ノ良否ヲ鑑別スルコト能ハサルモノ多キヲ以テ其出品ヲシテ實利有効ナラシメンニハ陳列法ニ於テ頗ル意ヲ致ササルヘカラサルモノアリ既ニ幾多ノ博覽會共進會ヲ經テ陳列方法モ頗ル進歩セルモノアリト雖モ尚未タ首肯シ難キ點尠シトセス例ヘハ石灰類ヲ箱詰又ハ叺入トシテ陳列スルカ如キ出品ノ容器破損セル儘陳列シテ顧ミサルカ如キ又ハ種々ノ新案品參考品ヲ排列スルコト甚タ意ヲ悉クセリト雖モ其効用利害ニ就キテ何タル説明ヲ與ヘサルカ如キ來觀者ヲシテ多クハ路傍ノ瓦礫ト一般重要視セシメサルノ嫌ナシトセス以後望ムラクハ陳列法ニ更ニ一段ノ考究ヲ積ミ説明實寫ニ論ナク觀者ヲシテ少クモ出品ノ實利効益如何ヲ會得セシメ併セテ其苦心改良ノ點ヲ明示スルニ足ルヘキ裝置ヲ施シ世人ノ意ヲ惹カンコトヲ企圖スヘキナリ

「ポートランドセメント」ノ出品ハ僅々三點ニシテ全般ヲ窺フ能ハサルヲ遺憾トス然レトモ近來製法ノ著キ進歩ニ伴ヒ多年ノ熟練ト共ニ製品ノ品質ハ一般ニ益〻良好ニシテ海外製品ニ比シ遜色ヲ見サルニ至レリ其試驗成績ヲ擧クレハ左ノ如シ

供試セメント番號

第一號　淺野セメント合資會社製品　　第二號　鈴木セメント製造所製品

第三號　大阪セメント株式會社製品

第一　粉末ノ細度

番號	毎平方「センチメートル」ニ付九百ノ孔眼ヲ有スル篩ノ上ニ殘留スルモノノ百分數
第一號	〇・二五
第二號	〇・〇三
第三號	〇・〇一

第二　凝結時間

番號	試驗中ノ温度	凝結ヲ始メシ時間	凝結ヲ終リシ時間
第一號	攝氏 二二	三時二十一分	七時二十五分
第二號 同	一九五	三一・五 一時五十五分	三時三十九分
第三號 同	一八	三三・〇 二時七分	五時

第三　膨脹及龜烈

番號	セメント重量百分ニ對スル注加水量	煮沸	乾燥
第一號	二八・五	異狀ナシ	異狀ナシ
第二號	二九・〇	同	同
第三號	三〇・七	同	同

第四　強度

(イ)純「セメント」耐伸力(一平方「センチメートル」ニ於ケル「キログラム」量)

番號	純「セメント」重量百分ニ對スル注加水量	一週	四週
第一號	一六・〇	三四・三	五六・四
第二號	一七・五	三九・二	四九・三
第三號	一七・〇	三八・九	四四・五

(ロ)「セメント」「モルタル」三「砂」耐伸力(一平方「センチメートル」ニ於ケル「キログラム」量)

番號	「セメント」「モルタル」供試體製作ノ時混和物重量百分ニ對スル注加水量	一週	四週
第一號	八・〇	一七・〇	二五・九

第二號	九・〇	二二・〇
第三號	八・五	二一・一
	一九・五	
	一四・六	

以上ノ試驗ハ品質ノ梗概ヲ窺フニ過キスト雖モ尚其一般ヲ證シテ餘リアリ由來「ポートランドセメント」製造ノ業タル國内ニ豐富ナル原料ヲ有シ其需用ハ殆ト日用品ニ近似シ諸般工事ニ必要缺クヘカラサルモノニ屬シ加フルニ創業以來幾多ノ年所ヲ積ミ習得シ得タル技術上ノ熟練ハ製品ヲシテ爾ク優良ノ域ニ導キ得タリト雖モ尚世上未タ其品質ニ就キテ云々ノ説ヲ爲ス者アリ是レ當事者ノ日夕忘ルヘカラサル所ニシテ既ニ各、計畫ヲ大ニシ生産額モ昔日ニ倍蓰スル時ニ際シ其販路ハ啻ニ國内ノ需用ノミニ止マラス施ヒテ海外ニ輸出スル數量モ亦年額百四十萬圓ノ多キニ達セル今日ニ於テハ當業者ノ責務ハ一層ノ重キヲ加ヘタルモノト謂フヘク到ル處ニ外品ト並馳シテ優劣ヲ競ハサルヘカラサルヲ以テ製品ノ實質竝ニ價格ノ點ニ就キテ各自深ク相戒メ目前ノ利ニ眩セス一意優勝ノ地歩ヲ占メ世ノ信用ヲ厚フスルコトヲ力メサルヘカラス石灰、螺灰ノ出品ハ總計九點ニシテ中ニ實質佳良ノモノアルヲ認ムルモ製法ニ於テ將又品質價格ニ於テ獨特秀逸ノモノナク寧ロ退嬰ノ狀アルハ頗ル遺憾ノ感ナキ能ハス其諸般工業上ノ需用廣大ナルニ鑑ミ作業ノ組織ヲ改メ其經營ヲ大ニシ品質ノ精良整一ヲ圖ルト共ニ價格ノ低廉ヲ圖ラハ自他ノ利便蓋シ尠少ニ非サルナリ漆喰及石膏ハ共ニ其實質ヲ鑑別スヘキ出品ナク半ハ美術的意匠ノ製作品ノミニシテ「セメント」製作品ニハ人造石、据風呂等アリ何レモ特ニ稱揚スヘキモノヲ認メス人造石ノ如キハ實質ノ堅牢、外觀ノ整美ト共ニ價格ノ低廉ヲ圖ラハ其需用測ルヘカラサルモノニシテ後來其普通製品ニハ必ス機械製造ヲ推奬セサルヲ得ス由來工業品トシテハ其物品ノ實質効益及價格ノ點ニ於テ技能ヲ鬪ハスヘキモノナルニ製作品中ニハ徒ニ奇巧ヲ弄シ却リテ實用利便ノ途ニ遠カルモノアルヲ認ム是レ當事者ノ嚴ニ相警告シ常ニ意ヲ用ユヘキ所ナリトス

外國出品

外國製品ノ出品ニハ特設範多館ニ出品セル熔礦爐用漆喰及「シリカセメント」アリ共ニ英國キッドウェリー市「ステーブンス」會社ノ製造ニ係リ何レモ耐火材料ノ接合劑ニシテ各、使用ノ途ニ適スルモノト謂フヘク參考上裨益少カラス

明治四十一年十二月廿三日印刷
明治四十一年十二月廿六日發行

東京府廳

東京市牛込區新小川町一丁目四番地
印刷者　井上源之亟

斗46 48

321
63
M